

長崎県ケアラー実態調査業務
報告書

令和5年10月
長崎県福祉保健部長寿社会課

目 次

I	調査概要	
1.	調査の目的	1
2.	調査の対象	1
3.	調査期間	1
4.	回収結果	1
5.	報告書の見方	1
II	高齢者調査結果	
1.	ケアラーの基本属性	3
(1)	ケアラーの性別	3
(2)	ケアラーの年齢	3
(3)	ケアラーの仕事	4
(4)	ケアラーの住まい	6
(5)	ケアラーの要介護状態・障害支援区分の認定状況等	7
2.	お世話をしている相手の状況	9
(1)	お世話をしている人の人数	9
(2)	お世話をしている相手の年齢	10
(3)	お世話をしている相手の生活の場所	11
(4)	お世話をしている相手の生活の場所（同居でない場合）	12
(5)	お世話が必要な理由	13
(6)	お世話をしている内容	14
(7)	お世話をしている期間	15
(8)	お世話のサイクル	15
(9)	最も長いお世話の時間	16
(10)	平均のお世話の時間	16
3.	ケアラーへの影響	17
(1)	健康面への影響	17
(2)	自分のための時間	23
(3)	就労状況の変化	25
(4)	就労継続ができた理由	27
(5)	退職した理由	28
(6)	就労を継続するために必要な支援	29
(7)	緊急時の代替者	30
4.	相談先や相談窓口	35
(1)	頼りにしている相談先	35
(2)	困りごと等意見	40

5. お世話を必要としている相手の公的サービス利用	43
(1) 介護サービスなどの公的支援利用の有無	43
(2) 利用しているサービス	45
(3) 公的支援利用の満足度	50
(4) サービス利用のきっかけ	52
(5) サービス利用に必要な配慮	57
(6) サービスを利用しない理由	62
(7) サービス利用の抵抗感	62
6. ケアラーに必要な支援	68
(1) 必要な支援	68
(2) 最も必要な支援	75
7. お世話で困ったこと、悩んでいること	82
8. 自由意見	100

Ⅲ 障害者調査結果

1. ケアラーの基本属性	109
(1) ケアラーの性別	109
(2) ケアラーの年齢	109
(3) ケアラーの仕事	110
(4) ケアラーの住まい	110
(4) ケアラーの要介護状態・障害支援区分の認定状況等	111
2. お世話をしている相手の状況	112
(1) お世話をしている相手の人数・続柄	112
(2) お世話をしている相手の年齢	113
(3) お世話をしている相手の生活の場所	114
(4) お世話をしている相手の生活の場所（同居でない場合）	115
(5) お世話が必要な理由	116
(6) お世話をしている内容	117
(7) お世話をしている期間	118
(8) お世話のサイクル	118
(9) お世話の最長時間（1日）	119
(10) お世話の平均時間（1日）	119
3. ケアラーへの影響	120
(1) 健康面への影響	120
(2) 自分のための時間	121
(3) 就労状況の変化	121
(4) 就労継続ができた理由	122
(5) 退職した理由	123

(6) 就労を継続するために必要な支援.....	124
(7) 緊急時の代替者.....	125
4. 相談先や相談窓口.....	126
(1) 頼りにしている相談先.....	126
(2) 困りごと等意見.....	127
5. お世話を必要としている相手の公的サービス利用.....	129
(1) 介護サービスなどの公的支援利用の有無.....	129
(2) 利用しているサービス.....	129
(3) サービス利用の満足度.....	130
(4) サービス利用のきっかけ.....	130
(5) サービス利用に必要な配慮.....	131
(6) サービスを利用しない理由.....	131
(7) サービス利用の抵抗感.....	132
6. ケアラーに必要な支援.....	133
(1) 必要な支援.....	133
(2) 最も必要な支援.....	135
7. お世話で困ったこと、悩んでいること.....	137
8. 自由意見.....	138

I. 調査概要

I. 調査概要

1. 調査の目的

家族の介護や、日常生活上のお世話を無償でしている人（ケアラー）の悩みや困りごと、支援ニーズ等を把握し、支援を必要としているケアラーの早期発見や適切な支援につなげるための方策を検討するとともに、ケアラー支援に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための計画策定の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査回答者

以下の事業所等を通じて抽出したケアラー

(1) 高齢者ケア調査

地域包括支援センター（52 か所）
居宅介護支援事業所（458 か所）

(2) 障害者ケア調査

障害者相談支援事業所（153 か所）

3. 調査期間

令和5年7月10日（月）～9月4日（月）

4. 回収結果

	高齢者ケアラー	障害者ケアラー
配布数	1,530	459
回答数	581	69
回答率	38.0%	15.0%

4. 報告書の見方

- (1) 比率は百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、百分率の計が100%にならない場合がある。
- (2) 基数となる実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- (3) 1人の回答者が複数回答を行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- (4) 図表中には、回答者数が非常に少ない場合がある。このような場合には、回答比率の数字が動きやすく、厳密な比較をすることが難しいので、参考程度とする。
- (5) 図表の各項目は表示の関係上省略して表示する場合がある。
- (6) 集計対象数は「N」単回答は「SA」、複数回答は「MA」、記述式回答は「FA」で表している。
- (7) 単回答（SA）に対して複数回答したものなど条件に合わない回答をした場合は無効として集計を行っている。

【参考】 アンケート回収数の信頼性について

アンケート票数と誤差との関係は、当然アンケート票数が少ないと誤差は大きく、アンケート票数が多いと誤差は小さくなる。しかし、統計学的にその関係は一定ではなく、一定の数を超えると、票数を大幅に増やしても誤差はほとんど変わらなくなる。

統計学的には、この「一定の数」は、通常、信頼率：95%、目標誤差：3～5%以内であれば良いとされており、それを下記の計算式で逆算すると概ね 400 票程度と算出される。つまり、今回の有効回答票の回収数がこの程度あれば対象者の意向の把握として十分信頼できる数字であるといえる。

$$\sigma = k \sqrt{\frac{(M-n)}{(M-1)} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

M：母集団 **n**：有効回答数 **p**：結果の比率
k：信頼率による定数 **σ**：標本誤差
 ※ k は信頼率を決めると自動的に決まる定数で、信頼率に対応する標準正規分布の%点である。信頼率は、統計的な慣習として95%とすることが多く、信頼率95%ならば k は1.96となる。

但し、全体把握の場合において有効という意味であり、詳しくは各設問の対象となる母数をもとにサンプル数が決まるため、付問等により回答数が少なくなった場合は参考程度にとどめておく必要がある。※母集団におけるサンプル数については下表を参照。

母集団の人数	要求精度10%	要求精度5%	要求精度5%	母集団の人数	要求精度10%	要求精度5%	要求精度5%
	信頼率95%	信頼率95%	信頼率99%		信頼率95%	信頼率95%	信頼率99%
10人	10人	10人	10人	3,000人	94人	341人	544人
100人	50人	80人	88人	5,000人	95人	357人	586人
500人	81人	218人	286人	10,000人	96人	370人	623人
1,000人	88人	278人	400人	15,000人	96人	375人	636人
1,500人	91人	306人	461人	100,000人	96人	383人	660人
2,000人	92人	323人	499人	1,000,000人	97人	384人	664人
2,500人	93人	334人	525人	10,000,000人	97人	385人	664人

Ⅱ 高齡者調査結果

II 高齢者調査結果

1. ケアラーの基本属性

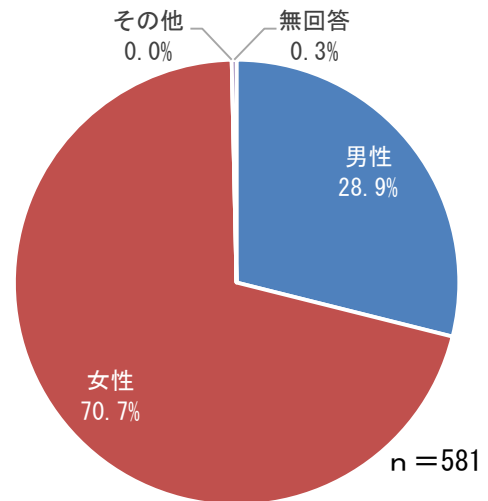
(1) ケアラーの性別

性別は「女性」70.7%、「男性」28.9%となっている。

〔表 2-1-1 ケアラーの性別〕

カテゴリ	件数	(全体)%
男性	168	28.9
女性	411	70.7
その他	0	0.0
無回答	2	0.3
N (%ベース)	581	100

〔図 2-1-1 ケアラーの性別〕



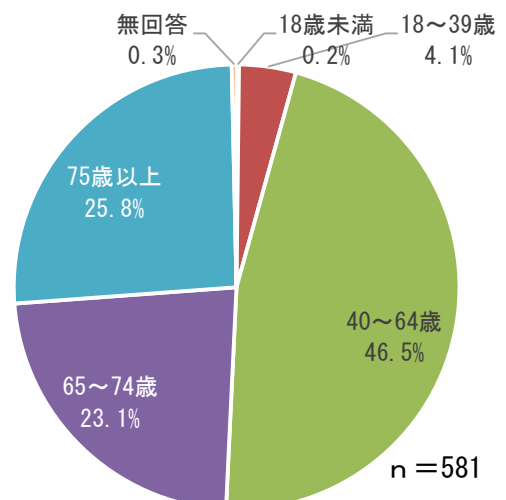
(2) ケアラーの年齢

年齢は「40～64歳」が46.5%で最も多く、次いで「75歳以上」が25.8%、「65～74歳」が23.1%と続いており、65歳以上で48.9%と半数を占めている。

〔表 2-1-2 ケアラーの年齢〕

カテゴリ	件数	(全体)%
18歳未満	1	0.2
18～39歳	24	4.1
40～64歳	270	46.5
65～74歳	134	23.1
75歳以上	150	25.8
無回答	2	0.3
N (%ベース)	581	100

〔図 2-1-2 ケアラーの年齢〕



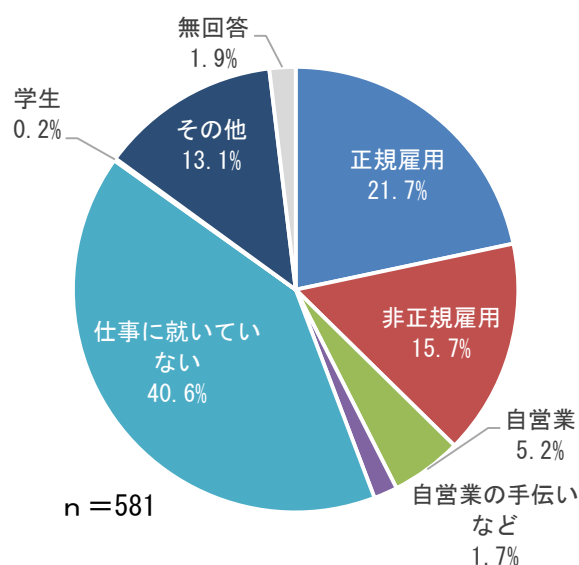
(3) ケアラーの仕事

仕事は「仕事に就いていない」が40.6%で最も多く、次いで「正規雇用」が21.7%、「非正規雇用」が15.7%と続いている。

〔表 2-1-3 ケアラーの仕事〕

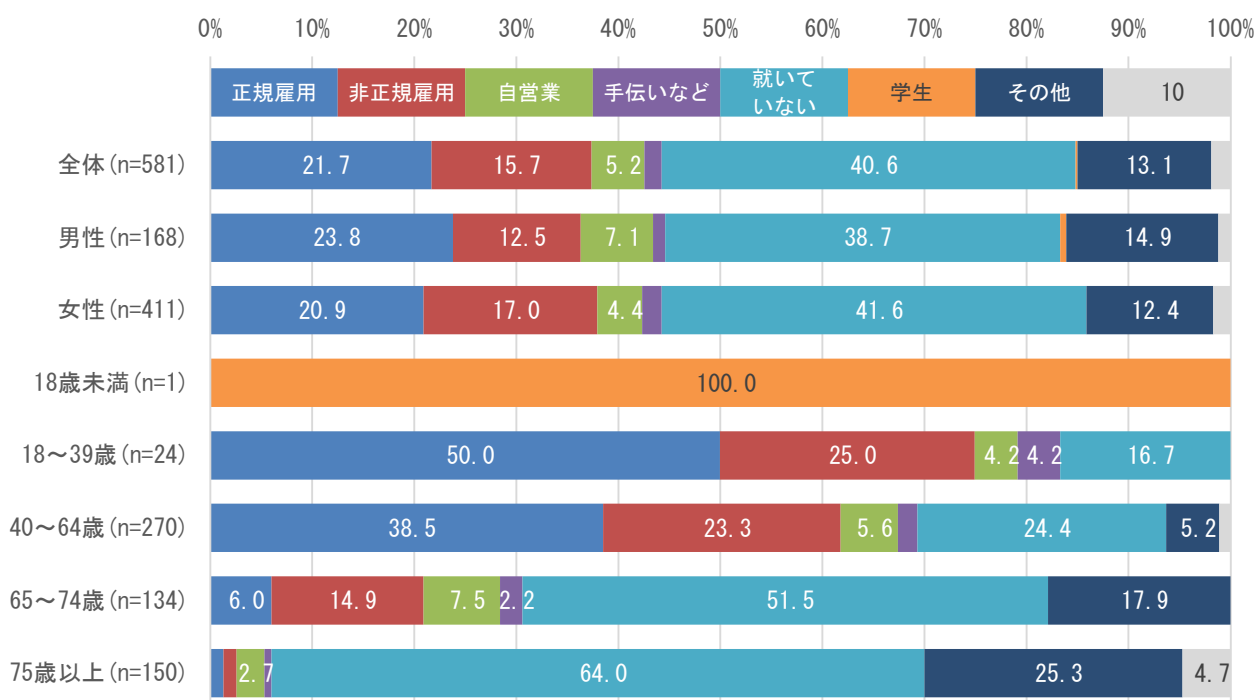
カテゴリ	件数	(全体)%
正規雇用	126	21.7
非正規雇用	91	15.7
自営業	30	5.2
自営業の手伝いなど	10	1.7
仕事に就いていない	236	40.6
学生	1	0.2
その他	76	13.1
無回答	11	1.9
N (%へ-ス)	581	100

〔図 2-1-3 ケアラーの仕事〕



仕事は「仕事に就いていない」は男女共に最も多くなっており、年代別では65歳以上の50%以上が「仕事に就いていない」となっている。また、子育て世代と重なる40～64歳でも24.4%が「仕事に就いていない」と回答している。

〔図 2-1-4 ケアラーの仕事（性別・年齢別）〕



〔表 2-1-4 ケアラーの仕事（性別・年齢別）〕

（上段：人/下段：％）

	合計	正規雇用	非正規雇用	自営業	自営業の手伝いなど	仕事に就いていない	学生	その他	無回答
全体	581	126	91	30	10	236	1	76	11
	100.0	21.7	15.7	5.2	1.7	40.6	0.2	13.1	1.9
男性	168	40	21	12	2	65	1	25	2
	100.0	23.8	12.5	7.1	1.2	38.7	0.6	14.9	1.2
女性	411	86	70	18	8	171	-	51	7
	100.0	20.9	17.0	4.4	1.9	41.6	-	12.4	1.7
18歳未満	1	-	-	-	-	-	1	-	-
	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-
18～39歳	24	12	6	1	1	4	-	-	-
	100.0	50.0	25.0	4.2	4.2	16.7	-	-	-
40～64歳	270	104	63	15	5	66	-	14	3
	100.0	38.5	23.3	5.6	1.9	24.4	-	5.2	1.1
65～74歳	134	8	20	10	3	69	-	24	-
	100.0	6.0	14.9	7.5	2.2	51.5	-	17.9	-
75歳以上	150	2	2	4	1	96	-	38	7
	100.0	1.3	1.3	2.7	0.7	64.0	-	25.3	4.7

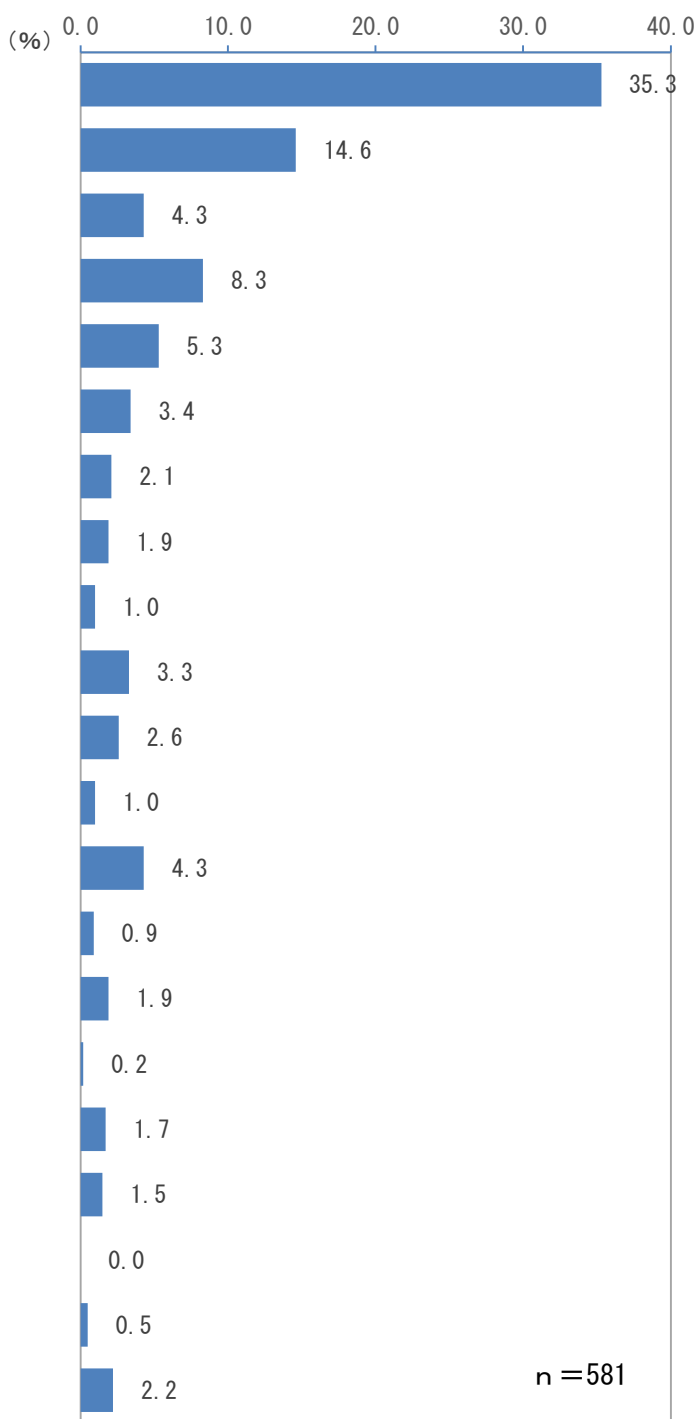
(4) ケアラーの住まい

住まいは人口に比例し「長崎市」が35.3%で最も多く、次いで「佐世保市」が14.6%、「諫早市」が8.3%と続いている。

〔表 2-1-5 ケアラーの住まい〕

カテゴリ	件数	(全体)%
長崎市	205	35.3
佐世保市	85	14.6
島原市	25	4.3
諫早市	48	8.3
大村市	31	5.3
平戸市	20	3.4
松浦市	12	2.1
対馬市	11	1.9
壱岐市	6	1.0
五島市	19	3.3
西海市	15	2.6
雲仙市	6	1.0
南島原市	25	4.3
長与町	5	0.9
時津町	11	1.9
東彼杵町	1	0.2
川棚町	10	1.7
波佐見町	9	1.5
小値賀町	0	0.0
佐々町	3	0.5
新上五島町	13	2.2
無回答	21	3.6
N (%への入)	581	100

〔図 2-1-5 ケアラーの住まい〕



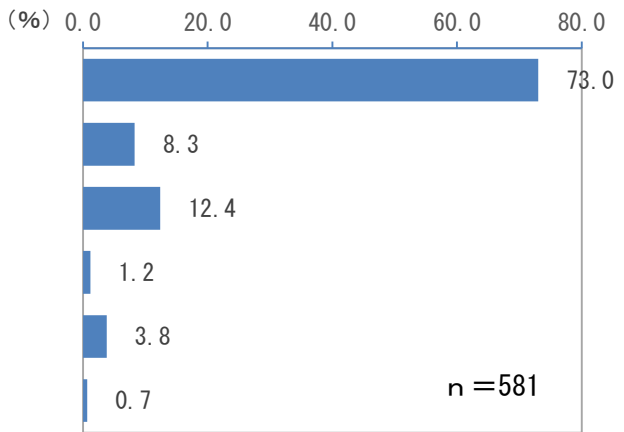
(4) ケアラーの要介護状態・障害支援区分の認定状況等

ケアラーの要介護状態・障害支援区分の認定状況等は「2～6のいずれにも該当なし」が73.0%で最も多く、次いで「介護保険制度による「要介護」」が12.4%、「介護保険制度による「要支援」」が8.3%と続いている。このことから、2割強が介護者自身も何らかの障害や支援を必要とする人となっていることがわかる。

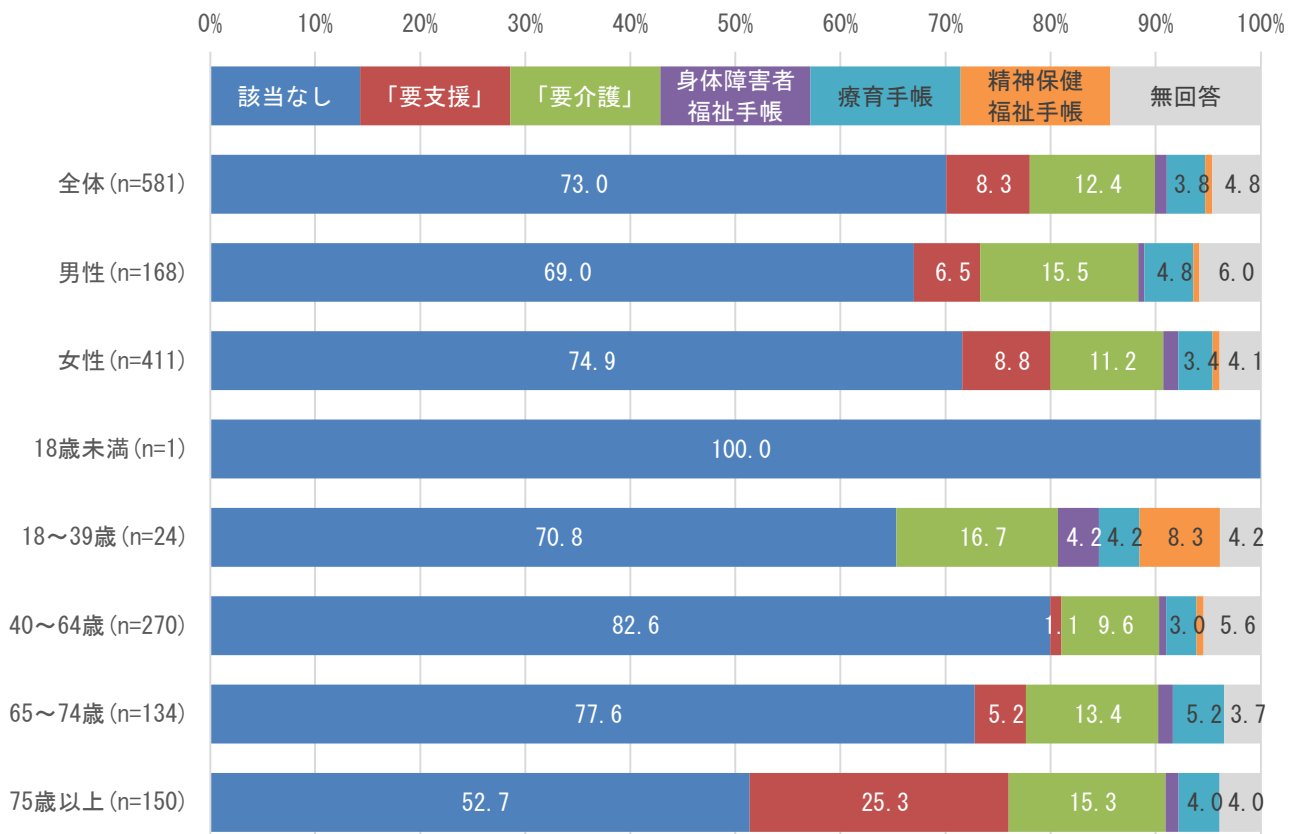
また、性別・年齢別にみても「2～6のいずれにも該当なし」が最も多くなっており、(3) 仕事の就業状況を考え合わせると、「介護」が「仕事に就いていない」事の要因の1つになっているものと考えられる。

[表 2-1-6 ケアラーの要介護状態・障害支援区分の認定状況等] [図 2-1-6 ケアラーの要介護状態・障害支援区分の認定状況等]

カテゴリ	件数	(全体)%
2～6のいずれにも該当なし	424	73.0
介護保険制度による「要支援」	48	8.3
介護保険制度による「要介護」	72	12.4
身体障害者福祉手帳	7	1.2
療育手帳	22	3.8
精神保健福祉手帳	4	0.7
無回答	28	4.8
N (%ベース)	581	100



[図 2-1-7 ケアラーの要介護状態・障害支援区分の認定状況等 (性別・年齢別)]



〔表 2-1-7 ケアラーの要介護状態・障害支援区分の認定状況等（性別・年齢別）〕

（上段：人/下段：％）

	合計	2～6の いずれに も該当な し	介護保険 制度によ る「要支 援」	介護保険 制度によ る「要介 護」	身体障害 者福祉手 帳	療育手帳	精神保健 福祉手帳	無回答
全体	581	424	48	72	7	22	4	28
	100.0	73.0	8.3	12.4	1.2	3.8	0.7	4.8
男性	168	116	11	26	1	8	1	10
	100.0	69.0	6.5	15.5	0.6	4.8	0.6	6.0
女性	411	308	36	46	6	14	3	17
	100.0	74.9	8.8	11.2	1.5	3.4	0.7	4.1
18歳未満	1	1	-	-	-	-	-	-
	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-
18～39歳	24	17	-	4	1	1	2	1
	100.0	70.8	-	16.7	4.2	4.2	8.3	4.2
40～64歳	270	223	3	26	2	8	2	15
	100.0	82.6	1.1	9.6	0.7	3.0	0.7	5.6
65～74歳	134	104	7	18	2	7	-	5
	100.0	77.6	5.2	13.4	1.5	5.2	-	3.7
75歳以上	150	79	38	23	2	6	-	6
	100.0	52.7	25.3	15.3	1.3	4.0	-	4.0

2. お世話をしている相手の状況

(1) お世話をしている人の人数

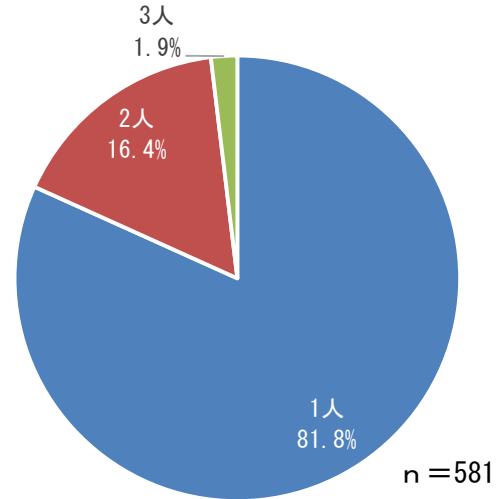
介護している相手の人数は「1人」が81.8%で最も多く、次いで「2人」が16.4%、「3人」が1.9%となっている。

また、お世話をしている相手の続柄は「父母」が60.0%で最も多くなっており、次いで「配偶者」が26.8%、「子ども」が4.6%と続いている。

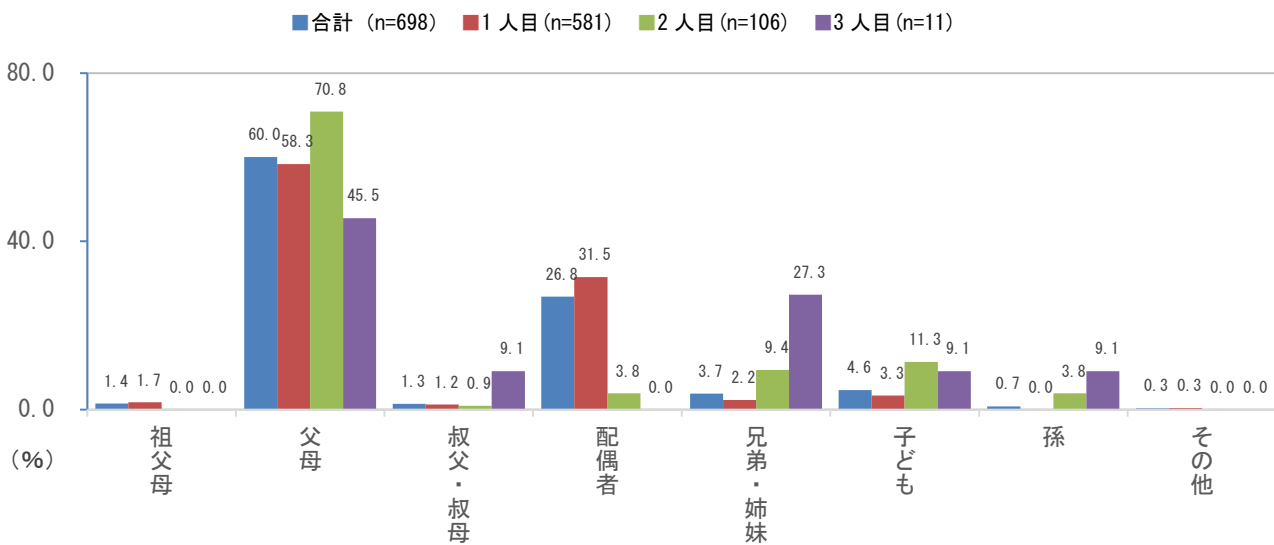
〔表 2-2-1 お世話をしている相手の人数〕

カテゴリ	件数	(全体)%
1人	475	81.8
2人	95	16.4
3人	11	1.9
無回答	0	0.0
N (%ベース)	581	100

〔図 2-2-1 お世話をしている相手の人数〕



〔図 2-2-2 お世話をしている相手の続柄〕



〔表 2-2-2 お世話をしている相手の続柄〕

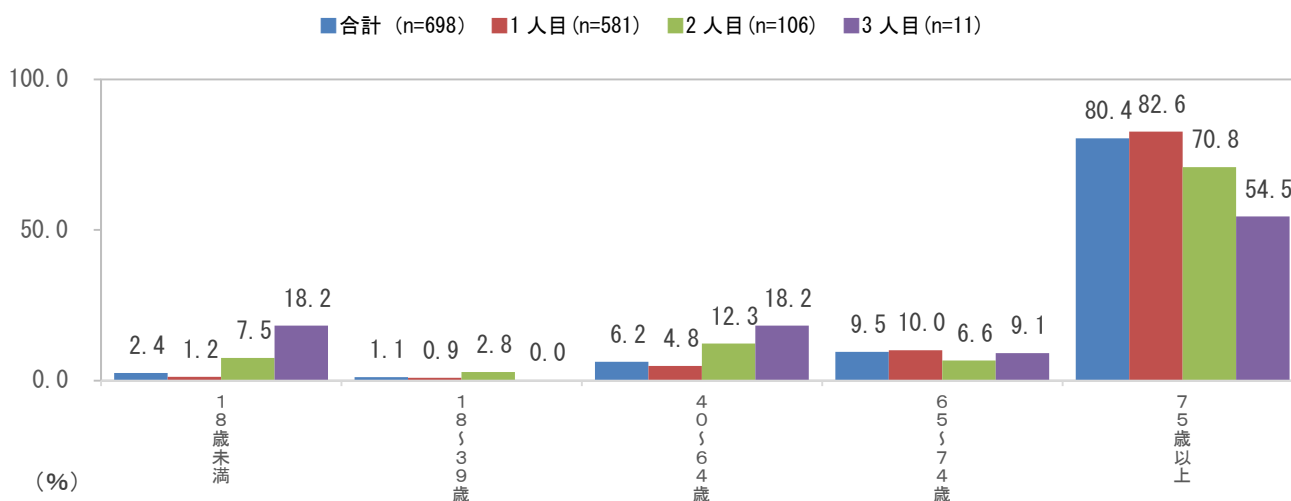
	合計		1人目		2人目		3人目	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
祖父母	10	1.4	10	1.7	0	0.0	0	0.0
父母	419	60.0	339	58.3	75	70.8	5	45.5
叔父・叔母	9	1.3	7	1.2	1	0.9	1	9.1
配偶者	187	26.8	183	31.5	4	3.8	0	0.0
兄弟・姉妹	26	3.7	13	2.2	10	9.4	3	27.3
子ども	32	4.6	19	3.3	12	11.3	1	9.1
孫	5	0.7	0	0.0	4	3.8	1	9.1
その他	2	0.3	2	0.3	0	0.0	0	0.0
無回答	8	1.1	8	1.4	0	0.0	0	0.0
N (%)	698	100	581	100	106	100	11	100

(2) お世話をしている相手の年齢

お世話をしている相手の年齢は「75歳以上」が80.4%で最も多く、次いで「65～74歳」が9.5%、「40～64歳」が6.2%と続いている。

また、ケアラーの年齢とお世話をしている相手の年齢が高齢者に偏っており、老々介護の現状が表れている。

〔図 2-2-3 お世話をしている相手の年齢〕



〔表 2-2-3 お世話をしている相手の年齢〕

	合計		1人目		2人目		3人目	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
18歳未満	17	2.4	7	1.2	8	7.5	2	18.2
18～39歳	8	1.1	5	0.9	3	2.8	0	0.0
40～64歳	43	6.2	28	4.8	13	12.3	2	18.2
65～74歳	66	9.5	58	10.0	7	6.6	1	9.1
75歳以上	561	80.4	480	82.6	75	70.8	6	54.5
無回答	3	0.4	3	0.5	0	0.0	0	0.0
N (%)	698	100.0	581	100	106	100	11	100

〔表 2-2-4 ケアラーの年齢とお世話をしている相手の年齢〕

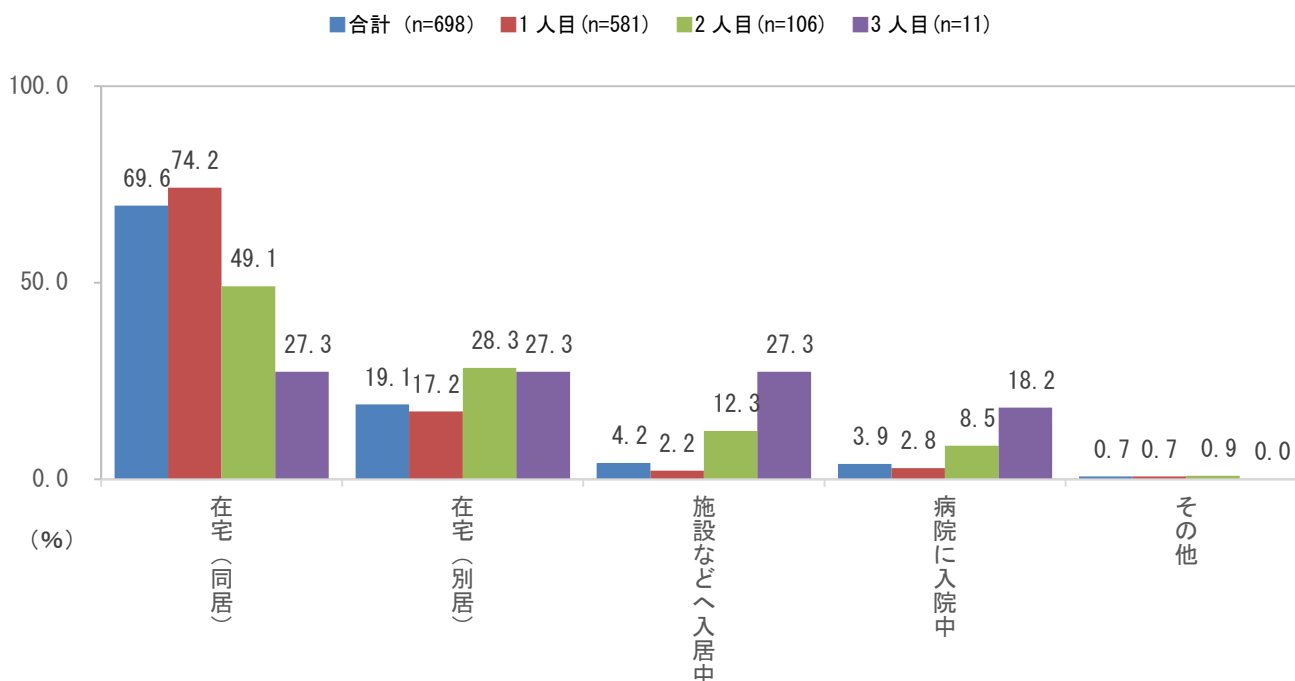
(上段：人/下段：%)

ケアラーの年齢	上段：度数 下段：%	お世話をしている相手の年齢						
		合計	18歳未満	18～39歳	40～64歳	65～74歳	75歳以上	無回答
ケアラーの年齢	全体	698 100.0	17 2.4	8 1.1	43 6.2	66 9.5	561 80.4	3 0.4
	18歳未満	1 100.0	-	-	1 100.0	-	-	-
	18～39歳	25 100.0	1 4.0	-	4 16.0	7 28.0	12 48.0	1 4.0
	40～64歳	361 100.0	11 3.0	5 1.4	23 6.4	21 5.8	300 83.1	1 0.3
	65～74歳	149 100.0	2 1.3	1 0.7	6 4.0	29 19.5	110 73.8	1 0.7
	75歳以上	160 100.0	3 1.9	2 1.3	9 5.6	9 5.6	137 85.6	-

(3) お世話をしている相手の生活の場所

お世話をしている相手の生活の場所は「在宅（同居）」が69.6%で最も多く、次いで「在宅（別居）」が19.1%、「施設などへ入居中」が4.2%と続いている。

〔図 2-2-4 お世話をしている相手の生活の場所〕



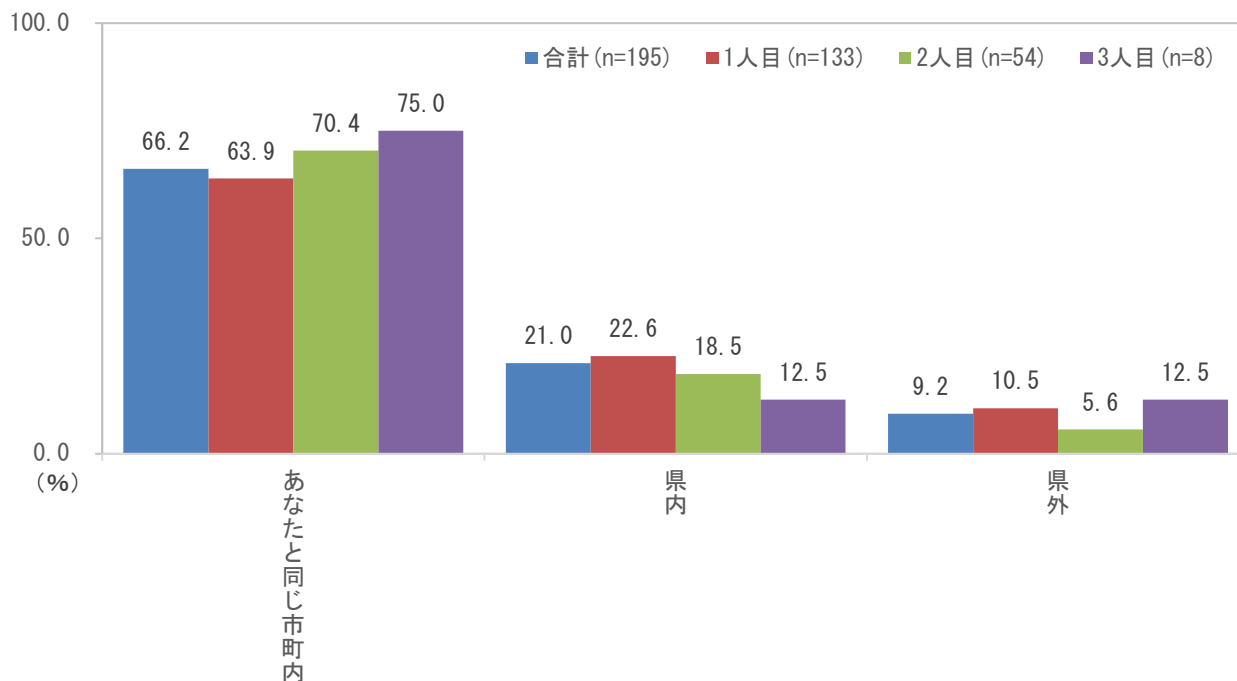
〔表 2-2-5 お世話をしている相手の生活の場所〕

	合計		1人目		2人目		3人目	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
在宅（同居）	486	69.6	431	74.2	52	49.1	3	27.3
在宅（別居）	133	19.1	100	17.2	30	28.3	3	27.3
施設などへ入居中	29	4.2	13	2.2	13	12.3	3	27.3
病院に入院中	27	3.9	16	2.8	9	8.5	2	18.2
その他	5	0.7	4	0.7	1	0.9	0	0.0
無回答	18	2.6	17	2.9	1	0.9	0	0.0
N (%ベース)	698	100	581	100	106	100	11	100

(4) お世話をしている相手の生活の場所（同居でない場合）

お世話をしている相手の生活の場所（同居でない場合）は「あなたと同じ市町内」が66.2%で最も多く、次いで「県内」が21.0%、「県外」が9.2%と続いている。

〔図 2-2-5 お世話をしている相手の生活の場所（同居でない場合）〕



〔表 2-2-6 お世話をしている相手の生活の場所（同居でない場合）〕

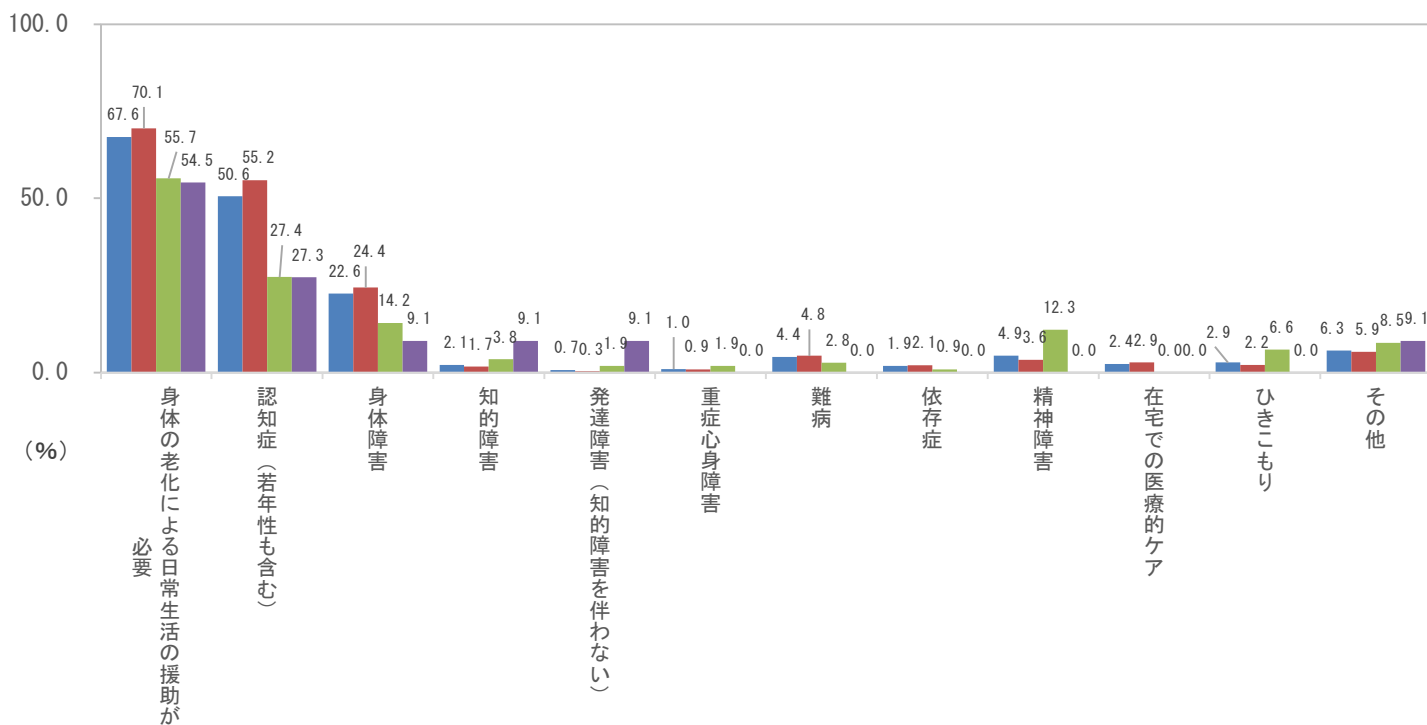
	合計		1人目		2人目		3人目	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
あなたと同じ市町内	129	66.2	85	63.9	38	70.4	6	75.0
県内	41	21.0	30	22.6	10	18.5	1	12.5
県外	18	9.2	14	10.5	3	5.6	1	12.5
無回答	7	3.6	4	3.0	3	5.6	0	0.0
N (% [^] -)	195	100.0	133	100	54	100	8	100

(5) お世話が必要な理由

お世話が必要な理由は「身体の老化による日常生活の援助が必要」が67.6%で最も多く、次いで「認知症（若年性も含む）」が50.6%、「身体障害」が22.6%と続いている。

〔図 2-2-6 お世話が必要な理由〕

■合計 (n=698) ■1人目 (n=581) ■2人目 (n=106) ■3人目 (n=11)



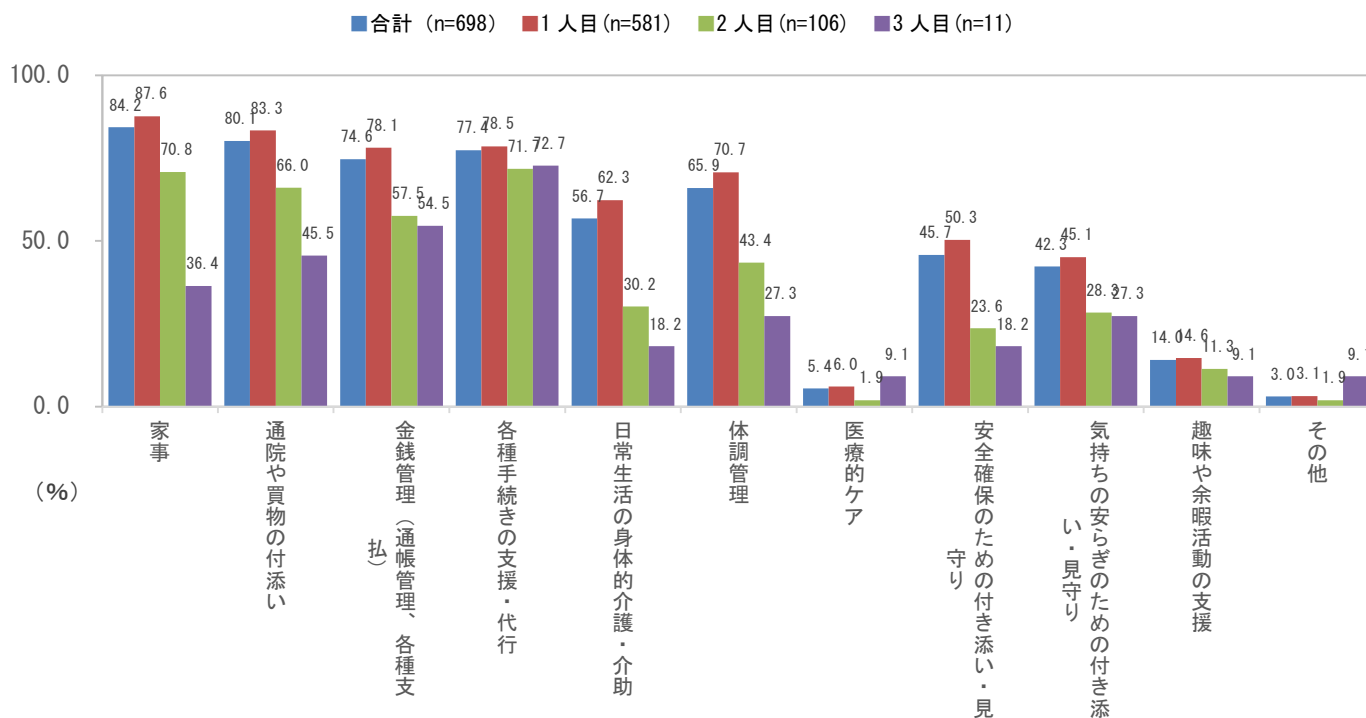
〔表 2-2-7 お世話が必要な理由〕

	合計		1人目		2人目		3人目	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
身体の老化による日常生活の援助が必要	472	67.6	407	70.1	59	55.7	6	54.5
認知症 (若年性も含む)	353	50.6	321	55.2	29	27.4	3	27.3
身体障害	158	22.6	142	24.4	15	14.2	1	9.1
知的障害	15	2.1	10	1.7	4	3.8	1	9.1
発達障害 (知的障害を伴わない)	5	0.7	2	0.3	2	1.9	1	9.1
重症心身障害	7	1.0	5	0.9	2	1.9	0	0.0
難病	31	4.4	28	4.8	3	2.8	0	0.0
依存症	13	1.9	12	2.1	1	0.9	0	0.0
精神障害	34	4.9	21	3.6	13	12.3	0	0.0
在宅での医療的ケア	17	2.4	17	2.9	0	0.0	0	0.0
ひきこもり	20	2.9	13	2.2	7	6.6	0	0.0
その他	44	6.3	34	5.9	9	8.5	1	9.1
無回答	14	2.0	6	1.0	7	6.6	1	9.1
N (% [^] -入)	698	100	581	100	106	100	11	100

(6) お世話をしている内容

お世話をしている内容は「家事」が84.2%で最も多く、次いで「通院や買物の付添い」が80.1%、「各種手続きの支援・代行」が77.4%と続いている。

〔図 2-2-7 お世話をしている内容〕



〔表 2-2-8 お世話をしている内容〕

	合計		1人目		2人目		3人目	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
家事	588	84.2	509	87.6	75	70.8	4	36.4
通院や買物の付添い	559	80.1	484	83.3	70	66.0	5	45.5
金銭管理 (通帳管理、各種支払)	521	74.6	454	78.1	61	57.5	6	54.5
各種手続きの支援・代行	540	77.4	456	78.5	76	71.7	8	72.7
日常生活の身体的介護・介助	396	56.7	362	62.3	32	30.2	2	18.2
体調管理	460	65.9	411	70.7	46	43.4	3	27.3
医療的ケア	38	5.4	35	6.0	2	1.9	1	9.1
安全確保のための付き添い・見守り	319	45.7	292	50.3	25	23.6	2	18.2
気持ちの安らぎのための付き添い・見守り	295	42.3	262	45.1	30	28.3	3	27.3
趣味や余暇活動の支援	98	14.0	85	14.6	12	11.3	1	9.1
その他	21	3.0	18	3.1	2	1.9	1	9.1
無回答	13	1.9	7	1.2	5	4.7	1	9.1
N (%^-ス)	698	100	581	100	106	100	11	100

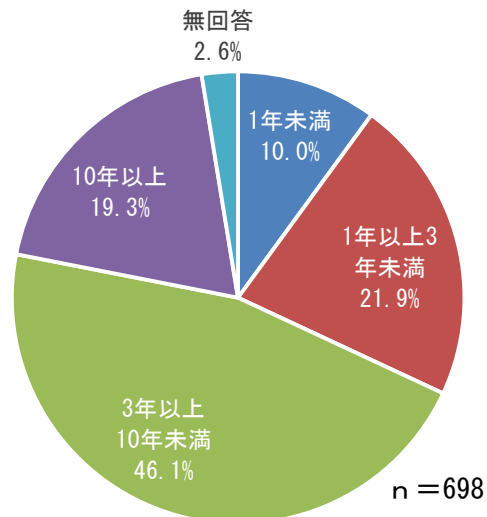
(7) お世話をしている期間

お世話をしている期間は「3年以上10年未満」が46.1%で最も多く、次いで「1年以上3年未満」が21.9%、「10年以上」が19.3%と続いている。

〔表 2-2-9 お世話をしている期間〕

カテゴリ	件数	(全体)%
1年未満	70	10.0
1年以上3年未満	153	21.9
3年以上10年未満	322	46.1
10年以上	135	19.3
無回答	18	2.6
N (%ベース)	698	100

〔図 2-2-8 お世話をしている期間〕



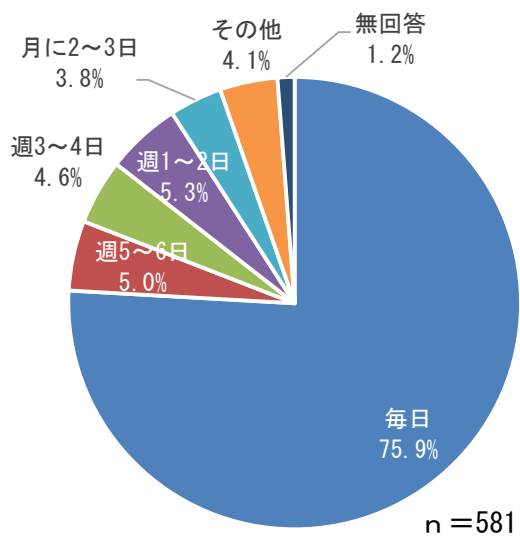
(8) お世話のサイクル

お世話のサイクルは「毎日」が75.9%で最も多く、次いで「週1～2日」が5.3%、「週5～6日」が5.0%と続いている。

〔表 2-2-10 お世話のサイクル〕

カテゴリ	件数	(全体)%
毎日	441	75.9
週5～6日	29	5.0
週3～4日	27	4.6
週1～2日	31	5.3
月に2～3日	22	3.8
その他	24	4.1
無回答	7	1.2
N (%ベース)	581	100

〔図 2-2-9 お世話のサイクル〕



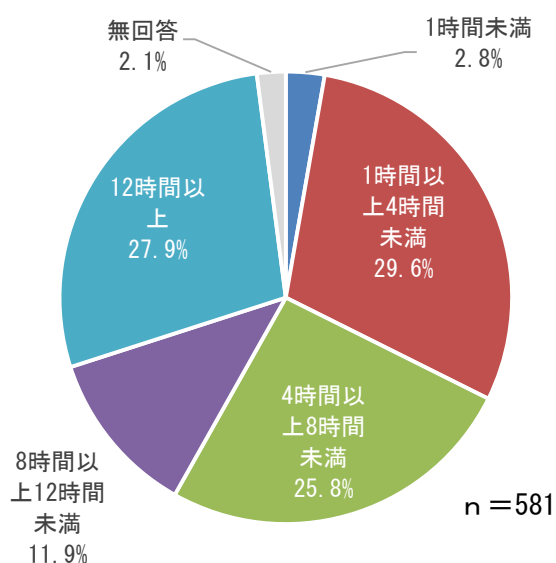
(9) お世話の最長時間（1日）

直近1ヶ月のお世話の最長時間（1日）は「1時間以上4時間未満」が29.6%で最も多く、次いで「12時間以上」が27.9%、「4時間以上8時間未満」が25.8%と続いている。

〔表 2-2-11 お世話の最長時間（1日）〕

カテゴリ	件数	(全体)%
1時間未満	16	2.8
1時間以上4時間未満	172	29.6
4時間以上8時間未満	150	25.8
8時間以上12時間未満	69	11.9
12時間以上	162	27.9
無回答	12	2.1
N (%^ -ス)	581	100

〔図 2-2-10 お世話の最長時間（1日）〕



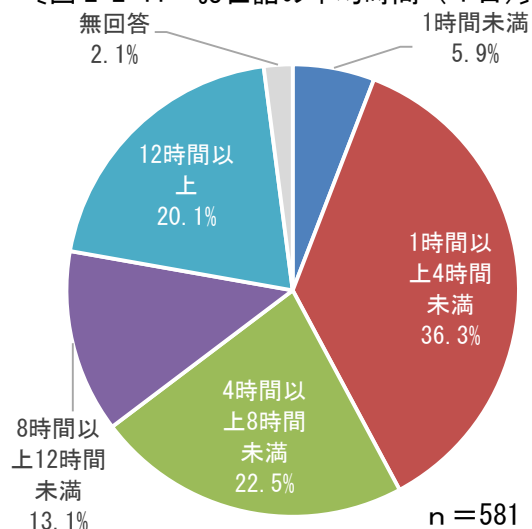
(10) お世話の平均時間（1日）

直近1ヶ月でのお世話の平均時間（1日）は「1時間以上4時間未満」が36.3%で最も多く、次いで「4時間以上8時間未満」が22.5%、「12時間以上」が20.1%と続いている。

〔表 2-2-12 お世話の平均時間（1日）〕

カテゴリ	件数	(全体)%
1時間未満	34	5.9
1時間以上4時間未満	211	36.3
4時間以上8時間未満	131	22.5
8時間以上12時間未満	76	13.1
12時間以上	117	20.1
無回答	12	2.1
N (%^ -ス)	581	100

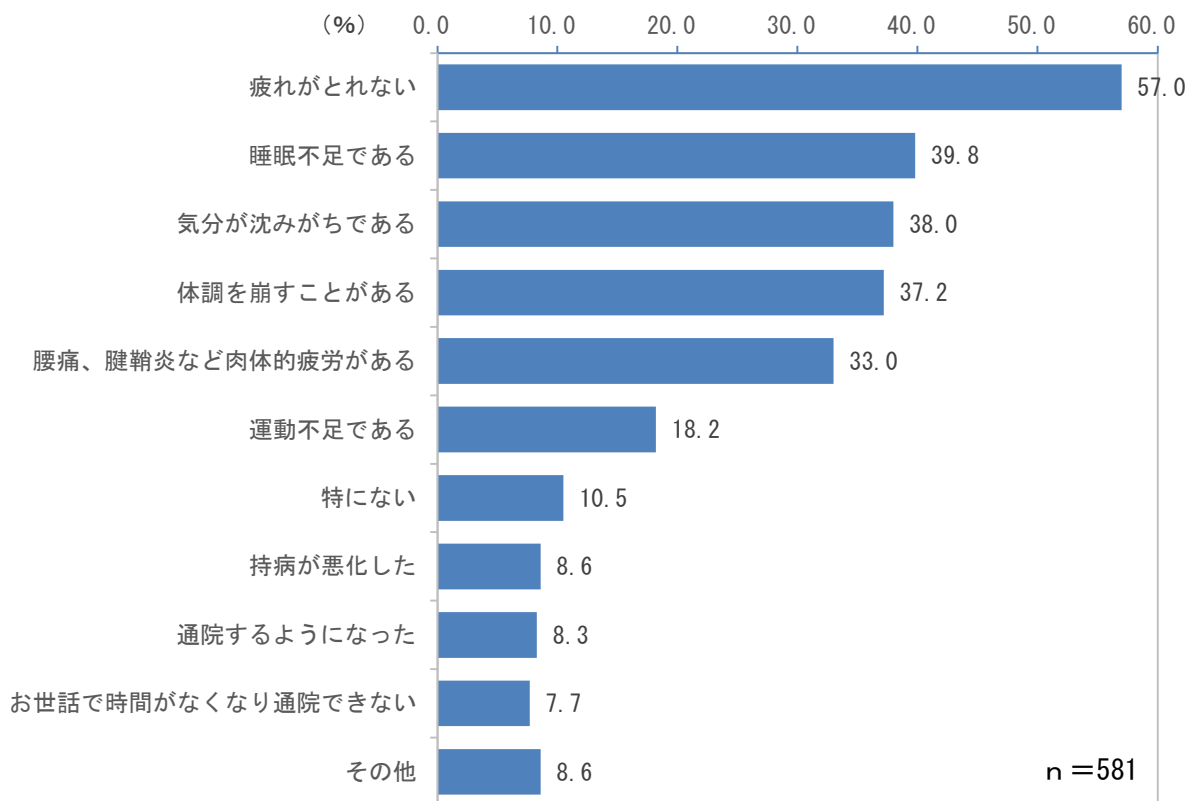
〔図 2-2-11 お世話の平均時間（1日）〕



3. ケアラーへの影響 (1) 健康面への影響

全体では、お世話をするものの健康への影響は「疲れがとれない」が57.0%で最も多く、次いで「睡眠不足である」が39.8%、「気分が沈みがちである」が38.0%と続いている。

〔図 2-3-1 健康面への影響〕



〔表 2-3-1 健康面への影響(性別)〕

(上段：人/下段：%)

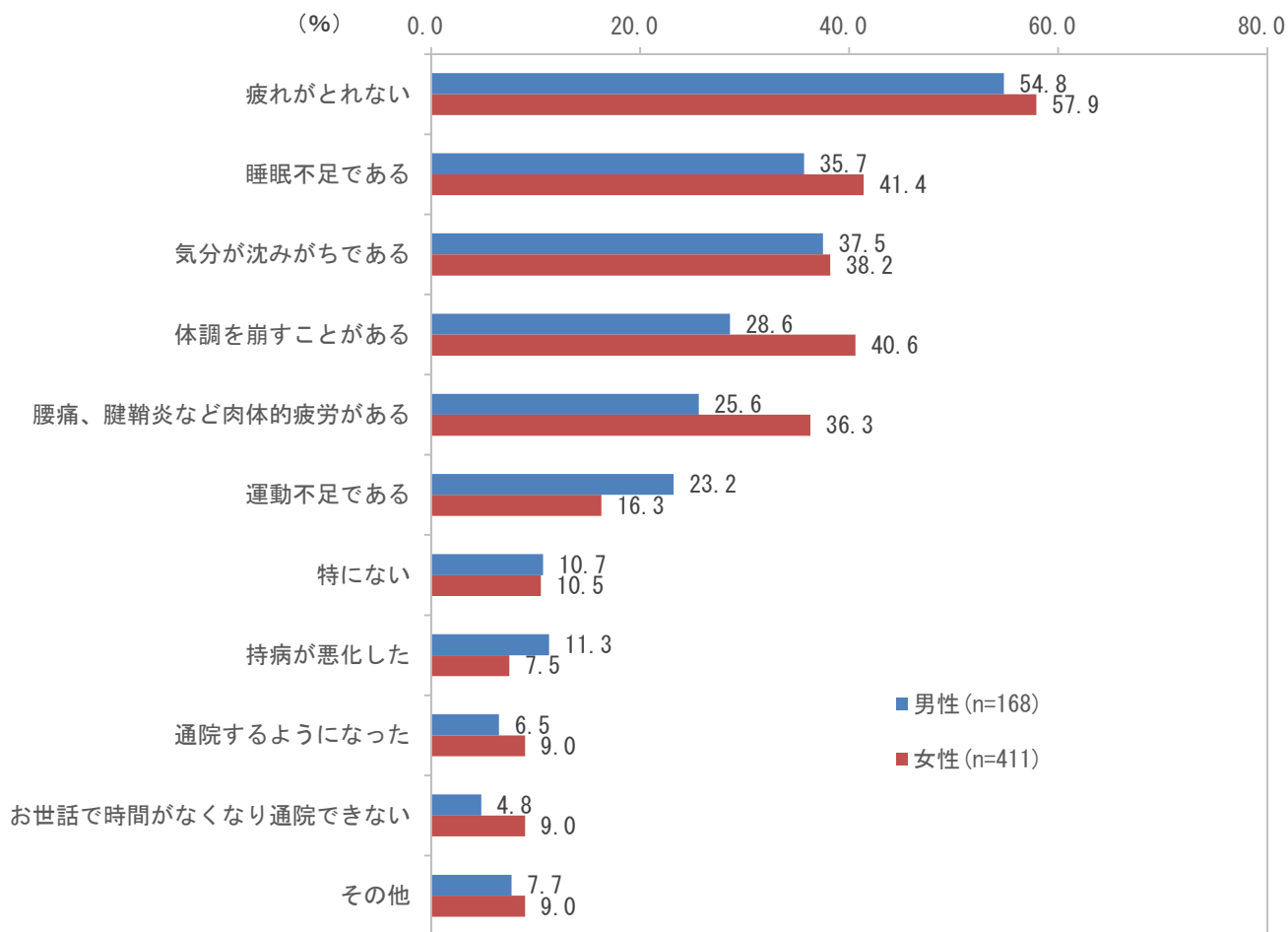
	合計	体調を崩すことがある	腰痛、腱鞘炎など肉体的疲労がある	疲れがとれない	運動不足である	気分が沈みがちである	睡眠不足である	通院するようになった	持病が悪化した	お世話で時間がなくなり通院できない	その他	特にない
全体	581	216	192	331	106	221	231	48	50	45	50	61
	100	37.2	33.0	57.0	18.2	38.0	39.8	8.3	8.6	7.7	8.6	10.5

①性別

全体では、お世話をすることの健康への影響は「疲れがとれない」が57.0%で最も多く、次いで「睡眠不足である」が39.8%、「気分が沈みがちである」が38.0%と続いている。

男性も「疲れがとれない」が54.8%で最も多く、次いで「気分が沈みがちである」が37.5%、「睡眠不足である」が35.7%と続き、女性は「疲れがとれない」が57.9%で最も多く、次いで「睡眠不足である」が41.4%、「体調を崩すことがある」が40.6%と続いている。

〔図 2-3-2 健康面への影響(性別)〕



〔表 2-3-2 健康面への影響(性別)〕

(上段：人/下段：%)

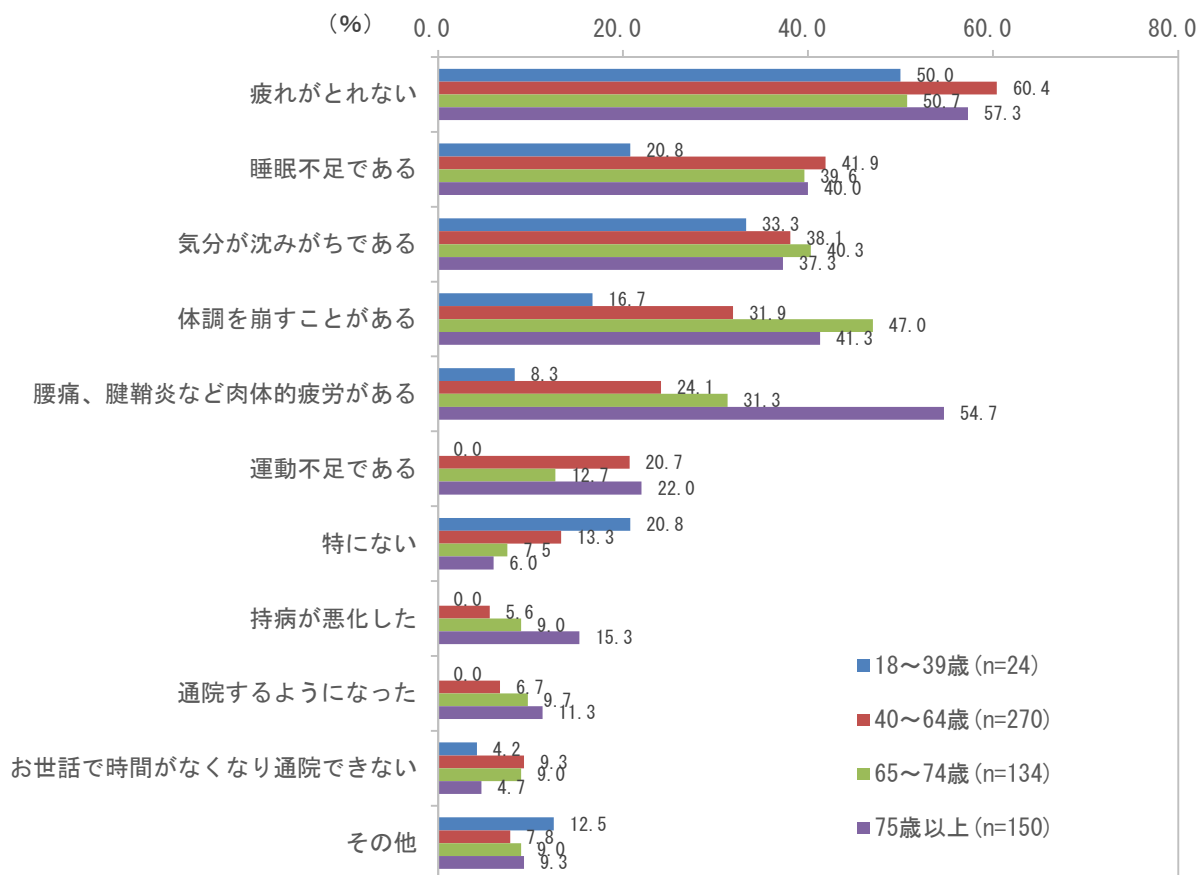
	合計	体調を崩すことがある	腰痛、腱鞘炎など肉体的疲労がある	疲れがとれない	運動不足である	気分が沈みがちである	睡眠不足である	通院するようになった	持病が悪化した	お世話で時間がなくなり通院できない	その他	特にない
男性	168	48	43	92	39	63	60	11	19	8	13	18
	100	28.6	25.6	54.8	23.2	37.5	35.7	6.5	11.3	4.8	7.7	10.7
女性	411	167	149	238	67	157	170	37	31	37	37	43
	100	40.6	36.3	57.9	16.3	38.2	41.4	9.0	7.5	9.0	9.0	10.5

②年齢別

年齢別で「40～64歳」は「疲れがとれない」が60.4%で最も多く、次いで「睡眠不足である」が41.9%、「気分が沈みがちである」が38.1%と続き全体との傾向に大きな変化はないが、「65～74歳」は「体調を崩すことがある」が47.0%で2位項目に上がり、「75歳以上」は「体調を崩すことがある」が41.3%で3位項目、「腰痛、腱鞘炎など肉体的疲労がある」が54.7%で2位項目に上がっており、加齢とともに身体的な影響が大きくなっている。

※以降母数が1の為18歳未満は(MA)の図には載せていない。

〔図 2-3-3 健康面への影響(年齢別)〕



〔表 2-3-3 健康面への影響(年齢別)〕

(上段：人/下段：%)

	合計	体調を崩すことがある	腰痛、腱鞘炎など肉体的疲労がある	疲れがとれない	運動不足である	気分が沈みがちである	睡眠不足である	通院するようになった	持病が悪化した	お世話で時間がなくなり通院できない	その他	特にない
18歳未満	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100
18～39歳	24	4	2	12	-	8	5	-	-	1	3	5
	100	16.7	8.3	50.0	-	33.3	20.8	-	-	4.2	12.5	20.8
40～64歳	270	86	65	163	56	103	113	18	15	25	21	36
	100	31.9	24.1	60.4	20.7	38.1	41.9	6.7	5.6	9.3	7.8	13.3
65～74歳	134	63	42	68	17	54	53	13	12	12	12	10
	10	47.0	31.3	50.7	12.7	40.3	39.6	9.7	9.0	9.0	9.0	7.5
75歳以上	150	62	82	86	33	56	60	17	23	7	14	9
	10	41.3	54.7	57.3	22.0	37.3	40.0	11.3	15.3	4.7	9.3	6.0

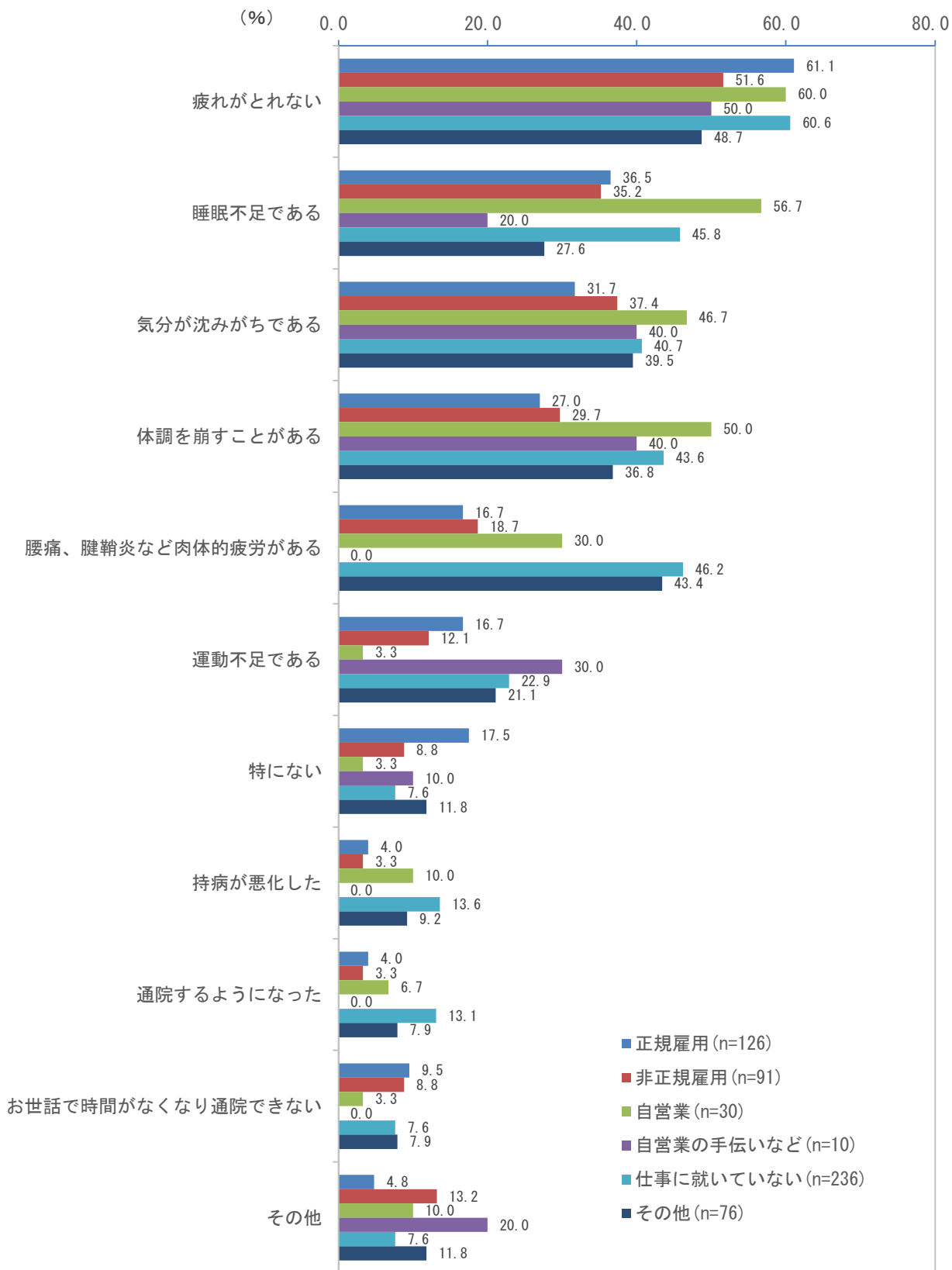
③職業別

職業別で「正規社員は」は「疲れがとれない」が61.1%で最も多く、次いで「睡眠不足である」が36.5%、「気分が沈みがちである」が31.7%と続き全体との傾向に大きな変化はない。

「仕事に就いていない」は「疲れがとれない」が60.6%で最も多く、次いで「腰痛、腱鞘炎など肉体的疲労がある」が46.2%、「睡眠不足である」が45.8%と続いている。

※以降母数が1の為学生は（MA）の図には載せていない。

〔図 2-3-4 健康面への影響（職業別）〕



〔表 2-3-4 健康面への影響(職業別)〕

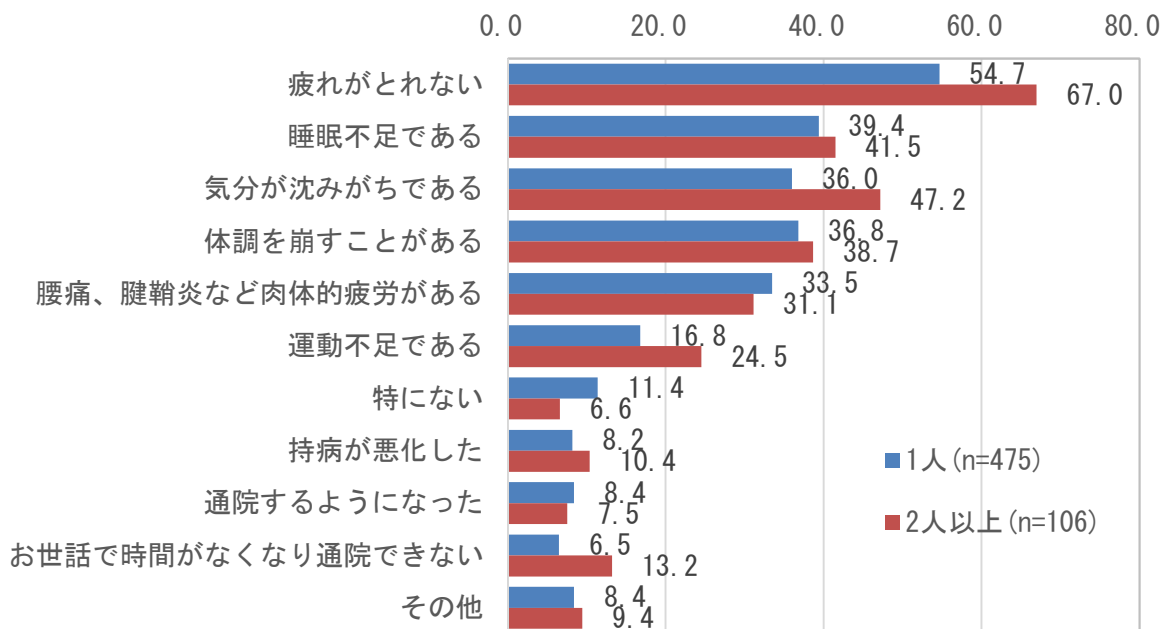
(上段：人/下段：%)

	合計	体調を崩すことがある	腰痛、腱鞘炎など肉体的疲労がある	疲れがとれない	運動不足である	気分が沈みがちである	睡眠不足である	通院するようになった	持病が悪化した	お世話で時間がなくなり通院できない	その他	特にない
正規雇用	126	34	21	77	21	40	46	5	5	12	6	22
	100	27.0	16.7	61.1	16.7	31.7	36.5	4.0	4.0	9.5	4.8	17.5
非正規雇用	91	27	17	47	11	34	32	3	3	8	12	8
	100.0	29.7	18.7	51.6	12.1	37.4	35.2	3.3	3.3	8.8	13.2	8.8
自営業	30	15	9	18	1	14	17	2	3	1	3	1
	100.0	50.0	30.0	60.0	3.3	46.7	56.7	6.7	10.0	3.3	10.0	3.3
自営業の手伝いなど	10	4	-	5	3	4	2	-	-	-	2	1
	100.0	40.0	-	50.0	30.0	40.0	20.0	-	-	-	20.0	10.0
仕事に就いていない	236	103	109	143	54	96	108	31	32	18	18	18
	100.0	43.6	46.2	60.6	22.9	40.7	45.8	13.1	13.6	7.6	7.6	7.6
学生	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
その他	76	28	33	37	16	30	21	6	7	6	9	9
	100.0	36.8	43.4	48.7	21.1	39.5	27.6	7.9	9.2	7.9	11.8	11.8

④ケアしている人数別

お世話による健康への影響をお世話をする人の人数で見ると、「疲れがとれない」は12.3ポイント、「気分が沈みがちである」が11.2ポイントと「2人以上」が「1人」を上回っており、殆どの項目で複数ケアしている方が、健康への影響が大きくなっている。

〔図 2-3-5 健康面への影響(ケアしている人数別)〕



〔表 2-3-5 健康面への影響(ケアしている人数別)〕

(上段：人/下段：%)

	合計	体調を崩すことがある	腰痛、腱鞘炎など肉体的疲労がある	疲れがとれない	運動不足である	気分が沈みがちである	睡眠不足である	通院するようになった	持病が悪化した	お世話で時間がなくなり通院できない	その他	特にない
正規雇用	475	175	159	260	80	171	187	40	39	31	40	54
	100.0	36.8	33.5	54.7	16.8	36.0	39.4	8.4	8.2	6.5	8.4	11.4
非正規雇用	106	41	33	71	26	50	44	8	11	14	10	7
	100.0	38.7	31.1	67.0	24.5	47.2	41.5	7.5	10.4	13.2	9.4	6.6

(2) 自分のための時間

全体では、「あまりとれていない」が45.1%で最も多く、次いで「まあまあとれている」が34.8%、「全くとれていない」が9.6%と続いており、「とれる（「とれている」+「まあまあとれている」）」が43.9%、「とれていない（「あまりとれていない」+「全くとれていない」）」が54.7%となっている。

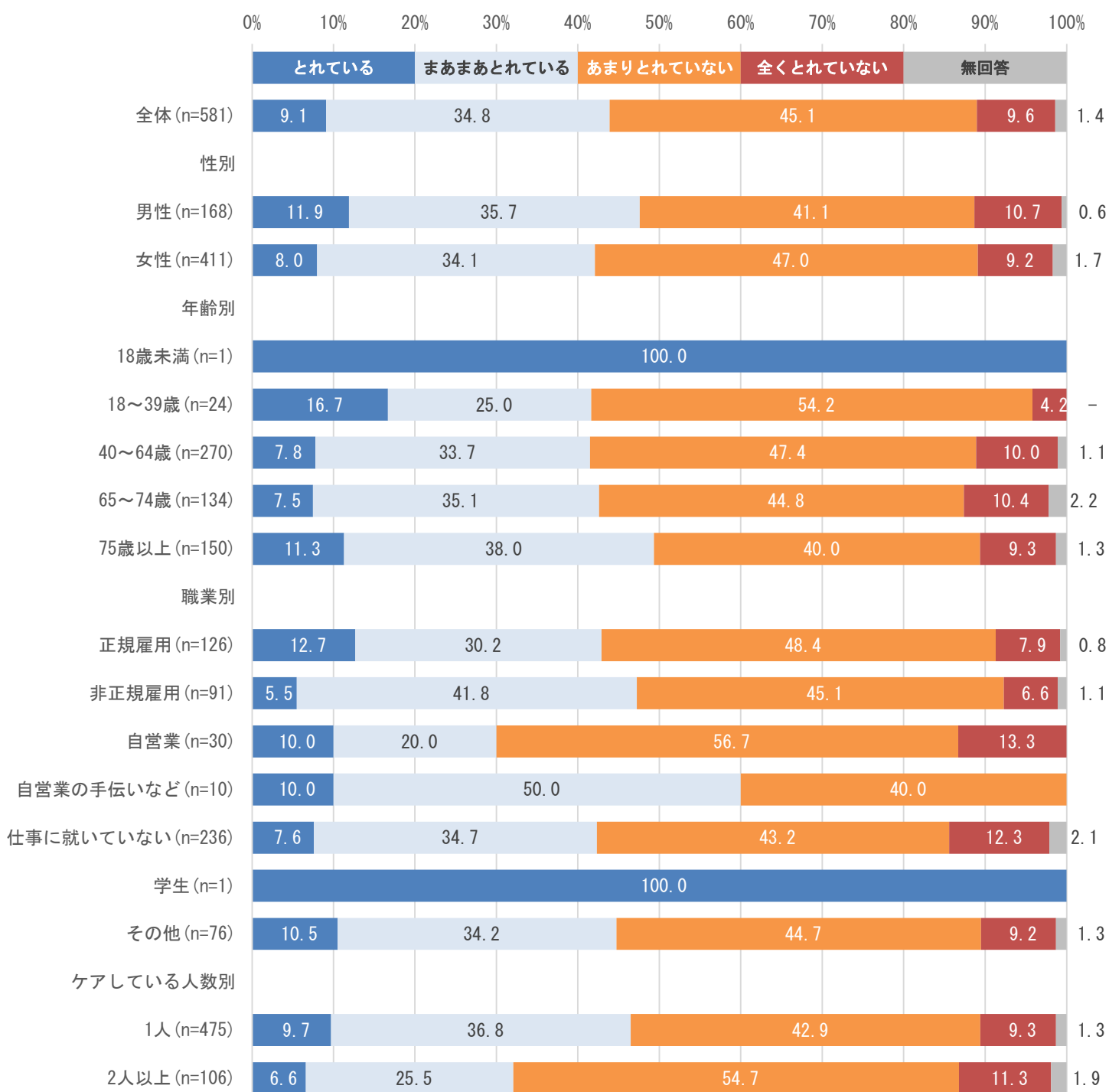
性別での傾向の相違はみられず、「とれる」は「男性」が47.6%、「女性」が42.1%と「男性」が5.5ポイント高くなっている。

年代別でみると、年齢の上昇とともに「とれる」が増加している。

職業別で母数の大きいものをみると、全体との傾向の相違はなく、「とれる」は「非正規雇用」の47.3%が最も大きくなっている。

ケアしている人数別では、「とれない」は「1人」は52.2%、「2人」が66.4%となっており、「とれない」は「2人以上」が13.8ポイント高くなっている。

〔図 2-3-6 自分のための時間(性別・年齢別・職業別・ケアしている人数別)〕



〔表 2-3-6 自分のための時間(性別・年齢別・職業別・ケアしている人数別)〕

(上段：人/下段：%)

	合計	とれている	まあまあとれている	あまりとれていない	全くとれていない	無回答
全体	581	53	202	262	56	8
	100.0	9.1	34.8	45.1	9.6	1.4
男性	168	20	60	69	18	1
	100.0	11.9	35.7	41.1	10.7	0.6
女性	411	33	140	193	38	7
	100.0	8.0	34.1	47.0	9.2	1.7
18歳未満	1	1	-	-	-	-
	100.0	100.0	-	-	-	-
18～39歳	24	4	6	13	1	-
	100.0	16.7	25.0	54.2	4.2	-
40～64歳	270	21	91	128	27	3
	100.0	7.8	33.7	47.4	10.0	1.1
65～74歳	134	10	47	60	14	3
	100.0	7.5	35.1	44.8	10.4	2.2
75歳以上	150	17	57	60	14	2
	100.0	11.3	38.0	40.0	9.3	1.3
正規雇用	126	16	38	61	10	1
	100.0	12.7	30.2	48.4	7.9	0.8
非正規雇用	91	5	38	41	6	1
	100.0	5.5	41.8	45.1	6.6	1.1
自営業	30	3	6	17	4	-
	100.0	10.0	20.0	56.7	13.3	-
自営業の手伝いなど	10	1	5	4	-	-
	100.0	10.0	50.0	40.0	-	-
仕事に就いていない	236	18	82	102	29	5
	100.0	7.6	34.7	43.2	12.3	2.1
学生	1	1	-	-	-	-
	100.0	100.0	-	-	-	-
その他	76	8	26	34	7	1
	100.0	10.5	34.2	44.7	9.2	1.3
1人	475	46	175	204	44	6
	100.0	9.7	36.8	42.9	9.3	1.3
2人以上	106	7	27	58	12	2
	100.0	6.6	25.5	54.7	11.3	1.9

(3) 就労状況の変化

全体では、「就労状況の変化はない」が33.9%で最も多く、次いで「お世話が目的に関わらず、これまで就労したことがない」が15.3%、「退職した」が15.1%と続いている。

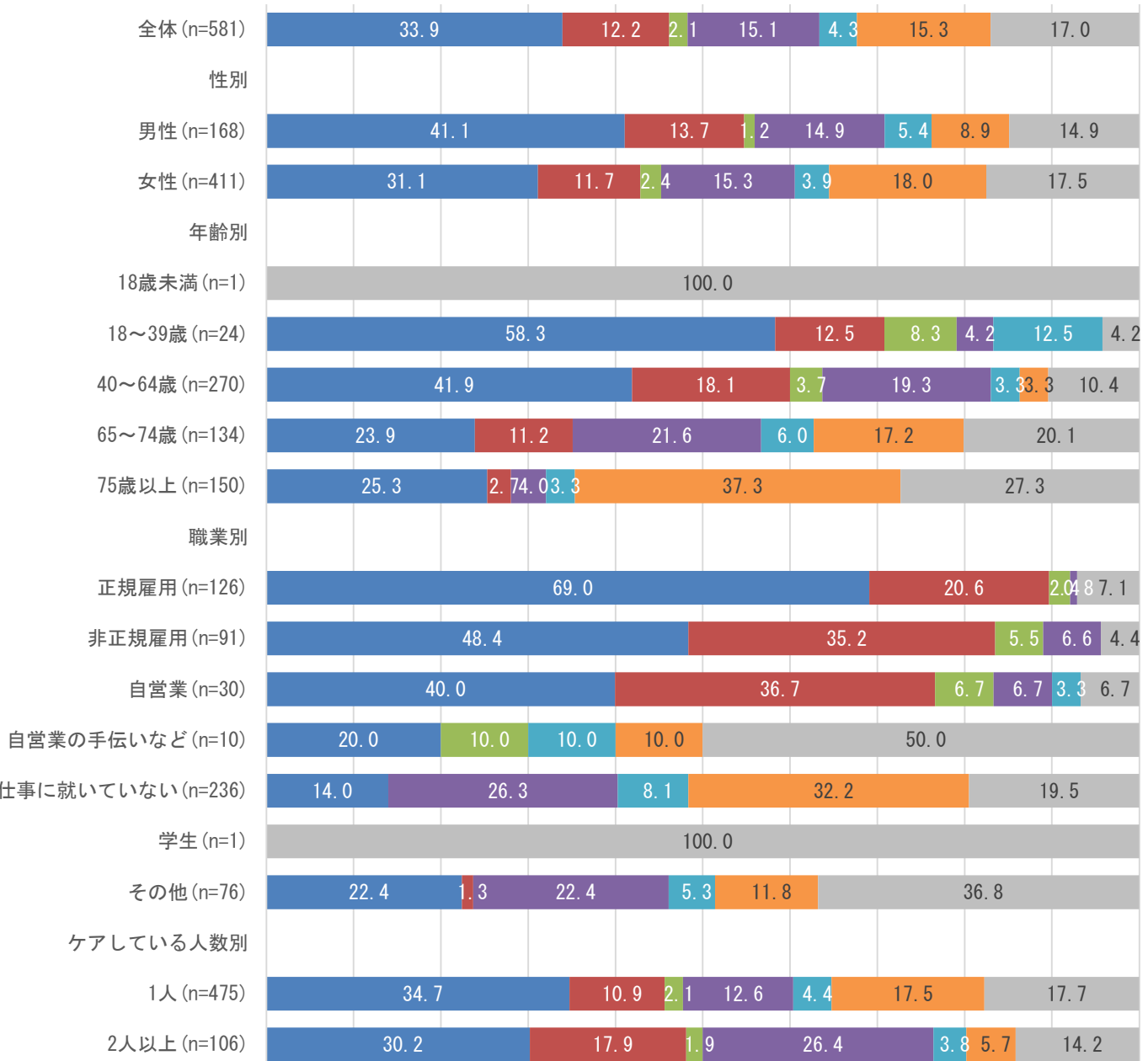
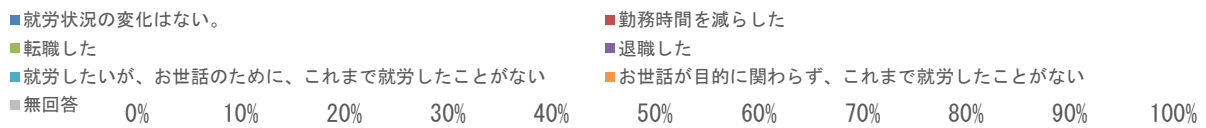
性別での傾向の相違はみられず、「とれる」は「男性」が47.6%、「女性」が42.1%と「男性」が5.5ポイント高くなっている。

年代別でみると、「40～64歳」は「退職した」が19.3%で2位項目に上がり、「勤務時間を減らした」が18.1%で3位項目となり、「65～74歳」で「退職した」が21.6%で2位項目となっている。

職業別では、「仕事に就いていない」は「退職した」が26.3%で2位項目に上がり、「勤務時間を減らした」は「正規雇用」が20.6%、「非正規雇用」が35.2%でともが2位項目となっている。

ケアしている人数別では、「2人以上」は「退職した」が26.4%となっており、複数人数のケアは負担が大きいことがわかる。

〔図 2-3-7 就労状況の変化(性別・年齢別・職業別・ケアしている人数別)〕



〔表 2-3-7 就労状況の変化(性別・年齢別・職業別・ケアしている人数別)〕

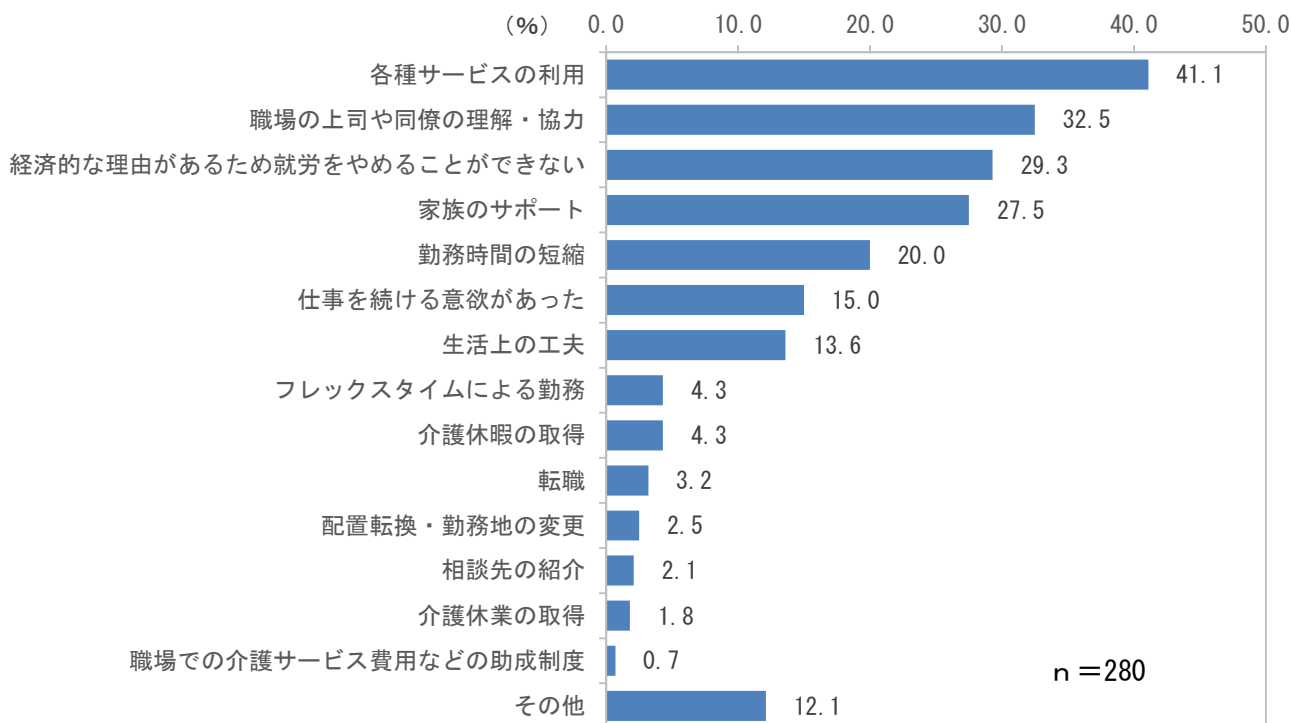
(上段：人/下段：%)

	合計	就労状況の変化はない。	勤務時間を減らした	転職した	退職した	就労したいが、お世話のために、これまで就労しなかった	お世話が目的に関わらず、これまで就労したことがない	無回答
全体	581	197	71	12	88	25	89	99
	100.0	33.9	12.2	2.1	15.1	4.3	15.3	17.0
男性	168	69	23	2	25	9	15	25
	100.0	41.1	13.7	1.2	14.9	5.4	8.9	14.9
女性	411	128	48	10	63	16	74	72
	100.0	31.1	11.7	2.4	15.3	3.9	18.0	17.5
18歳未満	1	-	-	-	-	-	-	1
	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0
18～39歳	24	14	3	2	1	3	-	1
	100.0	58.3	12.5	8.3	4.2	12.5	-	4.2
40～64歳	270	113	49	10	52	9	9	28
	100.0	41.9	18.1	3.7	19.3	3.3	3.3	10.4
65～74歳	134	32	15	-	29	8	23	27
	100.0	23.9	11.2	-	21.6	6.0	17.2	20.1
75歳以上	150	38	4	-	6	5	56	41
	100.0	25.3	2.7	-	4.0	3.3	37.3	27.3
正規雇用	126	87	26	3	1	-	-	9
	100.0	69.0	20.6	2.4	0.8	-	-	7.1
非正規雇用	91	44	32	5	6	-	-	4
	100.0	48.4	35.2	5.5	6.6	-	-	4.4
自営業	30	12	11	2	2	1	-	2
	100.0	40.0	36.7	6.7	6.7	3.3	-	6.7
自営業の手伝いなど	10	2	-	1	-	1	1	5
	100.0	20.0	-	10.0	-	10.0	10.0	50.0
仕事に就いていない	236	33	-	-	62	19	76	46
	100.0	14.0	-	-	26.3	8.1	32.2	19.5
学生	1	-	-	-	-	-	-	1
	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0
その他	76	17	1	-	17	4	9	28
	100.0	22.4	1.3	-	22.4	5.3	11.8	36.8
1人	475	165	52	10	60	21	83	84
	100.0	34.7	10.9	2.1	12.6	4.4	17.5	17.7
2人以上	106	32	19	2	28	4	6	15
	100.0	30.2	17.9	1.9	26.4	3.8	5.7	14.2

(4) 就労継続ができた理由 (就労を続けられた方のみ回答)

就労継続ができた理由は「各種サービスの利用」が41.1%で最も多く、次いで「職場の上司や同僚の理解・協力」が32.5%、「経済的な理由があるため就労をやめることができない」が29.3%と続いている。

〔図 2-3-8 就労継続ができた理由〕



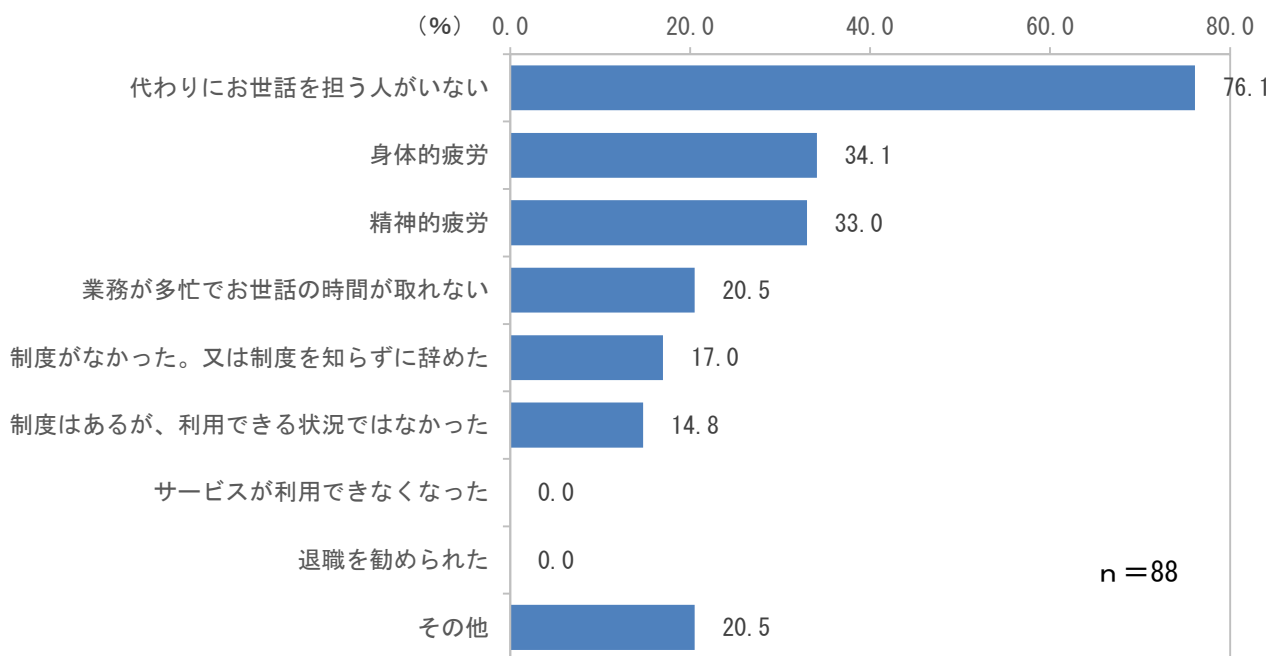
〔表 2-3-8 就労継続ができた理由〕

カテゴリ	件数	(全体)%
各種サービスの利用	115	41.1
家族のサポート	77	27.5
勤務時間の短縮	56	20.0
フレックスタイムによる勤務	12	4.3
配置転換・勤務地の変更	7	2.5
転職	9	3.2
介護休暇の取得	12	4.3
介護休業の取得	5	1.8
相談先の紹介	6	2.1
生活上の工夫	38	13.6
仕事を続ける意欲があった	42	15.0
職場の上司や同僚の理解・協力	91	32.5
経済的な理由があるため就労をやめることができない	82	29.3
職場での介護サービス費用などの助成制度	2	0.7
その他	34	12.1
無回答	41	14.6
N (% [^] -ス)	280	100

(5) 退職した理由（お世話をすることを機に退職された方のみ回答）

退職した理由は「代わりにお世話を担う人がいない」が76.1%で最も多く、次いで「身体的疲労」が34.1%、「精神的疲労」が33.0%と続いている。

〔図 2-3-9 退職した理由〕



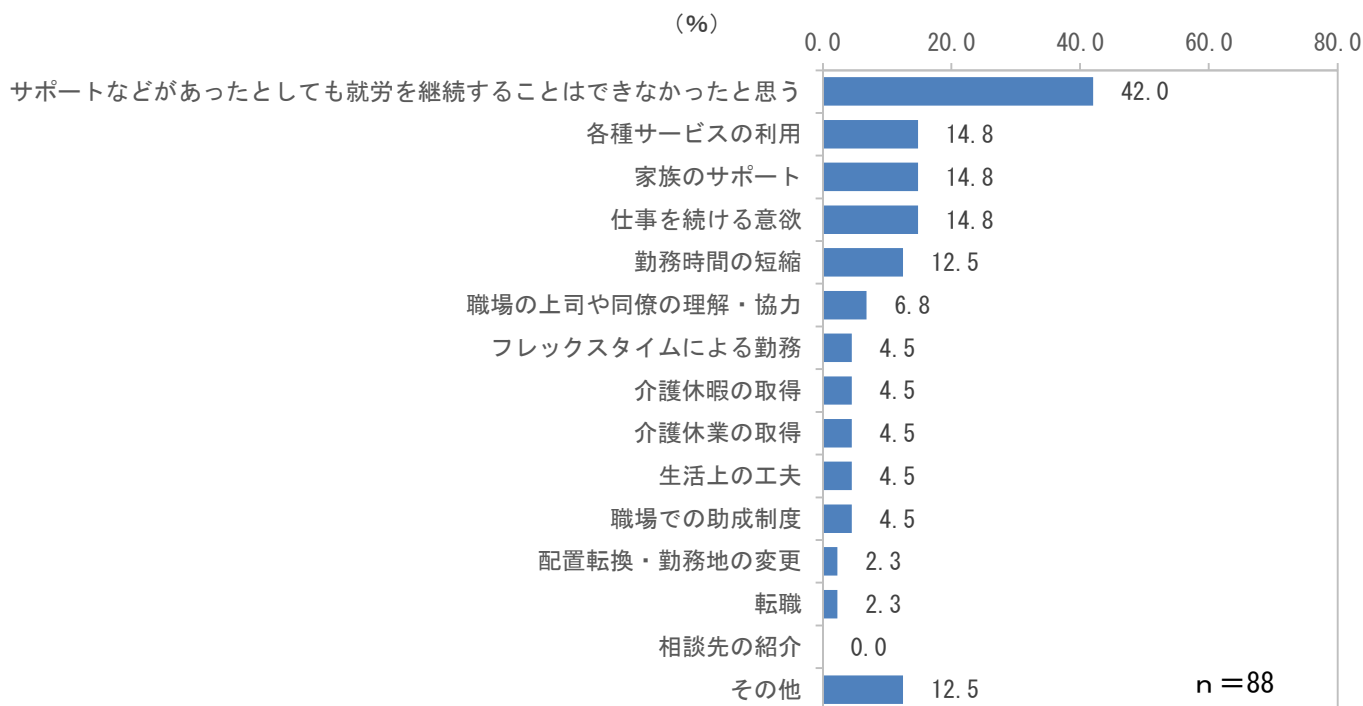
〔表 2-3-9 退職した理由〕

カテゴリ	件数	(全体)%
身体的疲労	30	34.1
精神的疲労	29	33.0
代わりにお世話を担う人がいない	67	76.1
サービスが利用できなくなった	0	0.0
業務が多忙でお世話の時間が取れない	18	20.5
制度はあるが、利用できる状況ではなかった	13	14.8
制度がなかった。又は制度を知らずに辞めた	15	17.0
退職を勧められた	0	0.0
その他	18	20.5
無回答	0	0.0
N (%ベース)	88	100

(6) 就労を継続するために必要な支援（お世話をすることを機に退職された方のみ回答）

就労を継続するために必要な支援は「サポートなどがあっても就労を継続することはできなかったと思う」が42.0%で最も多く、次いで「各種サービスの利用」・「家族のサポート」・「仕事を続ける意欲」が14.8%と続いている。

〔図 2-3-10 就労を継続するために必要な支援〕



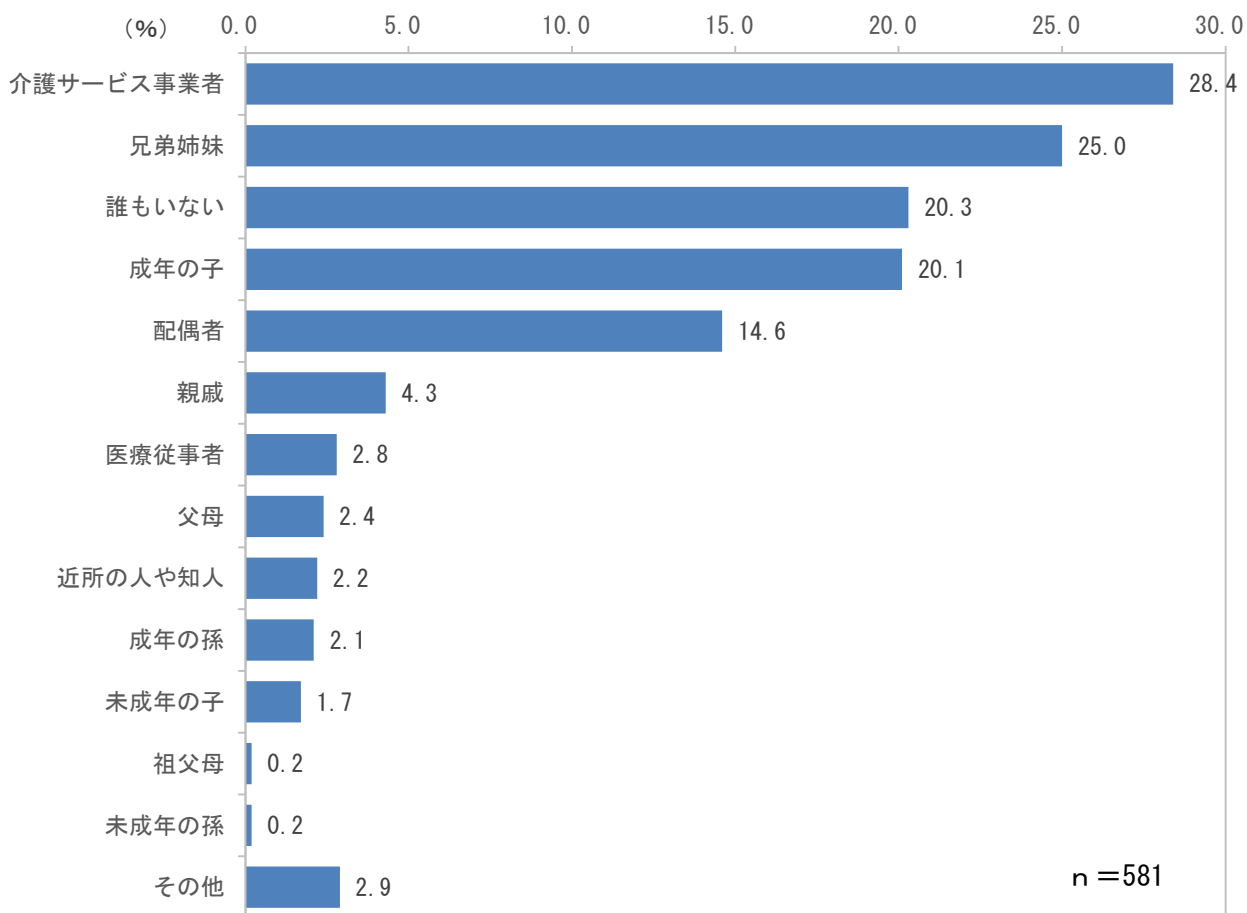
〔表 2-3-10 就労を継続するために必要な支援〕

カテゴリ	件数	(全体)%
サポートなどがあっても就労を継続することはできなかったと思う	37	42.0
各種サービスの利用	13	14.8
家族のサポート	13	14.8
勤務時間の短縮	11	12.5
フレックスタイムによる勤務	4	4.5
配置転換・勤務地の変更	2	2.3
転職	2	2.3
介護休暇の取得	4	4.5
介護休業の取得	4	4.5
相談先の紹介	0	0.0
生活上の工夫	4	4.5
仕事を続ける意欲	13	14.8
職場の上司や同僚の理解・協力	6	6.8
職場での助成制度	4	4.5
その他	11	12.5
無回答	9	10.2
N (%への入)	88	100

(7) 緊急時の代替者

緊急時の代替者は、全体では「介護サービス事業者」が28.4%で最も多く、次いで「兄弟姉妹」が25.0%、「誰もいない」が20.3%と続いている。

〔図 2-3-11 緊急時の代替者〕



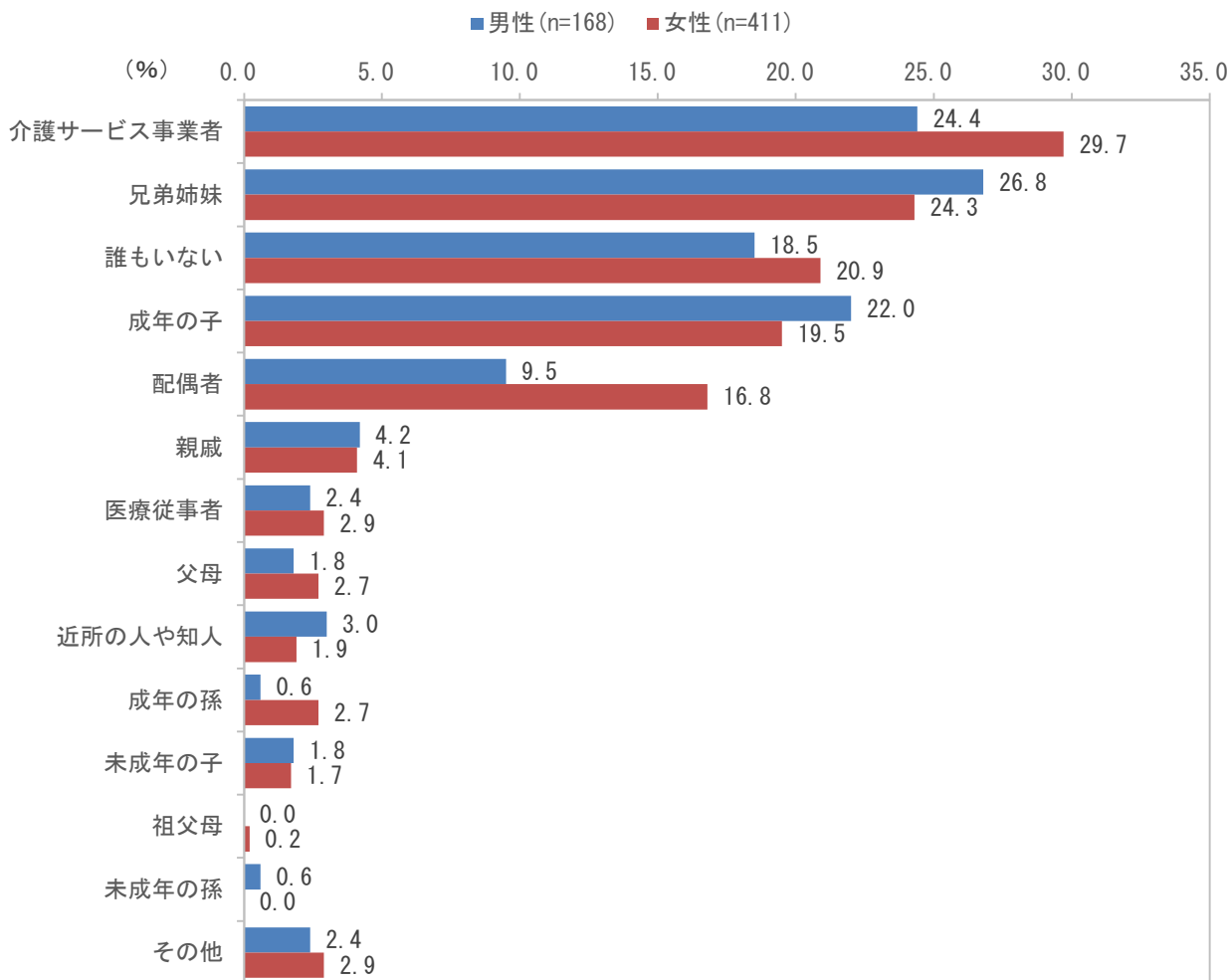
〔表 2-3-11 緊急時の代替者〕

	合計	配偶者	父母	祖父母	成年の子	未成年の子	成年の孫	未成年の孫
全体	581	85	14	1	117	10	12	1
	100.0	14.6	2.4	0.2	20.1	1.7	2.1	0.2
	兄弟姉妹	親戚	近所の人や知人	医療従事者	介護サービス事業者	その他	誰もいない	無回答
全体	145	25	13	16	165	17	118	16
	25.0	4.3	2.2	2.8	28.4	2.9	20.3	2.8

①性別

性別では、「男性」は「兄弟姉妹」が26.8%で最も多く、次いで「介護サービス事業者」が24.4%、「成年の子」が22.0%と続いており、「女性」は「介護サービス事業者」が26.8%で最も多く、次いで「兄弟姉妹」が24.3%、「誰もいない」が20.9%と続いている。

〔図 2-3-12 緊急時の代替者（性別）〕



〔表 2-3-12 緊急時の代替者（性別）〕

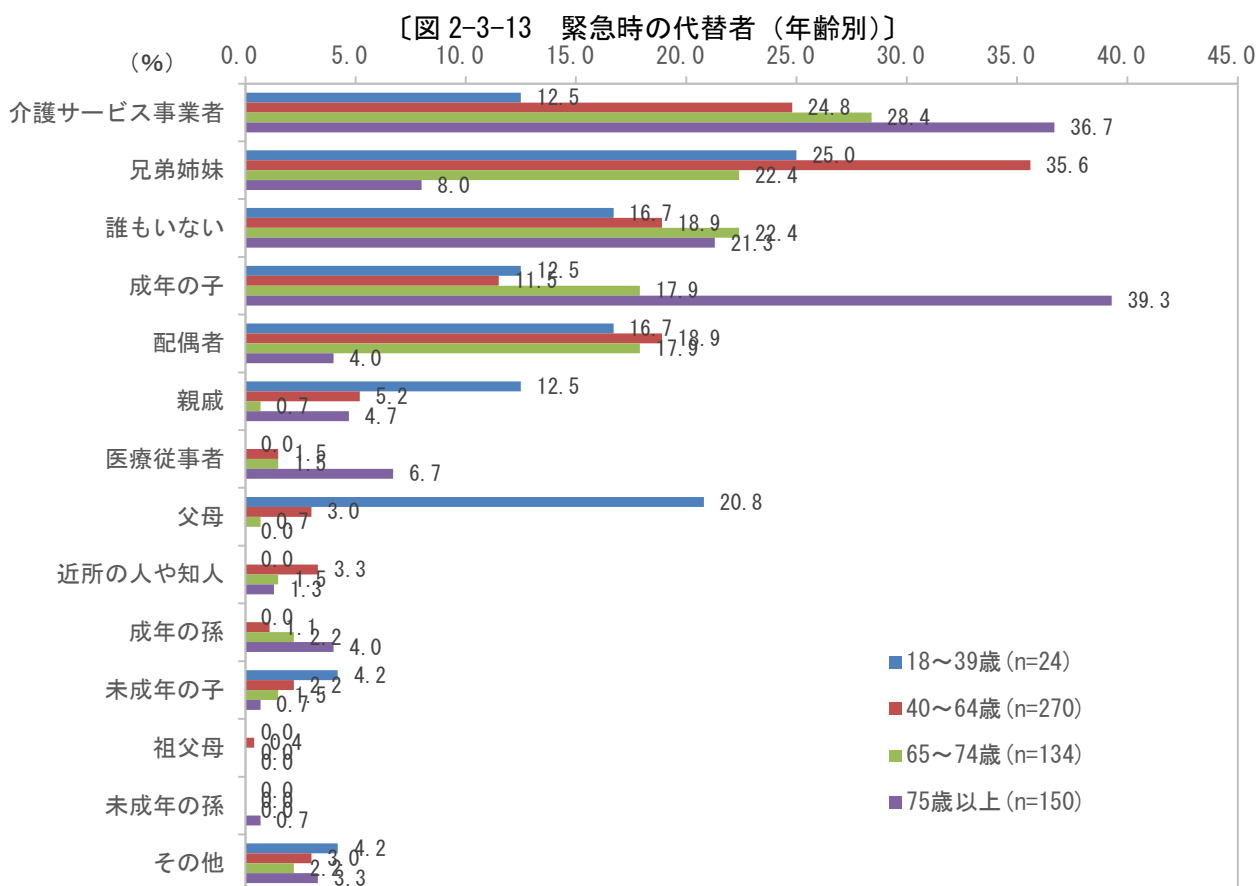
（上段：人/下段：％）

	合計	配偶者	父母	祖父母	成年の子	未成年の子	成年の孫	未成年の孫
男性	168	16	3	-	37	3	1	1
	100.0	9.5	1.8	-	22.0	1.8	0.6	0.6
女性	411	69	11	1	80	7	11	-
	100.0	16.8	2.7	0.2	19.5	1.7	2.7	-
	兄弟姉妹	親戚	近所の人や知人	医療従事者	介護サービス事業者	その他	誰もいない	無回答
男性	45	7	5	4	41	4	31	10
	26.8	4.2	3.0	2.4	24.4	2.4	18.5	6.0
女性	100	17	8	12	122	12	86	6
	24.3	4.1	1.9	2.9	29.7	2.9	20.9	1.5

②年齢別

年齢別では、「40～64歳」は「兄弟姉妹」が35.6%で最も多く、次いで「介護サービス事業者」が24.8%、「誰もいない」・「配偶者」が18.9%と続いており、「65～74歳」は「介護サービス事業者」が28.4%で最も多く、次いで「兄弟姉妹」・「誰もいない」が18.9%と続いている。

「75歳以上」は「成年の子」が39.3%で最も多く、次いで「介護サービス事業者」が36.7%、「誰もいない」が21.3%と続いている。



〔表 2-3-13 緊急時の代替者（年齢別）〕

（上段：人/下段：％）

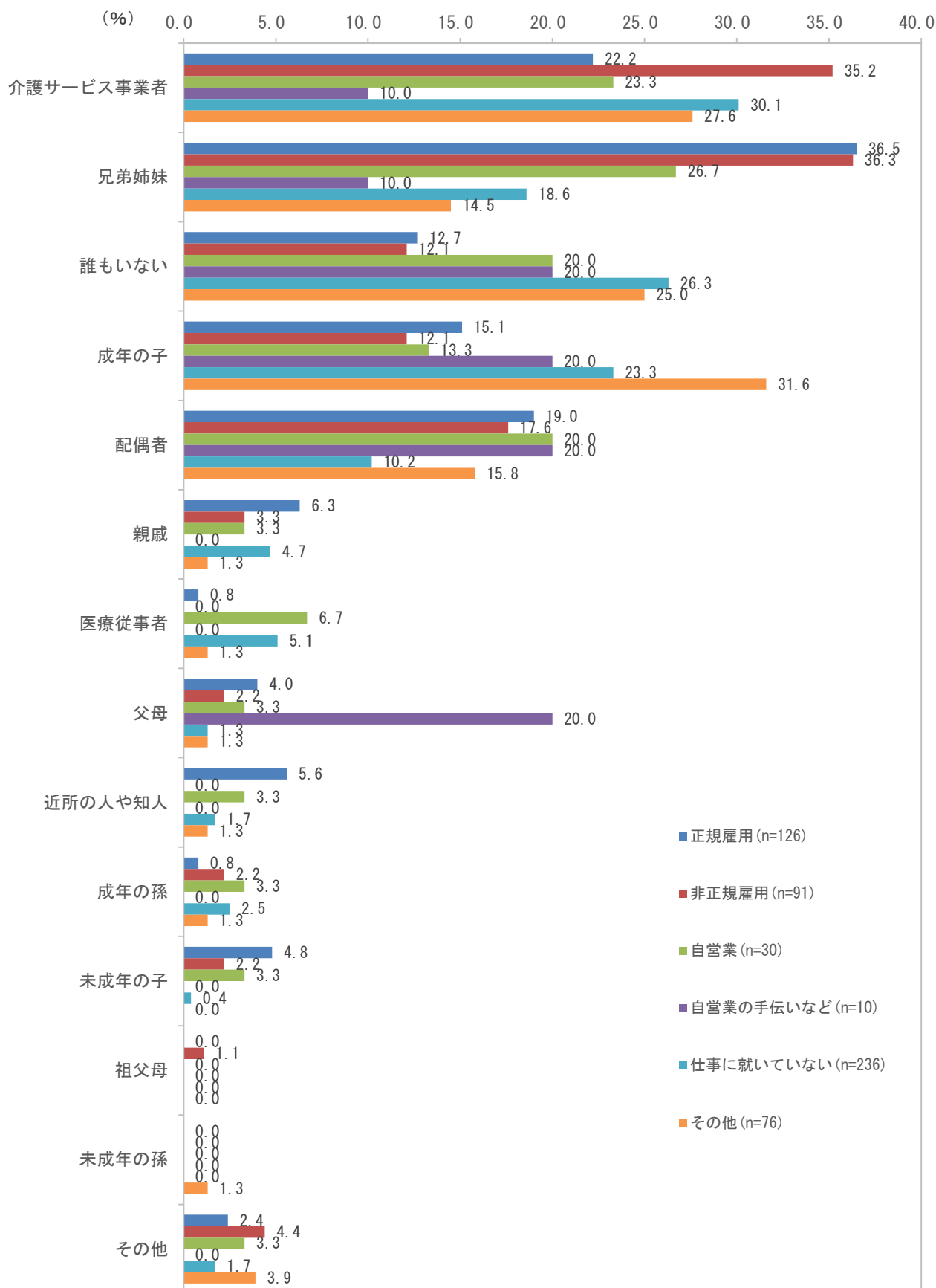
	合計	配偶者	父母	祖父母	成年の子	未成年の子	成年の孫	未成年の孫
	18歳未満	1 100.0	-	-	-	-	-	-
18～39歳	24 100.0	4 16.7	5 20.8	-	3 12.5	1 4.2	-	-
40～64歳	270 100.0	51 18.9	8 3.0	1 0.4	31 11.5	6 2.2	3 1.1	-
65～74歳	134 100.0	24 17.9	1 0.7	-	24 17.9	2 1.5	3 2.2	-
75歳以上	150 100.0	6 4.0	-	-	59 39.3	1 0.7	6 4.0	1 0.7
	兄弟姉妹	親戚	近所の人や知人	医療従事者	介護サービス事業者	その他	誰もいない	無回答
	18歳未満	1 100.0	-	-	-	-	-	-
18～39歳	6 25.0	3 12.5	-	-	3 12.5	1 4.2	4 16.7	1 4.2
40～64歳	96 35.6	14 5.2	9 3.3	4 1.5	67 24.8	8 3.0	51 18.9	8 3.0
65～74歳	30 22.4	1 0.7	2 1.5	2 1.5	38 28.4	3 2.2	30 22.4	3 2.2
75歳以上	12 8.0	7 4.7	2 1.3	10 6.7	55 36.7	5 3.3	32 21.3	4 2.7

③職業別

職業別では、「正規雇用」は「兄弟姉妹」が36.5%で最も多く、次いで「介護サービス事業者」が22.2%、「配偶者」が19.0%と続いており、「非正規雇用」も「兄弟姉妹」が36.3%で最も多く、次いで「介護サービス事業者」が35.2%、「配偶者」が17.6%と続いている。

「仕事に就いていない」は「介護サービス事業者」が30.1%で最も多く、次いで「誰もいない」が26.3%、「成年の子」が23.3%と続いている。

〔図 2-3-14 緊急時の代替者（職業別）〕



[表 2-3-14 緊急時の代替者（職業別）]

(上段：人/下段：%)

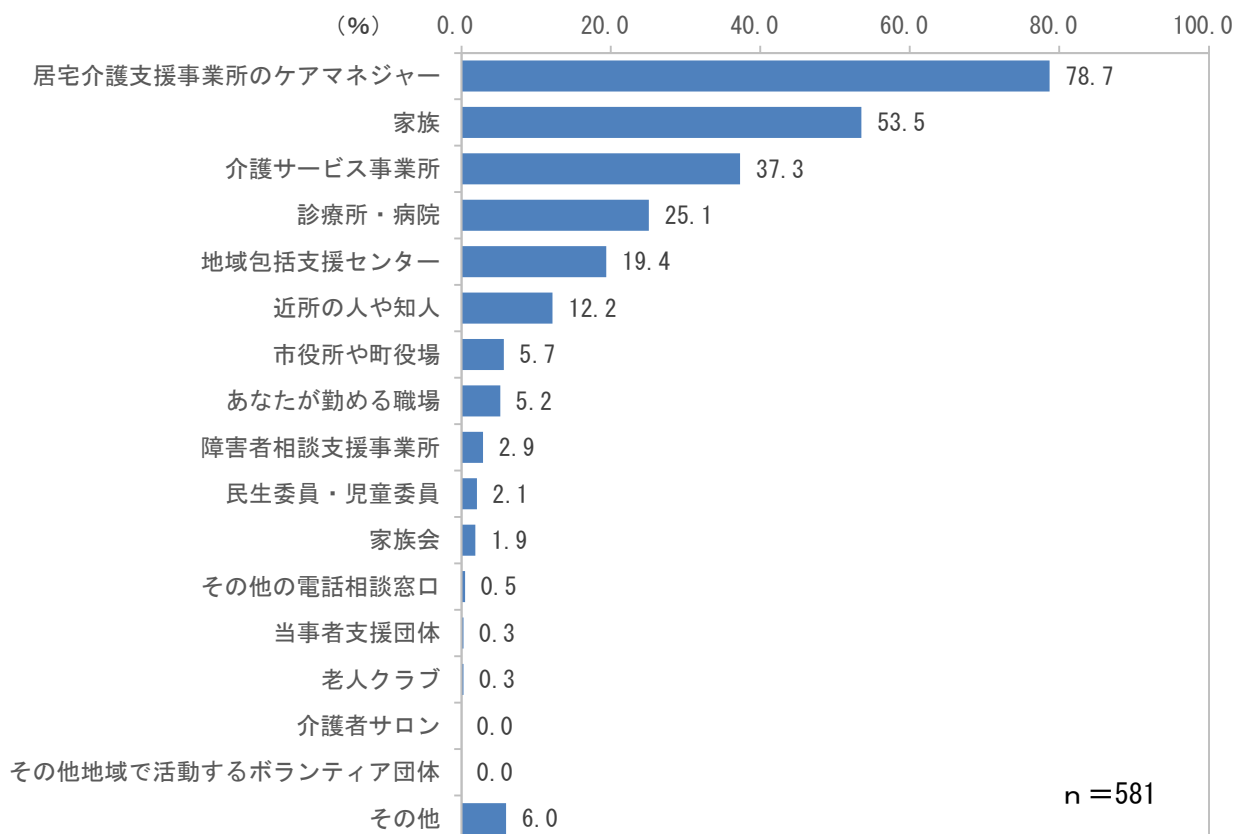
	合計	配偶者	父母	祖父母	成年の子	未成年の子	成年の孫	未成年の孫
正規雇用	126 100.0	24 19.0	5 4.0	- -	19 15.1	6 4.8	1 0.8	- -
非正規雇用	91 100.0	16 17.6	2 2.2	1 1.1	11 12.1	2 2.2	2 2.2	- -
自営業	30 100.0	6 20.0	1 3.3	- -	4 13.3	1 3.3	1 3.3	- -
自営業の手伝いなど	10 100.0	2 20.0	2 20.0	- -	2 20.0	- -	- -	- -
仕事に就いていない	236 100.0	24 10.2	3 1.3	- -	55 23.3	1 0.4	6 2.5	- -
学生	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
その他	76 100.0	12 15.8	1 1.3	- -	24 31.6	- -	1 1.3	1 1.3
	兄弟姉妹	親戚	近所の人や 知人	医療従事者	介護サービ ス事業者	その他	誰もいない	無回答
正規雇用	46 36.5	8 6.3	7 5.6	1 0.8	28 22.2	3 2.4	16 12.7	7 5.6
非正規雇用	33 36.3	3 3.3	- -	- -	32 35.2	4 4.4	11 12.1	2 2.2
自営業	8 26.7	1 3.3	1 3.3	2 6.7	7 23.3	1 3.3	6 20.0	1 3.3
自営業の手伝いなど	1 10.0	- -	- -	- -	1 10.0	- -	2 20.0	1 10.0
仕事に就いていない	44 18.6	11 4.7	4 1.7	12 5.1	71 30.1	4 1.7	62 26.3	2 0.8
学生	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
その他	11 14.5	1 1.3	1 1.3	1 1.3	21 27.6	3 3.9	19 25.0	3 3.9

4. 相談先や相談窓口

(1) 頼りにしている相談先

頼りにしている相談先は、全体では「居宅介護支援事業所のケアマネジャー」が78.7%で最も多く、次いで「家族」が53.5%、「介護サービス事業所」が37.3%と続いている。

〔図 2-4-1 頼りにしている相談先〕



〔表 2-4-1 相談先や相談窓口〕

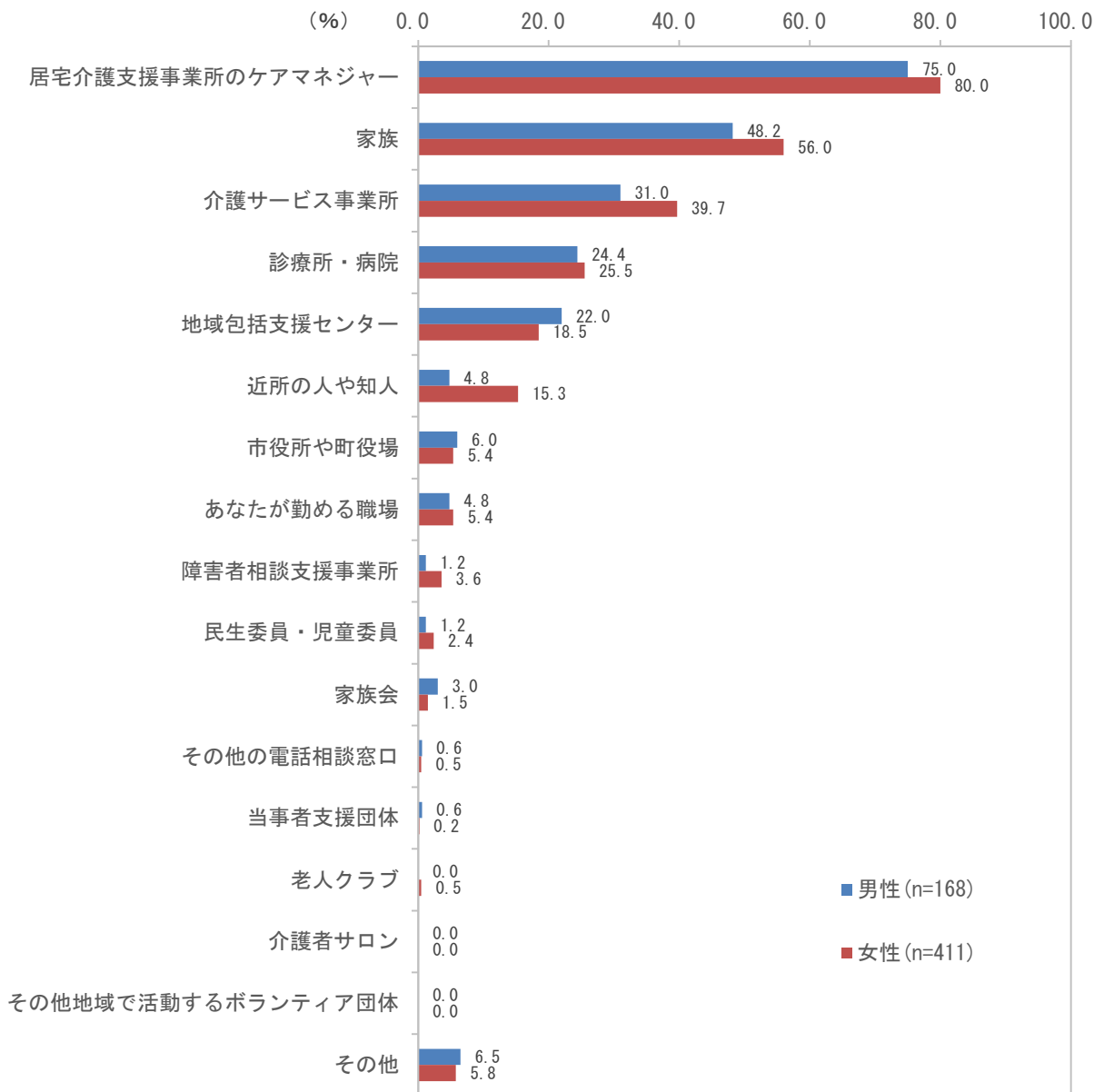
(上段：人/下段：%)

	合計	家族	家族会	市役所や町役場	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所のケアマネジャー	介護サービス事業所	診療所・病院	障害者相談支援事業所	老人クラブ
全体	581	311	11	33	113	457	217	146	17	2
	100.0	53.5	1.9	5.7	19.4	78.7	37.3	25.1	2.9	0.3
	当事者支援団体	民生委員・児童委員	近所の人や知人	介護者サロン	あなたが勤める職場	その他地域で活動するボランティア団体	その他の電話相談窓口	その他	無回答	
全体	2	12	71	-	30	-	3	35	8	
	0.3	2.1	12.2	-	5.2	-	0.5	6.0	1.4	

①性別

性別では、「男性」は「居宅介護支援事業所のケアマネジャー」が75.0%で最も多く、次いで「家族」が48.2%、「介護サービス事業所」が31.0%と続いており、「女性」も「居宅介護支援事業所のケアマネジャー」が80.0%で最も多く、次いで「家族」が56.0%、「介護サービス事業所」が39.7%と続いている。

〔図 2-4-2 頼りにしている相談先（性別）〕



〔表 2-4-2 相談先や相談窓口（性別）〕

（上段：人/下段：％）

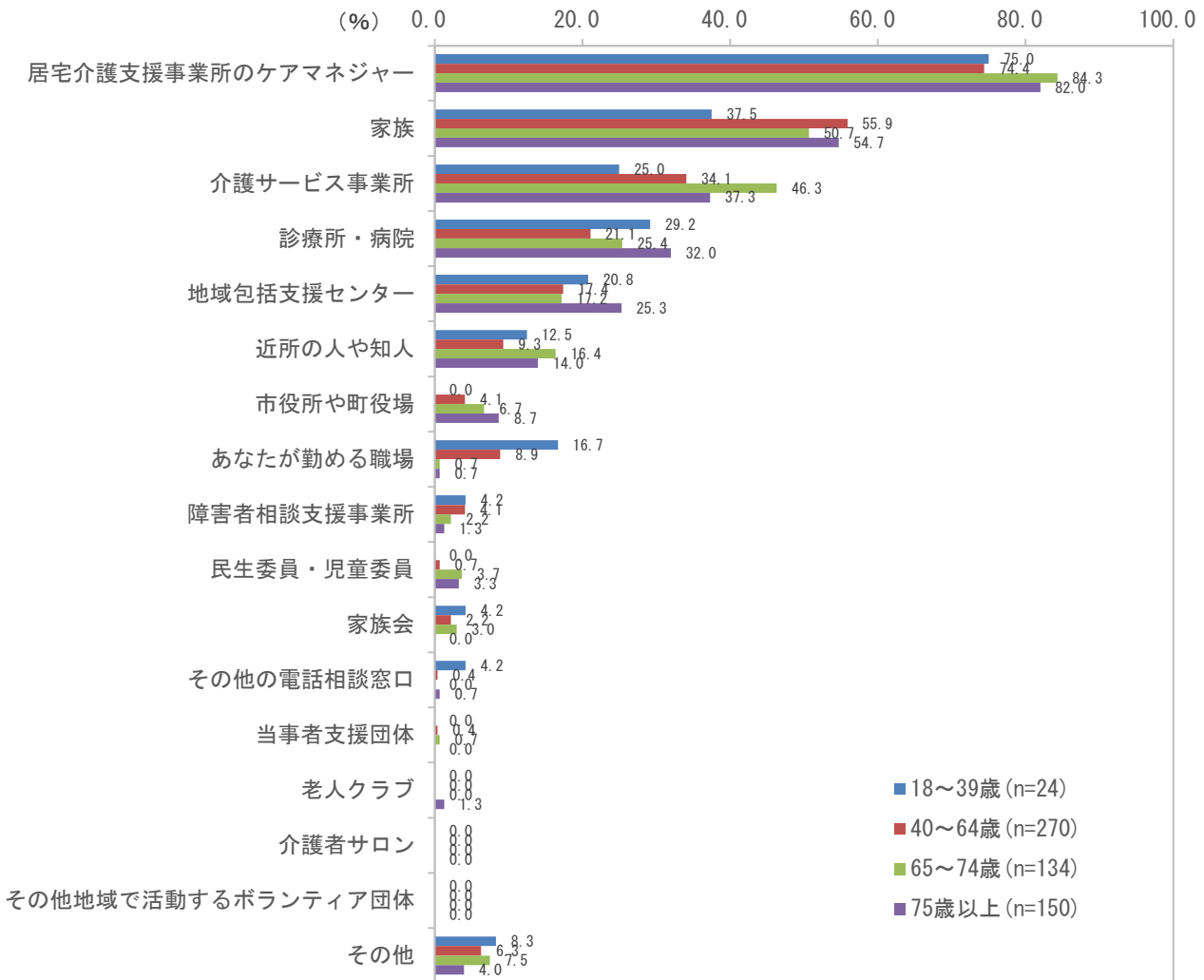
	合計	家族	家族会	市役所や町役場	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所のケアマネジャー	介護サービス事業所	診療所・病院	障害者相談支援事業所	老人クラブ
男性	168	81	5	10	37	126	52	41	2	-
	100.0	48.2	3.0	6.0	22.0	75.0	31.0	24.4	1.2	-
女性	411	230	6	22	76	329	163	105	15	2
	100.0	56.0	1.5	5.4	18.5	80.0	39.7	25.5	3.6	0.5
	当事者支援団体	民生委員・児童委員	近所の人や知人	介護者サロン	あなたが勤める職場	その他地域で活動するボランティア団体	その他の電話相談窓口	その他	無回答	
男性	1	2	8	-	8	-	1	11	1	
	0.6	1.2	4.8	-	4.8	-	0.6	6.5	0.6	
女性	1	10	63	-	22	-	2	24	7	
	0.2	2.4	15.3	-	5.4	-	0.5	5.8	1.7	

②年齢別

年齢別では、「40～64歳」は「居宅介護支援事業所のケアマネジャー」が74.4%で最も多く、次いで「家族」が55.9%、「介護サービス事業所」が34.1%と続いており、「65～74歳」も「居宅介護支援事業所のケアマネジャー」が84.3%で最も多く、次いで「家族」が54.7%、「介護サービス事業所」が46.3%と続いている。

「75歳以上」は「居宅介護支援事業所のケアマネジャー」が82.0%で最も多く、次いで「家族」が54.7%、「介護サービス事業所」が37.3%と続いている。

〔図 2-4-3 頼りにしている相談先（年齢別）〕



〔表 2-4-3 相談先や相談窓口（年齢別）〕（上段：人/下段：％）

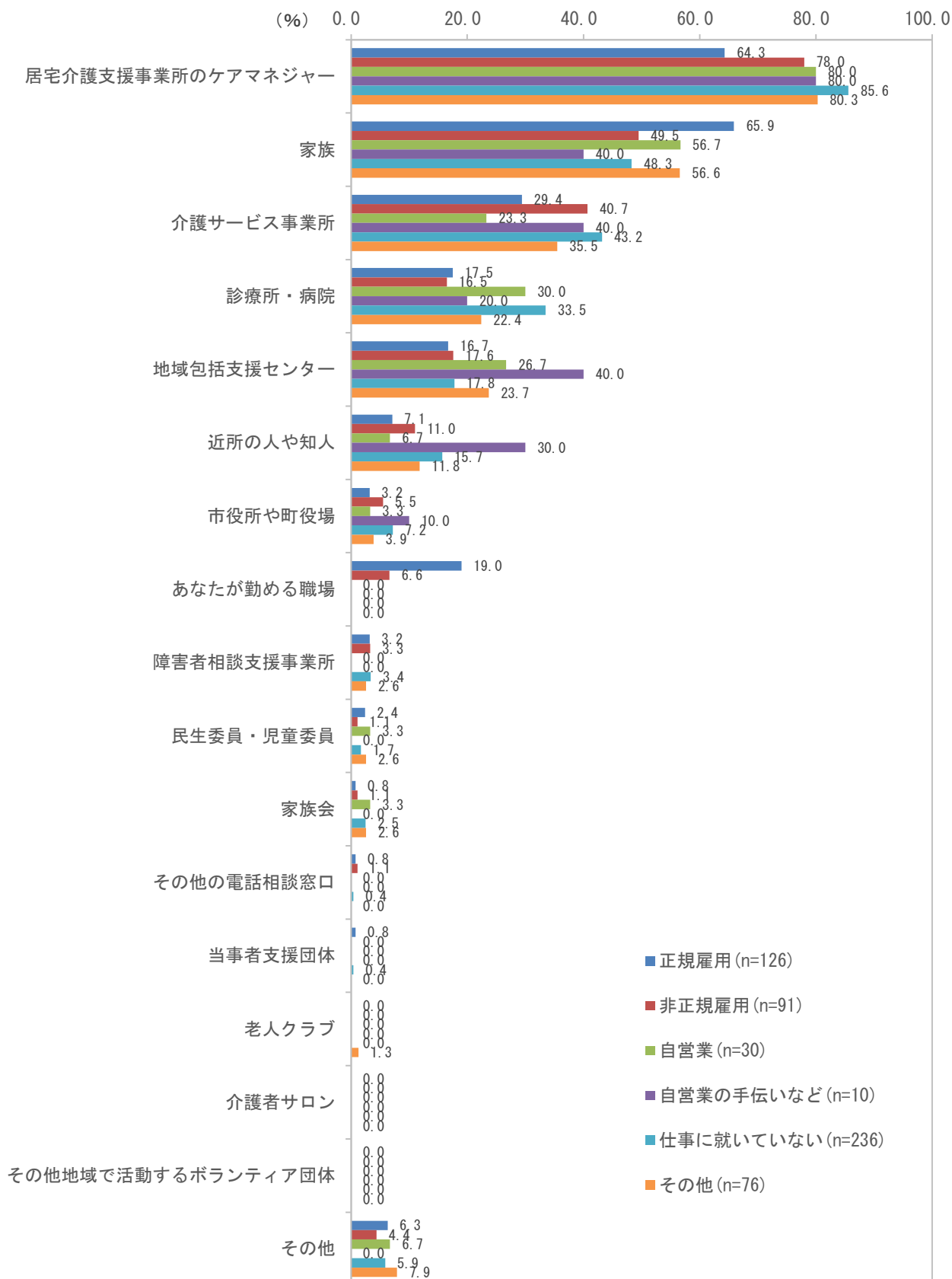
	合計	家族	家族会	市役所や町役場	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所のケアマネジャー	介護サービス事業所	診療所・病院	障害者相談支援事業所	老人クラブ
18歳未満	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
18～39歳	24	9	1	-	5	18	6	7	1	-
	100.0	37.5	4.2	-	20.8	75.0	25.0	29.2	4.2	-
40～64歳	270	151	6	11	47	201	92	57	11	-
	100.0	55.9	2.2	4.1	17.4	74.4	34.1	21.1	4.1	-
65～74歳	134	68	4	9	23	113	62	34	3	-
	100.0	50.7	3.0	6.7	17.2	84.3	46.3	25.4	2.2	-
75歳以上	150	82	-	13	38	123	56	48	2	2
	100.0	54.7	-	8.7	25.3	82.0	37.3	32.0	1.3	1.3
	当事者支援団体	民生委員・児童委員	近所の人や知人	介護者サロン	あなたが勤める職場	その他地域で活動するボランティア団体	その他の電話相談窓口	その他	無回答	
18歳未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18～39歳	-	-	3	-	4	-	1	2	-	-
	-	-	12.5	-	16.7	-	4.2	8.3	-	-
40～64歳	1	2	25	-	24	-	1	17	5	-
	0.4	0.7	9.3	-	8.9	-	0.4	6.3	1.9	-
65～74歳	1	5	22	-	1	-	-	10	2	-
	0.7	3.7	16.4	-	0.7	-	-	7.5	1.5	-
75歳以上	-	5	21	-	1	-	1	6	1	-
	-	3.3	14.0	3.7	0.7	-	0.7	4.0	0.7	-

③職業別

職業別では、「正規雇用」は「家族」が49.5%で最も多く、次いで「居宅介護支援事業所のケアマネジャー」が64.3%、「介護サービス事業所」が29.4%と続いており、「非正規雇用」は「居宅介護支援事業所のケアマネジャー」が78.0%で最も多く、次いで「家族」が49.5%、「介護サービス事業所」が40.7%と続いている。

「仕事に就いていない」は「居宅介護支援事業所のケアマネジャー」が85.6%で最も多く、次いで「家族」が48.3%、「介護サービス事業所」が43.2%と続いている。

〔図 2-4-4 頼りにしている相談先（職業別）〕



[表 2-4-4 相談先や相談窓口（職業別）]

(上段：人/下段：%)

	合計	家族	家族会	市役所や町役場	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所のケアマネジャー	介護サービス事業所	診療所・病院	障害者相談支援事業所	老人クラブ
正規雇用	126 100.0	83 65.9	1 0.8	4 3.2	21 16.7	81 64.3	37 29.4	22 17.5	4 3.2	-
非正規雇用	91 100.0	45 49.5	1 1.1	5 5.5	16 17.6	71 78.0	37 40.7	15 16.5	3 3.3	-
自営業	30 100.0	17 56.7	1 3.3	1 3.3	8 26.7	24 80.0	7 23.3	9 30.0	-	-
自営業の手伝いなど	10 100.0	4 40.0	-	1 10.0	4 40.0	8 80.0	4 40.0	2 20.0	-	-
仕事に就いていない	236 100.0	114 48.3	6 2.5	17 7.2	42 17.8	202 85.6	102 43.2	79 33.5	8 3.4	-
学生	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	76 100.0	43 56.6	2 2.6	3 3.9	18 23.7	61 80.3	27 35.5	17 22.4	2 2.6	1 1.3
	当事者支援団体	民生委員・児童委員	近所の人や知人	介護者サロン	あなたが勤める職場	その他地域で活動するボランティア団体	その他の電話相談窓口	その他	無回答	
正規雇用	1 0.8	3 2.4	9 7.1	-	24 19.0	-	1 0.8	8 6.3	4 3.2	
非正規雇用	-	1 1.1	10 11.0	-	6 6.6	-	1 1.1	4 4.4	2 2.2	
自営業	-	1 3.3	2 6.7	-	-	-	-	2 6.7	-	
自営業の手伝いなど	-	-	3 30.0	-	-	-	-	-	-	
仕事に就いていない	1 0.4	4 1.7	37 15.7	-	-	-	1 0.4	14 5.9	1 0.4	
学生	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
その他	-	2 2.6	9 11.8	-	-	-	-	6 7.9	1 1.3	

(2) 困りごと等意見

① 正規雇用

性別	年齢	内容
男性	18～39 歳	父はあまり外に出ないが、それが廃用をすすめている気がする。地域とすすんで関れる仕組みがもっとあれば、すこしは安心する。
男性	40～64 歳	排泄問題でオムツ・パットを使用しているが、介護1以上である程度の生活が自宅でないといけないという理由で援助がないので、家けいのやりくりが難しい。
女性	40～64 歳	市役所の窓口で冷ややかな対応だったから、その後相談できなくなった。「普通の子でも大変なのに障害児はねえ。」と言われた。
女性	40～64 歳	担当地域の包括支援センターの日頃の対応に不安が多く相談したくない。事務的であり、そもそもヒト事として、話を聞いている感じがする。
女性	40～64 歳	施設入居を希望しているが受け入れ先を探す時間がない。ケアマネに施設の空きを確認していただきたいことを伝えた。確認はしてもらったが空きがあっても時間がなく、見学などいけなかった。相談しても解決につながらない。
女性	40～64 歳	CMに相談しているので特に困っていることはない。
女性	40～64 歳	現状を良くしようと思っているが、相談に行く時間がない。
女性	40～64 歳	やるべき事が具体的にわからない。自宅での生活が難しくなった時のために施設を探しておく…など。今後、何をしておけば良いか、わからない。声の掛け方(落ち込んでいる時や、事実かどうかわからない話の時)がわからない。介護以外でも実家の片付け、終活的な事など、何をすれば良いのか???
女性	65～74 歳	1日1日の気分にムラがあり、死にたいとか、サービスをやめるとか私達をおどしてきます。相談したくても、自分のやり方が悪いのかと思い、1人泣いています。
男性	75 歳以上	障害者年金の申請方法。

② 非正規雇用

性別	年齢	内容
男性	18～39 歳	母が、父がお金の管理ができず、借金をくりかえす。
女性	40～64 歳	受傷直後どうしたら良いか具体的なアドバイスを解りやすく教えて欲しかった。
女性	40～64 歳	職場が別の市のため、朝 7:00 にでて夜 8:00 くらいに帰宅する生活(月～金)。正直、家の自分が行う掃除などに満足できていない。同居しているために、掃除などのフォローはしてもらえないのがつらい(ぜいたくなのか?)。土日によればいいが、自分自身クタクタで…。仕事を辞めてもなんとか食べていけるとは思うが、仕事が好きなので辞めたくない。
女性	40～64 歳	相談しても解決できないと思う。結局は自分が色々なことをがまんしている。ただ、自身が年齢を重ねた時のことが心配。親の会に入っている。
女性	40～64 歳	認知症の相手に対する考えや行動を自分自身が妥協・消化する事が難しいし、本来の自分が少しずつ変わってしまう様な気がします。
女性	65～74 歳	施設に入れたいが要介護1で、お金もない。老健に入ったり、でたりして何とか生活している。(息子である夫は他界している。)

③ 自営業者

性別	年齢	内容
女性	40～64 歳	介護サービス利用しているが、何かあるとすぐ家族に連絡ある。関係が悪くても介護しないといけず辛い。

④仕事に就いていない

性別	年齢	内容
男性	18～39 歳	徘徊が起こる可能性があり(実際起こった)、ドアに二重鍵をつけたり、洋服のタグなど自費で行わねばならず、出費が大きかった。
男性	40～64 歳	特にない。ケアマネや介護サービス事業所が相談した時は対応してくれるので、今の所は問題ない。
男性	40～64 歳	食事もとらず、薬も飲まず、水分もとらず、寝ない。
男性	40～64 歳	将来への不安を案じ、障害年金をもらえないか相談したが、難しいと言われた。
女性	40～64 歳	解決が難しいわけではないと思いますが、本人達がサービス等を何度言っても受けたくないと言いはり、何より理解をしてくれないので。
女性	40～64 歳	特にありません。包括支援センターの方もケアマネさん達も大変良くして下さいっているので助かります。
女性	40～64 歳	長時間(半日～1日)の介護代行
女性	40～64 歳	解決が難しかったのは、介護付き老人ホームを探した。ケアマネージャーに相談しホーム職員と面談したが、要介護3、自分では何もできず、反面、1人になることを恐がり、不穏になる親を施設に入れることが、私はできなかった。寝たきりか、子どもの事まで分からなくなれば解決できるかもしれない。
女性	40～64 歳	休日や夜間に体調が悪くなる事があり、相談できる先がない。
男性	65～74 歳	介護サービスを妻が利用することへ消極的。
男性	65～74 歳	特に困っているとは感じない。デイケアにも行っている為。
男性	65～74 歳	介護申請後に担当のケアマネージャーさんが親身になって支援下さり、大変助かっている。本当に感謝しています。
男性	65～74 歳	成年後見制度の利用、10 年程前に母の件でトライした事があるが、制度(申請)が複雑で、実施しなかった。本人が精神疾患、認知をかかえているので、重症化した時の対応方法。
女性	65～74 歳	徘徊と妄想に困っています。 SOS ネットワーク? などにも登録してもらいましたが、実際にそういうことがおさまるわけでもなく、それに対応するのは自分自身を中心になるため疲れます。
女性	65～74 歳	市営アパート3階なので、1階に移りたい(交通の便のいい所)。
女性	65～74 歳	夫が四肢マヒの重度の構音障害だが、クリアである。175cm、90kg と巨体でもあり、サービス利用するにあたり、サービス事業所の受け入れが困難。
女性	65～74 歳	担当の CM を通じて、市役所の障害福祉課と関わるようになった。
女性	65～74 歳	介護している人に対して、何も援助がない。孫を預かっているが、何をすることも実親の許可がいる(携帯の変更、通帳を作る等)。せめて、タクシー券・バス券くらい欲しい。
女性	65～74 歳	認知症の進行は現在ゆるやかだが…。どのくらい進行したら自宅での生活が難しくなるのか…等。現在の状況が変化した時の対応等、時々不安になります。
男性	75 歳以上	市役所に相談に行ったところ、ケアマネージャーや包括支援センターに相談してくれと言われ、何もしてくれなかった。
男性	75 歳以上	本人に認知症の認識がないのでどうにもならん。
男性	75 歳以上	今の所は特にない。何かあったらケアマネさんや家族に相談している。
女性	75 歳以上	私は実妹(介護される方)を介護していますが、現在は1人だけになったこと、仕事も定年を迎えたことで楽になりましたが、就労中の後半は両親と妹の3人を数年間同時進行で介護していました。それは過酷でした。ただ、仕事が pm1 時～9:30 までの職場でしたので、午前中にはすべてのことを済ませて仕事に行っていました。妹も私も結婚してません。私が介護される側になった場合のかいけつ考えます。兄弟はいますが、それぞれの家庭があって、協力を依頼できる状況にはありません。
女性	75 歳以上	自分が体調をくずした時に妹をどうすればいいか? 自分がいなくなった時(亡くなった時)にどうすればいいか?

性別	年齢	内容
女性	75歳以上	夫婦での施設入所があるが、夫婦併せての年金額少ないので、どうしたらいいか、ケアマネ等には相談はしている。
女性	75歳以上	相談はしているが、世話をしている相手の受け入れが悪く、解決が難しい。
女性	75歳以上	以前住んでいた自宅(土地・建物は本人所有)の雑草が茂っているが、近隣から草刈りして欲しいと言われ困っている。ハザードマップで危険区域になったので家を建て直すこともできない。
女性	75歳以上	息子が精神疾患があるような状態で受診を拒否している。内科の病気もありそうで、体調が悪そうにしているが、どうしようもない。救急車を呼んだが、本人が乗車拒否の為、困っている。自分が死んだときに心配(子供たちの今後が…)。
女性	75歳以上	前から認知の症状があったが、どこに相談していいのかわからなかった。

⑤その他

性別	年齢	内容
女性	40～64歳	介護保険制度がむずかしくて、よく分からないことも多い。
女性	40～64歳	友達とか同じ年齢位でも介護に無縁で(亡ったり)、職場にもいなかったの、話しても解ってもらえないし、仲のいい友人にもほとんど介護の大変さとか相談しません。言いたいけれど…本当に解ってくれる人は介護をした事ある人です。
男性	75歳以上	どこに相談していいのかわからなかった。
女性	75歳以上	酸素吸入・COPD・心不全に関しての障害者手帳について。本人が頑固で手すり等設置しなかった。1年かかってやっと少し納得してつけれる様になった。

5. お世話を必要としている相手の公的サービス利用

(1) 介護サービスなどの公的支援利用の有無

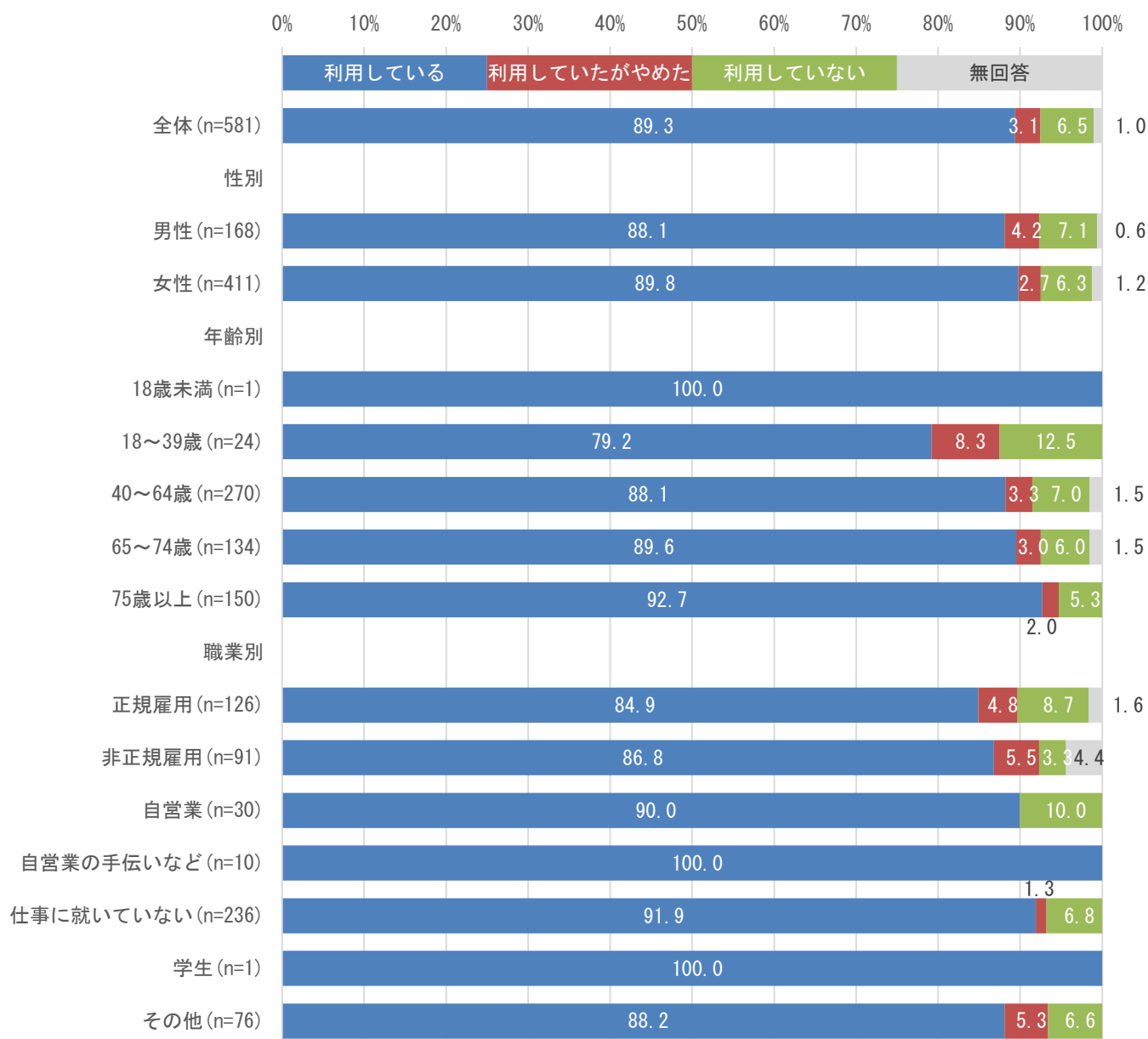
全体では、「利用している」が89.3%で最も多く、次いで「利用していない」が6.5%、「利用していたがやめた」が3.1%と続いている。

性別での傾向の相違はみられず、「利用している」は「男性」が88.1%、「女性」が89.8%と「女性」が1.7ポイント高くなっている。

年代別でも全体の傾向との相違はなく、「利用している」が最も多いのは「75歳以上」の92.7%となっている。

職業別でも全体の傾向との相違はなく、「利用している」が最も多いのは「仕事に就いていない」の91.9%となっている。

〔図 2-5-1 介護サービスなどの公的支援利用の有無（性別・年齢別・職業別）〕



〔表 2-5-1 介護サービスなどの公的支援利用の有無（性別・年齢別・職業別）〕

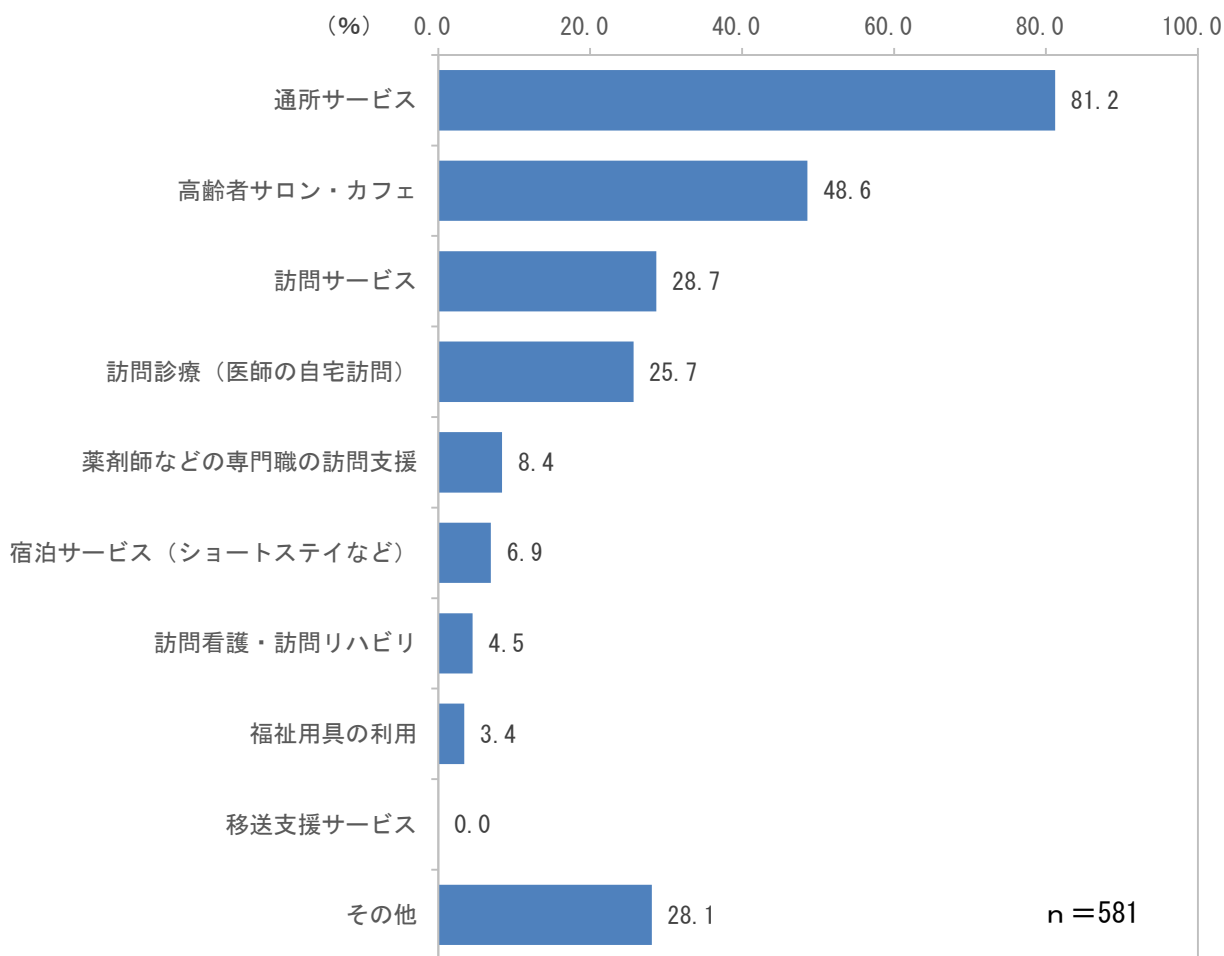
（上段：人/下段：％）

	合計	利用している	利用していたがやめた	利用していない	無回答
全体	581	519	18	38	6
	100.0	89.3	3.1	6.5	1.0
男性	168	148	7	12	1
	100.0	88.1	4.2	7.1	0.6
女性	411	369	11	26	5
	100.0	89.8	2.7	6.3	1.2
18歳未満	1	1	-	-	-
	100.0	100.0	-	-	-
18～39歳	24	19	2	3	-
	100.0	79.2	8.3	12.5	-
40～64歳	270	238	9	19	4
	100.0	88.1	3.3	7.0	1.5
65～74歳	134	120	4	8	2
	100.0	89.6	3.0	6.0	1.5
75歳以上	150	139	3	8	-
	100.0	92.7	2.0	5.3	-
正規雇用	126	107	6	11	2
	100.0	84.9	4.8	8.7	1.6
非正規雇用	91	79	5	3	4
	100.0	86.8	5.5	3.3	4.4
自営業	30	27	-	3	-
	100.0	90.0	-	10.0	-
自営業の手伝いなど	10	10	-	-	-
	100.0	100.0	-	-	-
仕事に就いていない	236	217	3	16	-
	100.0	91.9	1.3	6.8	-
学生	1	1	-	-	-
	100.0	100.0	-	-	-
その他	76	67	4	5	-
	100.0	88.2	5.3	6.6	-

(2) 利用しているサービス(公的サービスを利用したことがある人のみ回答)

利用しているサービスは、全体では「通所サービス」が81.2%で最も多く、次いで「高齢者サロン・カフェ」が48.6%、「訪問サービス」が28.7%と続いている。

〔図 2-5-2 利用しているサービス〕



〔表 2-5-2 利用しているサービス〕

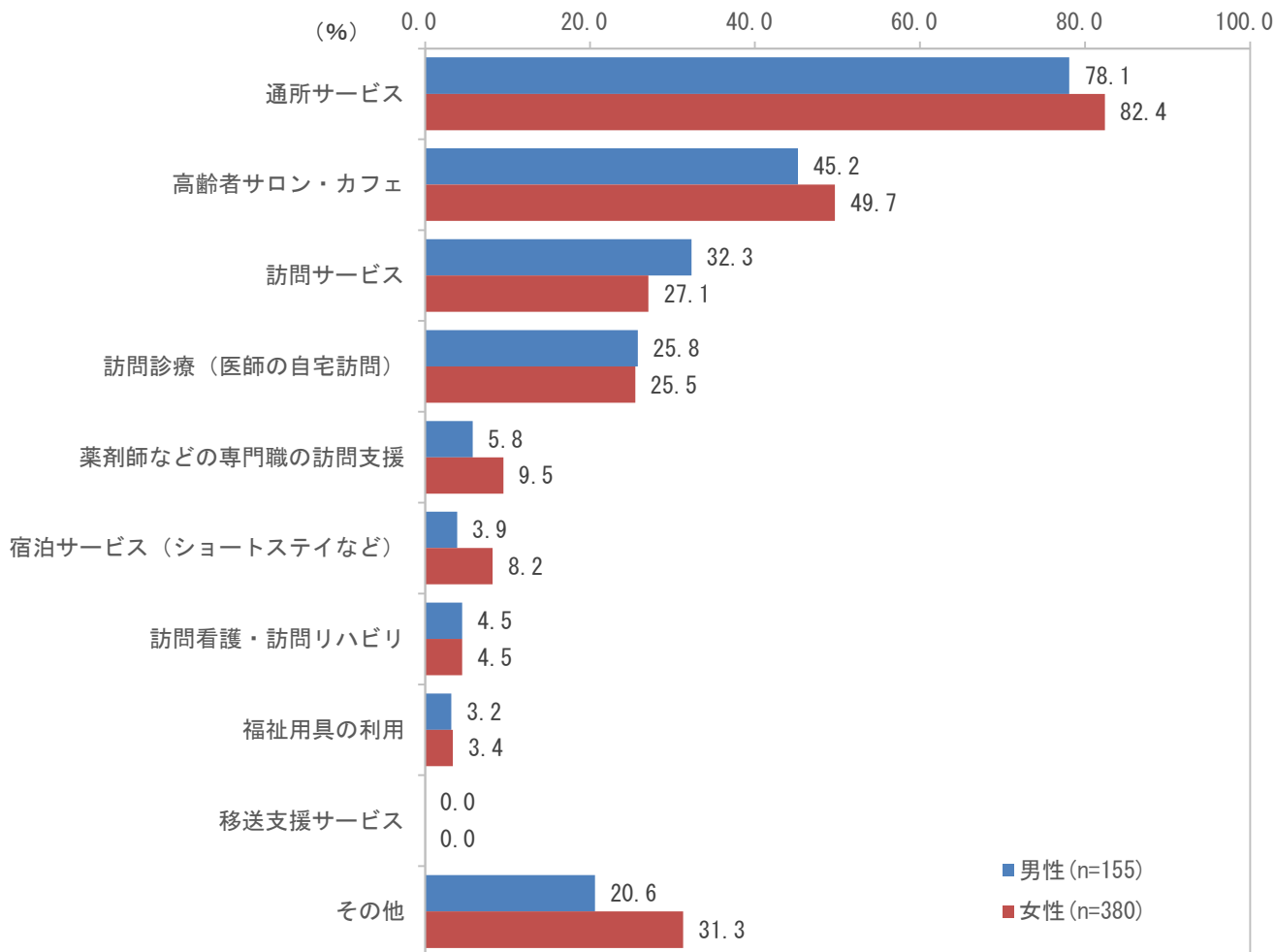
(上段：人/下段：%)

	合計	通所サービス	訪問サービス	訪問看護・訪問リハビリ	訪問診療 (医師の自宅訪問)	薬剤師などの専門職の訪問支援
全体	537	436	154	24	138	45
	100.0	81.2	28.7	4.5	25.7	8.4
	福祉用具の利用	高齢者サロン・カフェ	移送支援サービス	宿泊サービス (ショートステイなど)	その他	無回答
全体	18	261	-	37	151	19
	3.4	48.6	-	6.9	28.1	3.5

①性別

性別では、「男性」は「通所サービス」が78.1%で最も多く、次いで「高齢者サロン・カフェ」が45.2%、「訪問サービス」が32.3%と続いており、「女性」も「通所サービス」が82.4%で最も多く、次いで「高齢者サロン・カフェ」が49.7%、「訪問サービス」が27.1%と続いている。

〔図 2-5-3 利用しているサービス（性別）〕



〔表 2-5-3 利用しているサービス（性別）〕

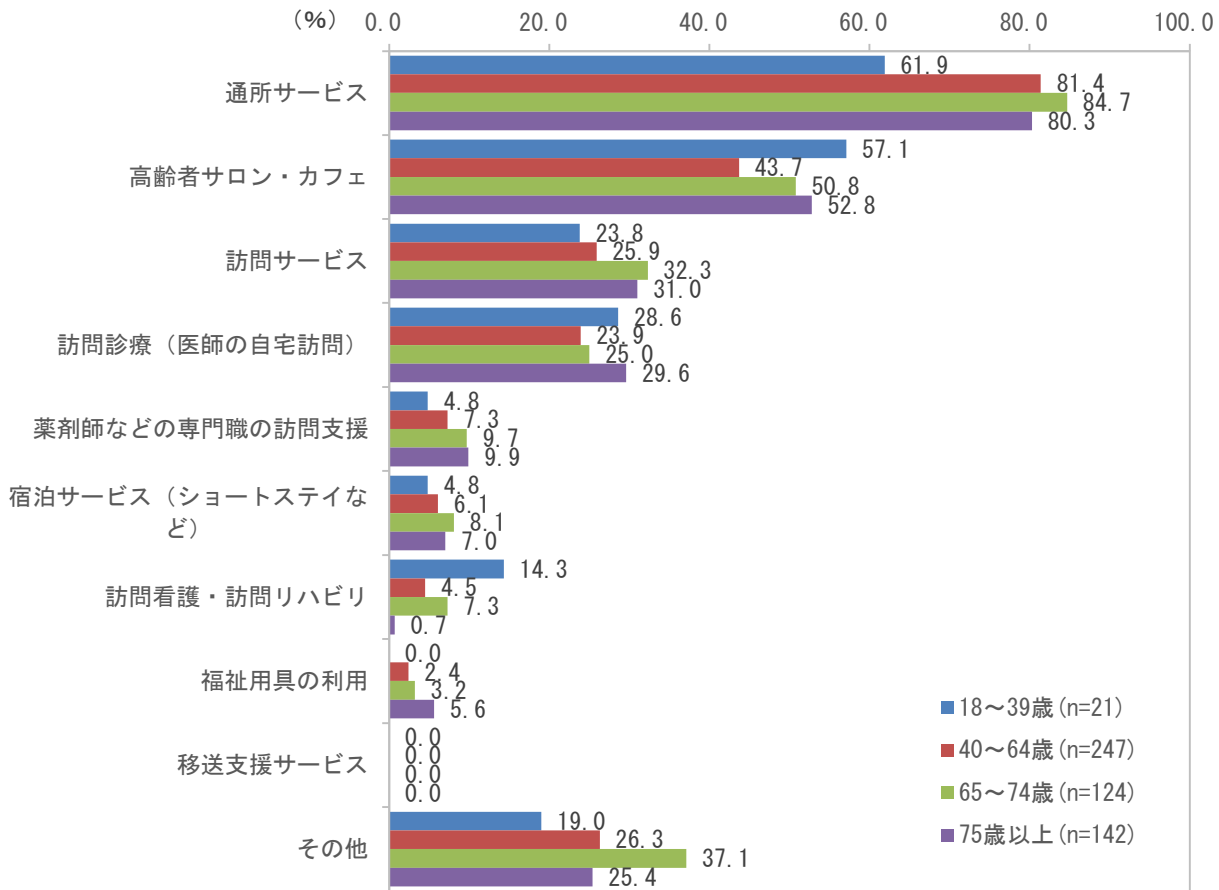
（上段：人/下段：％）

	合計	通所サービス	訪問サービス	訪問看護・訪問リハビリ	訪問診療（医師の自宅訪問）	薬剤師などの専門職の訪問支援
男性	155	121	50	7	40	9
	100.0	78.1	32.3	4.5	25.8	5.8
女性	380	313	103	17	97	36
	100.0	82.4	27.1	4.5	25.5	9.5
	福祉用具の利用	高齢者サロン・カフェ	移送支援サービス	宿泊サービス（ショートステイなど）	その他	無回答
男性	5	70	-	6	32	5
	3.2	45.2	-	3.9	20.6	3.2
女性	13	189	-	31	119	14
	3.4	49.7	-	8.2	31.3	3.7

②年齢別

年齢別では、「40～64歳」は「通所サービス」が81.4%で最も多く、次いで「高齢者サロン・カフェ」が43.7%、「その他」が26.3%と続いており、「65～74歳」も「通所サービス」が84.7%で最も多く、次いで「高齢者サロン・カフェ」が50.8%、「訪問サービス」が32.3%と続いている。「75歳以上」は「通所サービス」が80.3%で最も多く、次いで「高齢者サロン・カフェ」が52.8%、「訪問サービス」が31.0%と続いている。

〔図 2-5-4 利用しているサービス（年齢別）〕



〔表 2-5-4 介護サービスなどの公的支援利用の有無（年齢別）〕(上段：人/下段：%)

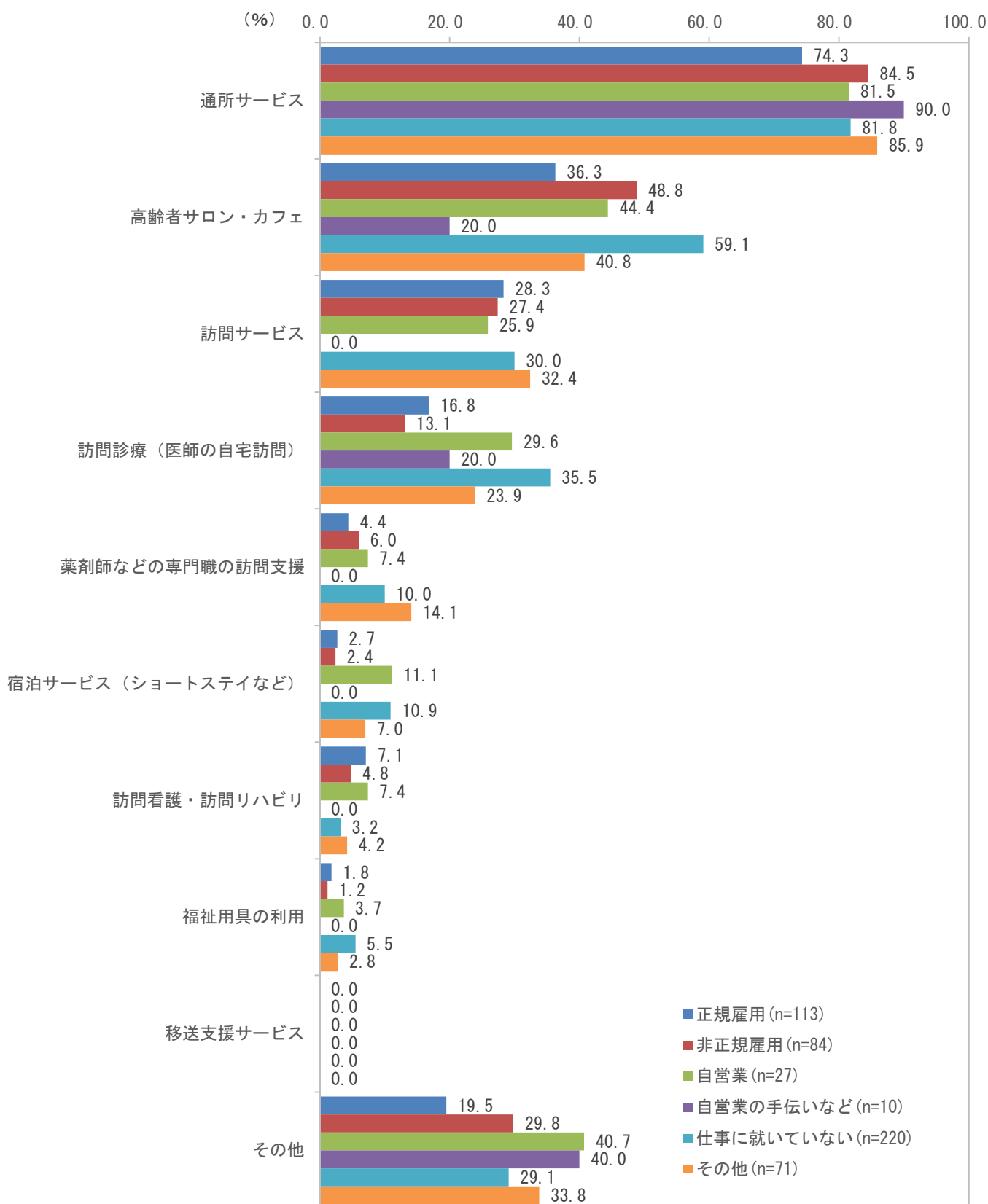
	合計	通所サービス	訪問サービス	訪問看護・訪問リハビリ	訪問診療（医師の自宅訪問）	薬剤師などの専門職の訪問支援
18歳未満	1 100.0	1 100.0	- -	- -	- -	- -
18～39歳	21 100.0	13 61.9	5 23.8	3 14.3	6 28.6	1 4.8
40～64歳	247 100.0	201 81.4	64 25.9	11 4.5	59 23.9	18 7.3
65～74歳	124 100.0	105 84.7	40 32.3	9 7.3	31 25.0	12 9.7
75歳以上	142 100.0	114 80.3	44 31.0	1 0.7	42 29.6	14 9.9
	福祉用具の利用	高齢者サロン・カフェ	移送支援サービス	宿泊サービス（ショートステイなど）	その他	無回答
18歳未満	- -	1 100.0	- -	- -	- -	- -
18～39歳	- -	12 57.1	- -	1 4.8	4 19.0	3 14.3
40～64歳	6 2.4	108 43.7	- -	15 6.1	65 26.3	9 3.6
65～74歳	4 3.2	63 50.8	- -	10 8.1	46 37.1	5 4.0
75歳以上	8 5.6	75 52.8	- -	10 7.0	36 25.4	2 1.4

③職業別

職業別では、「正規雇用」は「通所サービス」が74.3%で最も多く、次いで「高齢者サロン・カフェ」が36.3%、「訪問サービス」が28.3%と続いており、「非正規雇用」は「通所サービス」が84.5%で最も多く、次いで「高齢者サロン・カフェ」が48.8%、「訪問サービス」が27.4%と続いている。

「仕事に就いていない」は「通所サービス」が81.8%で最も多く、次いで「高齢者サロン・カフェ」が59.1%、「訪問診療（医師の自宅訪問）」が35.5%と続いている。

〔図 2-5-5 利用しているサービス（職業別）〕



〔表 2-5-5 利用しているサービス（職業別）〕

（上段：人/下段：％）

	合計	通所サービス	訪問サービス	訪問看護・訪問リハビリ	訪問診療（医師の自宅訪問）	薬剤師などの専門職の訪問支援
正規雇用	113 100.0	84 74.3	32 28.3	8 7.1	19 16.8	5 4.4
非正規雇用	84 100.0	71 84.5	23 27.4	4 4.8	11 13.1	5 6.0
自営業	27 100.0	22 81.5	7 25.9	2 7.4	8 29.6	2 7.4
自営業の手伝いなど	10 100.0	9 90.0	- -	- -	2 20.0	- -
仕事に就いていない	220 100.0	180 81.8	66 30.0	7 3.2	78 35.5	22 10.0
学生	1 100.0	1 100.0	- -	- -	- -	- -
その他	71 100.0	61 85.9	23 32.4	3 4.2	17 23.9	10 14.1
	福祉用具の利用	高齢者サロン・カフェ	移送支援サービス	宿泊サービス（ショートステイなど）	その他	無回答
正規雇用	2 1.8	41 36.3	- -	3 2.7	22 19.5	8 7.1
非正規雇用	1 1.2	41 48.8	- -	2 2.4	25 29.8	4 4.8
自営業	1 3.7	12 44.4	- -	3 11.1	11 40.7	- -
自営業の手伝いなど	- -	2 20.0	- -	- -	4 40.0	- -
仕事に就いていない	12 5.5	130 59.1	- -	24 10.9	64 29.1	6 2.7
学生	- -	1 100.0	- -	- -	- -	- -
その他	2 2.8	29 40.8	- -	5 7.0	24 33.8	1 1.4

(3) サービス利用の満足度(公的サービスを利用したことがある人のみ回答)

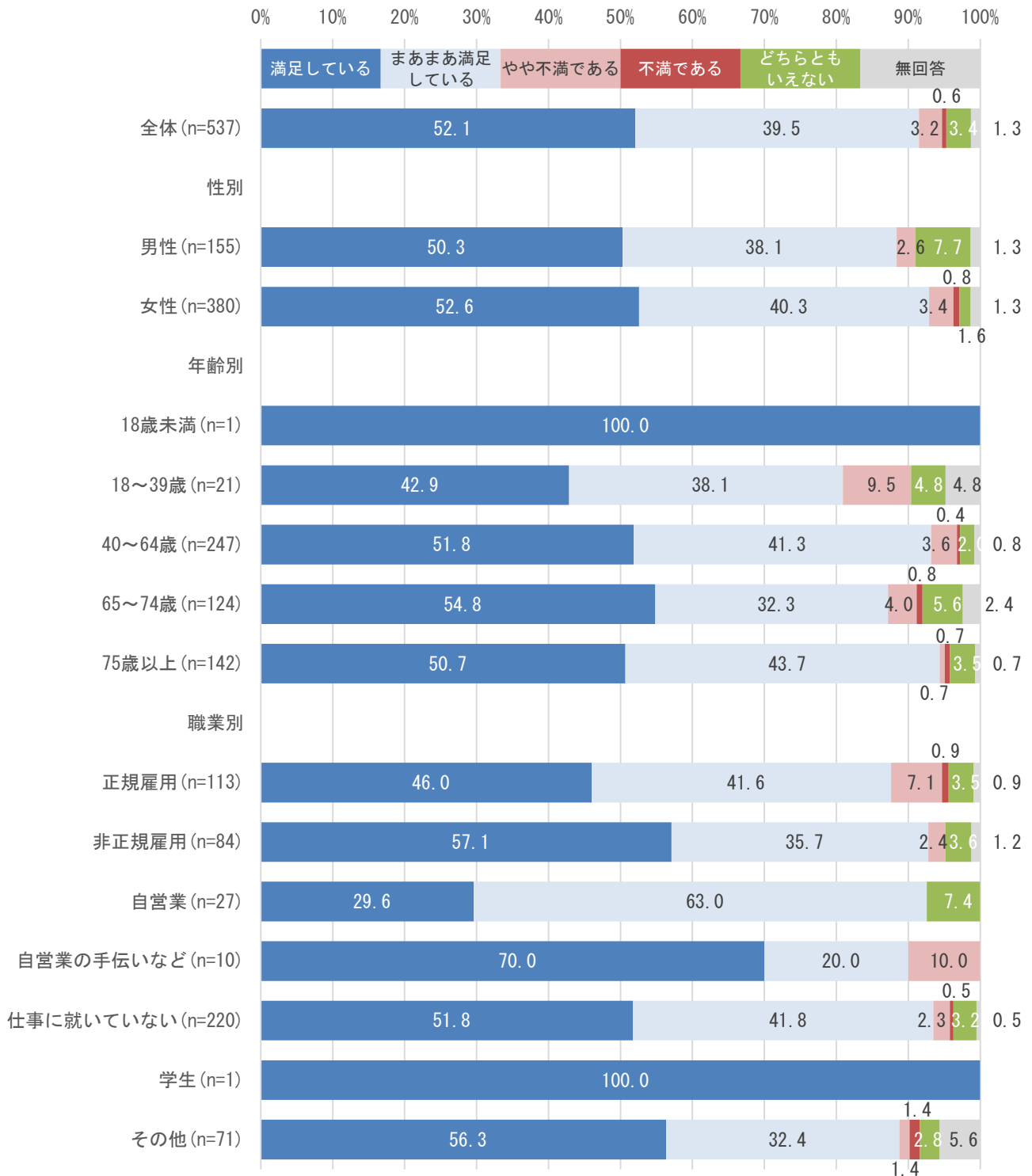
全体では、「満足している」が52.1%で最も多く、次いで「まあまあ満足している」が39.5%、「どちらともいえない」が3.4%と続いており、「満足(「満足している」+「まあまあ満足している」)」は91.6%となっている。

性別での傾向の相違はみられず、「満足」は「男性」が88.4%、「女性」が92.9%と「女性」が4.5ポイント高くなっている。

年代別でも全体の傾向との相違はなく、「満足」が最も多いのは「75歳以上」の94.4%となっている。

職業別でも全体の傾向との相違はなく、「満足」が最も多いのは「仕事に就いていない」の93.6%となっている。

〔図 2-5-6 サービス利用の満足度(性別・年齢別・職業別)〕



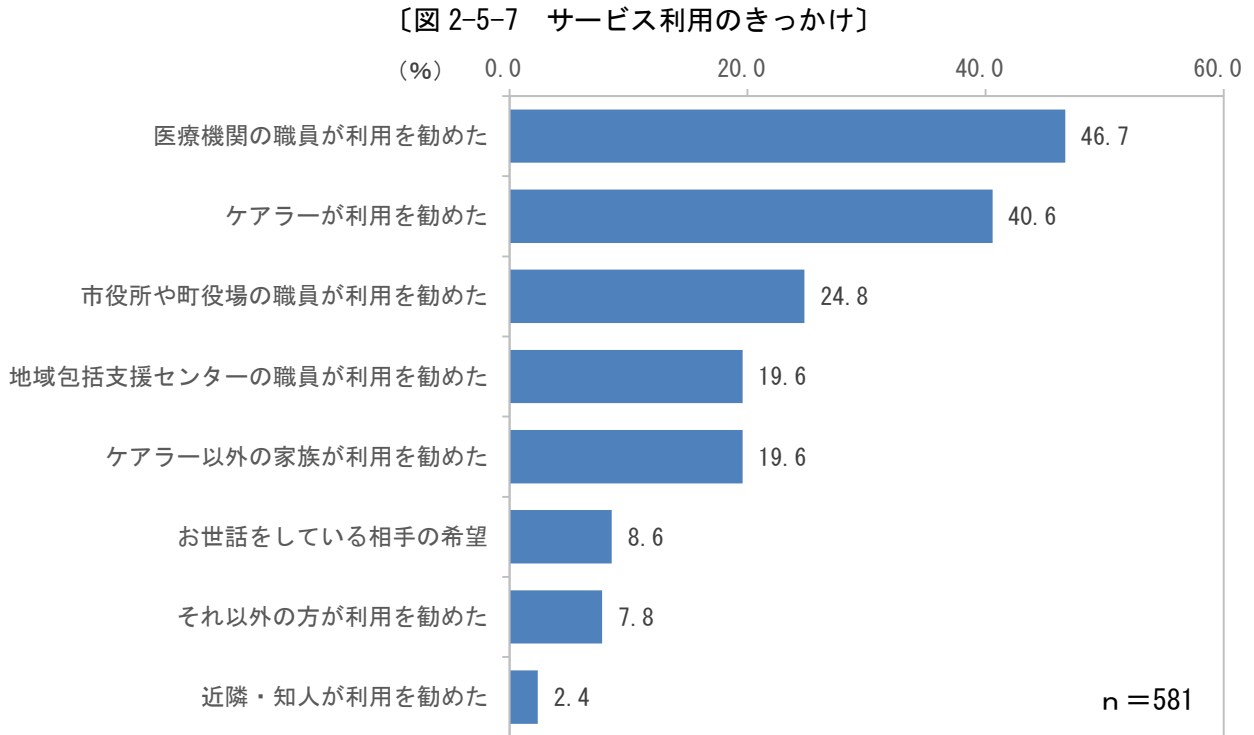
〔表 2-5-6 サービス利用の満足度（性別・年齢別・職業別）〕

(上段：人/下段：%)

	合計	満足している	まあまあ満足している	やや不満である	不満である	どちらともいえない	無回答
全体	537	280	212	17	3	18	7
	100.0	52.1	39.5	3.2	0.6	3.4	1.3
男性	155	78	59	4	-	12	2
	100.0	50.3	38.1	2.6	-	7.7	1.3
女性	380	200	153	13	3	6	5
	100.0	52.6	40.3	3.4	0.8	1.6	1.3
18歳未満	1	1	-	-	-	-	-
	100.0	100.0	-	-	-	-	-
18～39歳	21	9	8	2	-	1	1
	100.0	42.9	38.1	9.5	-	4.8	4.8
40～64歳	247	128	102	9	1	5	2
	100.0	51.8	41.3	3.6	0.4	2.0	0.8
65～74歳	124	68	40	5	1	7	3
	100.0	54.8	32.3	4.0	0.8	5.6	2.4
75歳以上	142	72	62	1	1	5	1
	100.0	50.7	43.7	0.7	0.7	3.5	0.7
正規雇用	113	52	47	8	1	4	1
	100.0	46.0	41.6	7.1	0.9	3.5	0.9
非正規雇用	84	48	30	2	-	3	1
	100.0	57.1	35.7	2.4	-	3.6	1.2
自営業	27	8	17	-	-	2	-
	100.0	29.6	63.0	-	-	7.4	-
自営業の手伝いなど	10	7	2	1	-	-	-
	100.0	70.0	20.0	10.0	-	-	-
仕事に就いていない	220	114	92	5	1	7	1
	100.0	51.8	41.8	2.3	0.5	3.2	0.5
学生	1	1	-	-	-	-	-
	100.0	100.0	-	-	-	-	-
その他	71	40	23	1	1	2	4
	100.0	56.3	32.4	1.4	1.4	2.8	5.6

(4) サービス利用のきっかけ(公的サービスを利用したことがある人のみ回答)

サービス利用のきっかけは、全体では「医療機関の職員が利用を勧めた」が46.7%で最も多く、次いで「あなたが利用を勧めた」が40.6%、「市役所や町役場の職員が利用を勧めた」が24.8%と続いている。



〔表 2-5-7 サービス利用のきっかけ〕

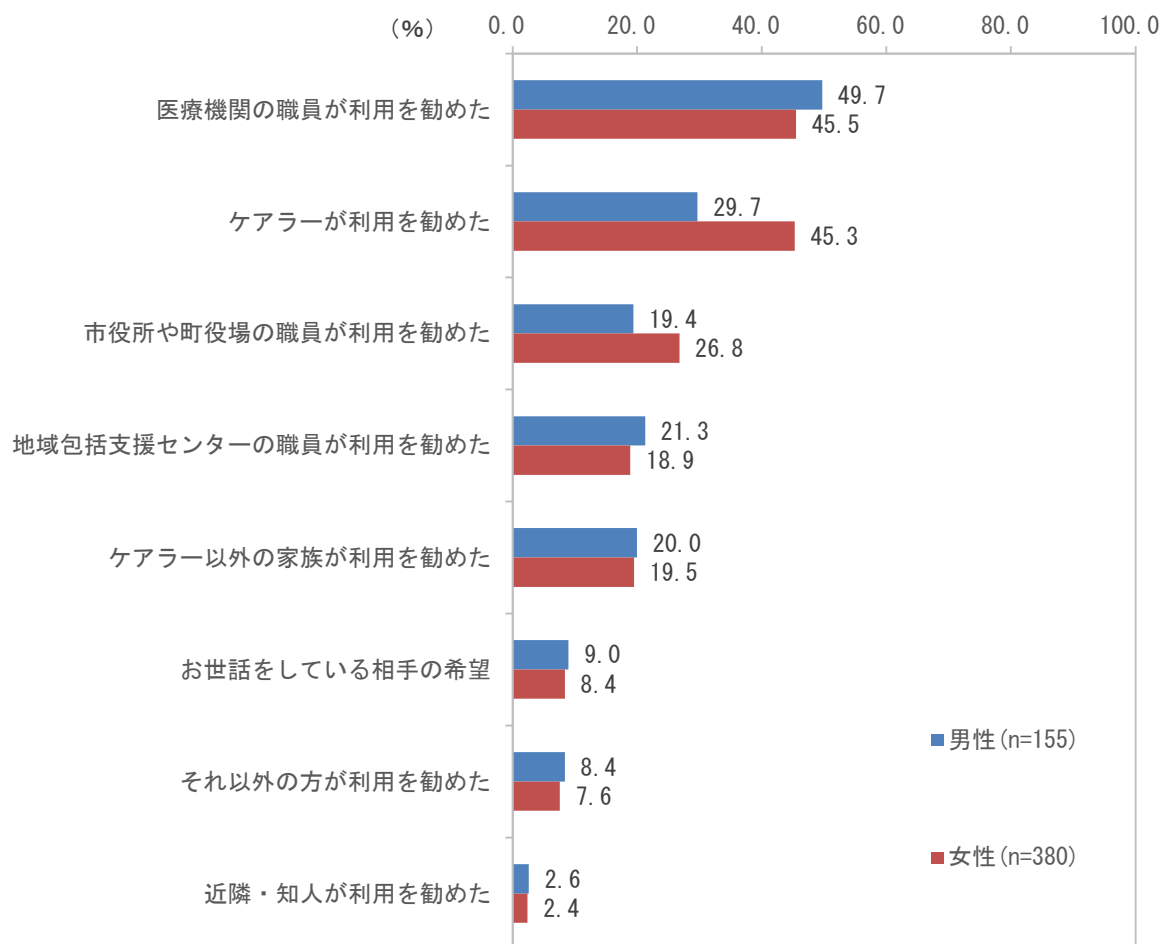
(上段：人/下段：%)

	合計	あなたが お世話を している 相手の 希望	あなたが 利用を 勧めた	あなた 以外の 家族が 利用を 勧めた	地域 包括 支援 センター の職員 が利用 を勧めた	医療 機関の 職員が 利用を 勧めた	市役所 や町役 場の職 員が利 用を勧 めた	あなたが 利用を 勧めた 知人が 利用を 勧めた	それ 以外 の方が 利用を 勧めた	無 回答
全体	537	46	218	105	105	251	133	13	42	23
	100.0	8.6	40.6	19.6	19.6	46.7	24.8	2.4	7.8	4.3

①性別

性別では、「男性」は「医療機関の職員が利用を勧めた」が49.7%で最も多く、次いで「あなたが利用を勧めた」が29.7%、「地域包括支援センターの職員が利用を勧めた」が21.3%と続いており、「女性」は「医療機関の職員が利用を勧めた」が45.5%で最も多く、次いで「あなたが利用を勧めた」が45.3%、「市役所や町役場の職員が利用を勧めた」が26.8%と続いている。

〔図 2-5-8 サービス利用のきっかけ（性別）〕



〔表 2-5-8 サービス利用のきっかけ（性別）〕

(上段：人/下段：%)

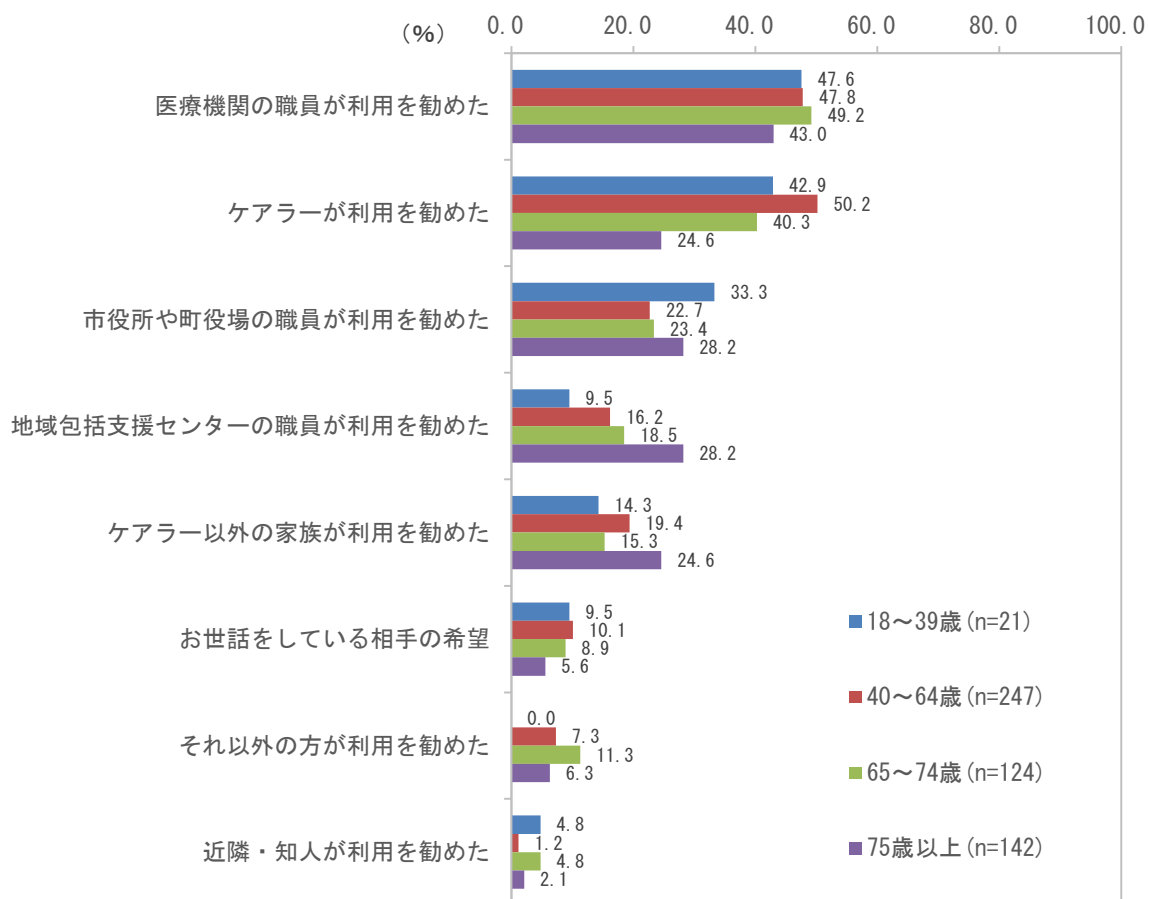
	合計	あなたがお世話をしている相手の希望	あなたが利用を勧めた	あなたが以外の家族が利用を勧めた	地域包括支援センターの職員が利用を勧めた	医療機関の職員が利用を勧めた	市役所や町役場の職員が利用を勧めた	隣・知人が利用を勧めた	あなたやあなたがお世話をしている相手をよく知る近隣・知人が利用を勧めた	それ以外の方が利用を勧めた	無回答
全体	537	46	218	105	105	251	133	13	42	23	
	100.0	8.6	40.6	19.6	19.6	46.7	24.8	2.4	7.8	4.3	
男性	155	14	46	31	33	77	30	4	13	12	
	100.0	9.0	29.7	20.0	21.3	49.7	19.4	2.6	8.4	7.7	
女性	380	32	172	74	72	173	102	9	29	11	
	100.0	8.4	45.3	19.5	18.9	45.5	26.8	2.4	7.6	2.9	

②年齢別

年齢別では、「40～64歳」は「あなたが利用を勧めた」が50.2%で最も多く、次いで「医療機関の職員が利用を勧めた」が47.8%、「市役所や町役場の職員が利用を勧めた」が22.7%と続いており、「65～74歳」は「医療機関の職員が利用を勧めた」が49.2%で最も多く、次いで「あなたが利用を勧めた」が40.3%、「市役所や町役場の職員が利用を勧めた」が23.4%と続いている。

「75歳以上」は「医療機関の職員が利用を勧めた」が43.0%で最も多く、次いで「市役所や町役場の職員が利用を勧めた」・「地域包括支援センターの職員が利用を勧めた」が28.2%と続いている。

〔図 2-5-9 サービス利用のきっかけ（年齢別）〕



〔表 2-5-9 サービス利用のきっかけ（年齢別）〕

（上段：人/下段：％）

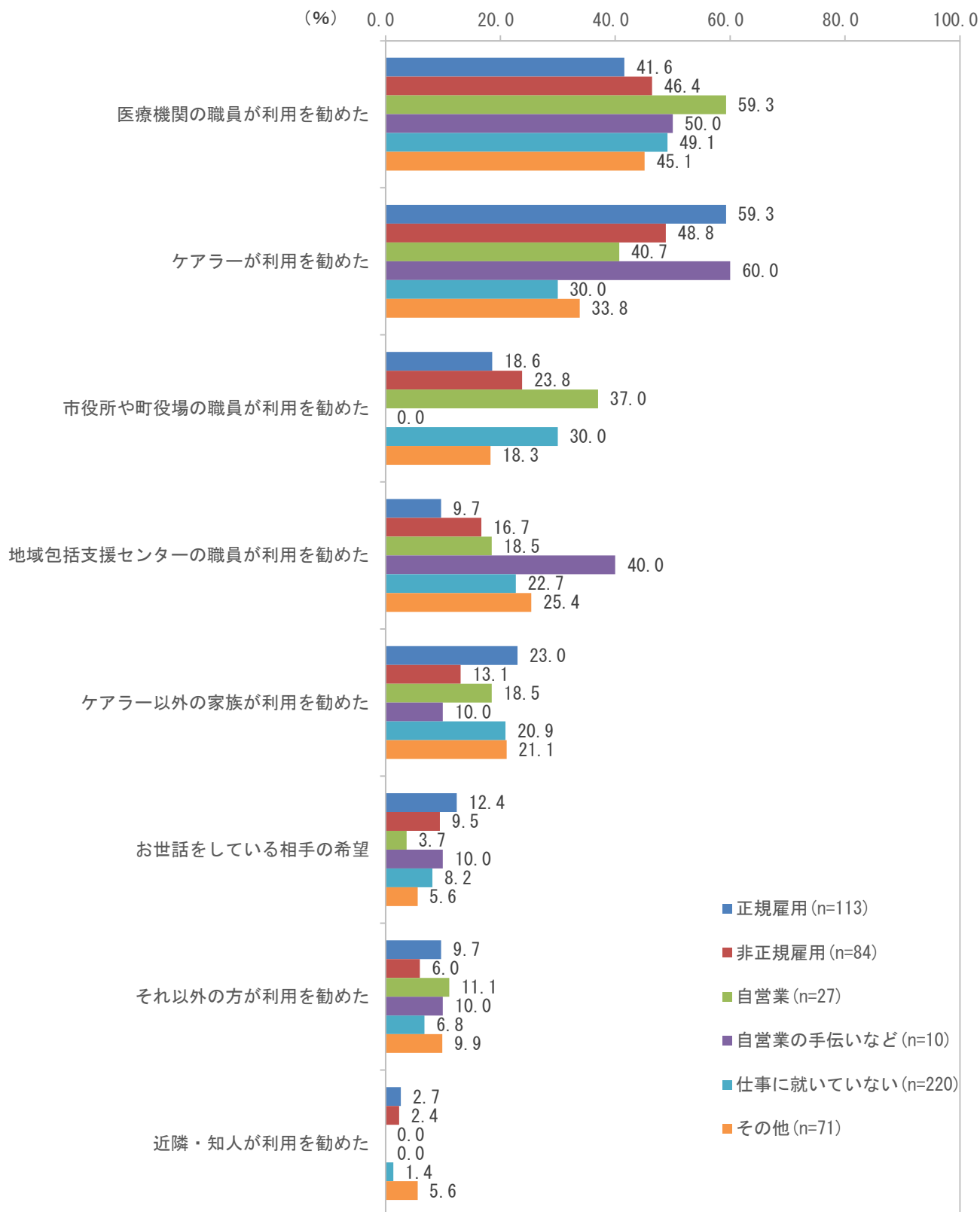
	合計	あなたが お世話をしている 相手の希望	あなたが 利用を勧めた	あなたが 利用を勧めた （あなた以外の 家族が利用を 勧めた）	地域包括 支援センター の職員 が利用を 勧めた	医療機関 の職員が 利用を 勧めた	市役所や 町役場の 職員が 利用 を勧めた	お世話を している 相手の 希望 （あなたが よく知る 近隣・知 人が利用 を勧めた）	それ以外 の方が 利用を 勧めた	無回答
		人	人	人	人	人	人	人	人	
18歳未満	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
18～39歳	21	2	9	3	2	10	7	1	-	2
	100.0	9.5	42.9	14.3	9.5	47.6	33.3	4.8	-	9.5
40～64歳	247	25	124	48	40	118	56	3	18	9
	100.0	10.1	50.2	19.4	16.2	47.8	22.7	1.2	7.3	3.6
65～74歳	124	11	50	19	23	61	29	6	14	5
	100.0	8.9	40.3	15.3	18.5	49.2	23.4	4.8	11.3	4.0
75歳以上	142	8	35	35	40	61	40	3	9	6
	100.0	5.6	24.6	24.6	28.2	43.0	28.2	2.1	6.3	4.2

③職業別

職業別では、「正規雇用」は「あなたが利用を勧めた」が59.3%で最も多く、次いで「医療機関の職員が利用を勧めた」が41.6%、「あなた以外の家族が利用を勧めた」が23.0%と続いており、「非正規雇用」も「あなたが利用を勧めた」が48.8%で最も多く、次いで「医療機関の職員が利用を勧めた」が46.4%、「市役所や町役場の職員が利用を勧めた」が23.8%と続いている。

「仕事に就いていない」は「医療機関の職員が利用を勧めた」が49.1%で最も多く、次いで「あなたが利用を勧めた」・「市役所や町役場の職員が利用を勧めた」が30.0%と続いている。

〔図 2-5-10 サービス利用のきっかけ（職業別）〕



〔表 2-5-10 サービス利用のきっかけ（職業別）〕

（上段：人/下段：％）

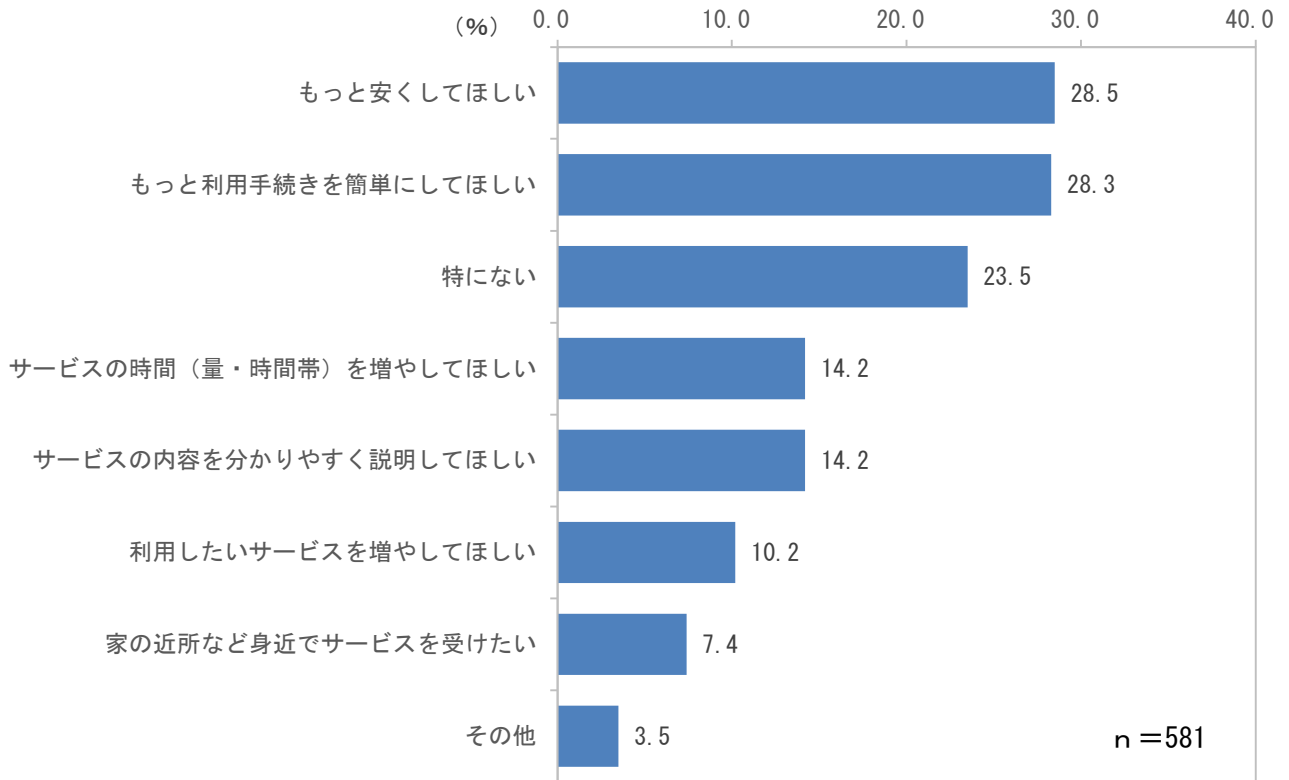
	合計	あなたがお世話をしている相手の希望	あなたが利用を勧めた	あなた以外の家族が利用を勧めた	地域包括支援センターの職員が利用を勧めた	医療機関の職員が利用を勧めた	市役所や町役場の職員が利用を勧めた	あなたやあなたがお世話している相手をよく知る近隣・知人が利用を勧めた	それ以外の方が利用を勧めた	無回答
正規雇用	113	14	67	26	11	47	21	3	11	2
	100.0	12.4	59.3	23.0	9.7	41.6	18.6	2.7	9.7	1.8
非正規雇用	84	8	41	11	14	39	20	2	5	5
	100.0	9.5	48.8	13.1	16.7	46.4	23.8	2.4	6.0	6.0
自営業	27	1	11	5	5	16	10	-	3	1
	100.0	3.7	40.7	18.5	18.5	59.3	37.0	-	11.1	3.7
自営業の手伝いなど	10	1	6	1	4	5	-	-	1	-
	100.0	10.0	60.0	10.0	40.0	50.0	-	-	10.0	-
仕事に就いていない	220	18	66	46	50	108	66	3	15	7
	100.0	8.2	30.0	20.9	22.7	49.1	30.0	1.4	6.8	3.2
学生	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
その他	71	4	24	15	18	32	13	4	7	5
	100.0	5.6	33.8	21.1	25.4	45.1	18.3	5.6	9.9	7.0

(5) サービス利用に必要な配慮 (公的サービスを利用したことがある人のみ回答)

①性別

サービス利用に必要な配慮は、全体では「もっと安くしてほしい」が28.5%で最も多く、次いで「もっと利用手続きを簡単にしてほしい」が28.3%、「特にない」が23.5%と続いている。

〔図 2-5-11 サービス利用に必要な配慮〕



〔表 2-5-11 サービス利用に必要な配慮〕

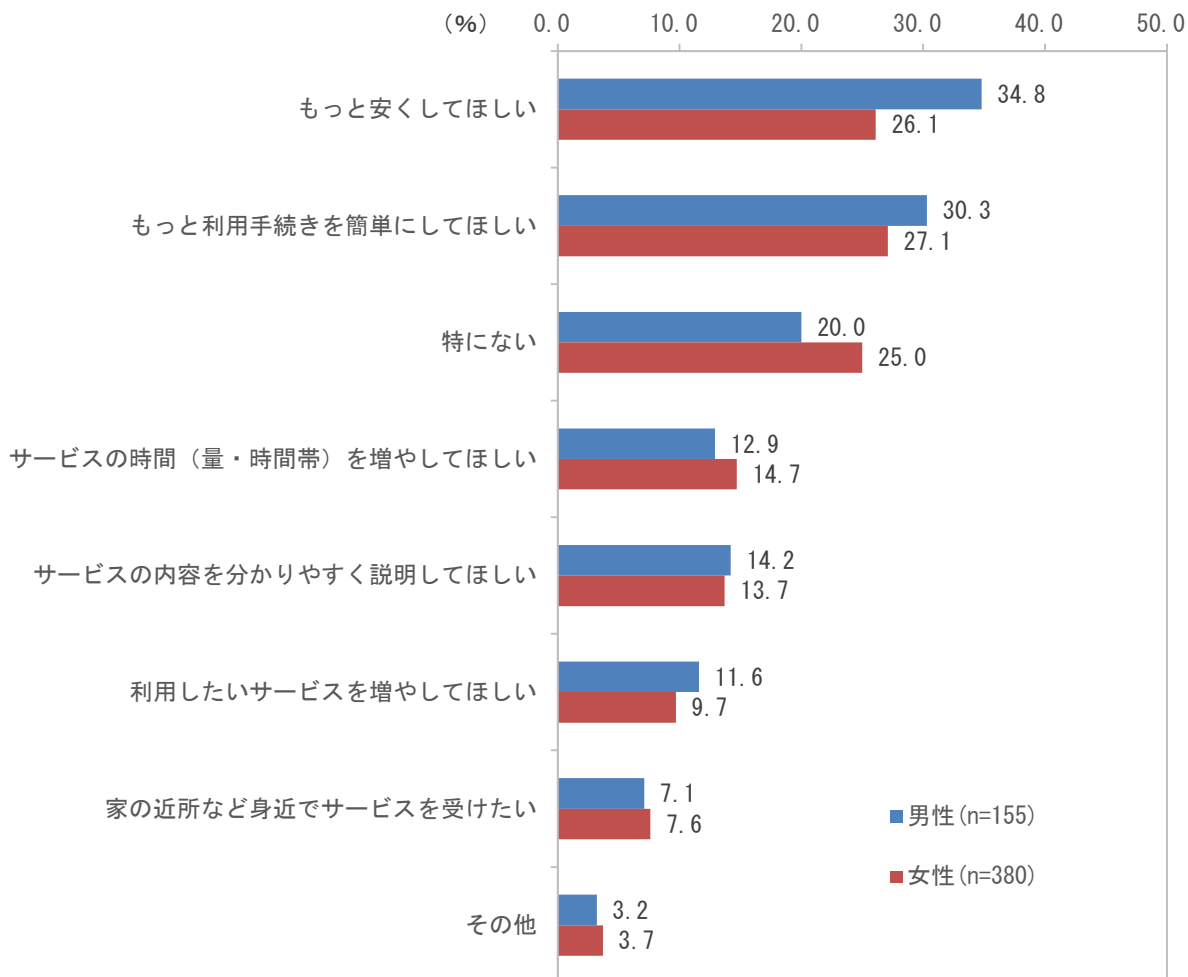
(上段：人/下段：%)

	合計	サービスの内容を分かりやすく説明してほしい	もっと利用手続きを簡単にしてほしい	利用したいサービスを増やしてほしい	サービスの時間(量・時間帯)を増やしてほしい	家の近所など身近でサービスを受けたい	もっと安くしてほしい	その他	特にない	無回答
全体	537	76	152	55	76	40	153	19	126	40
	100.0	14.2	28.3	10.2	14.2	7.4	28.5	3.5	23.5	7.4

①性別

性別では、「男性」は「もっと安くしてほしい」が34.8%で最も多く、次いで「もっと利用手続きを簡単にしてほしい」が30.3%、「特にない」が20.0%と続いており、「女性」は「もっと利用手続きを簡単にしてほしい」が27.1%で最も多く、次いで「もっと安くしてほしい」が26.1%、「特にない」が25.0%と続いている。

〔図 2-5-12 サービス利用に必要な配慮（性別）〕



〔表 2-5-12 サービス利用に必要な配慮（性別）〕

（上段：人/下段：％）

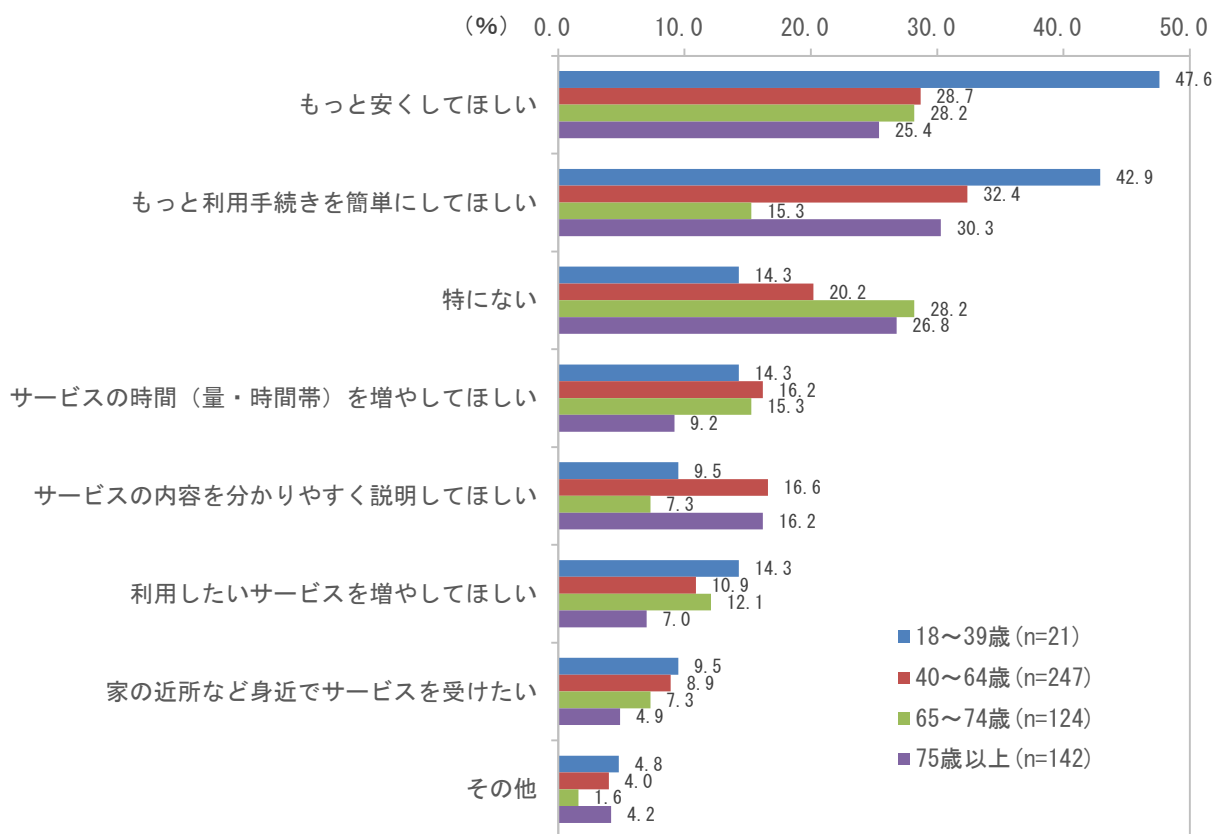
	合計	サービスの内容を分かりやすく説明してほしい	もっと利用手続きを簡単にしてほしい	利用したいサービスを増やしてほしい	サービスの時間（量・時間帯）を増やしてほしい	家の近所など身近でサービスを受けたい	もっと安くしてほしい	その他	特にない	無回答
男性	155	22	47	18	20	11	54	5	31	10
	100.0	14.2	30.3	11.6	12.9	7.1	34.8	3.2	20.0	6.5
女性	380	52	103	37	56	29	99	14	95	30
	100.0	13.7	27.1	9.7	14.7	7.6	26.1	3.7	25.0	7.9

②年齢別

年齢別では、「40～64歳」は「もっと利用手続きを簡単にしてほしい」が32.4%で最も多く、次いで「もっと安くしてほしい」が28.7%、「特にない」が20.2%と続いており、「65～74歳」は「もっと安くしてほしい」が28.2%で最も多く、次いで「特にない」が15.3%と続いている。

「75歳以上」は「もっと利用手続きを簡単にしてほしい」が30.3%で最も多く、次いで「特にない」が26.8%、「もっと安くしてほしい」が25.4%と続いている。

〔図 2-5-13 サービス利用に必要な配慮（年齢別）〕



〔表 2-5-13 サービス利用に必要な配慮（年齢別）〕

（上段：人/下段：％）

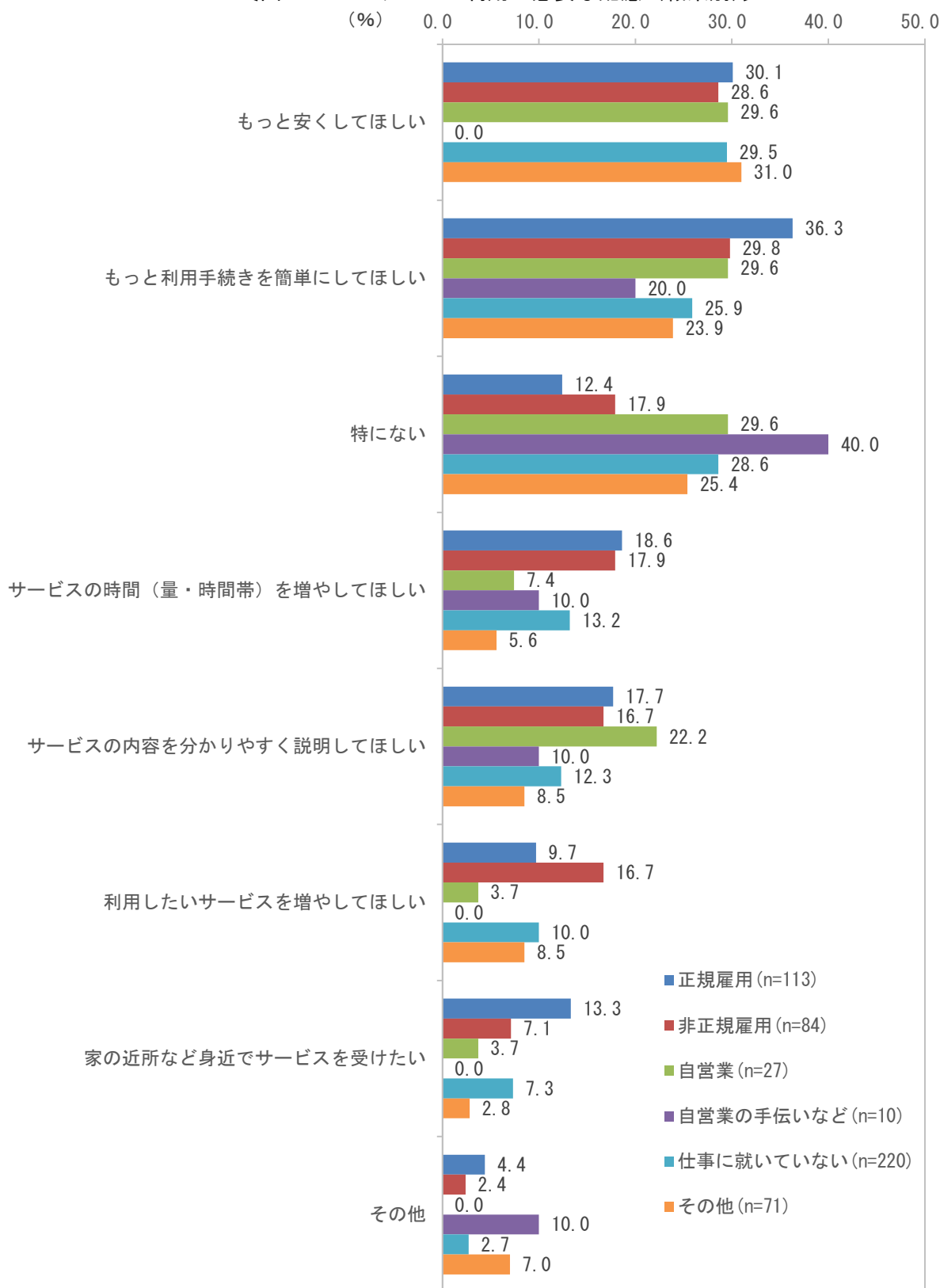
	合計	もっと安くしてほしい	もっと利用手続きを簡単にしてほしい	特にない	サービスの時間（量・時間帯）を増やしてほしい	サービスの内容を分かりやすく説明してほしい	利用したいサービスを増やしてほしい	家の近所など身近でサービスを受けたい	その他	無回答
18歳未満	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
18～39歳	21	2	9	3	3	2	10	1	3	-
	100.0	9.5	42.9	14.3	14.3	9.5	47.6	4.8	14.3	-
40～64歳	247	41	80	27	40	22	71	10	50	11
	100.0	16.6	32.4	10.9	16.2	8.9	28.7	4.0	20.2	4.5
65～74歳	124	9	19	15	19	9	35	2	35	18
	100.0	7.3	15.3	12.1	15.3	7.3	28.2	1.6	28.2	14.5
75歳以上	142	23	43	10	13	7	36	6	38	11
	100.0	16.2	30.3	7.0	9.2	4.9	25.4	4.2	26.8	7.7

③職業別

職業別では、「正規雇用」は「もっと利用手続きを簡単にしてほしい」が36.3%で最も多く、次いで「もっと安くしてほしい」が30.1%、「サービスの時間（量・時間帯）を増やしてほしい」が18.6%と続いており、「非正規雇用」も「もっと利用手続きを簡単にしてほしい」が29.8%で最も多く、次いで「もっと安くしてほしい」が28.6%、「サービスの時間（量・時間帯）を増やしてほしい」が17.9%と続いている。

「仕事に就いていない」は「もっと安くしてほしい」が29.5%で最も多く、次いで「特にない」が28.6%、「もっと利用手続きを簡単にしてほしい」が25.9%と続いている。

〔図 1-5-14 サービス利用に必要な配慮（職業別）〕



〔表 2-5-14 サービス利用に必要な配慮（職業別）〕

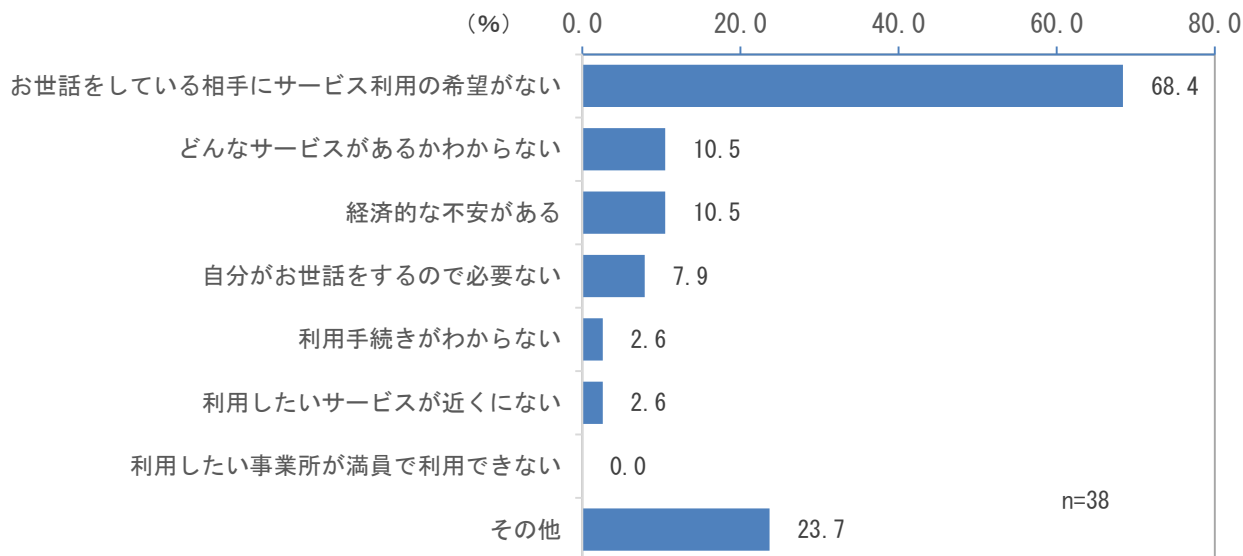
(上段：人/下段：%)

	合計	サービスの内容を分かりやすく説明してほしい	もっと利用手続きを簡単にしてほしい	利用したいサービスを増やしてほしい	サービスの時間（量・時間帯）を増やしてほしい	家の近所など身近でサービスを受けた	もっと安くしてほしい	その他	特にな	無回答
正規雇用	113	20	41	11	21	15	34	5	14	6
	100.0	17.7	36.3	9.7	18.6	13.3	30.1	4.4	12.4	5.3
非正規雇用	84	14	25	14	15	6	24	2	15	4
	100.0	16.7	29.8	16.7	17.9	7.1	28.6	2.4	17.9	4.8
自営業	27	6	8	1	2	1	8	-	8	-
	100.0	22.2	29.6	3.7	7.4	3.7	29.6	-	29.6	-
自営業の手伝いなど	10	1	2	-	1	-	-	1	4	2
	100.0	10.0	20.0	-	10.0	-	-	10.0	40.0	20.0
仕事に就いていない	220	27	57	22	29	16	65	6	63	16
	100.0	12.3	25.9	10.0	13.2	7.3	29.5	2.7	28.6	7.3
学生	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
その他	71	6	17	6	4	2	22	5	18	10
	100.0	8.5	23.9	8.5	5.6	2.8	31.0	7.0	25.4	14.1

(6) サービスを利用しない理由 (公的サービスを利用したことがない人のみ回答)

サービスを利用しない理由は「お世話をしている相手にサービス利用の希望がない」が 68.4%で最も多く、次いで「どんなサービスがあるかわからない」・「経済的な不安がある」が 10.5%、「自分がお世話をするので必要ない」が 7.9%と続いている。

〔図 2-5-15 サービスを利用しない理由〕



〔表 2-5-15 サービスを利用しない理由〕

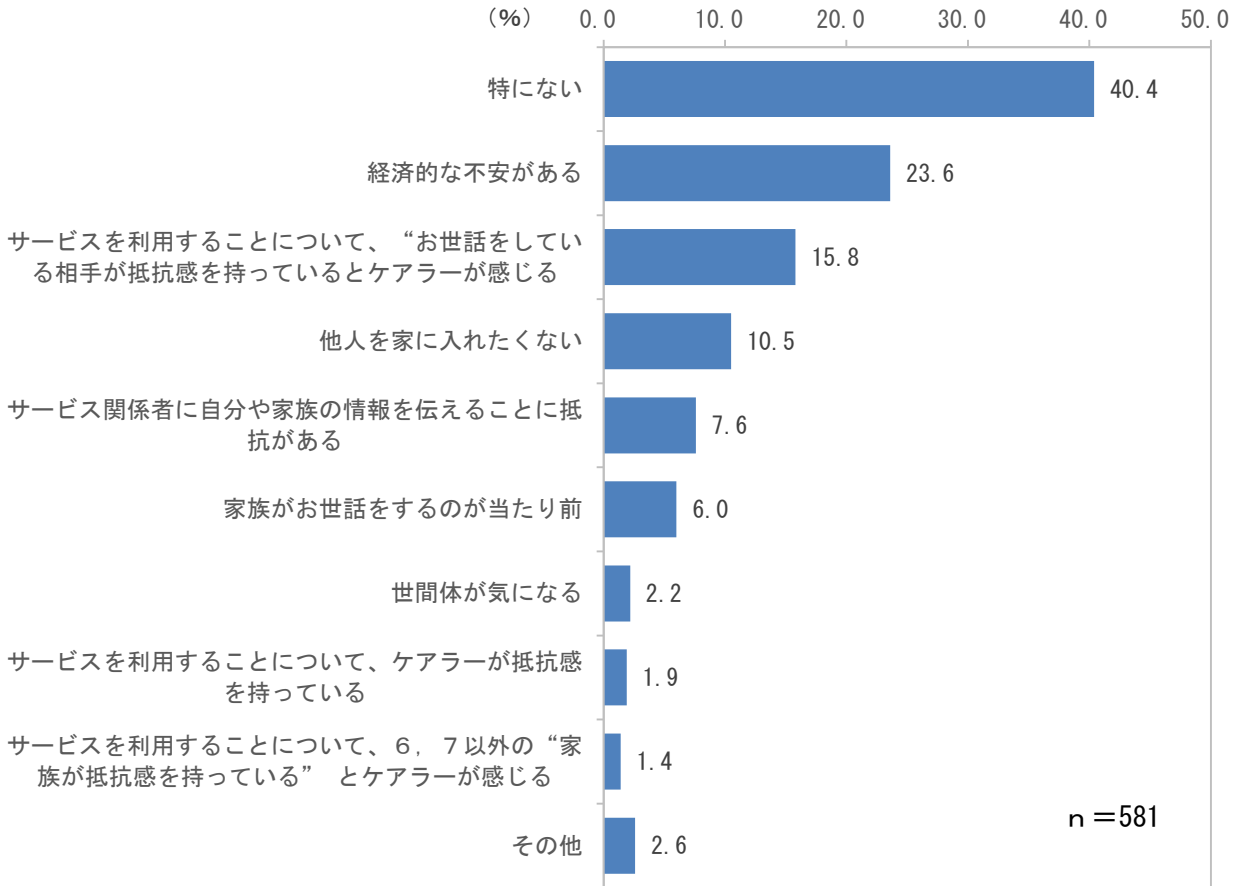
カテゴリ	件数	(全体)%
お世話をしている相手にサービス利用の希望がない	26	68.4
自分がお世話をするので必要ない	3	7.9
どんなサービスがあるかわからない	4	10.5
利用手続きがわからない	1	2.6
利用したいサービスが近くにない	1	2.6
利用したい事業所が満員で利用できない	0	0.0
経済的な不安がある	4	10.5
その他	9	23.7
無回答	1	2.6
N (％ベース)	38	100

(7) サービス利用の抵抗感

①性別

サービス利用の抵抗感は、全体では「特にない」が40.4%で最も多く、次いで「経済的な不安がある」が23.6%、「サービスを利用することについて、お世話をしている相手が抵抗感を持っているとケアラーが感じる」が15.8%と続いている。

〔図 2-5-16 サービス利用の抵抗感〕



〔表 2-5-16 サービス利用の抵抗感〕

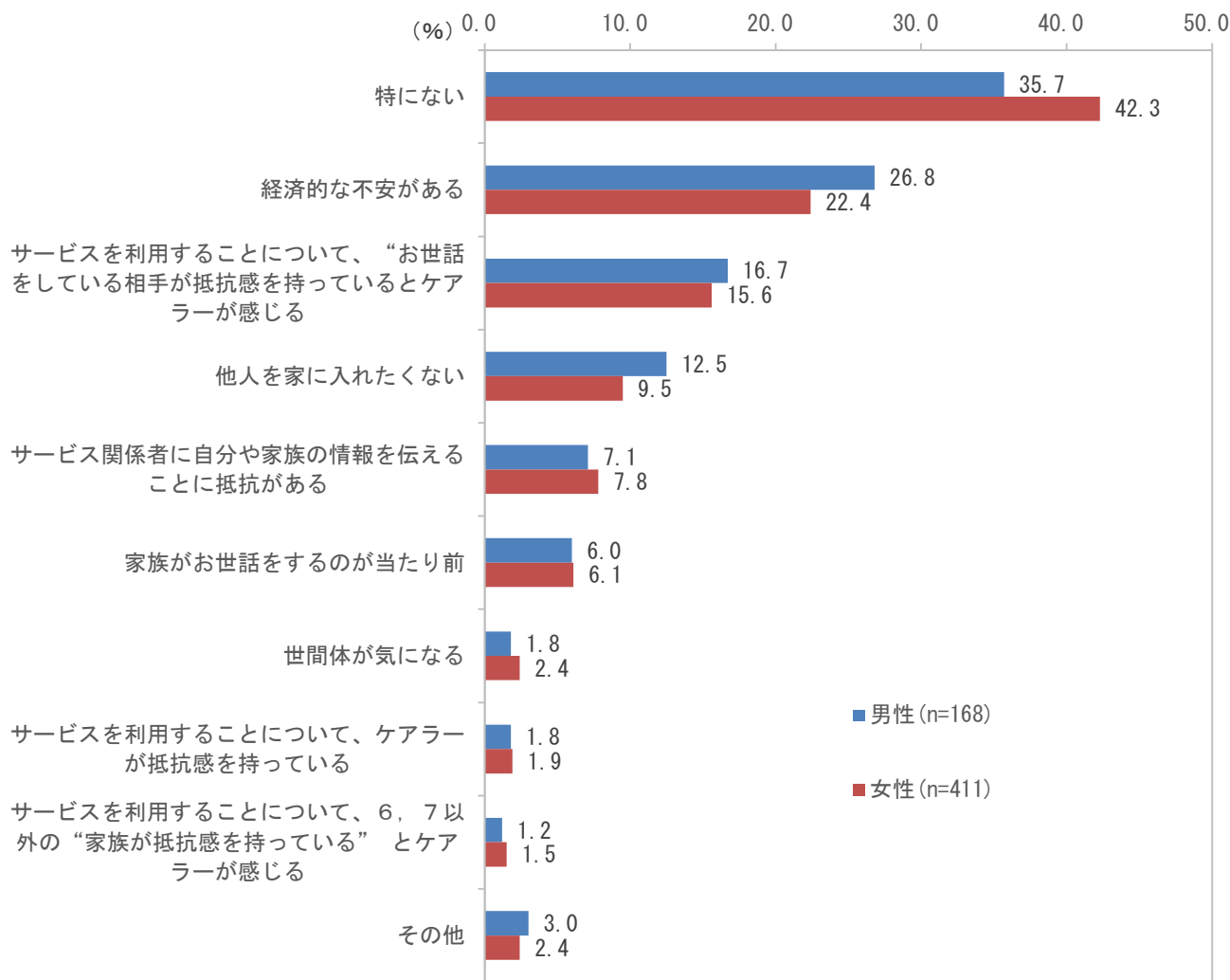
(上段：人/下段：%)

	合計	サービス関係者に自分や家族の情報を伝えることに抵抗がある	他人を家に入れたくない	家族がお世話をするのが当たり前	世間体が気になる	経済的な不安がある	サービスを利用することについて、“お世話をしている相手が抵抗感を持っているとあなたが感じる”	サービスを利用することについて、あなたが抵抗感を持っている	サービスを利用することについて、6, 7以外の“家族が抵抗感を持っている”とあなたが感じる	その他	特にない	無回答
全体	581	44	61	35	13	137	92	11	8	15	235	72
	100.0	7.6	10.5	6.0	2.2	23.6	15.8	1.9	1.4	2.6	40.4	12.4

①性別

性別では、「男性」は「特にない」が35.7%で最も多く、次いで「経済的な不安がある」が26.6%、「サービスを利用することについて、お世話をしている相手が抵抗感を持っているとケアラーを感じる」が16.7%と続いており、「女性」も「特にない」が42.3%で最も多く、次いで「経済的な不安がある」が22.4%、「サービスを利用することについて、お世話をしている相手が抵抗感を持っているとケアラーを感じる」が15.6%と続いている。

〔図 2-5-17 サービス利用の抵抗感（性別）〕



〔表 2-5-17 サービス利用の抵抗感（性別）〕

（上段：人/下段：％）

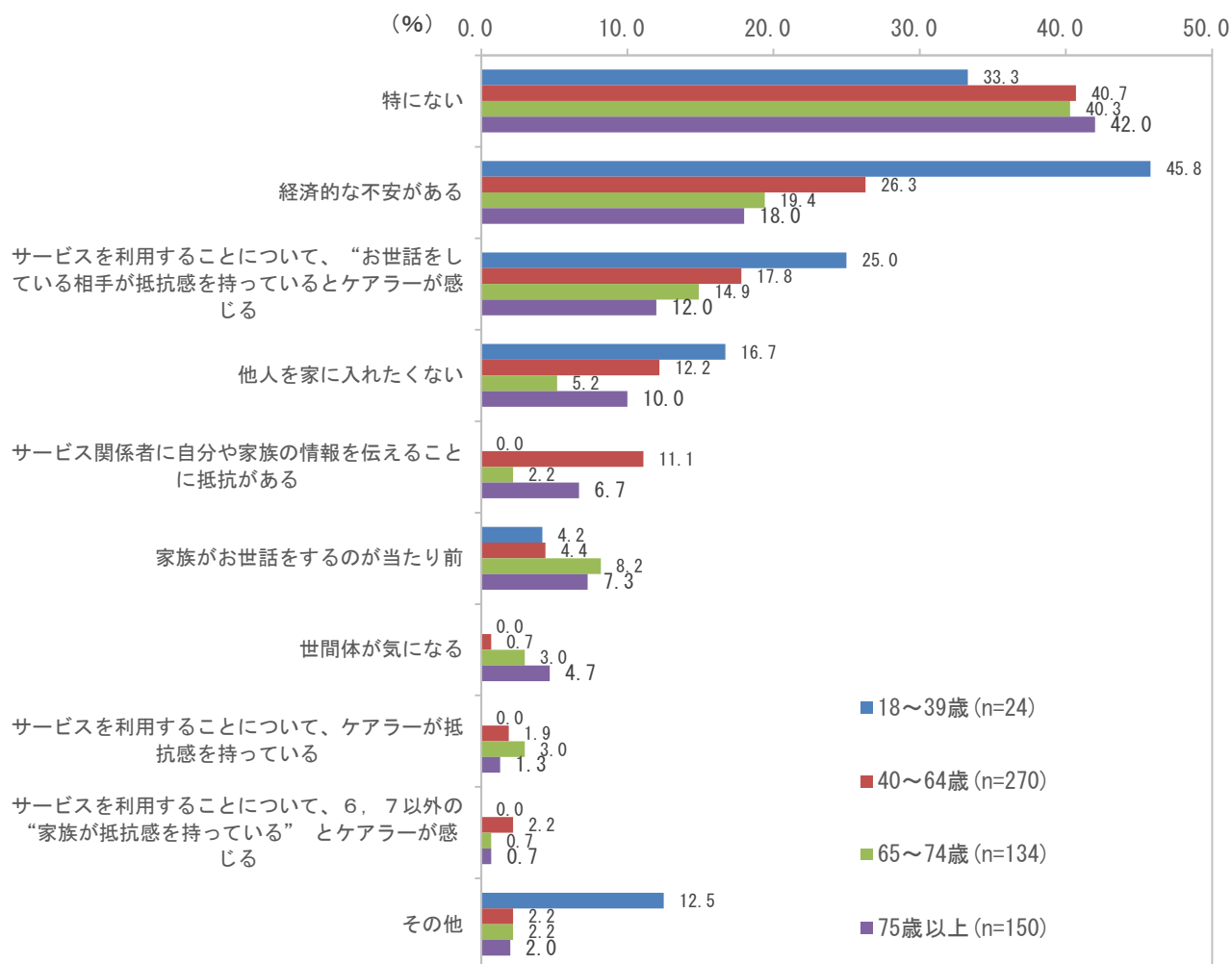
	合計	サービス関係者に自分や家族の情報を伝えることに抵抗がある	他人を家に入れたくない	家族がお世話をするのが当たり前	世間体が気になる	経済的な不安がある	サービスを利用することについて、“お世話をしている相手が抵抗感を持っているとあなたが感じる”	サービスを利用することについて、あなたが抵抗感を持っている	サービスを利用することについて、6, 7以外の“家族が抵抗感を持っている”とあなたが感じる	その他	特にない	無回答
男性	168	12	21	10	3	45	28	3	2	5	60	23
	100.0	7.1	12.5	6.0	1.8	26.8	16.7	1.8	1.2	3.0	35.7	13.7
女性	411	32	39	25	10	92	64	8	6	10	174	49
	100.0	7.8	9.5	6.1	2.4	22.4	15.6	1.9	1.5	2.4	42.3	11.9

②年齢別

年齢別では、上位 3 項目でみると全体との傾向の相違は「18～39 歳」で「経済的な不安がある」が 45.8%で最も多く、次いで「特にない」が 33.3%、「サービスを利用することについて、お世話をしている相手が抵抗感を持っているとケアラーが感じる」が 25.0%と続いている。

他年代は全体との傾向の相違はみられない。

〔図 2-5-18 サービス利用の抵抗感（年齢別）〕



〔表 2-5-18 サービス利用の抵抗感（年齢別）〕

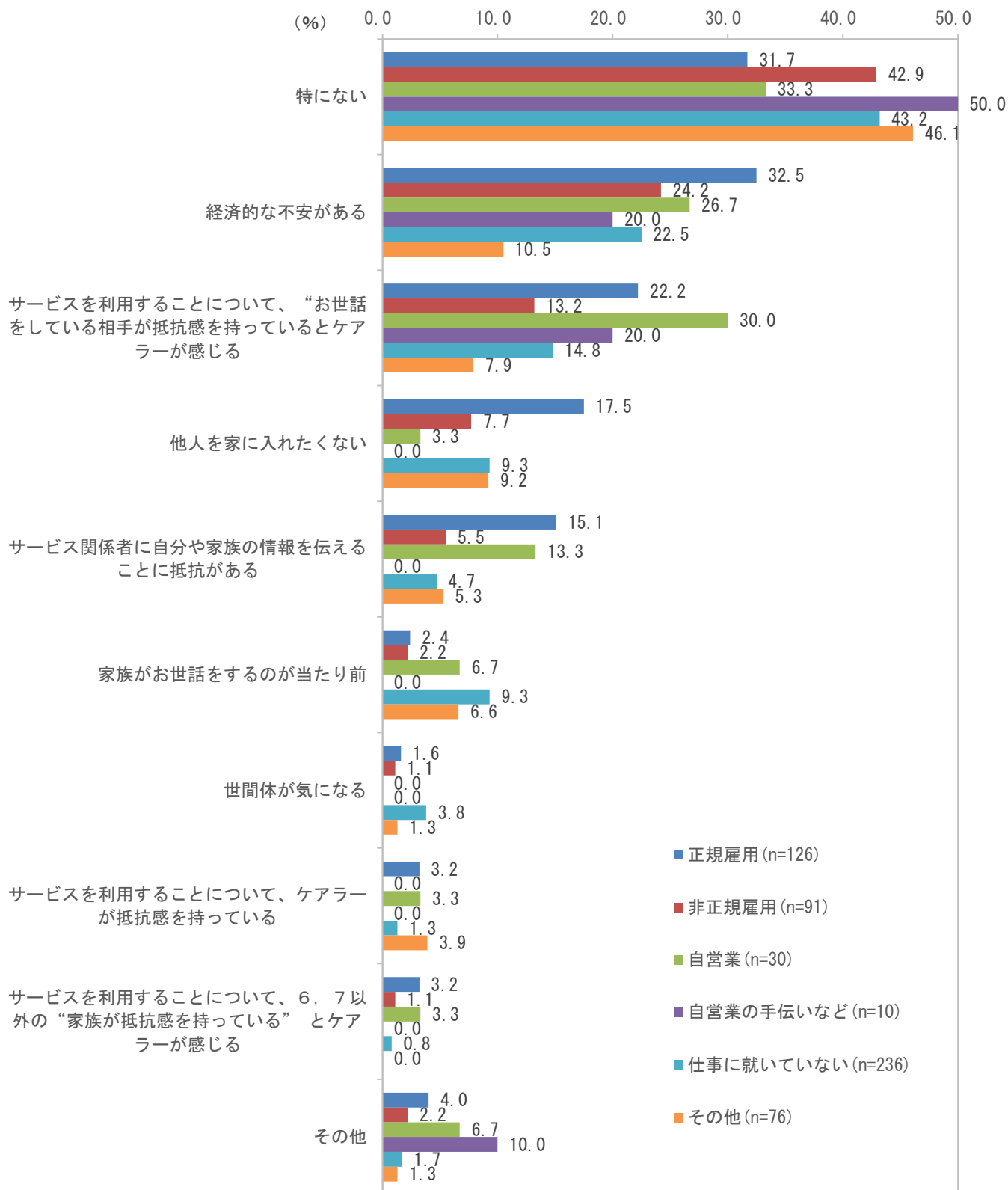
（上段：人/下段：％）

	合計	サービス関係者に自分や家族の情報を伝えることに抵抗がある	他人を家に入れたくない	家族がお世話をするのが当たり前	世間体が気になる	経済的な不安がある	サービスを利用することについて、“お世話をしている相手が抵抗感を持っているとあなたが感じる”	サービスを利用することについて、あなたが抵抗感を持っている	サービスを利用することについて、6, 7以外の“家族が抵抗感を持っている”とあなたが感じる	その他	特にない	無回答
18歳未満	1 100.0	1 100.0	1 100.0	- -	- -	1 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -
18～39歳	24 100.0	- -	4 16.7	1 4.2	- -	11 45.8	6 25.0	- -	- -	3 12.5	8 33.3	2 8.3
40～64歳	270 100.0	30 11.1	33 12.2	12 4.4	2 0.7	71 26.3	48 17.8	5 1.9	6 2.2	6 2.2	110 40.7	19 7.0
65～74歳	134 100.0	3 2.2	7 5.2	11 8.2	4 3.0	26 19.4	20 14.9	4 3.0	1 0.7	3 2.2	54 40.3	28 20.9
75歳以上	150 100.0	10 6.7	15 10.0	11 7.3	7 4.7	27 18.0	18 12.0	2 1.3	1 0.7	3 2.0	63 42.0	23 15.3

③職業別

職業別では、上位3項目でみると全体との傾向の相違は「正規雇用」で「経済的な不安がある」が32.5%で最も多く、次いで「特にない」が31.7%、「サービスを利用することについて、お世話をしている相手が抵抗感を持っているとあなたが感じる」が22.2%と続いており、「自営業」は「サービスを利用することについて、お世話をしている相手が抵抗感を持っているとあなたが感じる」が30.0%で2位項目となっている。「他人を家に入れたくない」が7.7%と続いている。他では全体の傾向との相違はみられない。

〔図 2-5-19 サービス利用の抵抗感（職業別）〕



〔表 2-5-19 サービス利用の抵抗感（職業別）〕

（上段：人/下段：％）

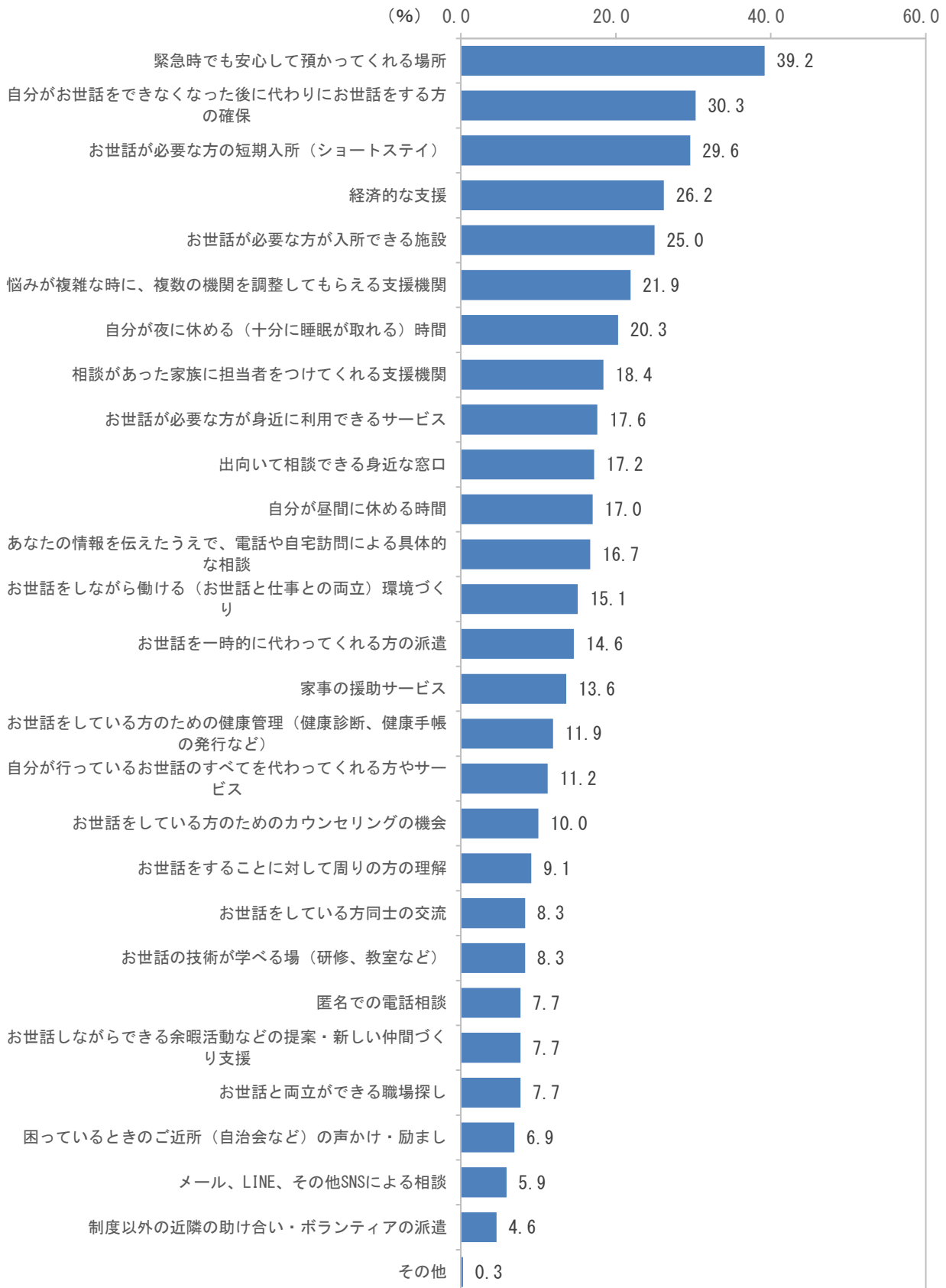
	合計	サービス関係者に自分や家族の情報を伝えることに抵抗がある	他人を家に入れたくない	家族がお世話をするのが当たり前	世間体が気になる	経済的な不安がある	サービスを利用することについて、“お世話をしている相手が抵抗感を持っているとあなたが感じる	サービスを利用することについて、あなたが抵抗感を持っている	サービスを利用することについて、6、7以外の“家族が抵抗感を持っている”とあなたが感じる	その他	持っていない	無回答
正規雇用	126	19	22	3	2	41	28	4	4	5	40	10
	100.0	15.1	17.5	2.4	1.6	32.5	22.2	3.2	3.2	4.0	31.7	7.9
非正規雇用	91	5	7	2	1	22	12	-	1	2	39	14
	100.0	5.5	7.7	2.2	1.1	24.2	13.2	-	1.1	2.2	42.9	15.4
自営業	30	4	1	2	-	8	9	1	1	2	10	1
	100.0	13.3	3.3	6.7	-	26.7	30.0	3.3	3.3	6.7	33.3	3.3
自営業の手伝いなど	10	-	-	-	-	2	2	-	-	1	5	2
	100.0	-	-	-	-	20.0	20.0	-	-	10.0	50.0	20.0
仕事に就いていない	236	11	22	22	9	53	35	3	2	4	102	25
	100.0	4.7	9.3	9.3	3.8	22.5	14.8	1.3	0.8	1.7	43.2	10.6
学生	1	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	100.0	100.0	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
その他	76	4	7	5	1	8	6	3	-	1	35	16
	100.0	5.3	9.2	6.6	1.3	10.5	7.9	3.9	-	1.3	46.1	21.1

6. ケアラーに必要な支援

(1) 必要な支援

必要な支援は、全体では「緊急時でも安心して預かってくれる場所」が39.2%で最も多く、次いで「自分がお世話をできなくなった後に代わりにお世話をする方の確保」が30.3%、「お世話が必要な方の短期入所（ショートステイ）」が29.6%と続いている。

〔図 2-6-1 必要な支援〕



〔表 2-6-1 必要な支援（性別）〕

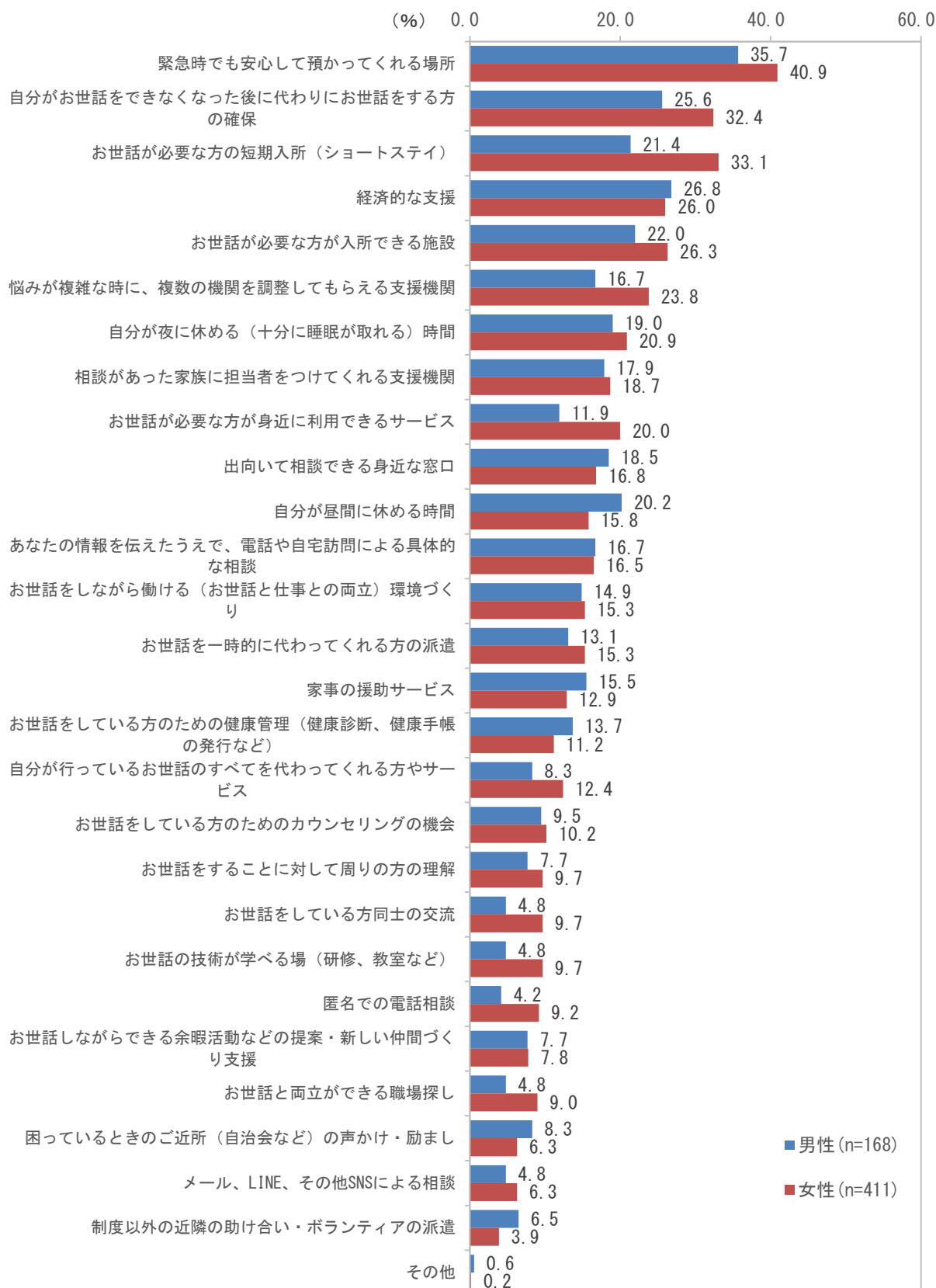
（左：人/右：％）

	全体		男性		女性	
合計	581	100.0	168	100.0	411	100.0
匿名での電話相談	45	7.7	7	4.2	38	9.2
メール、LINE、その他SNSによる相談	34	5.9	8	4.8	26	6.3
あなたの情報を伝えたうえで、電話や自宅訪問による具体的な相談	97	16.7	28	16.7	68	16.5
出向いて相談できる身近な窓口	100	17.2	31	18.5	69	16.8
相談があった家族に担当者をつけてくれる支援機関	107	18.4	30	17.9	77	18.7
悩みが複雑な時に、複数の機関を調整してもらえる支援機関	127	21.9	28	16.7	98	23.8
お世話をしている方のためのカウンセリングの機会	58	10.0	16	9.5	42	10.2
自分が昼間に休める時間	99	17.0	34	20.2	65	15.8
自分が夜に休める（十分に睡眠が取れる）時間	118	20.3	32	19.0	86	20.9
家事の援助サービス	79	13.6	26	15.5	53	12.9
お世話を一時的に代わってくれる方の派遣	85	14.6	22	13.1	63	15.3
制度以外の近隣の助け合い・ボランティアの派遣	27	4.6	11	6.5	16	3.9
お世話をしながら働ける（お世話と仕事との両立）環境づくり	88	15.1	25	14.9	63	15.3
自分がお世話をできなくなった後に代わりにお世話を する方の確保	176	30.3	43	25.6	133	32.4
お世話をしている方同士の交流	48	8.3	8	4.8	40	9.7
お世話の技術が学べる場（研修、教室など）	48	8.3	8	4.8	40	9.7
お世話をすることに対して周りの方の理解	53	9.1	13	7.7	40	9.7
困っているときのご近所（自治会など）の声かけ・励まし	40	6.9	14	8.3	26	6.3
自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる方 やサービス	65	11.2	14	8.3	51	12.4
お世話が必要な方の短期入所（ショートステイ）	172	29.6	36	21.4	136	33.1
緊急時でも安心して預かってくれる場所	228	39.2	60	35.7	168	40.9
お世話が必要な方が身近に利用できるサービス	102	17.6	20	11.9	82	20.0
お世話が必要な方が入所できる施設	145	25.0	37	22.0	108	26.3
経済的な支援	152	26.2	45	26.8	107	26.0
お世話をしている方のための健康管理（健康診断、健康手帳の発行など）	69	11.9	23	13.7	46	11.2
お世話しながらできる余暇活動などの提案・新しい仲間づくり支援	45	7.7	13	7.7	32	7.8
お世話と両立ができる職場探し	45	7.7	8	4.8	37	9.0
その他	2	0.3	1	0.6	1	0.2

①性別

性別では、「男性」は「あなたの情報を伝えたいうえで、電話や自宅訪問による具体的な相談」が35.7%で最も多く、次いで「経済的な支援」が26.8%、「自分がお世話をできなくなった後に代わりにお世話をする方の確保」が25.6%と続いており、「女性」は「緊急時でも安心して預かってくれる場所」が40.9%で最も多く、次いで「お世話が必要な方の短期入所（ショートステイ）」が33.1%、「自分がお世話をできなくなった後に代わりにお世話をする方の確保」が32.4%と続いている。

〔図 2-6-2 必要な支援（性別）〕

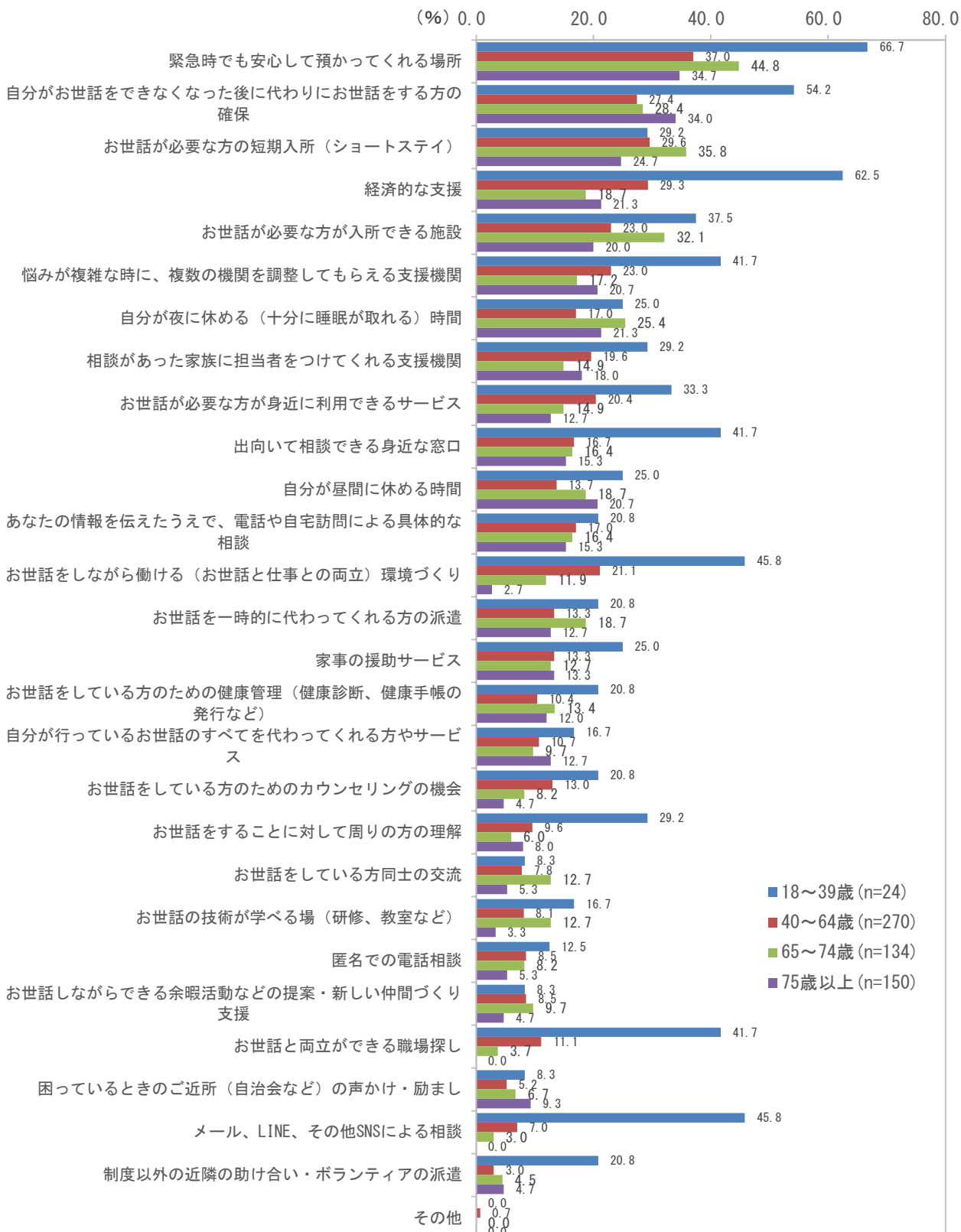


②年齢別

年齢別では、「40～64歳」は「緊急時でも安心して預かってくれる場所」が39.2%で最も多く、次いで「お世話が必要な方の短期入所（ショートステイ）」が29.6%、「経済的な支援」が29.3%と続いており、「65～74歳」は「緊急時でも安心して預かってくれる場所」が44.8%で最も多く、次いで「お世話が必要な方の短期入所（ショートステイ）」が35.8%、「お世話が必要な方が入所できる施設」が32.1%と続いている。

「75歳以上」は「緊急時でも安心して預かってくれる場所」が34.7%で最も多く、次いで「自分がお世話をできなくなった後に代わりにお世話をする方の確保」が34.0%、「お世話が必要な方の短期入所（ショートステイ）」が24.7%と続いている。

〔図 2-6-3 必要な支援（年齢別）〕



〔表 2-6-2 必要な支援（年齢別）〕

（左：人/右：％）

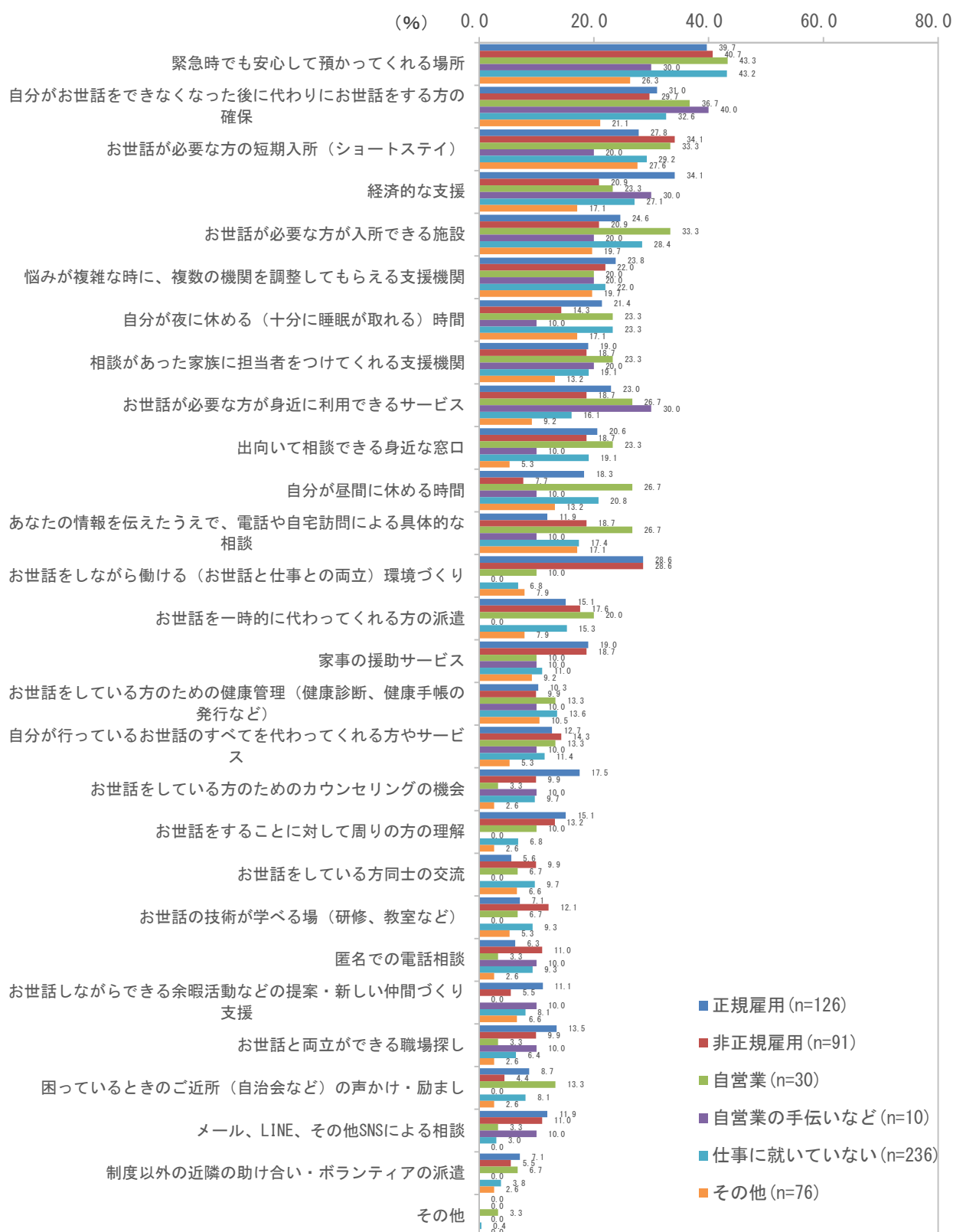
	18歳未満		18～39歳		40～64歳		65～74歳		75歳以上	
	人	％	人	％	人	％	人	％	人	％
合計	1	100.0	24	100.0	270	100.0	134	100.0	150	100.0
匿名での電話相談	-	-	3	12.5	23	8.5	11	8.2	8	5.3
メール、LINE、その他SNSによる相談	-	-	11	45.8	19	7.0	4	3.0	-	-
あなたの情報を伝えたいうえで、電話や自宅訪問による具体的な相談	-	-	5	20.8	46	17.0	22	16.4	23	15.3
出向いて相談できる身近な窓口	-	-	10	41.7	45	16.7	22	16.4	23	15.3
相談があった家族に担当者をつけてくれる支援機関	-	-	7	29.2	53	19.6	20	14.9	27	18.0
悩みが複雑な時に、複数の機関を調整してもらえる支援機関	-	-	10	41.7	62	23.0	23	17.2	31	20.7
お世話をしている方のためのカウンセリングの機会	-	-	5	20.8	35	13.0	11	8.2	7	4.7
自分が昼間に休める時間	-	-	6	25.0	37	13.7	25	18.7	31	20.7
自分が夜に休める（十分に睡眠が取れる）時間	-	-	6	25.0	46	17.0	34	25.4	32	21.3
家事の援助サービス	-	-	6	25.0	36	13.3	17	12.7	20	13.3
お世話を一時的に代わってくれる方の派遣	-	-	5	20.8	36	13.3	25	18.7	19	12.7
制度以外の近隣の助け合い・ボランティアの派遣	-	-	5	20.8	8	3.0	6	4.5	7	4.7
お世話をしながら働ける（お世話と仕事との両立）環境づくり	-	-	11	45.8	57	21.1	16	11.9	4	2.7
自分がお世話をできなくなった後に代わりにお世話をする方の確保	-	-	13	54.2	74	27.4	38	28.4	51	34.0
お世話をしている方同士の交流	-	-	2	8.3	21	7.8	17	12.7	8	5.3
お世話の技術が学べる場（研修、教室など）	-	-	4	16.7	22	8.1	17	12.7	5	3.3
お世話をすることに對して周りの方の理解	-	-	7	29.2	26	9.6	8	6.0	12	8.0
困っているときのご近所（自治会など）の声かけ・励まし	-	-	2	8.3	14	5.2	9	6.7	14	9.3
自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる方やサービス	-	-	4	16.7	29	10.7	13	9.7	19	12.7
お世話が必要な方の短期入所（ショートステイ）	-	-	7	29.2	80	29.6	48	35.8	37	24.7
緊急時でも安心して預かってくれる場所	-	-	16	66.7	100	37.0	60	44.8	52	34.7
お世話が必要な方が身近に利用できるサービス	-	-	8	33.3	55	20.4	20	14.9	19	12.7
お世話が必要な方が入所できる施設	-	-	9	37.5	62	23.0	43	32.1	30	20.0
経済的な支援	-	-	15	62.5	79	29.3	25	18.7	32	21.3
お世話をしている方のための健康管理（健康診断、健康手帳の発行など）	-	-	5	20.8	28	10.4	18	13.4	18	12.0
お世話しながらできる余暇活動などの提案・新しい仲間づくり支援	-	-	2	8.3	23	8.5	13	9.7	7	4.7
お世話と両立ができる職場探し	-	-	10	41.7	30	11.1	5	3.7	-	-
その他	-	-	-	-	2	0.7	-	-	-	-

③職業別

職業別では、「正規雇用」は「緊急時でも安心して預かってくれる場所」が39.7%で最も多く、次いで「経済的な支援」が34.1%、「自分がお世話をできなくなった後に代わりにお世話をする方の確保」が31.0%と続いており、「非正規雇用」は「緊急時でも安心して預かってくれる場所」が40.7%で最も多く、次いで「お世話が必要な方の短期入所（ショートステイ）」が34.1%、「自分がお世話をできなくなった後に代わりにお世話をする方の確保」が29.7%と続いている。

「仕事に就いていない」は「緊急時でも安心して預かってくれる場所」が40.7%で最も多く、次いで「自分がお世話をできなくなった後に代わりにお世話をする方の確保」が32.6%、「お世話が必要な方の短期入所（ショートステイ）」が29.2%と続いている。

〔図 2-6-4 必要な支援（職業別）〕



〔表 2-6-3 必要な支援（職業別）〕

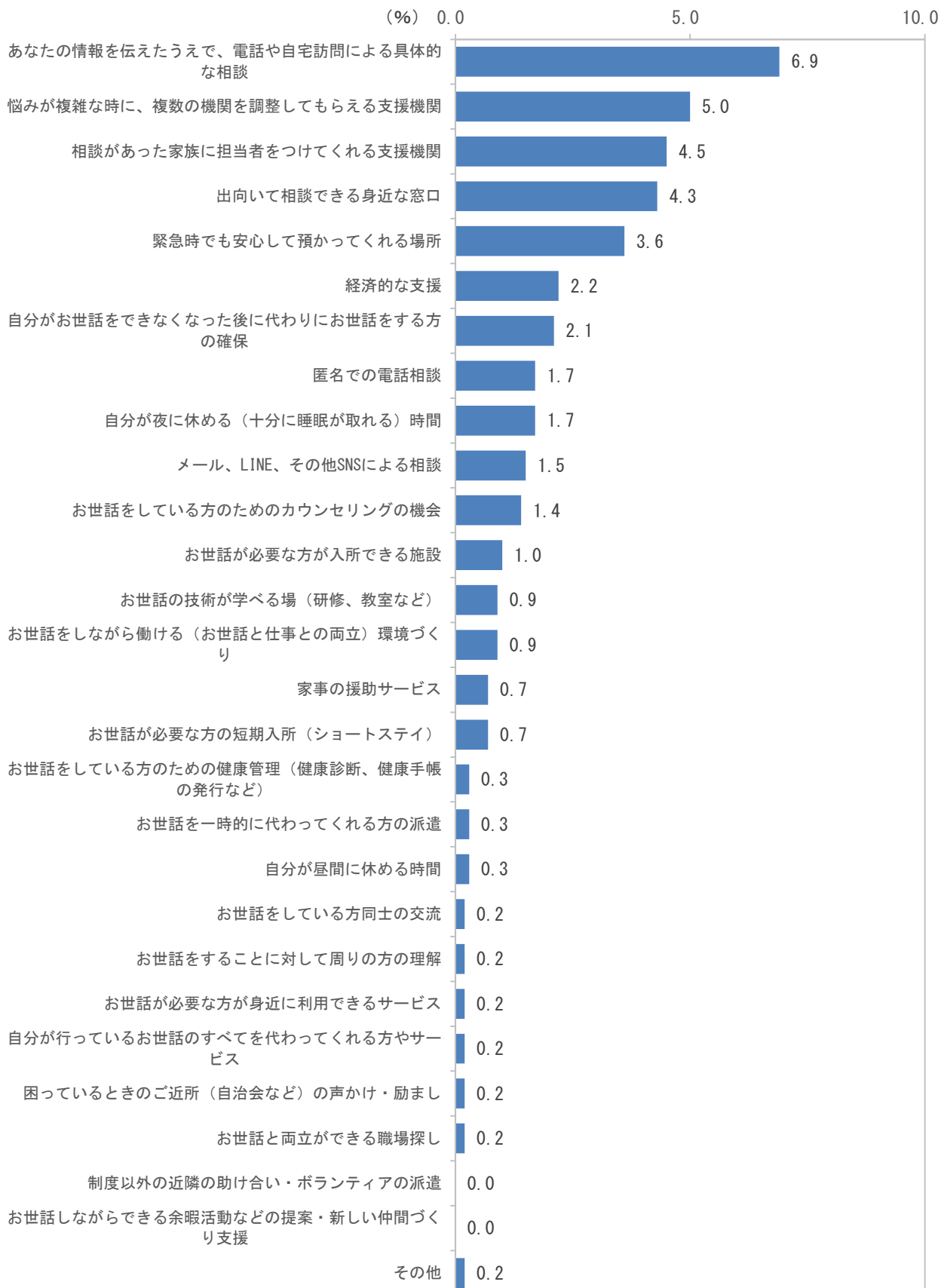
（左：人/右：％）

	正規雇用		非正規雇用		自営業		自営業の手伝いなど		仕事に就いていない		学生		その他	
合計	126	100.0	91	100.0	30	100.0	10	100.0	236	100.0	1	100.0	76	100.0
匿名での電話相談	8	6.3	10	11.0	1	3.3	1	10.0	22	9.3	-	-	2	2.6
メール、LINE、その他SNSによる相談	15	11.9	10	11.0	1	3.3	1	10.0	7	3.0	-	-	-	-
あなたの情報を伝えたくて、電話や自宅訪問による具体的な相談	15	11.9	17	18.7	8	26.7	1	10.0	41	17.4	-	-	13	17.1
出向いて相談できる身近な窓口	26	20.6	17	18.7	7	23.3	1	10.0	45	19.1	-	-	4	5.3
相談があった家族に担当者をつけてくれる支援機関	24	19.0	17	18.7	7	23.3	2	20.0	45	19.1	-	-	10	13.2
悩みが複雑な時に、複数の機関を調整してもらえる支援機関	30	23.8	20	22.0	6	20.0	2	20.0	52	22.0	-	-	15	19.7
お世話をしている方のためのカウンセリングの機会	22	17.5	9	9.9	1	3.3	1	10.0	23	9.7	-	-	2	2.6
自分が昼間に休める時間	23	18.3	7	7.7	8	26.7	1	10.0	49	20.8	-	-	10	13.2
自分が夜に休める（十分に睡眠が取れる）時間	27	21.4	13	14.3	7	23.3	1	10.0	55	23.3	-	-	13	17.1
家事の援助サービス	24	19.0	17	18.7	3	10.0	1	10.0	26	11.0	-	-	7	9.2
お世話を一時的に代わってくれる方の派遣	19	15.1	16	17.6	6	20.0	-	-	36	15.3	-	-	6	7.9
制度以外の近隣の助け合い・ボランティアの派遣	9	7.1	5	5.5	2	6.7	-	-	9	3.8	-	-	2	2.6
お世話をしながら働ける（お世話と仕事との両立）環境づくり	36	28.6	26	28.6	3	10.0	-	-	16	6.8	-	-	6	7.9
自分がお世話をできなくなった後に代わりにお世話をする方の確保	39	31.0	27	29.7	11	36.7	4	40.0	77	32.6	-	-	16	21.1
お世話をしている方同士の交流	7	5.6	9	9.9	2	6.7	-	-	23	9.7	-	-	5	6.6
お世話の技術が学べる場（研修、教室など）	9	7.1	11	12.1	2	6.7	-	-	22	9.3	-	-	4	5.3
お世話をすることに對して周りの方の理解	19	15.1	12	13.2	3	10.0	-	-	16	6.8	-	-	2	2.6
困っているときのご近所（自治会など）の声かけ・助まし	11	8.7	4	4.4	4	13.3	-	-	19	8.1	-	-	2	2.6
自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる方やサービス	16	12.7	13	14.3	4	13.3	1	10.0	27	11.4	-	-	4	5.3
お世話が必要な方の短期入所（ショートステイ）	35	27.8	31	34.1	10	33.3	2	20.0	69	29.2	-	-	21	27.6
緊急時でも安心して預かってくれる場所	50	39.7	37	40.7	13	43.3	3	30.0	102	43.2	-	-	20	26.3
お世話が必要な方が身近に利用できるサービス	29	23.0	17	18.7	8	26.7	3	30.0	38	16.1	-	-	7	9.2
お世話が必要な方が入所できる施設	31	24.6	19	20.9	10	33.3	2	20.0	67	28.4	-	-	15	19.7
経済的な支援	43	34.1	19	20.9	7	23.3	3	30.0	64	27.1	-	-	13	17.1
お世話をしている方のための健康管理（健康診断、健康手帳の発行など）	13	10.3	9	9.9	4	13.3	1	10.0	32	13.6	-	-	8	10.5
お世話しながらできる余暇活動などの提案・新しい仲間づくり支援	14	11.1	5	5.5	-	-	1	10.0	19	8.1	-	-	5	6.6
お世話と両立ができる職場探し	17	13.5	9	9.9	1	3.3	1	10.0	15	6.4	-	-	2	2.6
その他	-	-	-	-	1	3.3	-	-	1	0.4	-	-	-	-

(2) 最も必要な支援

最も必要な支援は、全体では「あなたの情報を伝えたいうえで、電話や自宅訪問による具体的な相談」が6.9%で最も多く、次いで「悩みが複雑な時に、複数の機関を調整してもらえる支援機関」が5.0%、「相談があった家族に担当者をつけてくれる支援機関」が4.5%と続いている。

〔図 2-6-5 最も必要な支援〕



〔表 2-6-4 最も必要な支援（性別）〕

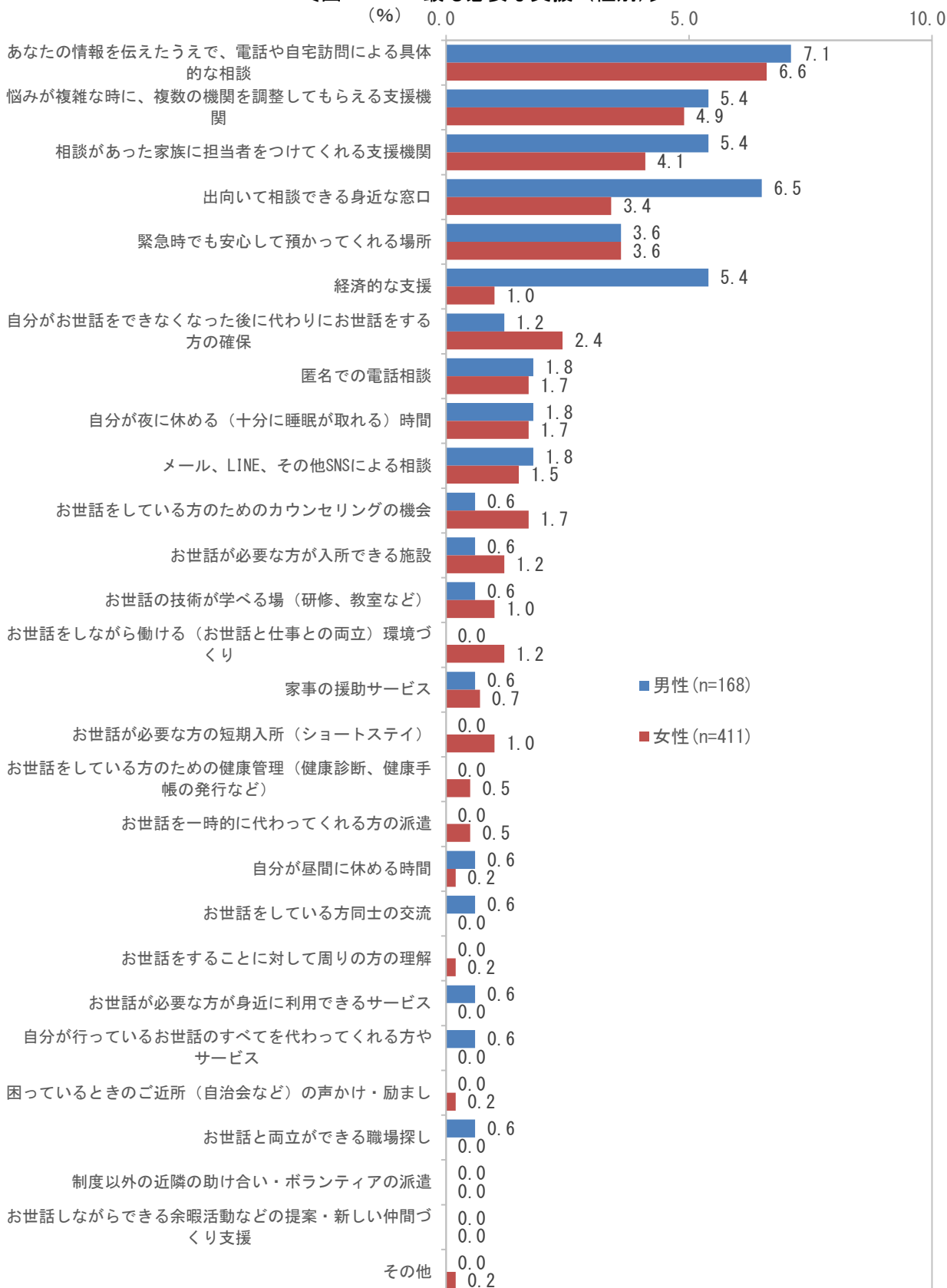
（左：人/右：％）

	全体		男性		女性	
合計	581	100.0	168	100.0	411	100.0
匿名での電話相談	10	1.7	3	1.8	7	1.7
メール、LINE、その他SNSによる相談	9	1.5	3	1.8	6	1.5
あなたの情報を伝えたくて、電話や自宅訪問による具体的な相談	40	6.9	12	7.1	27	6.6
出向いて相談できる身近な窓口	25	4.3	11	6.5	14	3.4
相談があった家族に担当者をつけてくれる支援機関	26	4.5	9	5.4	17	4.1
悩みが複雑な時に、複数の機関を調整してもらえる支援機関	29	5.0	9	5.4	20	4.9
お世話をしている方のためのカウンセリングの機会	8	1.4	1	0.6	7	1.7
自分が昼間に休める時間	2	0.3	1	0.6	1	0.2
自分が夜に休める（十分に睡眠が取れる）時間	10	1.7	3	1.8	7	1.7
家事の援助サービス	4	0.7	1	0.6	3	0.7
お世話を一時的に代わってくれる方の派遣	2	0.3	-	-	2	0.5
制度以外の近隣の助け合い・ボランティアの派遣	-	-	-	-	-	-
お世話をしながら働ける（お世話と仕事との両立）環境づくり	5	0.9	-	-	5	1.2
自分がお世話をできなくなった後に代わりにお世話を する方の確保	12	2.1	2	1.2	10	2.4
お世話をしている方同士の交流	1	0.2	1	0.6	-	-
お世話の技術が学べる場（研修、教室など）	5	0.9	1	0.6	4	1.0
お世話をすることに對して周りの方の理解	1	0.2	-	-	1	0.2
困っているときのご近所（自治会など）の声かけ・励まし	1	0.2	-	-	1	0.2
自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる方 やサービス	1	0.2	1	0.6	-	-
お世話が必要な方の短期入所（ショートステイ）	4	0.7	-	-	4	1.0
緊急時でも安心して預かってくれる場所	21	3.6	6	3.6	15	3.6
お世話が必要な方が身近に利用できるサービス	1	0.2	1	0.6	-	-
お世話が必要な方が入所できる施設	6	1.0	1	0.6	5	1.2
経済的な支援	13	2.2	9	5.4	4	1.0
お世話をしている方のための健康管理（健康診断、健康手帳の発行など）	2	0.3	-	-	2	0.5
お世話しながらできる余暇活動などの提案・新しい仲間 づくり支援	-	-	-	-	-	-
お世話と両立ができる職場探し	1	0.2	1	0.6	-	-
その他	1	0.2	-	-	1	0.2
無回答	341	58.7	92	54.8	248	60.3

①性別

性別では、「男性」は「あなたの情報を伝えたいうえで、電話や自宅訪問による具体的な相談」が7.1%で最も多く、次いで「出向いて相談できる身近な窓口」が6.5%、「悩みが複雑な時に、複数の機関を調整してもらえる支援機関」が5.4%と続いており、「女性」も「あなたの情報を伝えたいうえで、電話や自宅訪問による具体的な相談」が6.6%で最も多く、次いで「悩みが複雑な時に、複数の機関を調整してもらえる支援機関」が4.9%、「相談があった家族に担当者をつけてくれる支援機関」が4.1%と続いている。

〔図 2-6-6 最も必要な支援（性別）〕

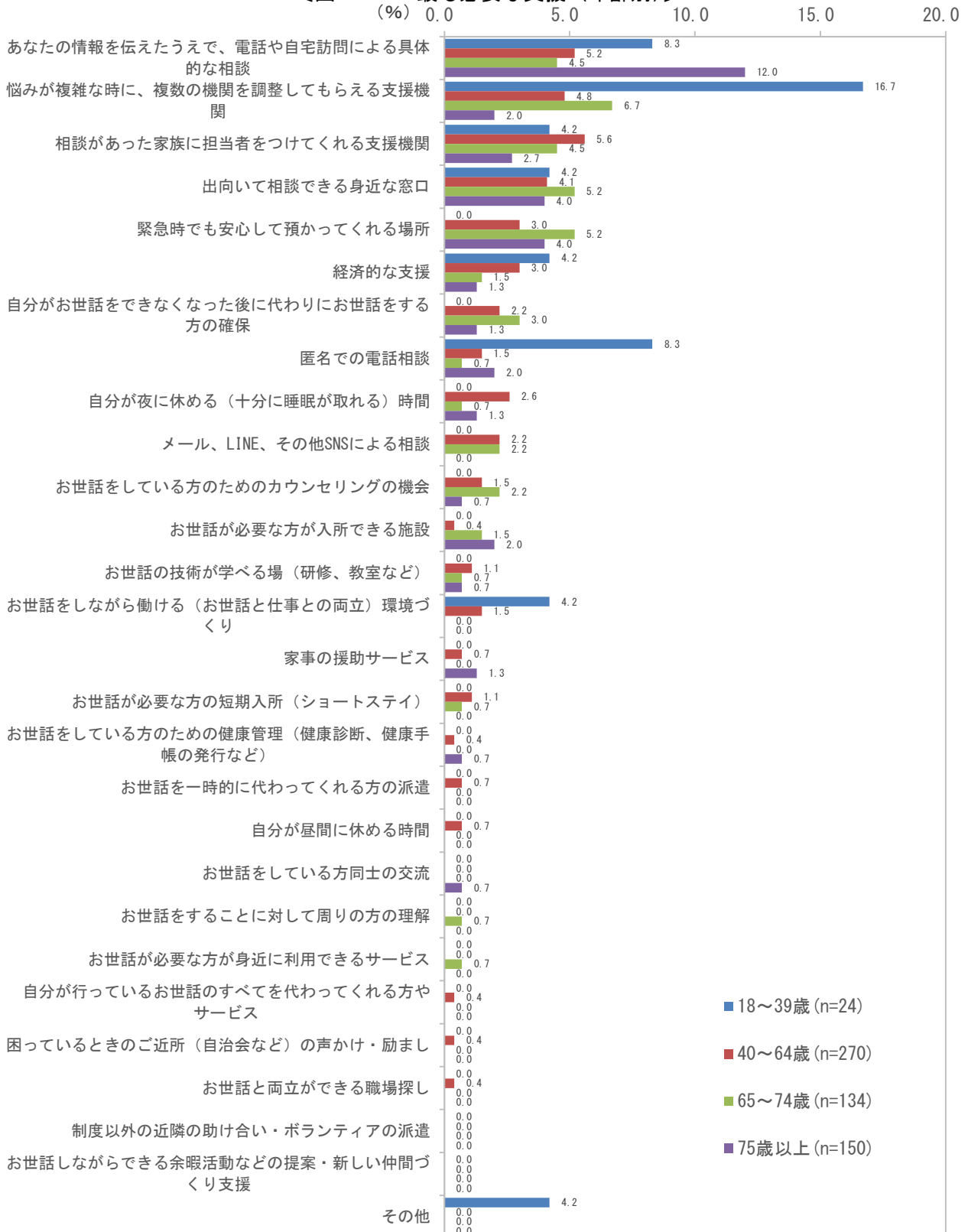


②年齢別

年齢別では、「40～64歳」は「相談があった家族に担当者をつけてくれる支援機関」が5.6%で最も多く、次いで「あなたの情報を伝えたいうえで、電話や自宅訪問による具体的な相談」が5.2%、「悩みが複雑な時に、複数の機関を調整してもらえる支援機関」が4.8%と続いており、「65～74歳」は「悩みが複雑な時に、複数の機関を調整してもらえる支援機関」が6.7%で最も多く、次いで「出向いて相談できる身近な窓口」・「緊急時でも安心して預かってくれる場所」が5.2%と続いている。

「75歳以上」は「あなたの情報を伝えたいうえで、電話や自宅訪問による具体的な相談」が12.0%で最も多く、次いで「出向いて相談できる身近な窓口」・「緊急時でも安心して預かってくれる場所」が4.0%と続いている。

〔図 2-6-7 最も必要な支援（年齢別）〕



〔表 2-6-5 最も必要な支援（年齢別）〕

（左：人/右：％）

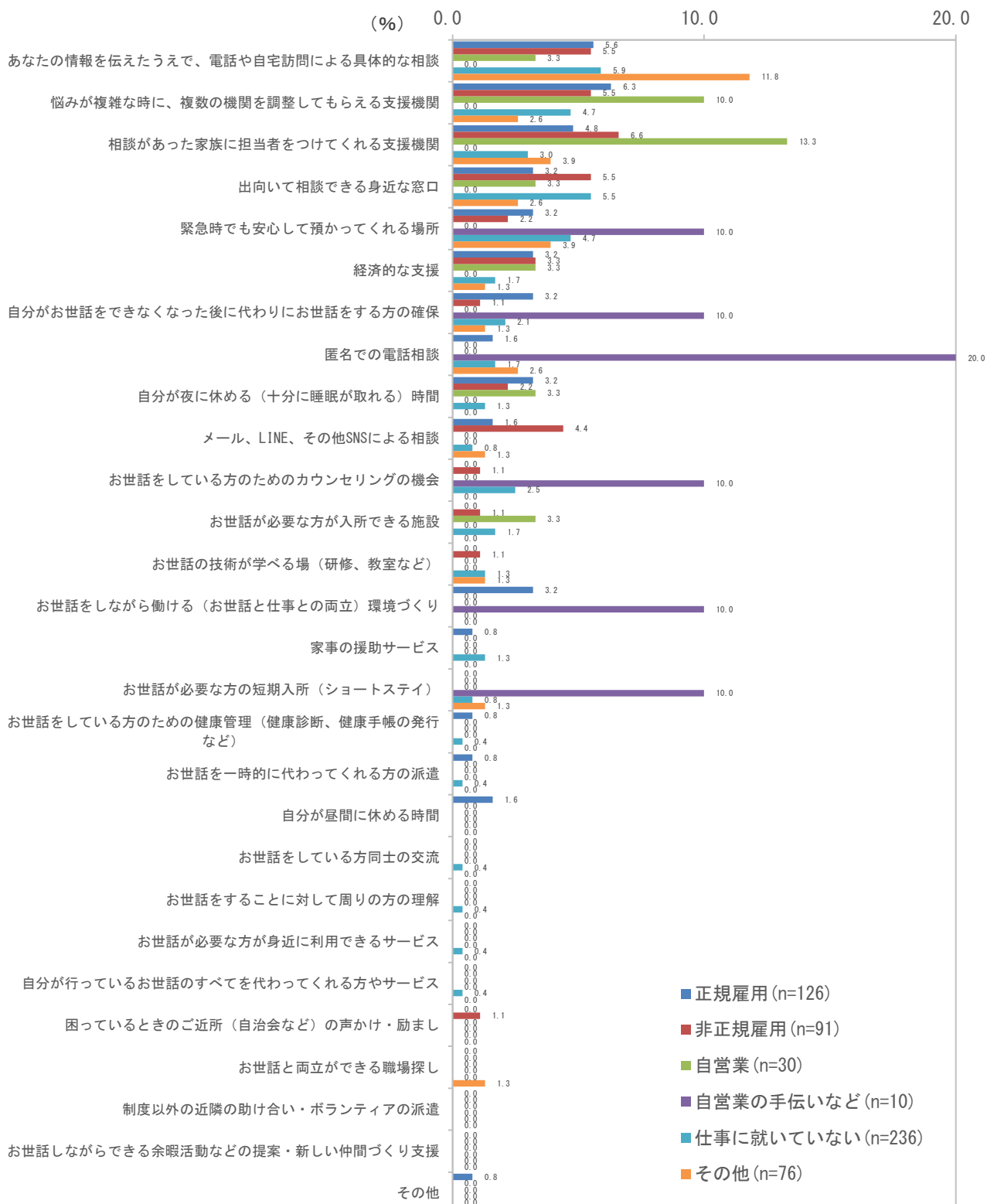
	18歳未満		18～39歳		40～64歳		65～74歳		75歳以上	
	人	％	人	％	人	％	人	％	人	％
合計	1	100.0	24	100.0	270	100.0	134	100.0	150	100.0
匿名での電話相談	-	-	2	8.3	4	1.5	1	0.7	3	2.0
メール、LINE、その他SNSによる相談	-	-	-	-	6	2.2	3	2.2	-	-
あなたの情報を伝えたいうえで、電話や自宅訪問による具体的な相談	-	-	2	8.3	14	5.2	6	4.5	18	12.0
出向いて相談できる身近な窓口	-	-	1	4.2	11	4.1	7	5.2	6	4.0
相談があった家族に担当者をつけてくれる支援機関	-	-	1	4.2	15	5.6	6	4.5	4	2.7
悩みが複雑な時に、複数の機関を調整してもらえる支援機関	-	-	4	16.7	13	4.8	9	6.7	3	2.0
お世話をしている方のためのカウンセリングの機会	-	-	-	-	4	1.5	3	2.2	1	0.7
自分が昼間に休める時間	-	-	-	-	2	0.7	-	-	-	-
自分が夜に休める（十分に睡眠が取れる）時間	-	-	-	-	7	2.6	1	0.7	2	1.3
家事の援助サービス	-	-	-	-	2	0.7	-	-	2	1.3
お世話を一時的に代わってくれる方の派遣	-	-	-	-	2	0.7	-	-	-	-
制度以外の近隣の助け合い・ボランティアの派遣	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
お世話をしながら働ける（お世話と仕事との両立）環境づくり	-	-	1	4.2	4	1.5	-	-	-	-
自分がお世話をできなくなった後に代わりにお世話をする方の確保	-	-	-	-	6	2.2	4	3.0	2	1.3
お世話をしている方同士の交流	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.7
お世話の技術が学べる場（研修、教室など）	-	-	-	-	3	1.1	1	0.7	1	0.7
お世話をすることに対して周りの方の理解	-	-	-	-	-	-	1	0.7	-	-
困っているときのご近所（自治会など）の声かけ・励まし	-	-	-	-	1	0.4	-	-	-	-
自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる方やサービス	-	-	-	-	1	0.4	-	-	-	-
お世話が必要な方の短期入所（ショートステイ）	-	-	-	-	3	1.1	1	0.7	-	-
緊急時でも安心して預かってくれる場所	-	-	-	-	8	3.0	7	5.2	6	4.0
お世話が必要な方が身近に利用できるサービス	-	-	-	-	-	-	1	0.7	-	-
お世話が必要な方が入所できる施設	-	-	-	-	1	0.4	2	1.5	3	2.0
経済的な支援	-	-	1	4.2	8	3.0	2	1.5	2	1.3
お世話をしている方のための健康管理（健康診断、健康手帳の発行など）	-	-	-	-	1	0.4	-	-	1	0.7
お世話しながらできる余暇活動などの提案・新しい仲間づくり支援	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
お世話と両立ができる職場探し	-	-	-	-	1	0.4	-	-	-	-
その他	-	-	1	4.2	-	-	-	-	-	-
無回答	1	100.0	11	45.8	153	56.7	79	59.0	95	63.3

③職業別

職業別では、「正規雇用」は「悩みが複雑な時に、複数の機関を調整してもらえる支援機関」が6.3%で最も多く、次いで「あなたの情報を伝えたいうえで、電話や自宅訪問による具体的な相談」が5.6%、「相談があった家族に担当者をつけてくれる支援機関」が4.8%と続いており、「非正規雇用」は「相談があった家族に担当者をつけてくれる支援機関」が6.6%で最も多く、次いで「悩みが複雑な時に、複数の機関を調整してもらえる支援機関」・「あなたの情報を伝えたいうえで、電話や自宅訪問による具体的な相談」・「出向いて相談できる身近な窓口」が5.5%と続いている。

「仕事に就いていない」は「あなたの情報を伝えたいうえで、電話や自宅訪問による具体的な相談」が5.9%で最も多く、次いで「出向いて相談できる身近な窓口」が5.5%、「悩みが複雑な時に、複数の機関を調整してもらえる支援機関」・「緊急時でも安心して預かってくれる場所」が4.7%と続いている。

〔図 2-6-8 最も必要な支援（職業別）〕



〔表 2-6-6 最も必要な支援（職業別）〕

(左：人/右：%)

	正規雇用		非正規雇用		自営業		自営業の手伝いなど		仕事に就いていない		学生		その他	
合計	126	100.0	91	100.0	30	100.0	10	100.0	236	100.0	1	100.0	76	100.0
匿名での電話相談	2	1.6	-	-	-	-	2	20.0	4	1.7	-	-	2	2.6
メール、LINE、その他SNSによる相談	2	1.6	4	4.4	-	-	-	-	2	0.8	-	-	1	1.3
あなたの情報を伝えたくて、電話や自宅訪問による具体的な相談	7	5.6	5	5.5	1	3.3	-	-	14	5.9	-	-	9	11.8
出向いて相談できる身近な窓口	4	3.2	5	5.5	1	3.3	-	-	13	5.5	-	-	2	2.6
相談があった家族に担当者をつけてくれる支援機関	6	4.8	6	6.6	4	13.3	-	-	7	3.0	-	-	3	3.9
悩みが複雑な時に、複数の機関を調整してもらえる支援機関	8	6.3	5	5.5	3	10.0	-	-	11	4.7	-	-	2	2.6
お世話をしている方のためのカウンセリングの機会	-	-	1	1.1	-	-	1	10.0	6	2.5	-	-	-	-
自分が昼間に休める時間	2	1.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
自分が夜に休める（十分に睡眠が取れる）時間	4	3.2	2	2.2	1	3.3	-	-	3	1.3	-	-	-	-
家事の援助サービス	1	0.8	-	-	-	-	-	-	3	1.3	-	-	-	-
お世話を一時的に代わってくれる方の派遣	1	0.8	-	-	-	-	-	-	1	0.4	-	-	-	-
制度以外の近隣の助け合い・ボランティアの派遣	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
お世話をしながら働ける（お世話と仕事との両立）環境づくり	4	3.2	-	-	-	-	1	10.0	-	-	-	-	-	-
自分がお世話をできなくなった後に代わりにお世話をしてくれる方の確保	4	3.2	1	1.1	-	-	1	10.0	5	2.1	-	-	1	1.3
お世話をしている方同士の交流	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.4	-	-	-	-
お世話の技術が学べる場（研修、教室など）	-	-	1	1.1	-	-	-	-	3	1.3	-	-	1	1.3
お世話をすることに対して周りの方の理解	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.4	-	-	-	-
困っているときのご近所（自治会など）の声かけ・助直し	-	-	1	1.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる方やサービス	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.4	-	-	-	-
お世話が必要な方の短期入所（ショートステイ）	-	-	-	-	-	-	1	10.0	2	0.8	-	-	1	1.3
緊急時でも安心して預かってくれる場所	4	3.2	2	2.2	-	-	1	10.0	11	4.7	-	-	3	3.9
お世話が必要な方が身近に利用できるサービス	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.4	-	-	-	-
お世話が必要な方が入所できる施設	-	-	1	1.1	1	3.3	-	-	4	1.7	-	-	-	-
経済的な支援	4	3.2	3	3.3	1	3.3	-	-	4	1.7	-	-	1	1.3
お世話をしている方のための健康管理（健康診断、健康手帳の発行など）	1	0.8	-	-	-	-	-	-	1	0.4	-	-	-	-
お世話しながらできる余暇活動などの提案・新しい仲間づくり支援	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
お世話と両立ができる職場探し	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.3
その他	1	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	71	56.3	54	59.3	18	60.0	3	30.0	138	58.5	1	100.0	49	64.5

7. お世話で困ったこと、悩んでいること

※個人が特定される可能性のある、居住地や固有名詞などについては編集して記載

性別	年齢	職業別	困ったこと
男性	18～39 歳	正規雇用	うちの家は田舎の限界集落にあります。年金は年間で 100 万弱、他の収入もない中、父は独居しています。難病を持っているため医療費などもそれなりにかかり、介護サービスを多く利用すると生活があっぱくされます。可処分所得が減る中で、本人の好きなことをするのもにも限度があり、このまま衰えていくのを見続けるのも辛いです。
男性	18～39 歳	正規雇用	困っている時に泊まれる場所をもっと作ってほしい。お世話している人のレスパイトを考えてほしい。
男性	18～39 歳	正規雇用	夜にお世話のために呼ばれる回数が多い日に寝れなくて困った。また、その頻度が数日続いて心身共に疲弊して祖父とケンカがちになってしまった。
女性	18～39 歳	正規雇用	公立中学校に現在通っていますが、普通級の場合、担任や学校の理解が不十分に感じる。忙しく対応できることも難しいと思うが、発達障害についての対応が不十分に感じています。学校に相談しても、あたりさわりのない対応なので、相談することをあきらめています。支援事業所には十分対応していただいているのでありがたいです。
女性	18～39 歳	正規雇用	週 3 回透析に通っているが、タクシー券も 1 ヶ月ちょっとで使い果たすし、病院の近くに引越したが家賃は安くない。補助もない。病院が近くても歩けないため、1 メーターで行ける所を探した。病院の送迎もないので金銭面でも不安がある。
女性	18～39 歳	正規雇用	精神障害で今は落ち着いたが、今度不安定になられた時の自分のメンタルが不安。
男性	40～64 歳	正規雇用	サービスを使うことを母がなっとくしない。昼夜かんけいなく泣いたりする。
男性	40～64 歳	正規雇用	公共賃貸住宅に高齢者対応の住宅(生活監視者住居住宅)提供を求める。
男性	40～64 歳	正規雇用	将来の施設入所について(生活保護等を含めた)。
男性	40～64 歳	正規雇用	世話をしている相手(母)が、サービスを利用したくないと言う(家に入れたくない)。
男性	40～64 歳	正規雇用	子供が私だけなので先の事が心配です。
男性	40～64 歳	正規雇用	介護と仕事を両立するため、入社退社時間を通所サービスの送迎時間に合わせる必要があるので支障があります。通所サービスの営業時間をもっと幅広くしてほしいです。
男性	40～64 歳	正規雇用	周りは心配しているが、本人は気ままな感覚でむり。こちらからの要望などは聞いてくれない。
男性	40～64 歳	正規雇用	サービス内容をかたんにまとめてある物やオムツ使用後の援助。
男性	40～64 歳	正規雇用	新型コロナウイルス感染症の影響で、外へ出る機会(買い物・散歩)、他人がたずねてくる機会が激減した為、人との会話・交流がほぼなくなった為、精神的にちょっとまいってきている。
男性	40～64 歳	正規雇用	包括支援センターの方が相談にのってくれて助かります。
女性	40～64 歳	正規雇用	職場に穴をあけることができないので、世話がいき届かない。精神的にまいってしまう。

性別	年齢	職業別	困ったこと
女性	40～64 歳	正規雇用	介護している自分への周りの理解が得られない。実際してみないと、していない人のアドバイス等と言われても、逆に自分が責められているような気持ちになることで介護に行き詰まる。
女性	40～64 歳	正規雇用	資産管理、銀行に行くにも本人が必要。仕事を休んで対応しなければならない。後見人までは親子ではできない。
女性	40～64 歳	正規雇用	体調をくずし介護者が入院となった場合の預け先が少なく、緊急時の不安を感じる。少しの間も目を離せない状態であるので、不眠状態の時があるが、就労している為、休みも急にとれない。
女性	40～64 歳	正規雇用	以前、母の受診日で支度をしていると、子供のうつ状態が酷くなっており、子供を一人置いて通院付添いすることに戸惑いました。主人も帰ってこれないとのことだったので、非常に困りましたが、子供と一緒に病院に付いてくるということでその日は大丈夫でしたが、このような時に代わりに病院に付添いをしてくれる方がいれば…と思いました。
女性	40～64 歳	正規雇用	サービス不足。デイサービスにもっと通いたい。
女性	40～64 歳	正規雇用	本人が毎日の生活パターンを決めていて、それ以外のことや自分が決めていること以外のことをするとおこるので、接するだけでストレスになる。仕事もストレスが多いのと、自宅から時間がかかる場所があるので、職場を変えようかと思っている。
女性	40～64 歳	正規雇用	近くに住んでいるのに充分なお世話ができない罪悪感。できない事が多くなる両親を近くでみるのが精神的にきつい。
女性	40～64 歳	正規雇用	介護の知識がなかったので、学べる場所があればと感じた。1日中1対1でいるのは大変だと思った。
女性	40～64 歳	正規雇用	認知症の為、今言ったこともすぐ忘れ、同じことを何度も尋ねる。一人言、見えない物に話しかけたりする。お風呂に入りたがらない。毎日、失禁している。ガスの消し忘れ(自然に消えるようになっている)。施設に入れても性格的に離設の可能性があるので、今の所、在宅で好きな様に生活させている。昼間は独居で、クーラーもつけないことがあるので、熱中症の心配もある。
女性	40～64 歳	正規雇用	毎週 2 時間かけて帰省しています。往復 4 時間かかっています。その中で家族ができる事を支援しています。ヘルパーさんも利用していますが、もう少し、ヘルパー利用のできる支援の範囲をゆるめてほしい。
女性	40～64 歳	正規雇用	最近利用していた「お泊りデイ」がなくなり、「ショート」利用へ。本人はショートだと 1 日中ボーとしているだけなので「お泊りデイ」の方が楽しいのでは？と考えてしまうが、その介護サービス事業所の方針なので仕方がないのであろう。と残念に思っている。
女性	40～64 歳	正規雇用	母は有料老人ホームにいるが、コロナが始まって、面会制限やサービス利用制限あって、ずいぶん弱った。施設にいれなければ、就業できないが、利用中の状況や本人の様子が分からない不安がある。
女性	40～64 歳	正規雇用	何とか介護してます。毎日つかれてます。それでも独身の私は働かないといけない。将来自分が老いた時のことを考えて。厳しい言い方をしますが、実際、介護してみた方でないといけないと思います。一生懸命しているのに母から罵倒され、それでも、自宅で過ごしたい人だからがまんするしかない。時に私も大きな声を出しますが、そうすると自己嫌悪。85 歳の父が何とかみているから今はふんばってますが、父が病気になったら、父が死んだら。と思うと不安でしかないです。

性別	年齢	職業別	困ったこと
女性	40～64歳	正規雇用	もっと介護サービスを利用してほしいが、本人が行きたがらない。週2回デイケアを利用してくれているが、週3～4回、私としては行ってほしいが、意見が合わずせつとくできない。
女性	40～64歳	正規雇用	新型コロナウイルスに本人が感染した時、ヘルパーやデイサービス利用できなくなり困った。
女性	40～64歳	正規雇用	デイサービスに母が行っているが、具合が悪くなった場合、家族が迎えに行かないといけませんが、働いている上、車がないので、介護タクシーをたのまないといけませんが、自宅に送ってもらえないのはなぜでしょうか？具合は悪いのならそのまま病院に連れて行ってもらった方が助かりますが、一度自宅に連れ帰り、又、病院を捜して連れていくのは本人に負担がかかると思いますが、急に介護タクシーは見つからないと思うし、前に病院の退院の時に介護タクシーを捜したがなかなか見つからず、やっと来た介護タクシーの方は、あまり介護の事は知らず、嫌な思いをしたので、車を持たない家族の介護者の移動方法を詳しく教えてほしい。
女性	40～64歳	正規雇用	認知症なので見守りながら、家事をするのがままならない時がある。コロナ禍なので、家族が体調不良だと、デイサービスを休ませ本人を見とかないといけませんが(仕事にいけない)。
女性	40～64歳	正規雇用	受診のために有休を使うために、有休が足りなくなってしまいます。介護休暇が1日単位取得する事ができれば良いのと思います。ケアマネジャーも私が担当しているため、時々、客観的に見る事ができない事もありますが、他サービスのスタッフの方に助けて頂きありがたいです。
女性	40～64歳	正規雇用	自分が仕事で不在となり、平日は通所利用しているが、事業所の都合やコロナ感染等で利用が出来ず、仕事を休まないといけませんが、制度で、介護休暇の定義の見直しができるといい。
女性	40～64歳	正規雇用	いろんな事(ヘルパーさんを家の中へ入れたがらない、など細かい事全て)に対して、母だけなのか、ほとんどの方の「あるある」なのかがわからず辛い。「あるある」とわかれば、少し気が楽になる。ゴミの日やゴミの出し方もわからなかった。今も焼却ゴミ以外わからない。
女性	40～64歳	正規雇用	食べれるものが限られており、他の方の調理がたべれない。地域が限定されているので、関わりを知られたくない。ヘルパーや介護施設職員の立ちふるまいに疑問を感じている(不信感)。地域的に他人へのきもちがやさしくないなので、今後は心配である。
女性	40～64歳	正規雇用	色々とサービスは利用していますが、仕事と施設等の時間調整がつかない場合、悩む事があります。就労時間と施設のサービス時間が同じなので、どうしてもあわない。
女性	40～64歳	正規雇用	コロナの影響でショートステイやデイサービスが使用できないこともあり、その際自宅で全て自分がお世話をしたことが多かった。困った時は、ケアマネさんに相談できているので助かっています。
女性	40～64歳	正規雇用	子育て、仕事、介護、家事とで毎日がバタバタ過ごしています。バタバタでやる事が多すぎて、毎日の記憶がありません。自分のゆっくりとした時間がほしいです。
女性	40～64歳	正規雇用	車で15分の距離ではあるが別居なので、風邪やけが等で通常の薬に加え違う薬が出た時に、飲み間違えないように仕分けして置いていてもよく理解ができず、正しく飲めないのが心配。

性別	年齢	職業別	困ったこと
女性	40～64 歳	正規雇用	独居の母の世話を仕事（フルタイム）しながらしているのですが、毎日デイサービスを利用しているもののデイから帰宅した後の時間帯が転倒、外出等の不安がある。
男性	65～74 歳	正規雇用	体感温度の違いで暑くてもエアコンを消すので困っている。閉じ込めり傾向（出掛けたからない。すぐ家に帰りたいがる）。する事が無いとデイ利用日以外は寝ている事が多い。他者を叩く事がある。
男性	65～74 歳	正規雇用	介護を受けている親が、他人を家に入れる事をいやがるので、掃除・洗濯等の家事をひとりでしています。せめて本人がいないデイサービスを利用している時間帯でも家事の援助サービスの利用が受けられるようにしてほしい。
女性	65～74 歳	正規雇用	サービス利用には限度があり、相談してもできることできないことがあるので、安く（自費で）代わりにお世話して下さる方がいれば（制度や会）ありがたいです。（個別ケアを本当に考えてくれるとうれしい。心のケア。）
女性	65～74 歳	正規雇用	やさしく世話をしようと思うが、つついけんかごしになってしまい、母をイヤな気持ちにさせてしまう事。
女性	75 歳以上	正規雇用	昼間 1 人であるので間で見守りして頂ける人がいれば安心して仕事ができます。夫が同じ事を母が話すのでストレスが溜まってしまい夫婦でけんかになることがあります。
男性	18～39 歳	非正規雇用	母がいつも必要な時は家出をする。その為、子ども達との関係性も悪い。
女性	18～39 歳	非正規雇用	施設に入所させたいと思うが、お金がかかる。毎月何万円も何年払わないといけないのか考えたら、自宅のみしかない。
女性	18～39 歳	非正規雇用	自分がない間に近くの知人だという人がかってに父を連れ出して、選挙で一票投じさせていたことがあった。市営アパートだが、モニター録画付きインターホンだったら証拠も残せていざという時役だったのにと感じた。
男性	40～64 歳	非正規雇用	2 人のうち 1 人が入院等、突発的にいつでも預かって頂ける窓口が欲しいところです。
男性	40～64 歳	非正規雇用	残存歯、義歯が共に無く、食事を与える際の工夫やメニュー等の情報や家族と同じ物を与えられない（柔らかい物、ペースト状にする等）。食事量が少ない為に常温の作り置きが出来ない。（季節により傷む等）
男性	40～64 歳	非正規雇用	新型コロナウイルスは五類に変更されましたが、親族の同居家族にコロナ感染者が出た時に、感染していない家族をショートステイに預けようとしたのですが、全て断られ、介護している母と家族を同時に世話する事になりとても大変だった。

性別	年齢	職業別	困ったこと
女性	40～64 歳	非正規雇用	子供を出産後、授乳中に、別居中の母の介護の補助をしていました。日中も行くようにし子供を連れて実家へ。掃除などもしながら、子供に授乳しながらでした。母を車へ乗せ、車イスも乗せて、抱っこひもで子を背中におんぶしながら、車イスへ移ってもらって、母の通院へ。「預かり保育があります。利用して下さい」と公的機関は言うけれど、利用したい時は「今日は一時預かりはできません」「いっぱいです」と全保育所から断られる…。朝から体調悪い、預かってほしいと思っても「事前に予約をしないと」と言われる。サービスも機能していませんでした。母が病院に入院してからも、カンファレンスなど呼出があっても、集中して話なんて聞けず、とりあえず来ただけになり、母の助けはできていなかったと思います。家事・授乳後に、自宅にいる母へ食事を数回分届けて、母の元へ行けるのはいつも夜 22～24 時頃。気がくるいそう、病んでいました。トイレ介助も行い帰宅。母は他界し、過去の話ですが、参考になれば幸いです。実家がないって大変…このことは本当には理解は周囲から得られないと実感しています。
女性	40～64 歳	非正規雇用	今は特にないが、高齢(90 才)で一人暮らし、内服もしているため、今後はもう少し密に訪問して、みていかなければと思っています。
女性	40～64 歳	非正規雇用	コロナウイルスに感染した時、義母や家族に感染しないようにと、娘を呼び、家事・食事の段取りをしてもらい、助かった。1人暮しや、手伝える人がいない人は、どのように支援してもらえるのか。自分達も心配になった。
女性	40～64 歳	非正規雇用	ディサービスのスタッフの声かけには、素直に応じてくれるが、娘様の声かけには、反抗されることに困っているとの事。(例、紙パンツをはこうとしない)
女性	40～64 歳	非正規雇用	県外に居住している為、車で帰省していますが、年々体に負担もかかってきて、今後いつまで続けられるか不安です。
女性	40～64 歳	非正規雇用	入院治療時に介護 4 の認定でしたが、今は日常生活もできるようになりました。ただ、紙パンツ、尿とりパッドをまだ手離せない状態で、シルバーカーも必要な状況で、要介護認定に該当しないという判定を受けました。介護 1 程度の判定になるかと思っていましたので驚きました。
女性	40～64 歳	非正規雇用	自分以外介護する者がいない事が不安。コロナに感染した時は、サービス利用できず、収入も減り困った。
女性	40～64 歳	非正規雇用	外に出たがらない義父(要支援 2)、座ってテレビを見てばかりで足の筋力が衰えてきている。リハビリに行きたがらない。
女性	40～64 歳	非正規雇用	手続きなど行けず(時間があわない)、必要な手続きがすすまない。夕方から行ける病院や、役所手続き(病院や役所の時間内に行けない)。
女性	40～64 歳	非正規雇用	徐々に昔の母でなくなってくるのをうけ入れ難く、悲しい想いが募ること。また、日々の暮らしの中でついイライラして強い口調で言ってしまうと、後ですごく後悔して自責の念にかられる。別居の妹などは「年だから仕方ないよ」と云うが、つい私も、そう言える立場の方にまわりたいと思ってしまう。介護する側は常に心の葛藤を抱えている。私は幸い仕事をする事で多くの人と接し、気持の安定を保っているが、近い将来仕事を辞めた時の方が不安だと思う(時間のゆとりが心のゆとりとは限らない)。

性別	年齢	職業別	困ったこと
女性	40～64 歳	非正規雇用	食事のメニューに困ってます。入れ歯で、好き嫌いがある為、食べやすい物と思うとどうしてもワンパターンになってしまいます。栄養のことも考えながら作りたいたのですが…。
女性	40～64 歳	非正規雇用	契約しているショートステイがあるが、新型コロナウイルスが心配で利用することにととてもとても不安があり、利用していません。
女性	40～64 歳	非正規雇用	介護者がほぼ自分だけなので、サービスを沢山使うにも介ごサービスには色々決まりや点数もあり困難。実家もですが、嫁に行った先での事情もあり、仕事もパートですがありキツイ。
女性	40～64 歳	非正規雇用	認知より精神症状がひどく、言動も波がある。身体機能も低下してきているが、ある程度身の回りの事ができるため介護度が上がらないため、介護サービスが思うように使えない。もう少し介ご保険サービスを利用したい。
女性	40～64 歳	非正規雇用	本人の何かやりたいという気持ち(軽い農作業等)と転倒やケガとのリスク回避の声がけバランスが難しい。
女性	40～64 歳	非正規雇用	近くに住んでいることでの負担が大きく、姉妹から、近くにいる人が介助するのは当たり前だと言われる。言葉もきつく、精神的にストレス。自分の家庭と仕事、介護の両立はかなり疲れる。
女性	40～64 歳	非正規雇用	お世話されている本人がサービスの受け入れをしない。拒否が強い。いろんな事に対するこだわりが強く、家族じゃないと対応出来ない。家族でも、看れる人が限られてしまう。
女性	40～64 歳	非正規雇用	冷房中なのに窓をあけてしまう。張り紙をしてでも何回もくり返す。認知症でも人それぞれだとは思いますが、何を言っても、しても無駄に終わりむくわれない！相手が変わらなければ自分が変わるしかないと考えたけれど、モチベーションが中々あがらない日々です。
女性	40～64 歳	非正規雇用	ショートステイを利用していましたが、コロナ対策で、利用前に本人が抗原検査を受けていた。検査は鼻ぬぐい式で痛みを伴うため、本人がショートを利用しなくなりました。デイケアを利用しているが、ショートも利用してほしい。休養がとれない。
女性	40～64 歳	非正規雇用	私自身がコロナ感染し、療養したかったが、私以外に世話をする人がいないので、大変辛い状況で家事等を行った。
女性	40～64 歳	非正規雇用	母は要介 5 で特養入所中。父母の年金等で毎月の支払いはできていますが、父も要援→介 1→介 2 となり、自宅で独居は困窮(歩けなくなっている。尿便失禁、食事)となってきた。2 人共に施設入所となると経済的に心配。週末と週の間中に訪問しているが、新しい仕事も探しているが、最近急な病院受診が入るので仕事に就くのが心配。不安です。
女性	40～64 歳	非正規雇用	本人は今の所、自分でできますが、認知症が進んだ時、入所できる所が見つかるかどうか、世話をしている人が病気・けがで世話が出来なくなった時どうなるのか。
女性	40～64 歳	非正規雇用	義母は大勢の中に入るのは好まず、腕や下肢を骨折した時も住宅改修のみで、通所の利用を義姉も勧めてくれたが拒否。私が休みの日、いつもいるので息が詰まる。どこか出てくれないかなあと思う。結構頑固。

性別	年齢	職業別	困ったこと
女性	40～64 歳	非正規雇用	お世話が必要な時、急な場合に、仕事を途中で帰る事ができません。(人手不足の為)
女性	40～64 歳	非正規雇用	嚥下状態があまり良くない為、食事や水分摂取に苦慮しています。デイサービスを利用しながら、いろいろと助けていただき感謝しかありません。
女性	40～64 歳	非正規雇用	妄想がひどくて、同居の父がたいへんです。認知症のことを本人に理解してもらう方法がわからない。伝えられていない。
女性	40～64 歳	非正規雇用	認知症の進行(個人差はあると思いますが)など分かる冊子などあればいいと思います。
女性	40～64 歳	非正規雇用	介護制度を知っている方なので、サービスの利用も行っている。同居家族がいると、生活支援でヘルパーさんが利用できないので、身体介護の分、割高になっている。
男性	65～74 歳	非正規雇用	認知症ですが、その症状が対処がわかりません。特にトイレ(頻回)、睡眠。
男性	65～74 歳	非正規雇用	ショートから病院へのくりかえしで、看取りを含めて終身まで見てくれる所をさがすのにつかれました。
男性	65～74 歳	非正規雇用	今のところ特にない。ショートステイやデイサービスを利用してくれたら助かるが、本人が嫌がる。
男性	65～74 歳	非正規雇用	各種サービスを利用したいが、本人に問題あり、利用できない。どうする事も出来ない状態。問題点：認知がある。ヘルパーさんの掃除の仕方が気に入らない。盗まれたと妄想。ディの方や訪問看護の方が赤ちゃん言葉を使い、プライドを傷つけられる。
男性	65～74 歳	非正規雇用	おむつ交換(本人が抵抗する為、時間がかかる)。
女性	65～74 歳	非正規雇用	自宅のトイレが車椅子より幅が狭い為、排便させられない(ポータブルトイレももてない為、使用できない)。
女性	65～74 歳	非正規雇用	義母 93 才、私 66 才 腰椎圧迫骨折の完治後退院。仲良くしていたが、ショートステイ月に 3 泊 4 日とデイ月～土利用中、ショートステイが気に入らず一言も口をきかないが、主人と義妹の理解の中、私としては順調に生活していると思っている。
女性	65～74 歳	非正規雇用	義母なので気をつかう。夫も他界し、みる人は自分しかいないが、母も家と老健の行き来はきついと思う。でもお金のことがあるので、有料老人ホームなどはお金だせない。自分の仕事は生計のために必要。要介護 3 になったら特養の申し込みをします。
女性	65～74 歳	非正規雇用	①病院の通院で午前中のときがあり、仕事が休めないとき、妹も都合がつかず困っています。通院のつきそいをしてくださる方がいらっしやると助かります。②朝、失禁した時、仕事前に洗濯着替えの世話をするのが大変です。③温泉に行きたくても父の手伝いをしてくれる人がいなくて行けない。
女性	65～74 歳	非正規雇用	避難先の紹介をいただきますが、起き上がり動作や立ち上がり動作に介助が必要ですので生活できるか心配です。サービス事業所が少なく、リハビリの相談できる、リハビリを受ける場所があると助かります。
男性	40～64 歳	自営業	被害妄想がひどくなり、特定の相手に対して危害を加えるおそれが有るのに、精神科が入院させてくれない。見守りをしておく必要がある。本人は、相手から盗まれたのだから、文句を言うのは当然のこととさかずトラブルになった。本人も辛い事だと思う。

性別	年齢	職業別	困ったこと
男性	40～64 歳	自営業	今年始めのことです。母親が自宅でけいれんを起こしパニック状態になりました。かかりつけ医に連絡するも「手がいっぱいなので救急車を呼んで他の病院へ行かれています」ということで救急車を呼んだのですが、救急隊の方の必死な交渉にもかかわらず「紹介状が用意できなければ受け入れることはできない」と市内の大きな病院すべてに受け入れを断られ救急隊の方々も無念のまま帰られました。その後専門の病院を自力で見つけ治療が受けられたのは2週間後です。医療のことは素人なのですみませんよくわからないのですが、突発的な症状の中にはかかりつけ医の専門外もあって当然のように思います。これは誰かが悪いのではなく紹介状制度の穴ではないかと思いました。「紹介状がなければ病院は受け入れられない」というのが基本常識だと聞きましたが、この体験から「紹介状も用意できない緊急の場合はどうするか」といった最終手段の選択肢も用意してあったほうが良いのではと考えました。これは今の医療システムを否定するものではありません。体験者の素朴な疑問からの提案程度にとっていただければ幸いです。
女性	40～64 歳	自営業	88 才の母に暴言を吐いてしまう。通所の担当者・ケアマネさん・主治医に悩みを聞いてもらう。主治医から「普通の認知症」と言われると辛いことがある。母と父と20代の娘と住んでいるが、母が夜中に外出しようとするので、不眠が続く。ショートステイとデイサービスを利用しているが、介護2で限度額を月に3万～5万超える。グループホームに入りたいが悩ましい。
女性	40～64 歳	自営業	認知症ではいかいがひどくて大変でした。食べてお腹が一杯なのが分からなくて、食べても食べても冷蔵庫を開けて、何でも食べていたので、大変でした。
女性	40～64 歳	自営業	認知症状による行動でクーラーを分解してだめにした等、様々な行動で困っている(誰もいない時、家にはないはずのマッチで仏様にローソクを点けたり)。
女性	40～64 歳	自営業	お世話をしている母がコロナに感染していた家族と接触したためサービスが中止し、同居しているもうひとりの母のサービスも受けられなくなり、私が家でずっと介護をすることになり、とても大変な思いをした。家にずっとかくりされていた母も一時的に歩くことができなくなった。
女性	40～64 歳	自営業	入浴も兼ねてデイサービスを利用しているが、施設でコロナ感染が発生し、デイ利用が中止となり、その期間が長引けば大変困ります。のびのび延期が続けば家族として対応できません。
女性	40～64 歳	自営業	精神的に不安定なので、介護のサービスは多く入れているが、何かあるとすぐ電話してくる。頼りにしているのしかたないが、薬など色々ためしているが難しい。落ちついてほしいと思っている。
男性	65～74 歳	自営業	デイやショート等に行かない。と言う。むりやりできないから、利用しない事が多い。尿失禁、不衛生、臭い。
男性	65～74 歳	自営業	コロナウイルスがまた流行し始めた事(通所系サービスの利用を控えているので)。
男性	65～74 歳	自営業	自分の体調がよくないので、将来は入れる施設を探してほしい。
女性	65～74 歳	自営業	義母のお世話をしているが、主人の弟妹の理解がない。

性別	年齢	職業別	困ったこと
女性	18～39歳	自営業の手伝い	子育てとお世話の両立。お金のトラブル。
男性	40～64歳	自営業の手伝い	自分自身の体力の低下や精神や気力がいつまでもつのかの不安があります。姉がいますが嫁いでいて、一時的に母を預けましたが1週間もたずに帰されました、それからはかかわりたくない絶縁状態で一人で2人を見ている状態です。いつまでもこの状況が続くのか、弟も自分も高齢になった時にどうするのか、いまから不安です。
女性	40～64歳	自営業の手伝い	体は動くのに言っている事とか認知できないので、すぐにおこっしまい、おさえる事ができない。そういう時の後精神的におちこむ、気持ちのおき所がわからない時がある。
女性	40～64歳	自営業の手伝い	ケアマネージャーさん、地域包括センターの方々には本当によくして頂いてます。介護する側のメンタルケアは本当に重要だと思います。
女性	65～74歳	自営業の手伝い	夫婦で認知症の義母を介護していますが、私達が突然の病気の時、義母を介護してもらえる人が誰もいないので気掛りです。ディサービスやショートステイでお世話になっていますが、人手不足だと世の中では言われています。夜中の見守りなどちゃんとしてもらえるのか心配です。
女性	65～74歳	自営業の手伝い	自営業の手伝いをしているため、又自身ぜんそくの病気を持っているため、なかなか世話をすることが大変ですが、ショートステイやディサービスでも助かっています。
女性	75歳以上	自営業の手伝い	出来るだけ、自律心が強いので、手を出さないようにして見守りケアをしています。呂律が回らないので会話に苦労しています。
男性	18～39歳	仕事に就いていない	認知症が重度で、指示動作ができない。コロナワクチン接種したが、もし感染した場合、介護サービスが利用できなくなる事が心配。
女性	18～39歳	仕事に就いていない	自身の仕事が介護ためなかなか見つからない。
女性	18～39歳	仕事に就いていない	べんの失禁を隠したりする事。経済的な不安が一番大きい。体調が悪いのに話してくれない。
男性	40～64歳	仕事に就いていない	認知症が重度で体調を崩しても入院が難しいので、コロナ感染した時も在宅で対応するしかなく、自分も高熱がある中で介護をしなければならず大変だった。
男性	40～64歳	仕事に就いていない	姉が精神障害。サービス利用に抵抗。入院も拒否しているため困っている。
男性	40～64歳	仕事に就いていない	夜間トイレ5回、毎回介助している。1時間おきに交換できればよいが、できない時、尿もれして、シーツまで汚染するため、着替えや介助で十分に睡眠がとれない。
男性	40～64歳	仕事に就いていない	認知症か精神病かわからない時があるので対応に困る。自己コントロールが大変です。言動が理解できないのに家に帰ると言う。何度も同じことを言う。24時間おかまなし。
男性	40～64歳	仕事に就いていない	コロナウイルス感染症が利用している施設等でまん延した時がディサービス・ショートステイが利用できなくなり、家での介護負担が激増し、困りはてた。
男性	40～64歳	仕事に就いていない	腰痛があり、介護を続けることができなくなった。入所施設も空きがなく、順番待ち状態、入所しても経済的不安もある。
男性	40～64歳	仕事に就いていない	私が、今直ぐではないですけど、入院が必要な疾患があります。その時は、近くの病院が父を入院させてもらえそうなので、安心しています。

性別	年齢	職業別	困ったこと
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	先のことが全く見えない。どの程度になったらどこに相談すればよいのか。特に病気という訳でもなく、ただ弱っていく過程で、どう対処すればいいのかわからない。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	コロナに感染し、サービスが利用できない期間があった。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	毎日のことなので、「できるだけ」と思ってするしかない。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	新型コロナウイルス感染症の流行時には、県外の介護者が介護に行くと、「県外者との接触」ということで、各サービス(デイ・リハビリ)、通院、その他できなくなり、大変困りました。県外から介護をしている場合、何らかの手続き、健康チェックなどで、サービスの経路が円滑にできるシステムを今後、作って頂きたいと強く思います。(今後、感染症など予想できない事態も起こるかもしれませんので、何があっても通常の最低限のサービスは、受けられるようにしてほしいです。介護者「県」で区別しないでほしいです。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	現在は、落ち着いてますが、介護をしなくてはならなくなった当初、何をどうすればいいか何もわからず、不安だらけでした。コロナ禍のただ中だったので、県外からの行き来が難しく、結果仕事は辞めざるをえませんでした。母は在宅で(実家で)、父はホームに入っていますが、いつ、どうなるかわからないので、仕事には就けず、経済的な不安は常にあります。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	母がどうしたいのか分からない。暑いと言い出しエアコンをつけると寒いという。本人に対して 100%の対応をしてこれ以上出来ない。やりつくした。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	介護の費用の負担を支援いただけると助かります。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	私自身についてですが、コロナワクチンの接種対象でないため(春度接種)、昨年 10 月以降接種できていないため、感染の不安を感じながら介護しています。高齢者施設に従事する方と同様の扱いにならないものかと思っています。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	急に自分の体調が悪い時などショートステイの手配が間に合わない場合、自宅での介護をどう乗り切れればいいか不安です(一人、24 時間介護のため)。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	認知が入ってきているのかどうかなど、本人のプライドもあるので、どうやって病院を受診させたいのか悩みます。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	コロナ禍になってから、施設職員が少なくなり忙しくなって情報がなかったこともある。それにより、認知症のため本人からの情報も施設職員からの情報もなかったことがある。事業所にもよるが情報共有できない場所もある。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	各種のサービスを受けるための手続きが、もっと簡単でわかりやすく、必要な時に、早急に利用できるようになって欲しい。

性別	年齢	職業別	困ったこと
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	母、90 代、私 60 代老老介護です。認知症の母と 2 人ですごして、8 年になります。兄がいますが、あてになりません。デイサービスが 1 年、ショートステイが 5 ヶ月、利用しています。とにかく、手続きが時間がかかりすぎます。結局、お役所仕事は、午後 5:00 まで、土日は休み、そんな時こそが大変で、相談したいのに、どこもありません。認知症は、波があり、夜間にさわいで、手におえなくなります。けんかになったり、いろんな事件が起きると気持ちがよくわかります。自分もいつ、事件を起こすかとも思うことがあります。デイサービスの方、ケアマネさんが、一生懸命やってもらって、感謝していますが、夜間が…。ショートステイも、予約とかなかなかとれなかったり、すぐお願いできる夜間保育みたいなのがあればいいのにと、ず～っと思っています。ホームも、3 件ほど予約をしていますが、どこもれんらくありません。認知症は、病気とわかっているのですが、1 対 1 で、毎日々、かさなると…今、書いててもなみだが止まりません。たぶん、私自身が、心の病気なのかなと思います。私ひとりの意見では、何も変わらないだろうナー…。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	90 歳の父が今年 5 月はじめに腰の圧迫骨折で入院したため、要支援 2 の母(91 歳)の日常の世話を私たち夫婦と私の弟で交替しながらやってきて、3 ヶ月たちました。(両者とも他県から実家に通っています)。3 人ともかなり疲労がたまっていて、これからどういう形でやっていくか、迷っています。耳が遠くなった母とのコミュニケーションに苦勞しています。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	今、一番の課題は食事です。とろみは必須で細かく切ったものを食べさせていますが、かめても、うまく飲み込めません。他県には栄養士が家庭を訪問して一緒に調理してアドバイスしてくれる仕組みがありますが、本県にはありますか？あれば利用したいです。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	より良いお世話の為に色々なアドバイスや指導をいただきます。本人の為に上手に出来れば良い事なので、頑張ってみますが、なかなか難しく感じる事もあり、落ち込みます。うまく出来ずに症状が悪化すると「自分のせいだ」と責任の圧があります(あくまでも自分自身の内々。自己嫌悪)。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	介護の経験がなく、本人を動かす時に「痛い」と言われれば、不安になる。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	遠方に住んでいるので、親のところへ来る時間とお金がたくさん必要ですが、都合をつけるのが難しいです。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	認知症への対応。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	働きたくても働けない、税金・年金・保健と支出は変わらずある。いつまで続けられるか不安でたまらない。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	家族は県外に夫と息子が住んでいます。うつっぽくひきこもっている息子(23 才)が、死にたいともらすことがあり、母を介護施設に入れるよう調べてみました。親を安心して穏やかに過ごせるような態勢の施設はないことがわかり、あきらめ、私が続けることにしました(母はいつも誰かがそばにいて、何をすればいいか教えてほしい)。コロナワクチンは住民票が県外のため受けられていない。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	認知症の進行で説明を聞いて理解する事がむずかしくなっている。意味を取り違え怒りだす事がある。
男性	65～74 歳	仕事に就いていない	耳が遠くなってきたので、意思疎通が難しくなってきた。

性別	年齢	職業別	困ったこと
男性	65～74 歳	仕事に就いていない	美容室へ連れていけていない。なじみの所へ行きたいが、コロナの事が気になる。認知がひどくなり、気が向かない。出張サービスの所を調べようと思うが、知らない人が来る事にやや抵抗もある。
男性	65～74 歳	仕事に就いていない	本人の対外的な事は 100%私がしている(官公庁、金融材関 etc)ので、私に対応できなくなった場合の事が心配。本人が時々熱が出たと言うので、コロナの抗原検査キットの購入時の補助 etc。2000 円/1 個は負担が大きい。
男性	65～74 歳	仕事に就いていない	緊急時でも安心して預かってくれる場所(ショートステイ)が少ない。ショートステイについてベッド使用料が一泊 2 日の場合、2 日分の利用料が請求されるのは、一般宿泊施設の考え方からするとおかしい。
男性	65～74 歳	仕事に就いていない	長女、長男が県外在住のため、私が体調が悪い時、代わりにお世話をしてくれる方が、または施設が、まだ確保出来ていないこと。
男性	65～74 歳	仕事に就いていない	食の好き嫌いが多く困っている。自分も腰痛や神経痛があり、ショートステイやヘルパーを頼みたいが、本人が受け入れに対し拒否的なため利用できずにいる。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	<困ったことではありませんが…>母が高齢で介護度が高い為、通所サービスのデイケアや訪問サービス(ヘルパー)を現在利用しています。母が入院中や退院するときも医療機関とケアマネージャーさんが相談にのって下さり、その後、自宅介護では通所サービスと訪問サービスと連携して動いて下さるので助かっています。母が笑って楽しく一日を過ごしてくれる事が私の一番の願いです。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	自身も進行性の病気があるため今後どうなっていくのか、夫を施設に預けるには経済的にもむづかしいので、どうすれば良いのか不安になるばかりです。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	認知症の母の暴言や徘徊らしき行為に夜もあまり眠れず困っています。疲れています。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	急に預って欲しい時や事前に預りを要望している時のショートステイの確保を受け入れて欲しい。困った時の一番の悩みです。通所リハビリのおかげでいつもおじいちゃんに感謝する事を教えてくれます。ありがたいです。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	自分が急に病気になった時、どうなるだろうと思う。ショートステイ等は今日申し込んですぐっていう利用はなかなか受け入れてくれないため。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	家族も高齢になり、自分たちの体調を心配することも多いけれど、介護は家族でするものと思っている。何かあった時に助けてくれる人がいることは心強い。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	特定の家族(私)に対する依存心が強く、私の姿が見えないと、落ちつかなくなる為、常に側にいて介護している。通所サービスは利用してくれているので、その時間帯のみゆっくりできる(週 3 回)。自宅玄関を出ると、せまい急な坂道になっているので、本人が動けなくなれば、外出が出来なくなってしまう。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	専門の方の言う事はきくが、私の言う事をきかない。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	私は兄弟もなく、病気・けがの時も替わりが居なくて大変に思う事がある。

性別	年齢	職業別	困ったこと
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	排尿のお世話が大変です。寝たっきりではないのですが、紙パンツ尿取りパットにしていますが、ゴミ出しが大変です。私自身も腰痛で泣きそうになります。デイサービス・ショートステイを利用しています。ケアマネージャーの方が親身になっていろいろ聞いてくれて助かっています。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	病院がいひつのがときに非常に難しい。介護タクシーをもっと安くしてもらいたい。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	近所の方の視線が気になる事が。預けてる事に色々言われいるのかな…と。仕事のある時は自分が気にしてショートステイも利用できませんでしたが、今はケアマネのおかげで気持ちが楽になりました。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	家を離れたくない、娘が介護支援するのがあたりまえ、という考え方をする老親なので、反発したくなる気持ちをおさえて対応しています。自分も家があり、犠牲にしているのと思います。施設入所を進めますが、娘を恨めしく思っている様です。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	病気による高次脳障害、失語症のためコミュニケーションがうまく出来ないことが良くある。何度も同じことを説明しても理解が難しい。現在はいくらか進歩したのですが、お互いがストレスになることもある。ついイラ立ってしまうし、それが続くと私自身が、悲しくなっておち込んでしまう。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	コロナに感染した時、全てのサービス利用が出来ずに困った。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	コロナがサービス事業所ではやった時、ディなど休みにになり、入浴などができなかった時は困りました。訪問看ゴが入っているが、介ゴ保険の単位数が足りない為、月に1回しか入れない。その為、自宅で何かあってもすぐ呼ぶことができない。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	バス券、タクシー券の配布。孫を遠距離で預かりと話しているのに常に実親の収入が加算されるのはおかしい。支援を受けたいのに受けられない。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	自分が今後サービスを受ける側になった時、今、母が受けているサービスと同等のものが受けられるのか。食事内容・栄養・調理等、食に関する情報が得られ、自宅で実際に学べること。介護のしかたも自己流、その人にあった介護のポイントを自宅で教えてくれる人の派遣。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	長女である私が母の介護全般を行っているが、私が孫の世話等で長期間母の介護ができなくなった時の対策を今から考えておかななくては…と思っている。
男性	75 歳以上	仕事に就いていない	コロナにかかり自分も体調が悪いときがあった。
男性	75 歳以上	仕事に就いていない	一生懸命に世話をしているが。本人は何とも思っていない。言うことを聞かない。感謝の気持ちがない。私も高齢でいつまで通えるかわからない。施設に入ってほしいが本人は嫌がっている。
男性	75 歳以上	仕事に就いていない	施設に入所している為、コロナに感染した際、外出(居室から出る事)ができなかった。
男性	75 歳以上	仕事に就いていない	介護サービス利用で入浴やリハビリしている事で、今現在は困っている事はないです。
男性	75 歳以上	仕事に就いていない	世話をしている相手自身が「私はおかしくない」と言うのであきらめている。
男性	75 歳以上	仕事に就いていない	当地域では町内会等支援はない。

性別	年齢	職業別	困ったこと
男性	75 歳以上	仕事に就いていない	飲酒について、自分で買いに行くのでどうにもできない。お金をわたさなければ、万引してしまうかもという不安がある。一人娘が遠方なのでコロナ等でも数年会っていない。
男性	75 歳以上	仕事に就いていない	本人の理解(認知)をしているが、つい大きな声が出てしまい、反省してしまう。本人を傷つけてしまう。
男性	75 歳以上	仕事に就いていない	妻への介護量が増えている。夜間のトイレ介助の回数も多い時は不眠状態が続く。島外の娘が近くに引越してくる様言ってくるが、家を離れたくない。でも、自分の体力も不安でどうしたらいいかわからなくなる。
男性	75 歳以上	仕事に就いていない	コロナで事業所が休みになることがあったが、その時の支援。分かりやすく制度を説明できるようにしてほしい。
男性	75 歳以上	仕事に就いていない	介護保険サービスを利用しているが、本人のこだわりが強く、ケアマネージャーや家族が提案しても拒否され、必要なサービスを受け入れられない。例えば、トイレまでの移動で転倒が多い為、ポータブルトイレを使ってほしいが拒否。介護用ベッドも必要である状態なのに拒否するなど。話し合いを重ねている。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	がんこでデイサービス等を拒否する。おフロに入れたがらず、臭いや皮フのトラブルがあっても入らない。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	自分(介護者自身)が弱った時に、どんな状況になるか先を考えると不安。家族に頼むことへの負担が心配。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	主人の介護をしている。主人 92 歳、私は 90 歳。老々介護なので、今後のことが心配。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	コロナ感染が多い時や天候不良時にデイサービスが休みになる。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	特養に申し込んでもすぐに入所できない。入所料金が高すぎる。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	心配していることといえば、自分に何かあった時の対応。緊急時に何か入所できる所(ショートなど)があれば安心と思っている。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	金銭的なものが不安なので家でみていくしかないと考えています。今は歩いてデイサービスに行っていますが、行けなくなった時にどんなサービスがあるか知りたい。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	「世話している方のぐち」私、女 5 人兄弟のまん中です。私は意図的に結婚しない人生を選びました。その代償がどうか分かりませんが、家のすべての負の部分を負うことになりました。そのことについては他の姉妹に恩きせのようなことは一言もいったことはありません。でも死を間近に控え、ねぎらいのことが欲しいです。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	自分自身の治療もあるため身体的な負担もあるが、できるかぎりしてあげたいと思っている。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	夜間 2 時間おきにトイレ介助の為に起こされる。自分の事を常に監視されている。何かあると怒鳴られる事が困っている。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	関係機関にお力をいただいて介護をしています。助かっております。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	病気がどのくらいのスピードで進むかが不安。どこまで家で見れるかが不安。

性別	年齢	職業別	困ったこと
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	認知症である事はわかっているが、言動が理解できず、感情のコントロールが難しい。サービスを利用してほしいが、受け入れてもらえない。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	認知がある夫から泥棒扱いされる。専門の医師に診てもらいたいが、本人が拒否する。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	本人が頑固で言う事を聞かない。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	習い事の先生をしており、忙しい。たまに、夜眠れない程忙しい時がある。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	世話が必要な本人が誰の言うこともきかない。言いたいことを言い好きなように生活をしているので、本人は困っていない。周りの者だけが困っている。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	お互いに高齢となり、身元引き受けの問題もあり(病院・施設など)、一人長男がいるも音信不通であり、どうすればよいかわからない。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	台風の時等、車イスでひ難所へ行くことが自分達では困難で、送迎(ひ難所ごとの)をしてもらえる仕組みがあると助かります。電話で、ひ難所の予約ができると何度も出向かずにすむ。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	本人が受診を拒否していても、連れて行ってくれるサービスがあれば…。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	入所申し込みをいくつかしていますが、まだまだ入所が先になってしまう。入所することを希望しています。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	老老介護である。介護する妻も肉体的・精神的負担が大きい。週3回 DS 利用でようやく自分の時間が持てるようになった。将来的には施設入所させたいと考えている。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	夫がわがままな時があり、私が言っても子供(娘)が言ってもきかないことがあります。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	介護の拒否がある。言うことを聞いてくれない。
女性	無回答	仕事に就いていない	義母は 88 歳(父の後妻)、私は 82 歳、あまり年齢の差はない。義母は要介護 2、私は要介護 3。在宅生活も厳しいが入所はまだしたくない。サービス利用すると、利用料も発生するので…。主治医やケアマネジャーも色々相談に乗ってくれるが、二人で一緒に入所できれば良いと思っておりますが今ではない。
男性	40~64 歳	その他	自身(介助者)が亡くなった後の支援はどうなるのか。
女性	40~64 歳	その他	私は幸いなことに、ケアマネさんや訪問リハビリの方が主人のことよりも、私の悩みやぐちをすごく聞いてくれています。色々なサービスなども情報をたくさんくださってます。毒を吐きたい時も、聞いてくれる方がいるので、上手く気もちの切りかえも、現時点ではできていると思います。仕事や子育て中の子どもたちに負担をかけることなく、もう少しがんばってみようかと思えます。
女性	40~64 歳	その他	コロナでサービスを利用できない時はとても困った。今後そのようなことがあるとどうすればいいのだろうか。介護者が私だけなので、なにかあった時のことを考えてしまう。
女性	40~64 歳	その他	自分の他に見る人がいない。(兄妹)は県外なので自分が体調を崩しても苦しくてもきつても(例えば胃腸炎になっても)、お世話をしなくてははいけないのはつらいです。

性別	年齢	職業別	困ったこと
女性	40～64 歳	その他	母の支援は、十分と感じます。長男の統合失調症は 16 年目で、近所への暴言が時々あり、それに対して、私のストレスはフルです。本人には、わかってもらえません。入院レベルとまでいかななくても、彼の行動は毎日気をつかい、見守りが欠かせません。
女性	40～64 歳	その他	ショートステイを利用してほしいが、本人がいやがる。排泄のお世話が大変だが、どうしようもない(いろいろ工夫はしている)。認知症の対応の仕方がむずかしい。自分に何かあった時どうなるかが不安。
男性	65～74 歳	その他	各種サービス項目はほぼ充実していると思われるも、内容での充実(仏作って魂入れず)、例えば切に必要とするサービスが規定時間内では短時間すぎて利用出来ない等。
女性	65～74 歳	その他	夫の身体がいつまで介護できるか不安がある。
女性	65～74 歳	その他	家の中でこけたりした時、起こすのがたいへんです。
女性	65～74 歳	その他	自分自身が要介護 1 で、腰や膝が悪いが、夫の介助が必要。脳梗塞後、構音障害、高次機能障害で感情のコントロールができないので、周りの人と時々トラブルがある。必要な時に間に入れる様に、通所リハビリでは夫の隣の席に座る。自宅でも通所介護も、他の人との交流が持ちにくい。介助を求められるが自分自身の体の動きがスムーズにいかず、それがストレスになる。
女性	65～74 歳	その他	母を 3 時間のデイサービスにお願いしていますが、1 日タイプの他のデイサービスを体験させてもらいましたが、なじめずパニックをおこしてしまいました。98 才という高齢なので無理させずにおこうと思いい現状況維持しています。悩んではいませんがしいて言えばこれぐらいです。
女性	65～74 歳	その他	親のお世話は嫁の仕事、「まかせてる」「何かあったら手伝うから」の言葉に私自身そう思って来ましたが、私も高齢者なので手術や入院があり通院がふえ、実の息子の夫や義弟、義妹にも手伝ってもらうようにしたら、私がして当然のことも、実の子がしてくれると大変喜び、義母にもとても良かったようです。
女性	65～74 歳	その他	頑固な義父は絶対にディーサービスは受け入れない人で、毎月ケアマネジャーさんに自宅訪問して頂き、楽しそうにお話している時はホッとしてますが、「ディーサービスには絶対行かない」と怒り出すので、ケアマネジャーさんに申し分けないです。出来れば二人共(父母)にサービスに行ってもらえるのが私の希望です。
女性	65～74 歳	その他	ケガをした時、入所できるしせつ。
女性	65～74 歳	その他	ひとりで介護しているため、私自身に何か問題が生じた場合に、すぐにでも母を入所できる施設が必要です。母の事だけが心配です。
男性	75 歳以上	その他	本人、自分(お世話をする人)が体調不良になった時や、自分がケガをしたときなど、その先の事が心配である。いつでも介護のことが離れない。
男性	75 歳以上	その他	夜中におむつを交換することで毎日スッキリ朝が起きられません。
男性	75 歳以上	その他	自分の体力が低下し、この先が不安。
男性	75 歳以上	その他	ことばが出なく、専門病院から週に 1 回リハビリに来てもらっていますが、むずかしい。

性別	年齢	職業別	困ったこと
男性	75歳以上	その他	世話をしている者の状態・症状が分かっているつもりでも、いざその場になるとムキになってしまうこと。
男性	75歳以上	その他	今のところ、特にないが、介護の大変さはやってみないとわからない。
男性	75歳以上	その他	自分の時間がもてない。デイサービスに行ってもほしいが、自分と一緒にでないと行きたくないといっている。
男性	75歳以上	その他	妻より自分が年上なので、今後の事を考える。
女性	75歳以上	その他	コロナにかかった時、98才という年齢にも関わらず入院できなかった。
女性	75歳以上	その他	2007年3/9胆管ガン発症(手術不可)以来16年続けて病気がかりしてきました。治療費はけっこう払ってきました。2019(75才)心筋こうそく悪くなり、ペースメーカー入れ、この当り依りアルツハイマー認知症があるということで精神科入院。コロナ出てきて退院も出来ず、子供2人共リストラに合い、1人は援助もしてもらいましたが、それからは大変な日々で、借金が重なり、機関も貸出しはしてくれないので、知人・知り合い多数の方に借りました。その支払いに胸痛いです。B/Kなどは市の福祉課より紹介してもらい、法テラス2回目の支払いすることになりました。私の借り入れ分入れてなかったので今になって、早く払えと責められます。親子で頭が痛い。今の心境です。
女性	75歳以上	その他	外出が難しい。歩行困難。外食ができない。むせたり、咳きこんだりするので。外出先の楽しみがない。旅行などできない。
女性	75歳以上	その他	気分転換に集まりに行こうとすると、コロナウィルスをもってきて症状が悪くなるかもと行かせてもらえない。世話をしている夫が入院している時だけがゆっくり休める。酸素吸入が必要なのにしないまま出歩き、苦しくなっても病院に行こうとしない。
女性	75歳以上	その他	子供が全員県外在住。
女性	40～64歳	無回答	毎日、昼食の準備をして仕事に行くのが、きついです。サービス利用が多くなれば、お金がかかるし、預金は減っていくばかりで、節約したい。自分が働けなくなった時は、年金だけで生活していけるのか不安。先々認知症を発症したらどうなるだろうかと考えると不安だらけです。
女性	40～64歳	無回答	私は今、精神障害の母を介護しています。幻覚幻聴の母がデイサービスに行かない日は、一日中一緒に病気が分かっていても、カーッとしたり、私まで精神が参ってしまう事があります。ケアマネさんに相談して対応してもらっている状態です。兄弟姉妹が居ないので、急用になると困ります。今の所、急に用が出来た事はありませんが、病気などしたらと思うと不安な面もあります。
男性	75歳以上	無回答	足が悪いのに、ひとりで知らないうちに出て行く。
女性	75歳以上	無回答	コロナが広がった時、病院や施設など受け入れられず、大変でした。食事サービスも、配食される方が玄関の中まで入れなくて、大変でした。
無回答	75歳以上	無回答	年をとり、夫婦2人でどうにか生活している。訪看・ヘルパー・デイサービス・ショートステイ(必要時)利用しているが、本人が外にでることをいやがるので困ることがある。
無回答	無回答	無回答	私も高齢なので、先の事が不安。子供は近くにいない。

8. 自由意見

※個人が特定される可能性のある、居住地や固有名詞などについては編集して記載

性別	年齢	職業	自由意見
男性	18～39歳	正規雇用	もっと介護施設を充実させてほしい。介護職員に給与をもっと上げてほしい。
女性	18～39歳	正規雇用	職場等、休暇を取れやすい環境が整備されれば助かります。
女性	18～39歳	正規雇用	介護する方の孤立が一番問題。一緒に悩んでくれる人がいるだけで違うから、相談場所がわかるように…サービス内容がもっとわかりやすい様にしたら良いと思う。
男性	40～64歳	正規雇用	介護している世帯へ経済的な支援。
男性	40～64歳	正規雇用	施設入所に向けて行動しているが、地域格差があり身近に安心して入所できる施設がない。職員不足を理由に断られるケースが多い。又、コロナの影響で、見学すらさせてもらえないことも多数あり、先行き不透明。
男性	40～64歳	正規雇用	遠距離介護の支援で遠距離移動の費用の支援を求めます。
男性	40～64歳	正規雇用	気軽に相談でも、待ち時間ができる限り少ない相談窓口があると良いと思う。
男性	40～64歳	正規雇用	サービスの利用料金(個人負担分の軽減)。
男性	40～64歳	正規雇用	市の対応は非常に悪いと思います。
男性	40～64歳	正規雇用	介護のための勤務時間が減少し、一方で介護の支出が増えるので、助成金があると助かります。
男性	40～64歳	正規雇用	介護サービスの充実。
男性	40～64歳	正規雇用	特にありませんが、金銭的支援があれば助かると思います。SNSがあるのでアンケート等はSNSを活用された方がよいと思います。
女性	40～64歳	正規雇用	市・町職員の方について、電話や対応が悪く、相談したいが、心配で出来ない。他人事で聞かれているようで不愉快です。
女性	40～64歳	正規雇用	市町に相談しても、納得いく答えが返ってくるとは思えない。日頃の窓口の対応に不満が多い。
女性	40～64歳	正規雇用	実の姉は、進行性の難病です。難病の更新手続きは毎年するべきでしょうか？もう少し手間ははぶいて欲しいです(県に対して)。各種書類を揃える際、市役所に行けないにも関わらず、「本人が来て下さい」とよく言われる。障害者である事を理解し、対応を変えて欲しい。
女性	40～64歳	正規雇用	数時間だけ外出したい時間の公共(介護保険等)でのサービスがほしい。介護保険の枠が足りないとか、急な用事の時等利用できななのでスムーズにできるようにしてほしい。
女性	40～64歳	正規雇用	本人の資産をまもることは必要だが、銀行がすべて平日のみの窓口営業は厳しい。せめて1/月でも週末とか夕方まであけて欲しい。
女性	40～64歳	正規雇用	認知症に対する理解がすすむ様にもう少し一般レベルでの周知が必要。
女性	40～64歳	正規雇用	とまる所がない(緊急時)。サービス回数により、要介護度決定されているのでは？
女性	40～64歳	正規雇用	施設に入居するにしてもどちらの施設も金額が高いので入れる施設がありません。
女性	40～64歳	正規雇用	今の制度には特に要望はなく、満足しています。サービス事業所やCMなど、支援者の収入を増やし、なりてを増やすようにして欲しい。サービスを受けたくても、サービス事業所ないと困るため。

性別	年齢	職業	自由意見
女性	40～64歳	正規雇用	家族介護者支援費等が支援者にも制度を作ってほしい。
女性	40～64歳	正規雇用	仕事をしているとコロナに患っていなくても、利用者が濃厚接触者になれば施設を利用することができなくなり、よって自宅待機→お世話するために仕事を休んでお世話することになる…仕方がないけれど、仕事は休みたくなかった。1割負担と2割負担では全く違うので、もし2割や3割負担だったらと思うとゾッとする！ギリギリ2割になってしまったら、年金もそんなにもらっていないので利用したくても利用をひかえてしまうサービスが多くなると思う。
女性	40～64歳	正規雇用	介護には期限がないのに、介護休暇は取得日数の制限があります。介護休暇を取得して、仕事を長く続けられる制度を整備してほしい。
女性	40～64歳	正規雇用	自分の時間や寝る時間を減らして介護をしています。皆さんそうだと思います。仕事も今までどおりかかえています。私が仕事をできる時間は、お休みの土日と就業前の朝、早く出てきて仕事(やらなければならない仕事時間外の内容の仕事)をしています。毎日です。いらいらします。心の余裕はまずありません。「子育て支援」で様々なサポートや給付金があるのに、なぜ高齢者や介護者にはサポート、給付金がないのでしょうか。疑問に思われませんか？改善していきますと言われても、改善した頃には… —別紙へ—
女性	40～64歳	正規雇用	介護の経済的負担が大きい。年金額を超える事がある。
女性	40～64歳	正規雇用	今は自宅で生活しているが、今後、施設入所時、金額が高く、経済的な不安がある。子育て世代(ちょうど義務教育が終わり、お金がかかる)だし、本人もまだまだ70代で若いのでこの先長く、費用がかさむため、金銭の負担を軽くする支援がほしいです。(共働きですが、不安です。世帯年収の制限なく、考えていただきたいです。)
女性	40～64歳	正規雇用	介護休暇が1日や時間単位で取れるような制度になればありがたいです。その方が介護離職予防にもつながるのではと思います。
女性	40～64歳	正規雇用	よその家のお世話がわかって、少しでも共通点があると、なんとなく安心できるので、何かしらの交流ができると良いです。
女性	40～64歳	正規雇用	介護施設の職員や運営面についても理解しております。介護度にあつたサービスの提供という点も理解しておりますが、介護が下がった方へのサービス量の減は行わず、これまでのサービスを上限にサービスを受けられるようには、出来ないのでしょうか？
女性	40～64歳	正規雇用	ボランティア制度がすすめられているが、地域の雰囲気、否定的。協力してくれる方も限られている。他市町の市民はどんな雰囲気や環境なのでしょう。私は協力的な方々であれば、色々やってきたいとは思いますが、そう思えない人たちが多くて、気持ちが苦しいです。
女性	40～64歳	正規雇用	長崎は、特に、原バク手帳と、ない方の差がありすぎて、もやもやする所がある。医療費に関して、どこに行っても手帳をもっていれば考える事もなく、何でもお願いできるのに…と思う。

性別	年齢	職業	自由意見
女性	40～64 歳	正規雇用	職場の理解があり、働きやすい状況ができていると思います。介護疲れで体調不良にならないよう、休みや余暇時間を大切に使うことが大事と考えます。介護疲れが原因で潰れる人が増えないようにしていただきたいです。
女性	40～64 歳	正規雇用	フルで仕事をしており、自分以外世話のできる人間がいないため、何か緊急なことが起きた時、様子を見に行き対応してくれる人がいないので、非常に心配である。
女性	40～64 歳	正規雇用	世話をしている方達の心身が健康でいられる為の受入れ施設等が増え、金額的にも負担が軽減できる様お願いしたい。
女性	75 歳以上	正規雇用	85 歳以上でサービスを利用せず、在宅で生活されている方の実態把握し、訪問して頂きたい。
男性	18～39 歳	非正規雇用	高齢でもなく、障害手帳を持っていない人でも、日常生活において多少の援助が必要な人が多い。そういう人について相談できる場所を知りたい。
男性	40～64 歳	非正規雇用	ホームヘルパー等他人が動けばお金は支払われますが、家族がする事は無償があたり前、これでいいのか？
男性	40～64 歳	非正規雇用	日・祝の通所サービス、デイケアの受け入れ可能にして欲しい。(職種によっては、日・祝が休めない等)
女性	40～64 歳	非正規雇用	お世話をする以前に、元気であるために、ディサービス等を利用してすごせるようにと、もっと声をかけてもいいと思う。利用料が高いと思い利用しない人も多いと思う。気楽に試せるサービスがほしい。
女性	40～64 歳	非正規雇用	介護認定が、きびしくなっている。日によって、本人の状態が変わるため、詳しく聞いてほしい(前後の様子など)。
女性	40～64 歳	非正規雇用	少子高齢化で高齢者や障害者に対する支援自体が手薄になるのではという不安がある中、世話をしている側への支援などあり得ないと、期待はしてません。
女性	40～64 歳	非正規雇用	担当者を決めていただければ相談もしやすく対応にも安心感があります。
女性	40～64 歳	非正規雇用	お世話をしている方たちが、ホッとできるような場所づくり。日頃難しい顔で介護しているかもしれない人たちが、笑顔になれる場所があったらいいですね。私はまだ介護を始めて1年未満、しかも認知になった義母は、骨折して入院中。2ヶ月の間は、申し分ないけど、義父だけのお世話でホッとしている自分がいます。長期で介護されている方は本当に大変ですよ。認知症になられた方も介護されている方も、別々もいいけど一緒に笑い合える場所・地域で過ごせるようになってもらいたいです。そのためは、介護が必要になる前、日頃の近所づき合いも大切。そして、地域の皆さんの認知症に対する理解もかなり必要です。
女性	40～64 歳	非正規雇用	透析の付き添いがほしい(かわりに付いてくれる人)。
女性	40～64 歳	非正規雇用	お世話している人が一人孤立しない環境・支援(協力者)を誰もが簡単に得られるための地域のとり組み。

性別	年齢	職業	自由意見
女性	40～64 歳	非正規雇用	ケアマネさんがとても親身になって相談にのってくださり有難い。今は要介護2だが、1度要支援におとされた時、1番イヤだったのはケアマネさんとの縁が切れることだった。相性もあると思うので一概には言えないが、担当者はあまり変わらない方が安心。
女性	40～64 歳	非正規雇用	ケアマネさんも大変良くして下さいますが、ショートステイなどほんと、とれないし、先もとれないので、予定や気分転換も難しいのが現実。
女性	40～64 歳	非正規雇用	利用出来る日数に制限があるので、これ以上悪化した時に不安が有る。
女性	40～64 歳	非正規雇用	手続きが面倒。3人の介護となると、誰かの手続きを忘れていることがある。毎年の手続きはかなり負担です。
女性	40～64 歳	非正規雇用	ショートステイを利用している時間(相手)が今の私には支援になってると思います。
女性	40～64 歳	非正規雇用	仕事もフルタイムで働いているが、利用料金が高い。金銭的に支援があれば助かります。
女性	40～64 歳	非正規雇用	もう少し、入所しやすくしてほしい。入所を待っている方が多い。
女性	40～64 歳	非正規雇用	うまく介護サービスを使いながら在宅で、というのが理想ですが、経済的にも仕事をしないと食べて行けません。高齢者も多くなり、介護費用もかさむでしょうが、在宅でみている人達に何らかの恩恵があったらと思います。
女性	40～64 歳	非正規雇用	各種サービスを利用しています。介護の専門家ではありませんので、詳しくわからない部分が多いです。役所で頂いたパンフレットも、サービス表の点数のような書類など、もっと誰にでも、わかりやすい物を作って下さい。
女性	40～64 歳	非正規雇用	介助者が体調不良の時、(緊急時に)直ぐに利用できるショートステイがほとんどない。
男性	65～74 歳	非正規雇用	介護保険での支援をもっと知らせて欲しい。
男性	65～74 歳	非正規雇用	入所(ショートステイ)の時間や日にちのフレキシブルな運用と緊急時にすぐに対応できる運用を希望。
女性	65～74 歳	非正規雇用	生活保護には該当しませんが、生活が困窮している家庭への支援を充実させて欲しいです。
女性	65～74 歳	非正規雇用	ケアラーの方達が大変でしょうから、何か助けることができれば。精神面や金銭面など。
女性	65～74 歳	非正規雇用	私自身が93才になった時の介護のサービスが充実している事を希望します。かわいい笑顔の老人になる様努力したいと思います。
女性	65～74 歳	非正規雇用	歩行器か手すりですと5m程歩き、目も白内障と緑内障で片目でやっと少し見える90代の高齢者。認知はなく選挙できるのに、会場に行くにはとても困難。しかし、要介護2で自宅に居るので、選挙の支援がなく、ここ3～4回選挙権をすてました。選管に言っても、「会場に来てもらわないと…」との答え。行けないのに…。こういう高齢者たくさんいます。自宅で選挙できる方法はないのでしょうか？

性別	年齢	職業	自由意見
女性	65～74 歳	非正規雇用	・病院のつきそいに交通機関を使うときの金銭的補助。・世話をしている人とも楽しめて、心に余裕をもって生活できるプログラム。(例①演劇、コンサートへの参加チケットの提供など)。・短時間勤務可能なバイトにつなげれば若い人も参加しやすいのでは。(例②温泉で無料で介助、世話をしてくれるシステム)
女性	18～39 歳	自営業	障害者手帳の発行手続きや装具等を作るための申請に時間がかかりすぎるため、それを必要としている人の健康状態が悪化していきます。できるだけすみやかに進められるように工夫していただきたい。また何度も役所を訪れることは時間的にも体力的にも当事者もその家族も大変なことなので、簡素化できる部分については配慮していただきたいです。よろしくお願いします。
男性	40～64 歳	自営業	今まで包括支援センターの存在すら知りませんでした。が昨年たまたま聴いていたラジオ番組で「迷ったら包括支援センターに相談してみてください、どの地域にもあります」と念を押して話しておられて、なるほどいつか役に立つかも、とメモしていたのが知るきっかけでした。それから一年足らずでピンピンしていた父母が要介護要支援状態になったのは思いもよらないことでしたが、迷わず駆け込み正解でした。包括支援センターさんには有益な情報とご指導をいただき感謝しかありません。突然どうしてよいかわからなくなった当事者からするとこの情報等の支援は手助けというより「救い」に近いものです。県や市に対して特に意見要望などはございませんが、この場を借りてお礼申し上げます。助かりました、ほんとに、ありがとうございます。
女性	40～64 歳	自営業	介護している時の助成金が少ない。国民年金では、今の状態では、とても苦しいので、これから先の生活がとても不安です。2人を施設に入所したり、ショートステイを利用するにあたり、ショートステイで多額なお金がかかり、生活に不安を感じるようになりました。2人を入所やショートステイになった場合、お金の面で援助がほしいです。
女性	40～64 歳	自営業	緊急時に預かってくれる所があれば本当に助かりますし、そのような場所があるという事は、心強いと思います。
男性	65～74 歳	自営業	利用を増やす為には、金銭的な支援を増やしてほしい。
女性	65～74 歳	自営業	家庭の中でお世話できない場合、地域によっては受け入れてくれる施設も病院もない。離島であれば、本土の療養型の施設に入る他ないので、看取りをしてくれる施設・病院の体制を準備して欲しい。
女性	75 歳以上	自営業	近所に体力的には自立して、しかし「少しヘン！」の方への話しかけに関して、怪しい人としてではなく認知症の方への理解を、自治会などから働きかけてほしい。介護、人が人を支える仕事が低く考えられています。報酬を上げて下さい。他の国に比べて、半分以下です。友人はオーストラリアで時給 2,000 円でこの仕事しています。
女性	18～39 歳	自営業手伝い	市役所の手続きなど孫でもできるようにしてほしい(「子じゃないとダメ」などあって、書類がとれない)。
女性	40～64 歳	自営業手伝い	トレーニングパンツのほじょ。

性別	年齢	職業	自由意見
女性	40～64 歳	自営業手伝い	介護する側のメンタル相談、カウンセリング等あれば本当に有難いです。相談窓口があるという事だけで安心できると思います。
女性	75 歳以上	自営業手伝い	介護保険料が高すぎるので困ってます。
男性	18～39 歳	仕事に就いていない	介護保険サービス以外の支援について、わかりやすく資料・パンフレットなどがあればいい。
女性	18～39 歳	仕事に就いていない	仕事に行けず経済的に困っている。高齢者へのおむつ・パット・下着、毎月購入が大変。いつまで続くのか不安な毎日。子育て、介護、全て。自分の事は後まわしになり、ちゃんと世話をできていない。自己嫌悪になる。県市国の支援があったとしても、やりかたや手続きがわからない。
男性	40～64 歳	仕事に就いていない	経済的な支援をお願いします(介護離職で働けない人の)。
男性	40～64 歳	仕事に就いていない	両親の介護に人生をささげて、職についていないため、現在の介護を終えた後の年金等の収入が期待できず、また老後に自分を観てくれる人が期待できない。
男性	40～64 歳	仕事に就いていない	とても整っていると思います。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	日内変動が激しく、できない時間帯があることに対して、認定調査時に重視して、介護度を上げてほしい。普段と違い何もできない時間帯があることにもっと重きを置いてほしい。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	世話のために仕事ができなくなると失業保険の手続きもできなく、すぐに働ける人のみの様な手続きである。すぐに働けるのであれば失業手当の手続きはしなくても給料が入る。仕事ができないから少しでもと思える制度ではない。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	介護保険と医療保険の規則で、リハビリを受けられず、困っています。柔軟な対応を希望しています(同じ日に利用できないので県外から来る場合、特に時間の制約もあり、同日に両方できるとよい)。2泊以上しなければ、サービスが受けられない為、リハビリをあきらめています。とても残念です。介護者の声をいろいろな形で集められて、広く結果を公表して頂けると、介護の環境が、良い方向に向かっていくだろうと期待しています。このアンケート(答)が何かのお役に少しでも立てると幸いです。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	どう言う制度であれ、24 時間を看ただけなのは、難しいと思えます。ホームなどの利用以外は。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	急な用事の時対応、長時間の介護代行がほしい(TV でみる、ボランティアなど)。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	現在兄と同居している父が、数年前独居生活になったため私の住まいの近くに賃貸物件を探しましたが、高齢者の独居ということで全て断られました。スーパーの配達・宅食サービスも車が入らない高台の住まいであるため、サービスを受けられません。企業や行政への問い合わせ等も音声ガイダンスでの対応やホームページへのアクセスが主流となり、高齢で視覚障害を持つ父にはとても厳しい、生活しづらい状況です。こうした実情は父に限ったことではないと思います。明日は我が身と思い、一人でも多くの方が安心して生活ができるような社会になることを節に願います。

性別	年齢	職業	自由意見
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	災害時の避難の手助け、トイレが少ない、空間(個室)の確保(介護施設での災害時の受け入れ)、配置のはいりよ、場所取り。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	緊急時に早急に利用(安心して預かってもらえる場所)できる施設・サービス・制度を整えて欲しい。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	不安なことは私自身の将来です。介護のため仕事をやめたので収入がありません。老後、国民年金だけになるので生活できるのか不安です。現在は母の年金と原爆の管理手当でやりくりできていますが、結婚していないのでお金の事が最も心配です。働けなくなった人への支援が何かしらあればいいなと思います。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	親と離れて暮らす親族に、交通費等の支援が少しでもあれば助かります。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	働きたくても働けない介護者には減税が免除を行ってほしい。移送支援に対しての補助、1割負担にならないか。現在、小腸ストマを使用しているが、2～3万円かかってしまう。上限無く補助してほしい。オムツ類の支給ももっと簡単に支給制限無くしてほしい。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	(制度)・老人ホームに入っても日中デイサービスに通えるようにしてほしい。・老人ホームでも日中はデイサービスのように過ごさせてほしい。介護付きだからというが、内容が全く違う。お金は同じくらいとられるのに…。デイサービスが休みの日は暇、やることなく不穏になります。
男性	65～74 歳	仕事に就いていない	オムツ支給。来年3月以降も継続できると業者より聞き安心しているところ。
男性	65～74 歳	仕事に就いていない	同居家族のいる要介護者と独居要介護者との間で、訪問介護サービスに差があるのは納得でない。独居者を優先せざるを得ないのは解るが、同居家族につけを回されるのは納得できない。
男性	65～74 歳	仕事に就いていない	介護を行っている人への就職先・パート先の紹介支援を幅広く行ってほしい。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	自分が入院した際に、別居の子ども(仕事もフルタイムで子育て中)にかわってもらうしかなく、大変負担をかけた。そういうとき(世話をする者が不在になるときにショートではなく、家で生活続けることができるように十分なサービスがないのか?と思います。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	世話をかわってもらいたい。ショートステイをふやしてほしい。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	年齢が高いと色々な面で負担額の出費が多いです。介護保険をやすくして欲しい。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	3階なのでエレベーター付きか、1階(買物にいける)交通の便のいい所へ移りたい。経済的に困っている(年金が少ない)。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	今のところ支援に満足しています。介護1(97才)ですが、トイレ・くすり・衣類の件でお世話しています。認定が正しいのかわかりません。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	介護保険、後期高齢者保険料が大きい。

性別	年齢	職業	自由意見
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	ケアマネの仕事は大変だと思います。紙も多くて一つ一つ署名とか印かんとか手間もかかります。ショートステイとかも予定を言うと、なかなかとれにくいのであちこち電話して下さって大変そうです。本人も難しいのによくされますが大変ですよ。もっと増えるとよいですかね。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	災害等で避難する際、車イスの人はどこに避難したらいいか教えてほしいです。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	介護はひとりではムリです。周りの皆さんの協力や理解があっても大変です。高齢者の介護については誰もが当事者(世話をする方、される方)になります。もっと幅広く知識や理解がひろがることを願います。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	現在介ゴ5で寝たきりですが、1週間サービスを使わないと家族だけではみていくことができない。しかし、単位数が足りず、自費も発生してしまう。終わりの見えない介護なので、あと何年この状態が続くのか生活的にも金銭的にも不安しかない。もっとサービスが使えるように保障や補助制度をわかりやすく、利用できるようにしてほしい。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	県外より帰省して母の介護をしています。3～4ヶ月に1度自宅(県外)に戻りますが、交通費の問題が大変で悩んで居ります。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	介護はやってみないと分らない。私は介護ヘルパーをしていたので、状況把握できたが、それでも肉体的・精神的負担は大変。めげそうになる。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	ショートステイや介護に関わる仕事に就いている人の賃金や待遇を充実させて欲しい。仕事内容に対して、全くみあっていないと感じる。
女性	65～74 歳	仕事に就いていない	“ゴミ屋敷老人”にしたくなければ、介護保険サービス以外でのゴミ出し支援が必要だと思います。別の市にはありますが、(回答者の居住自治体では)“モデル事業”以外の為、対象じゃないと、利用できなかった。地域柄、坂道・階段等多いので、より必要なサービスだと思います。
男性	75 歳以上	仕事に就いていない	配食サービスをもっとふやしてほしい。移動販売や配達のサービスを増やしてほしい。
男性	75 歳以上	仕事に就いていない	税の減税を要望する。
男性	75 歳以上	仕事に就いていない	お世話する人(施設の介ゴ士)がもっと増えると、負担が軽減できると思う。施設や通所介護や病院のスタッフが増える事を心から望みます。
男性	75 歳以上	仕事に就いていない	民生委員による訪問を月1～2回は欲しいです。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	原爆等持たず、費用負担が大変です。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	自分が具合がわるくてもおかまいなしなので困る。どうにか入院した時などの方法はないか。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	書類や手続きが高齢者には難しくて負担。行政からの書類の文章は理解するのが難しい。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	ショートなどの受入先をふやしてほしい。ケアをする人が急に病気になったときのことを支援してほしい。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	経済不安あります。リハビリの先生やケアマネさんにもう少し給料上げて欲しいです。私は払えないから。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	色々な手続きを簡単にしてほしい。

性別	年齢	職業	自由意見
女性	75歳以上	仕事に就いていない	大きい病院を受診の際にタクシー代が高い。交通の便に困っている。交通費がもっと安く利用しやすくできないか。
女性	75歳以上	仕事に就いていない	上記と同じく、本人が受診を拒否していても、連れて行ってくれるサービスがあれば…。
女性	75歳以上	仕事に就いていない	年金が少ないので安くしてほしい。
男性	40～64歳	その他	手厚い支援を望んでいます。
女性	40～64歳	その他	少ない年金からひかれるのが多すぎる。考えて下さい。
女性	40～64歳	その他	主人の年金収入だけしかないため、施設にお世話にならないといけなくなった時の不安は常にあります。残った私が税金等払って生活していけるのかなと…減額していただくと助かります。
女性	40～64歳	その他	サービスの利用や契約等、もう少し手続きを簡単にしたい。
女性	40～64歳	その他	歩道がせまく車イスで外出(通院)するのが大変でした。介護タクシーを充実させて欲しいです。
女性	40～64歳	その他	1人で多数の介護されている方が世の中にたくさんいると思います。これからもっとそう言う方が増えるでしょう。すごくストレスがかかり、思った様にならない介護で怒ったり(怒りたくないのに)、性格まで変えてしまいます。たまに介護疲れで殺人がニュースであります。とてもつらく悲しくなります。そう言う事がない様に国・市町村の対策をよろしくお願いします。
女性	40～64歳	その他	母の支援は助かってますが、本心、息子は、入院している時だけ、私のストレスは減っています。一生、多くの薬が必要のようで、施設で作業を始めても、幻聴で長く続かず、いくつも変わっています。病院からのデイサービスが月2回で1回1時間の外出に同伴してくれてますが、あと2回か、1時間長く見守ってもらえたらと思います。
女性	40～64歳	その他	ケアマネージャーが相談にのってくださるのでありがたいです。
男性	65～74歳	その他	設定サービスのより良い内容の充実等で「これなら安心して(世話をする方、される側)双方に心身共に余裕が持てる環境を創って欲しい。
男性	65～74歳	その他	介護サービスについては案内等あり、よくわかるが、特別障害者手当等知らない人が多い。周知してほしい。窓口担当者はいねいにわかりやすく説明してくれた。
女性	65～74歳	その他	2本杖を利用して買い物に行くが、歩道が片方だけ、途中切れる時もあるので、危険なので整備してもらいたい。
女性	65～74歳	その他	私はめぐまれている方だと思いますので時にありません。
女性	65～74歳	その他	県外の娘が勤めながら子育てしているので手伝いに行ってもやりたいのですが(娘の夫は単身赴任中)、コロナの感染予防の為、一番かかわる私が遠方に出かけると、ディサービスの利用ができなくなり、ショートステイをすすめられるけど、それは拒否するので困っています。
女性	65～74歳	その他	24時間介護していますので、介護用品、特にオムツの支援はい換です。

性別	年齢	職業	自由意見
男性	75歳以上	その他	特養の施設へ申込みをしていますが、むずかしい。金額の面でも高額なので、不安がある。
男性	75歳以上	その他	食事の準備など世話が忙しかったり、気がめいつている時は、作ったりする事ができず、出来合いの物を買ったりして、金銭的に大変なので補助金など出してほしい。
男性	75歳以上	その他	充分お世話になっているので、特にありません。
女性	75歳以上	その他	長い答えで今の現状を記しました。今回の企画のありがとうございます。乱筆乱文誠に申しわけございません。
女性	75歳以上	その他	お世話いただき、大へん感謝致しております。
女性	40～64歳	無回答	介護が必要になった本人や配偶者の介護保険料は免除してほしい。
女性	40～64歳	無回答	世話をしているので、仕事に限ぎられ正社員で働くことが出来ません。そのため経済的に年金の少ない母に支援をしているので、介護をしている低所得の方にも支援があればと思います。
女性	75歳以上	無回答	コロナのように、外部とせつしょくできないので、大変だなあと思いました。どうしていいかわからず、家の中にいるばかりで、コロナにかかっているなくても、大変でした。
無回答	無回答	無回答	ケアマネージャーの人やデイサービスの人がとても大変そうです。職員不足とよく聞きます。働き易くしてあげて欲しいです。

Ⅲ 障害者調査結果

Ⅲ 障害者調査結果

1. ケアラーの基本属性

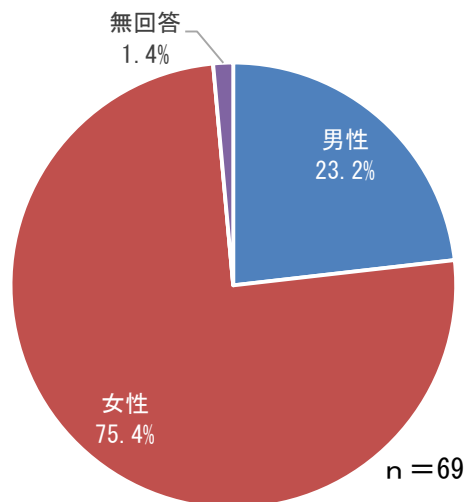
(1) ケアラーの性別

性別は「女性」75.4%、「男性」23.2%となっている。

〔表 3-1-1 ケアラーの性別〕

カテゴリ	件数	(全体)%
男性	16	23.2
女性	52	75.4
その他	0	0.0
無回答	1	1.4
N (%ベース)	69	100

〔図 3-1-1 性別〕



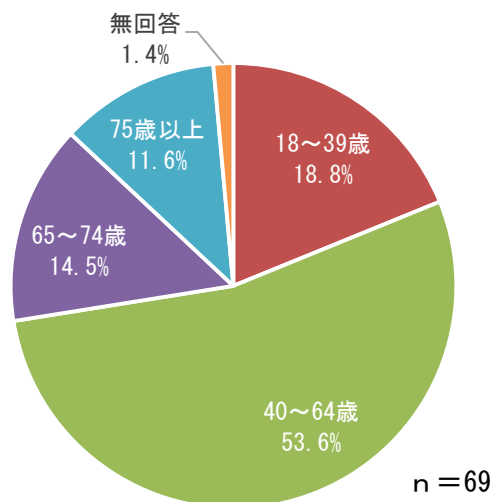
(2) ケアラーの年齢

年齢は「40～64歳」が53.6%で最も多く、次いで「18～39歳以上」が18.8%、「65～74歳」が14.5%と続いている。

〔表 3-1-2 年齢〕

カテゴリ	件数	(全体)%
18歳未満	0	0.0
18～39歳	13	18.8
40～64歳	37	53.6
65～74歳	10	14.5
75歳以上	8	11.6
無回答	1	1.4
N (%ベース)	69	100

〔図 3-1-2 年齢〕



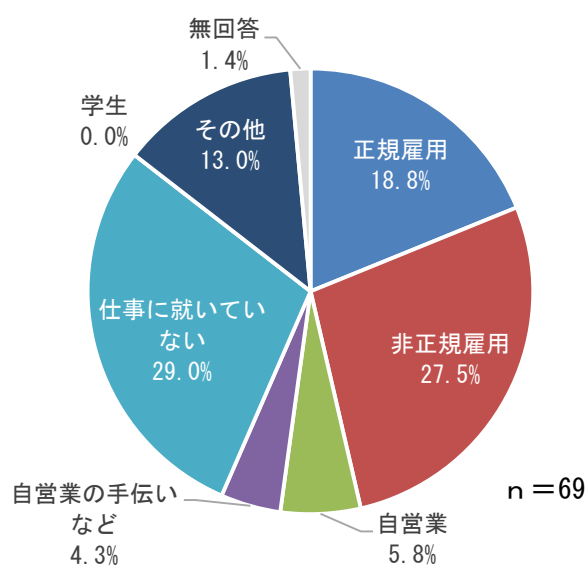
(3) ケアラーの仕事

仕事は「仕事に就いていない」が29.0%で最も多く、次いで「非正規雇用」が27.5%、「正規雇用」が18.8%と続いている。

〔表 3-1-3 ケアラーの仕事〕

カテゴリ	件数	(全体)%
正規雇用	13	18.8
非正規雇用	19	27.5
自営業	4	5.8
自営業の手伝いなど	3	4.3
仕事に就いていない	20	29.0
学生	0	0.0
その他	9	13.0
無回答	1	1.4
N (%ベース)	69	100

〔図 3-1-3 ケアラーの仕事〕



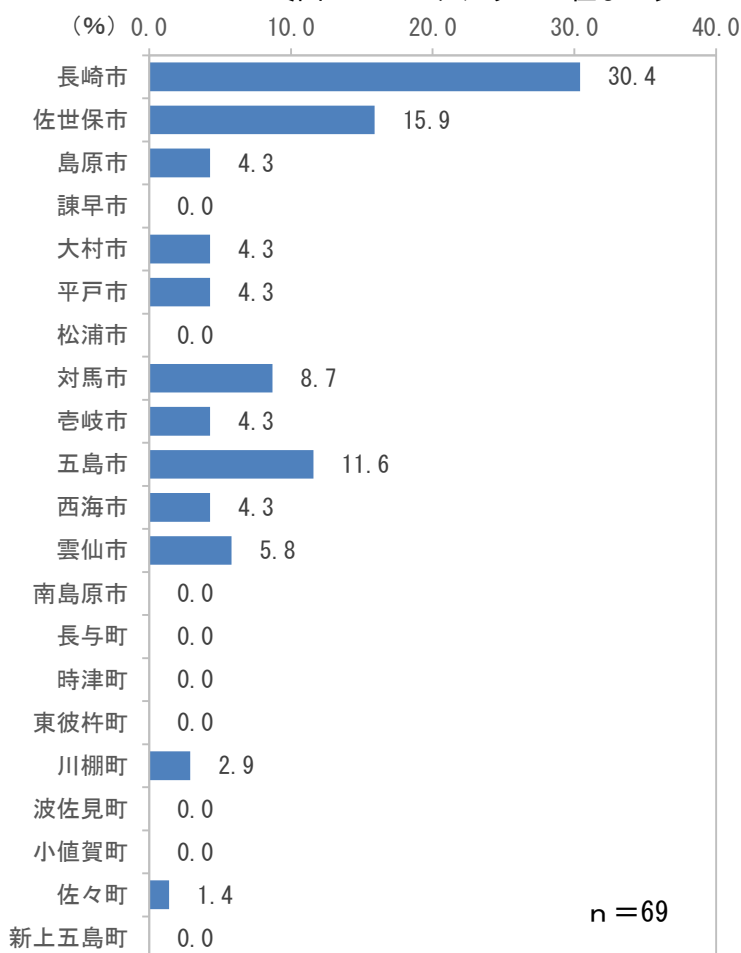
(4) ケアラーの住まい

〔表 3-1-4 ケアラーの住まい〕

カテゴリ	件数	(全体)%
長崎市	21	30.4
佐世保市	11	15.9
島原市	3	4.3
諫早市	0	0.0
大村市	3	4.3
平戸市	3	4.3
松浦市	0	0.0
対馬市	6	8.7
壱岐市	3	4.3
五島市	8	11.6
西海市	3	4.3
雲仙市	4	5.8
南島原市	0	0.0
長与町	0	0.0
時津町	0	0.0
東彼杵町	0	0.0
川棚町	2	2.9
波佐見町	0	0.0
小値賀町	0	0.0
佐々町	1	1.4
新上五島町	0	0.0
無回答	1	1.4
N (%ベース)	69	100

住まいは「長崎市」が30.4%で最も多く、次いで「佐世保市」が15.9%、「五島市」が11.6%と続いている。

〔図 3-1-4 ケアラーの住まい〕

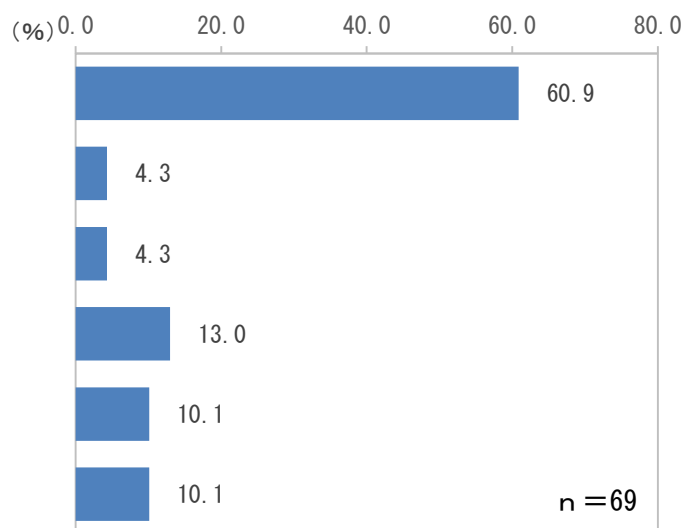


(5) ケアラーの要介護状態・障害支援区分の認定状況等

ケアラーの要介護状態・障害支援区分の認定状況等は「2～6のいずれにも該当なし」が60.9%で最も多く、次いで「身体障害者福祉手帳」が13.0%、「療育手帳」・「精神保健福祉手帳」が10.1%と続いている。このことから、3割弱が介護者自身も何らかの障害や支援を必要とする人となっていることがわかる。

〔表 3-1-5 ケアラーの要介護状態・障害支援区分の認定状況等〕〔図 3-1-5 ケアラーの要介護状態・障害支援区分の認定状況等〕

カテゴリ	件数	(全体)%
2～6のいずれにも該当なし	42	60.9
介護保険制度による「要支援」	3	4.3
介護保険制度による「要介護」	3	4.3
身体障害者福祉手帳	9	13.0
療育手帳	7	10.1
精神保健福祉手帳	7	10.1
無回答	7	10.1
N (%へ→)	69	100



2. お世話をしている相手の状況

(1) お世話をしている相手の人数

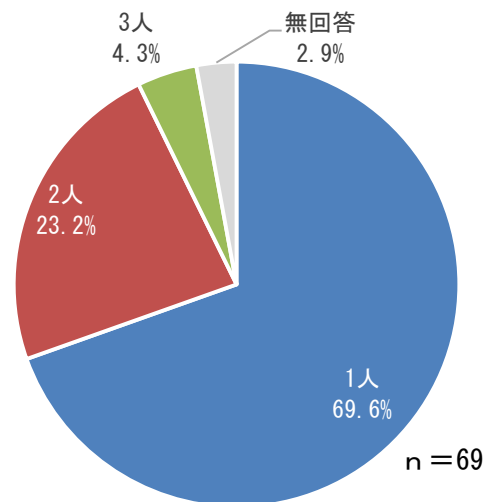
お世話をしている相手の人数は「1人」が81.8%で最も多く、次いで「2人」が16.4%、「3人」が1.9%となっている。

また、お世話をしている相手の続柄は「子ども」が54.9%で最も多くなっており、次いで「父母」が23.1%、「配偶者」・「兄弟・姉妹」が8.8%と続いている。

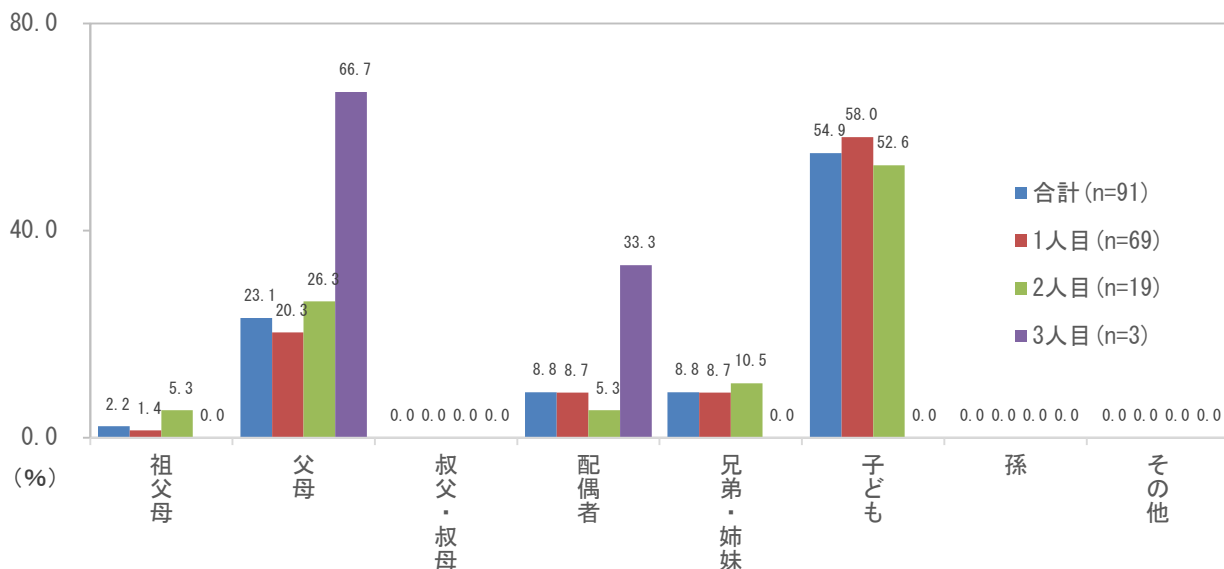
〔表 3-2-1 お世話をしている相手の人数〕

カテゴリ	件数	(全体)%
1人	475	81.8
2人	95	16.4
3人	11	1.9
無回答	0	0.0
N (%ベース)	581	100

〔図 3-2-1 介護する人お世話をしている相手の人数〕



〔図 3-2-2 お世話をしている相手の続柄〕



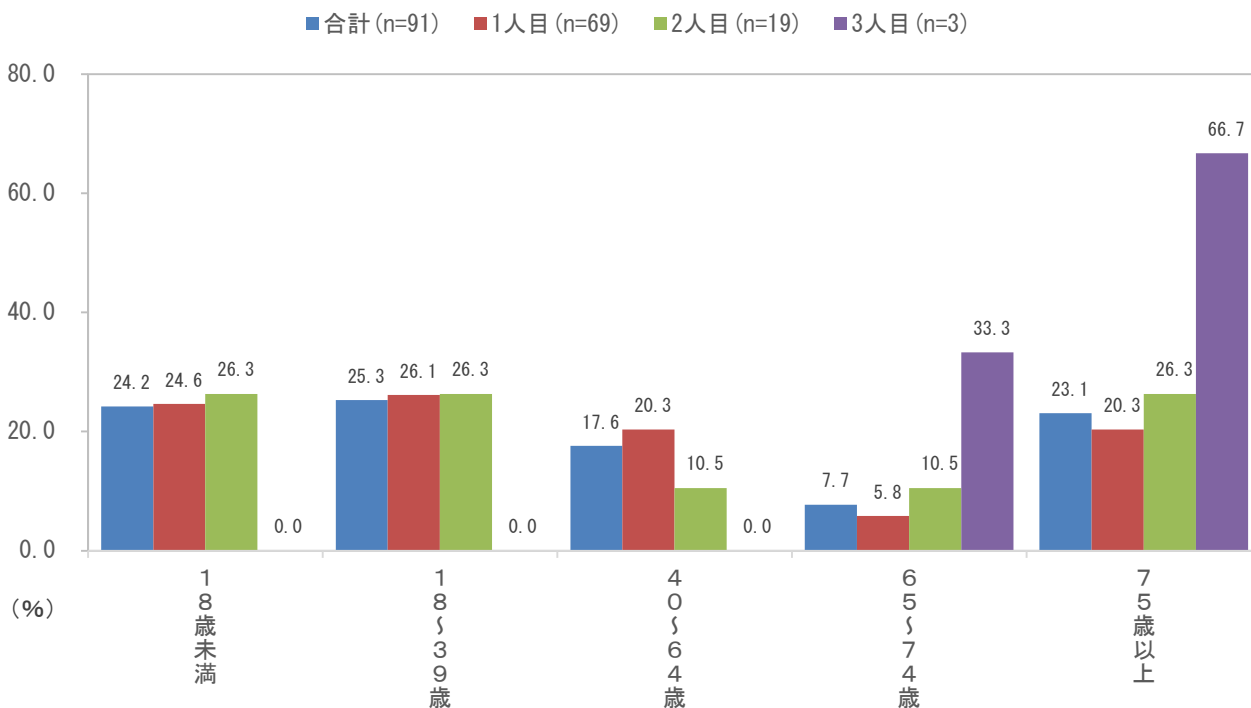
〔表 3-2-2 お世話をしている相手の続柄〕

	合計		1人目		2人目		3人目	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
祖父母	2	2.2	1	1.4	1	5.3	0	0.0
父母	21	23.1	14	20.3	5	26.3	2	66.7
叔父・叔母	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
配偶者	8	8.8	6	8.7	1	5.3	1	33.3
兄弟・姉妹	8	8.8	6	8.7	2	10.5	0	0.0
子ども	50	54.9	40	58.0	10	52.6	0	0.0
孫	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	2	2.2	2	2.9	0	0.0	0	0.0
N (%ベース)	91	100	69	100	19	100	3	100

(2) お世話をしている相手の年齢

お世話をしている相手の年齢は「18～39 歳」が 25.3%で最も多く、次いで「18 歳未満」が 24.2%、「75 歳以上」が 23.1%と続いている。

〔図 3-2-3 お世話をしている相手の年齢〕



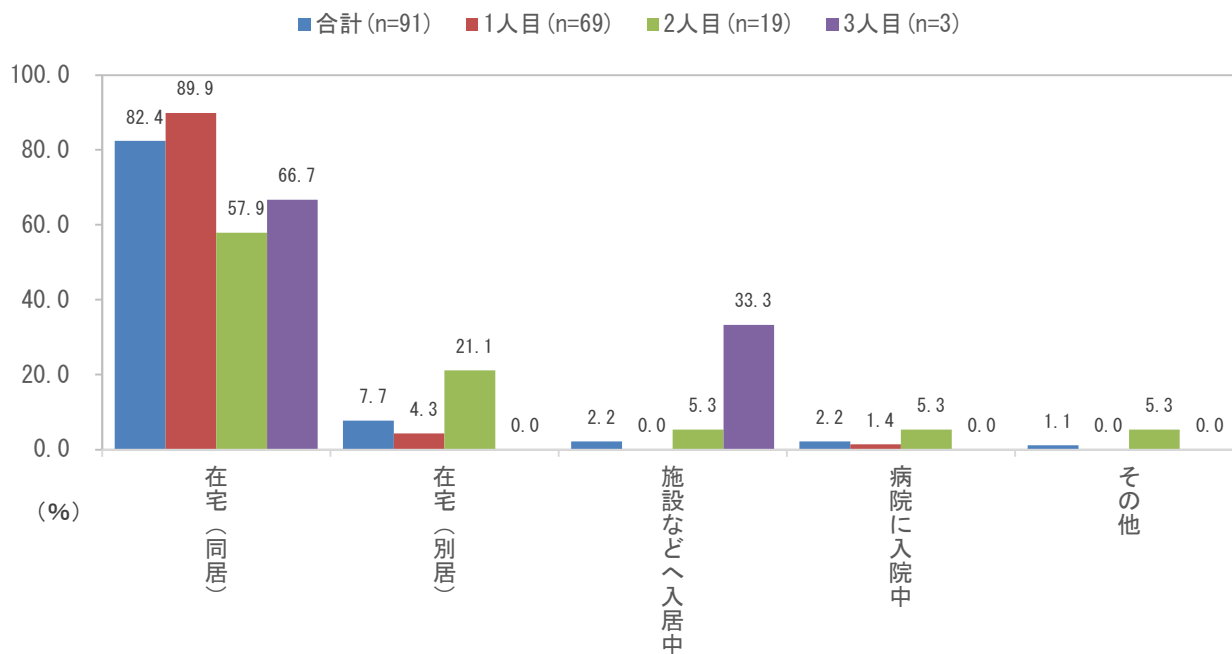
〔表 3-2-3 お世話をしている相手の年齢〕

	合計		1人目		2人目		3人目	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
18歳未満	22	24.2	17	24.6	5	26.3	0	0.0
18～39歳	23	25.3	18	26.1	5	26.3	0	0.0
40～64歳	16	17.6	14	20.3	2	10.5	0	0.0
65～74歳	7	7.7	4	5.8	2	10.5	1	33.3
75歳以上	21	23.1	14	20.3	5	26.3	2	66.7
無回答	2	2.2	2	2.9	0	0.0	0	0.0
N (%へ入)	91	100	69	100	19	100	3	100

(3) お世話をしている相手の生活の場所

お世話をしている相手の生活の場所は「在宅（同居）」が82.4%で最も多く、次いで「在宅（別居）」が7.7%、「施設などへ入居中」・「病院に入院中」が2.2%と続いている。

〔図 3-2-4 お世話をしている相手の生活の場所〕



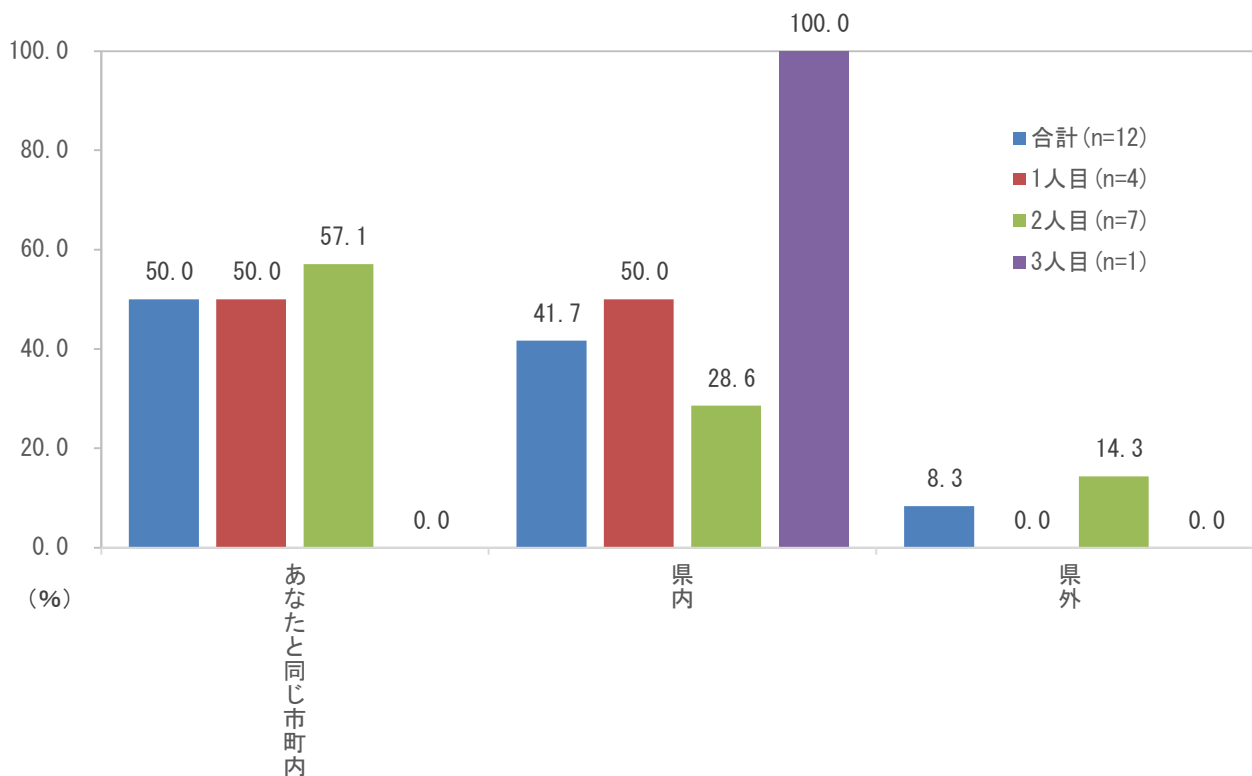
〔表 3-2-4 お世話をしている相手の生活の場所〕

	合計		1人目		2人目		3人目	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
在宅（同居）	75	82.4	62	89.9	11	57.9	2	66.7
在宅（別居）	7	7.7	3	4.3	4	21.1	0	0.0
施設などへ入居中	2	2.2	0	0.0	1	5.3	1	33.3
病院に入院中	2	2.2	1	1.4	1	5.3	0	0.0
その他	1	1.1	0	0.0	1	5.3	0	0.0
無回答	4	4.4	3	4.3	1	5.3	0	0.0
N（%ベース）	91	100	69	100	19	100	3	100

(4) お世話をしている相手の生活の場所（同居でない場合）

別居で介護されている人の住まいは「あなたと同じ市町内」が50.0%で最も多く、次いで「県内」が41.7%、「県外」が8.3%と続いている。

〔図 3-2-5 お世話をしている相手の生活の場所（同居でない場合）〕



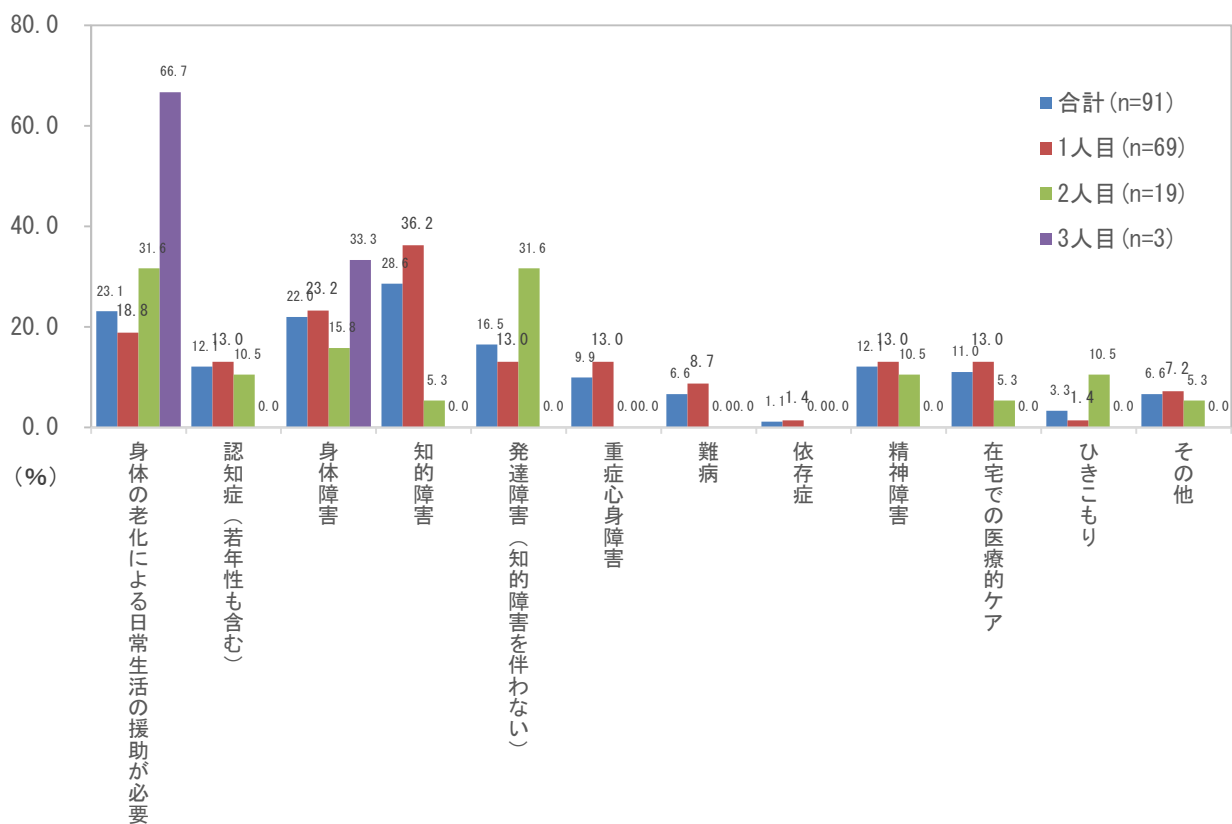
〔表 3-2-5 お世話をしている相手の生活の場所（同居でない場合）〕

	合計		1人目		2人目		3人目	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
あなたと同じ市町内	6	50.0	2	50.0	4	57.1	0	0.0
県内	5	41.7	2	50.0	2	28.6	1	100.0
県外	1	8.3	0	0.0	1	14.3	0	0.0
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
N (%ベース)	12	100	4	100	7	100	1	100

(5) お世話が必要な理由

お世話が必要な理由は「知的障害」が28.6%で最も多く、次いで「身体の老化による日常生活の援助が必要」が23.1%、「身体障害」が22.0%と続いている。

〔図 3-2-6 お世話が必要な理由〕



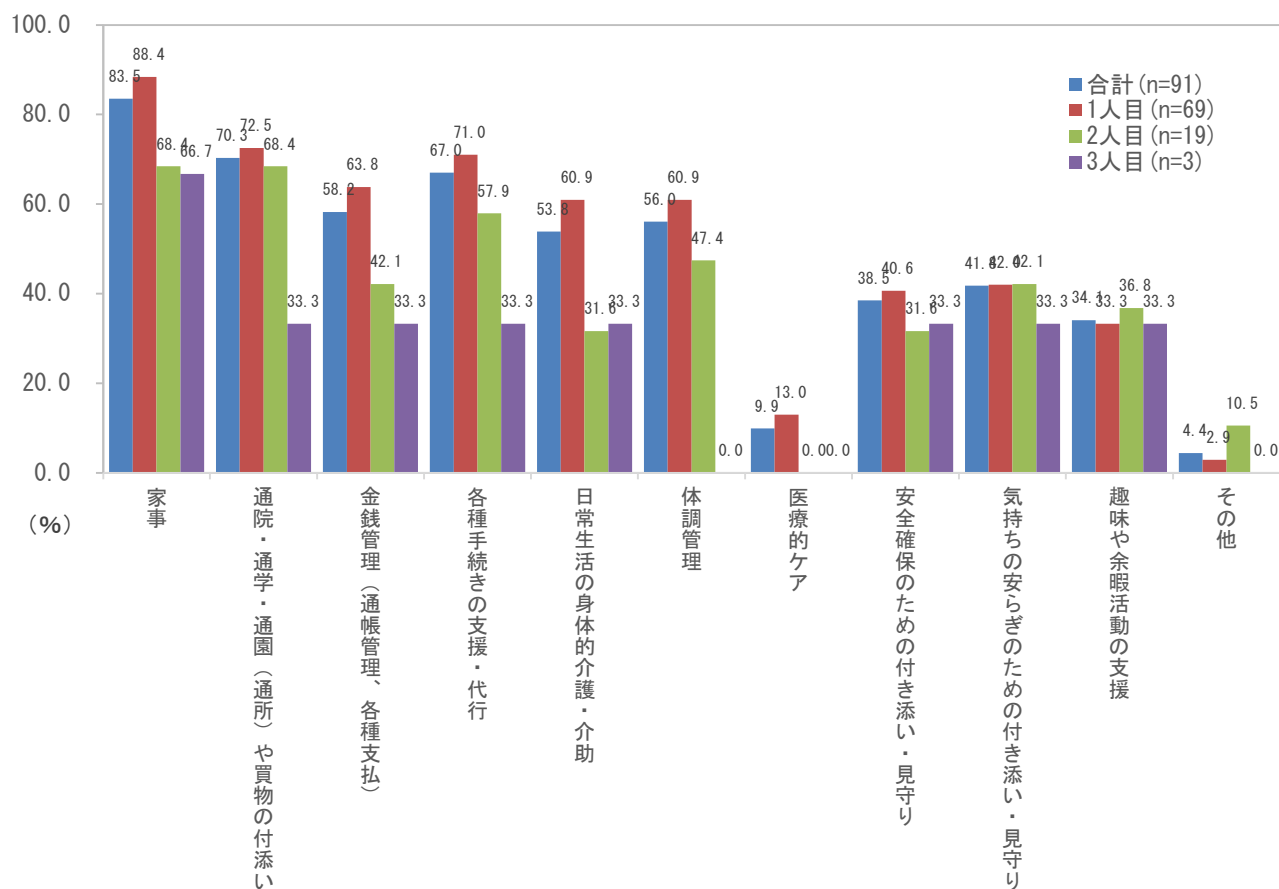
〔表 3-2-6 お世話が必要な理由〕

	合計		1人目		2人目		3人目	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
身体の老化による日常生活の援助が必要	21	23.1	13	18.8	6	31.6	2	66.7
認知症 (若年性も含む)	11	12.1	9	13.0	2	10.5	0	0.0
身体障害	20	22.0	16	23.2	3	15.8	1	33.3
知的障害	26	28.6	25	36.2	1	5.3	0	0.0
発達障害 (知的障害を伴わない)	15	16.5	9	13.0	6	31.6	0	0.0
重症心身障害	9	9.9	9	13.0	0	0.0	0	0.0
難病	6	6.6	6	8.7	0	0.0	0	0.0
依存症	1	1.1	1	1.4	0	0.0	0	0.0
精神障害	11	12.1	9	13.0	2	10.5	0	0.0
在宅での医療的ケア	10	11.0	9	13.0	1	5.3	0	0.0
ひきこもり	3	3.3	1	1.4	2	10.5	0	0.0
その他	6	6.6	5	7.2	1	5.3	0	0.0
無回答	4	4.4	2	2.9	1	5.3	1	33.3
N (% [^] -)	91	100	69	100	19	100	3	100

(6) お世話をしている内容

お世話をしている内容は「家事」が83.5%で最も多く、次いで「通院や買物の付添い」が70.3%、「各種手続きの支援・代行」が67.0%と続いている。

〔図 2-2-7 お世話をしている内容〕



〔表 2-2-7 お世話をしている内容〕

	合計		1人目		2人目		3人目	
	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%	件数	(全体)%
家事	76	83.5	61	88.4	13	68.4	2	66.7
通院・通学・通園（通所）や買物の付添い	64	70.3	50	72.5	13	68.4	1	33.3
金銭管理（通帳管理、各種支払）	53	58.2	44	63.8	8	42.1	1	33.3
各種手続きの支援・代行	61	67.0	49	71.0	11	57.9	1	33.3
日常生活の身体的介護・介助	49	53.8	42	60.9	6	31.6	1	33.3
体調管理	51	56.0	42	60.9	9	47.4	0	0.0
医療的ケア	9	9.9	9	13.0	0	0.0	0	0.0
安全確保のための付き添い・見守り	35	38.5	28	40.6	6	31.6	1	33.3
気持ちの安らぎのための付き添い・見守り	38	41.8	29	42.0	8	42.1	1	33.3
趣味や余暇活動の支援	31	34.1	23	33.3	7	36.8	1	33.3
その他	4	4.4	2	2.9	2	10.5	0	0.0
無回答	3	3.3	2	2.9	1	5.3	0	0.0
N（%ベース）	91	100	69	100	19	100	3	100

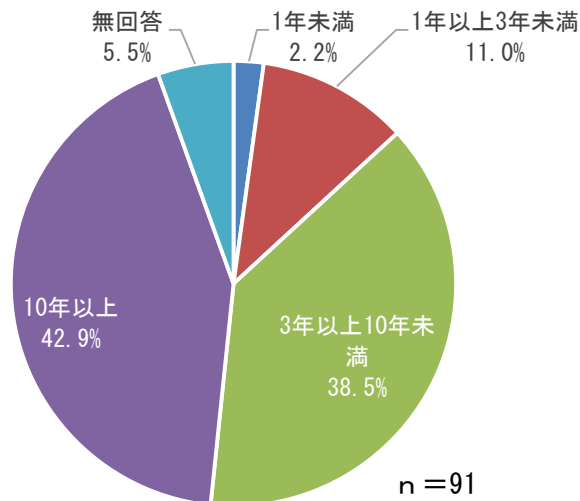
(7) お世話をしている期間

お世話をしている期間は「10年以上」が42.9%で最も多く、次いで「3年以上10年未満」が38.5%、「1年以上3年未満」が11.0%と続いている。

〔表 3-2-8 お世話をしている期間〕

カテゴリ	件数	(全体)%
1年未満	2	2.2
1年以上3年未満	10	11.0
3年以上10年未満	35	38.5
10年以上	39	42.9
無回答	5	5.5
N (%ベース)	91	100

〔図 3-2-8 お世話をしている期間〕



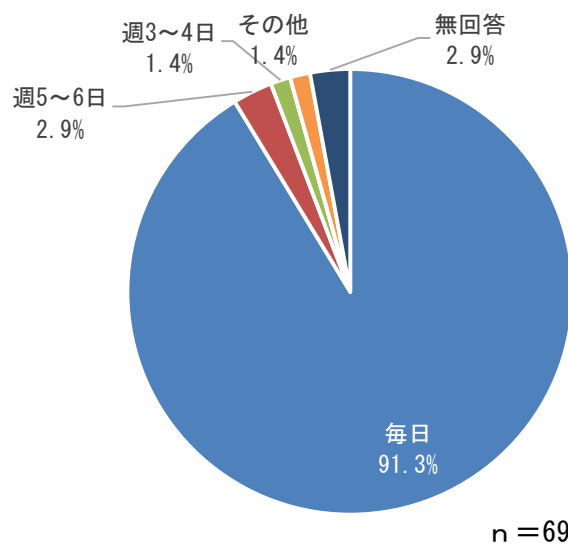
(8) お世話のサイクル

お世話のサイクルは「毎日」が91.3%で最も多く、次いで「週5~6日」が2.9%、「週3~4日」が1.4%と続いている。

〔表 3-2-9 お世話のサイクル〕

カテゴリ	件数	(全体)%
毎日	63	91.3
週5~6日	2	2.9
週3~4日	1	1.4
週1~2日	0	0.0
月に2~3日	0	0.0
その他	1	1.4
無回答	2	2.9
N (%ベース)	69	100

〔図 3-2-9 お世話のサイクル〕



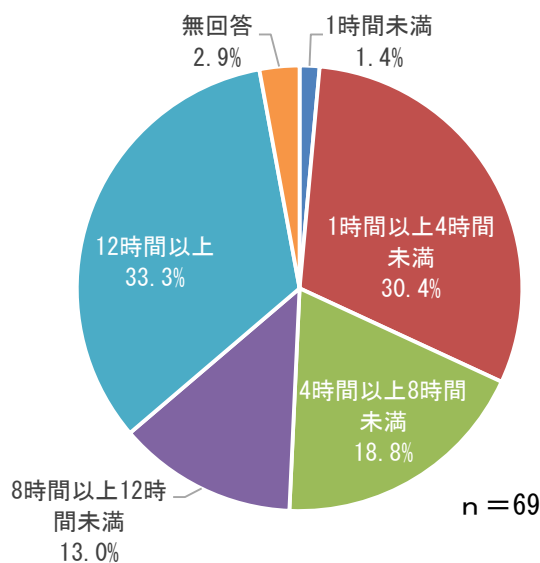
(9) お世話の最長時間 (1日)

直近1ヶ月のお世話の最長時間(1日)は「12時間以上」が33.3%で最も多く、次いで「1時間以上4時間未満」が30.4%、「4時間以上8時間未満」が18.8%と続いている。

〔表 2-2-11 お世話の最長時間 (1日)〕

カテゴリ	件数	(全体)%
1時間未満	1	1.4
1時間以上4時間未満	21	30.4
4時間以上8時間未満	13	18.8
8時間以上12時間未満	9	13.0
12時間以上	23	33.3
無回答	2	2.9
N (% [^] -ス)	69	100

〔図 2-2-10 お世話の最長時間 (1日)〕



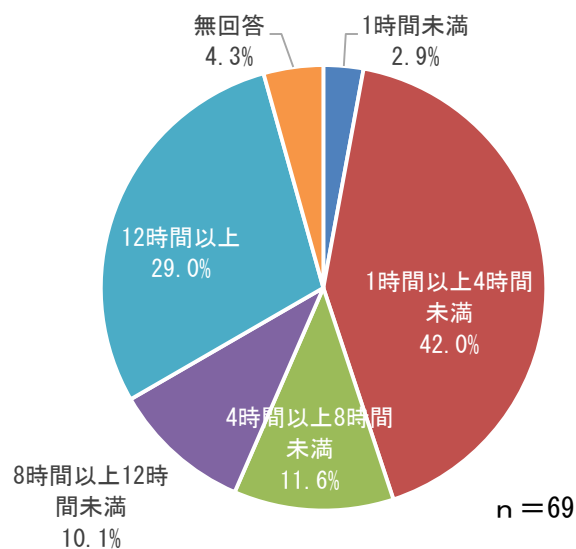
(10) お世話の平均時間 (1日)

直近1ヶ月でのお世話の平均時間(1日)は「1時間以上4時間未満」が42.0%で最も多く、次いで「12時間以上」が29.0%、「4時間以上8時間未満」が11.6%と続いている。

〔表 2-2-12 お世話の平均時間 (1日)〕

カテゴリ	件数	(全体)%
1時間未満	2	2.9
1時間以上4時間未満	29	42.0
4時間以上8時間未満	8	11.6
8時間以上12時間未満	7	10.1
12時間以上	20	29.0
無回答	3	4.3
N (% [^] -ス)	69	100

〔図 2-2-11 お世話の平均時間 (1日)〕

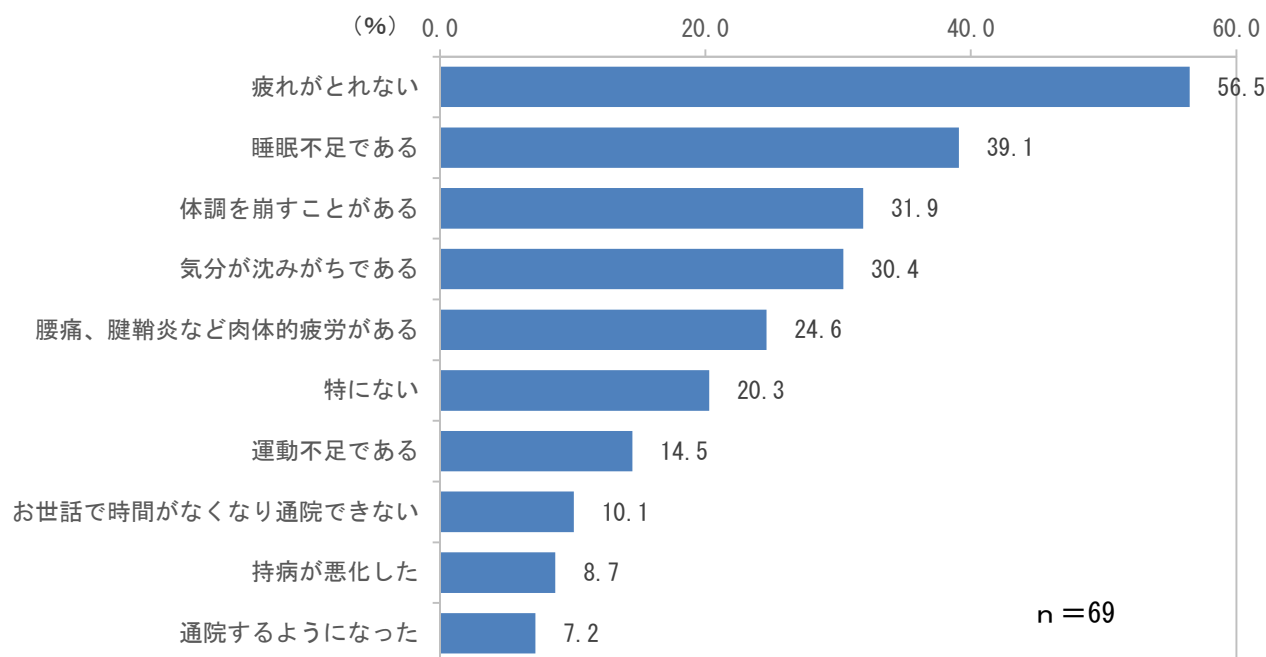


3. ケアラーへの影響

(1) 健康面への影響

お世話をするものの健康への影響は「疲れがとれない」が56.5%で最も多く、次いで「睡眠不足である」が39.1%、「体調を崩すことがある」が31.9%と続いている。

〔図 2-3-1 健康面への影響〕



〔表 2-3-1 健康面への影響〕

カテゴリ	件数	(全体)%
体調を崩すことがある	22	31.9
腰痛、腱鞘炎など肉体的疲労がある	17	24.6
疲れがとれない	39	56.5
運動不足である	10	14.5
気分が沈みがちである	21	30.4
睡眠不足である	27	39.1
通院するようになった	5	7.2
持病が悪化した	6	8.7
お世話で時間がなくなり通院できない	7	10.1
その他	5	7.2
特にない	14	20.3
無回答	3	4.3
N (%ベース)	69	100

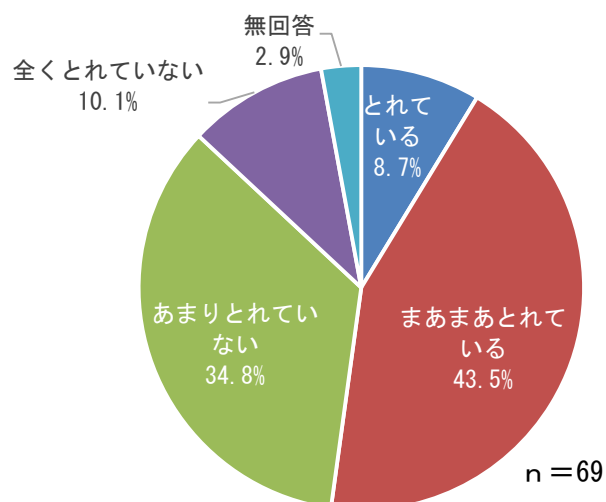
(2) 自分のための時間

「まあまあとれている」が43.5%で最も多く、次いで「あまりとれていない」が34.8%、「全くとれていない」が10.1%と続いており、「とれる（「とれている」+「まあまあとれている」）」が52.2%、「とれていない（「あまりとれていない」+「全くとれていない」）」が44.9%となっている。

〔表 2-3-2 自分のための時間〕

カテゴリ	件数	(全体)%
とれている	6	8.7
まあまあとれている	30	43.5
あまりとれていない	24	34.8
全くとれていない	7	10.1
無回答	2	2.9
N (%ベース)	69	100

〔図 2-3-2 自分のための時間〕



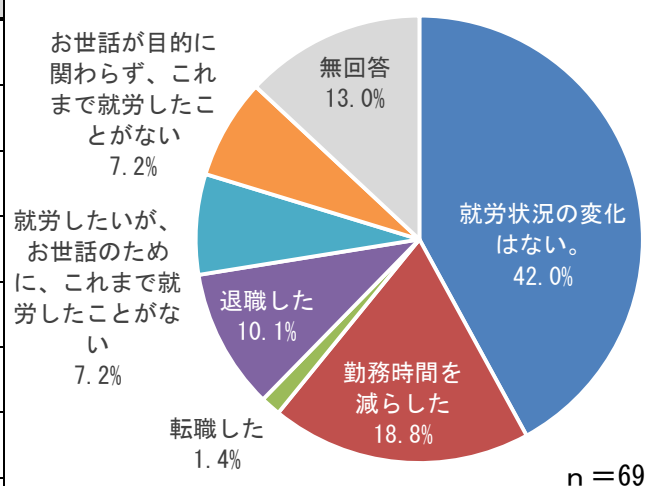
(3) 就労状況の変化

「就労状況の変化はない」が42.0%で最も多く、次いで「勤務時間を減らした」が18.8%、「退職した」が10.1%と続いている。

〔表 2-3-3 就労状況の変化〕

カテゴリ	件数	(全体)%
就労状況の変化はない。	29	42.0
勤務時間を減らした	13	18.8
転職した	1	1.4
退職した	7	10.1
就労したいが、お世話のために、これまで就労したことがない	5	7.2
お世話が目的に関わらず、これまで就労したことがない	5	7.2
無回答	9	13.0
N (%ベース)	69	100

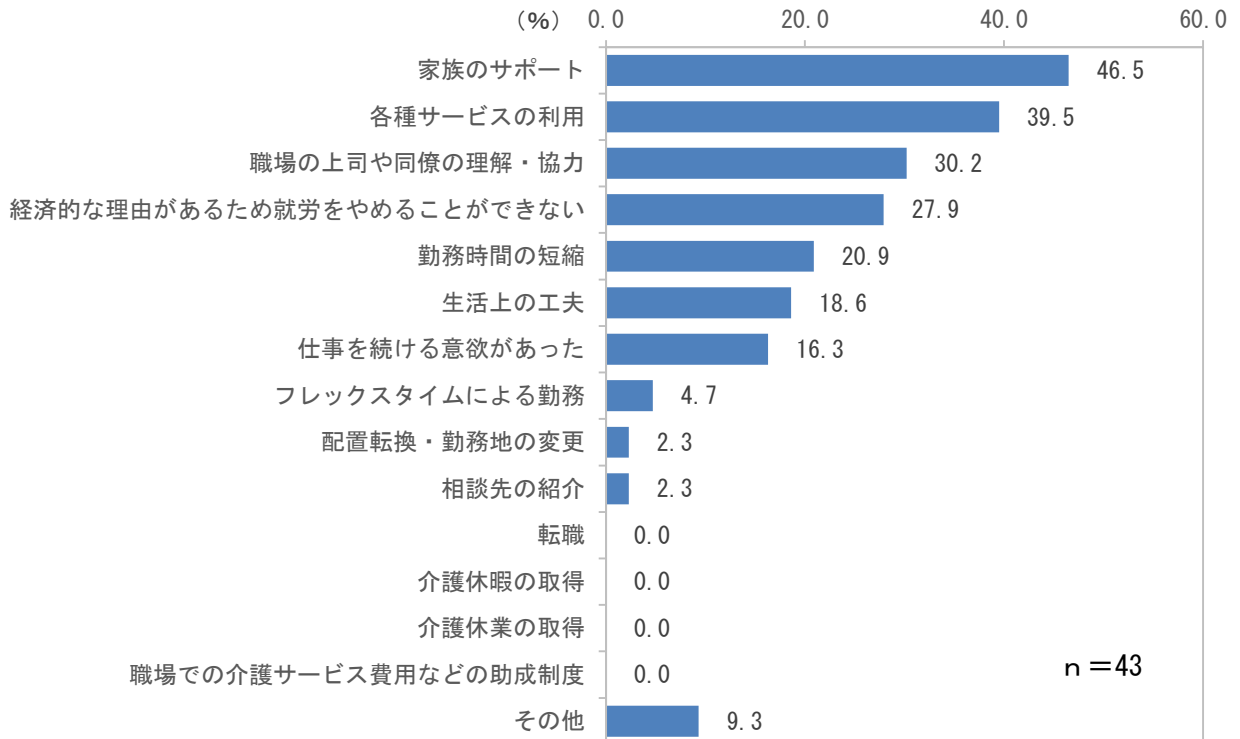
〔図 2-3-3 就労状況の変化〕



(4) 就労継続ができた理由 (就労を続けられた方のみ回答)

就労継続ができた理由は「家族のサポート」が46.5%で最も多く、次いで「各種サービスの利用」が39.5%、「職場の上司や同僚の理解・協力」が30.2%と続いている。

〔図 3-3-4 就労継続ができた理由〕



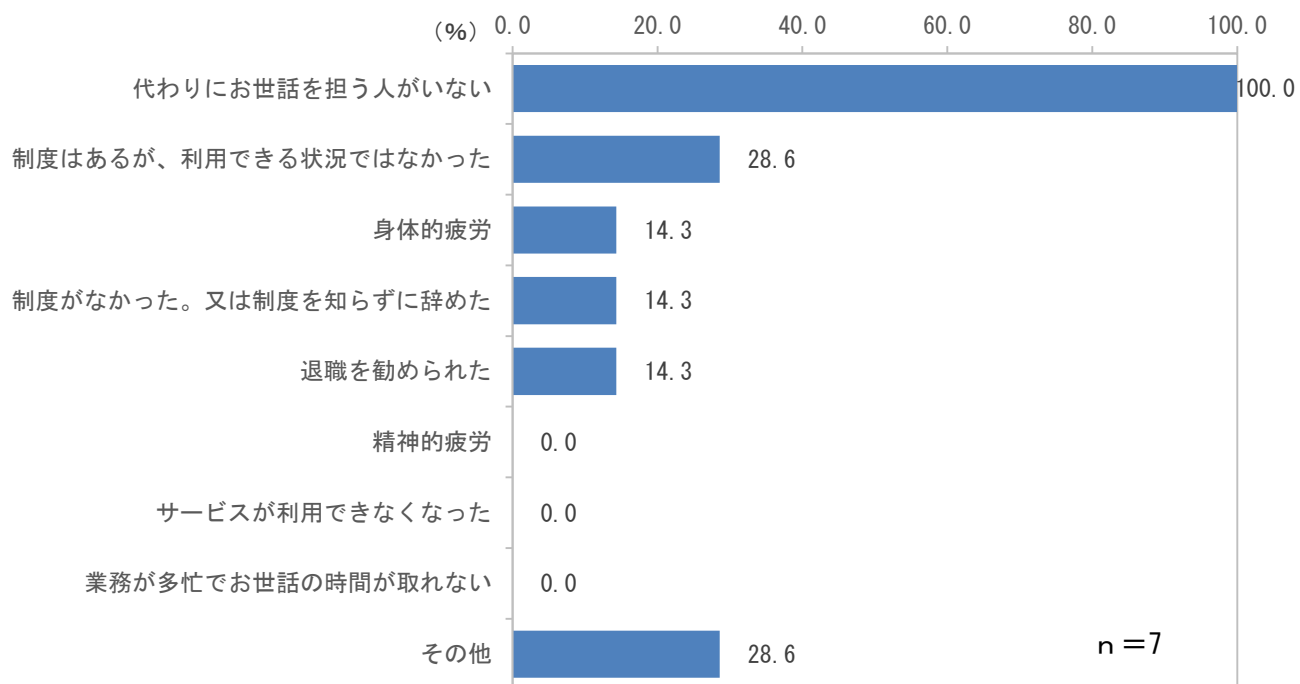
〔表 3-3-4 就労継続ができた理由〕

カテゴリ	件数	(全体)%
各種サービスの利用	17	39.5
家族のサポート	20	46.5
勤務時間の短縮	9	20.9
フレックスタイムによる勤務	2	4.7
配置転換・勤務地の変更	1	2.3
転職	0	0.0
介護休暇の取得	0	0.0
介護休業の取得	0	0.0
相談先の紹介	1	2.3
生活上の工夫	8	18.6
仕事を続ける意欲があった	7	16.3
職場の上司や同僚の理解・協力	13	30.2
経済的な理由があるため就労をやめることができない	12	27.9
職場での介護サービス費用などの助成制度	0	0.0
その他	4	9.3
無回答	5	11.6
N (%ベース)	43	100

(5) 退職した理由（お世話をするを機に退職された方のみ回答）

退職した理由は「代わりにお世話を担う人がいない」が100.0%で最も多く、次いで「制度はあるが、利用できる状況ではなかった」が28.6%、「身体的疲労」・「制度がなかった。又は制度を知らずに辞めた」・「退職を勧められた」が14.3%と続いている。

〔図 3-3-5 退職した理由〕



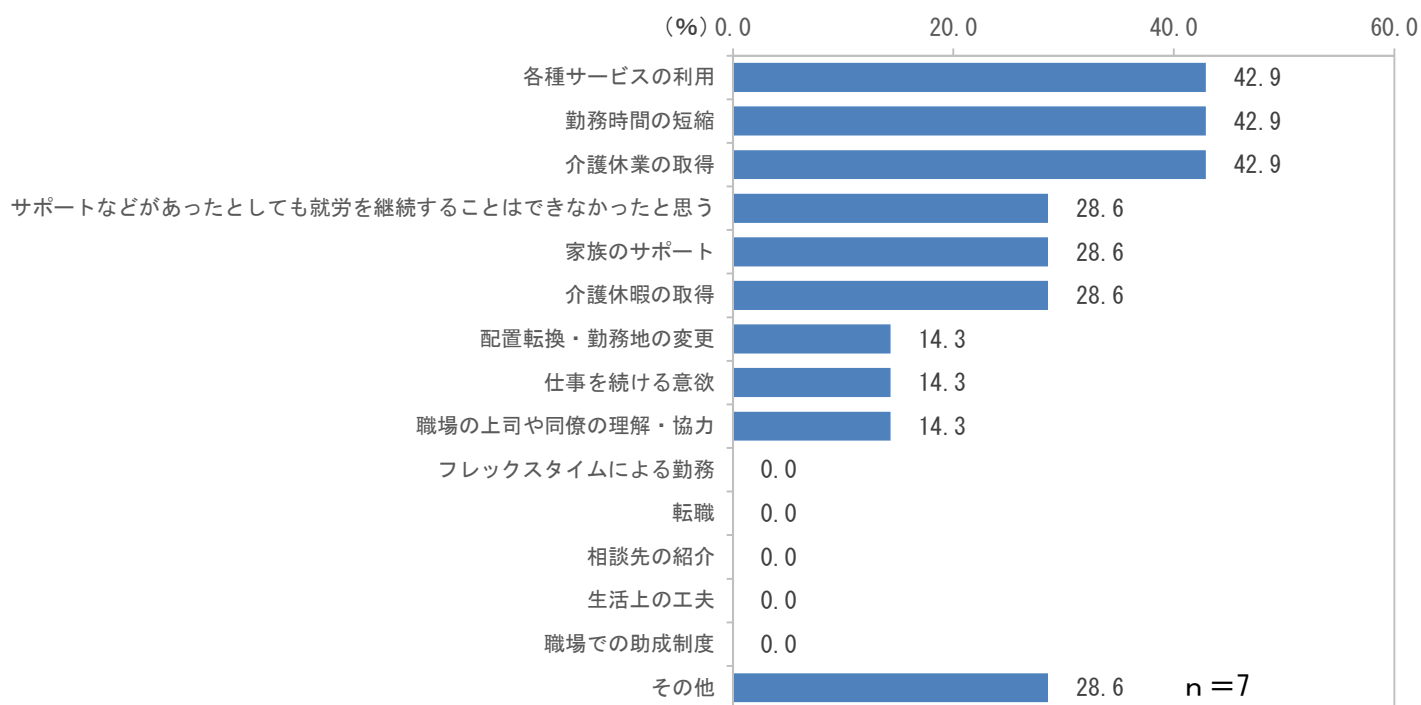
〔表 3-3-5 退職した理由〕

カテゴリ	件数	(全体)%
身体的疲労	1	14.3
精神的疲労	0	0.0
代わりにお世話を担う人がいない	7	100.0
サービスが利用できなくなった	0	0.0
業務が多忙でお世話の時間が取れない	0	0.0
制度はあるが、利用できる状況ではなかった	2	28.6
制度がなかった。又は制度を知らずに辞めた	1	14.3
退職を勧められた	1	14.3
その他	2	28.6
無回答	0	0.0
N (%ベース)	7	100

(6) 就労を継続するために必要な支援（お世話をすることを機に退職された方のみ回答）

就労を継続するために必要な支援は「各種サービスの利用」・「勤務時間の短縮」・「介護休業の取得」が42.9%で最も多く、次いで「サポートなどがあっても就労を継続することはできなかったと思う」・「家族のサポート」・「介護休暇の取得」が28.6%と続いている。

〔図 3-3-6 就労を継続するために必要な支援〕



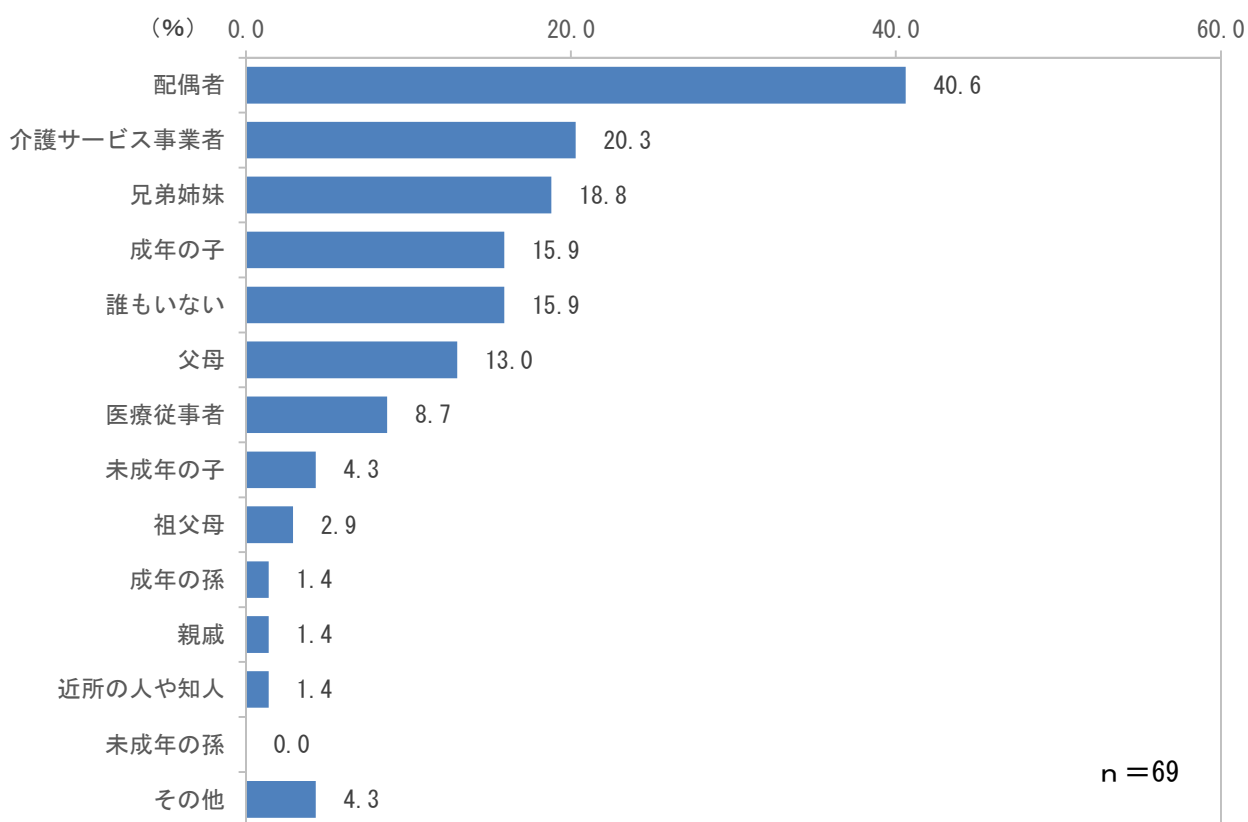
〔表 3-3-6 就労を継続するために必要な支援〕

カテゴリ	件数	(全体)%
サポートなどがあっても就労を継続することはできなかったと思う	2	28.6
各種サービスの利用	3	42.9
家族のサポート	2	28.6
勤務時間の短縮	3	42.9
フレックスタイムによる勤務	0	0.0
配置転換・勤務地の変更	1	14.3
転職	0	0.0
介護休暇の取得	2	28.6
介護休業の取得	3	42.9
相談先の紹介	0	0.0
生活上の工夫	0	0.0
仕事を続ける意欲	1	14.3
職場の上司や同僚の理解・協力	1	14.3
職場での助成制度	0	0.0
その他	2	28.6
無回答	0	0.0
N (％ベース)	7	100

(7) 緊急時の代替者

緊急時の代替者は、「配偶者」が40.6%で最も多く、次いで「介護サービス事業者」が20.3%、「兄弟姉妹」が18.8%と続いている。

〔図 3-3-7 緊急時の代替者〕



〔表 3-3-7 緊急時の代替者〕

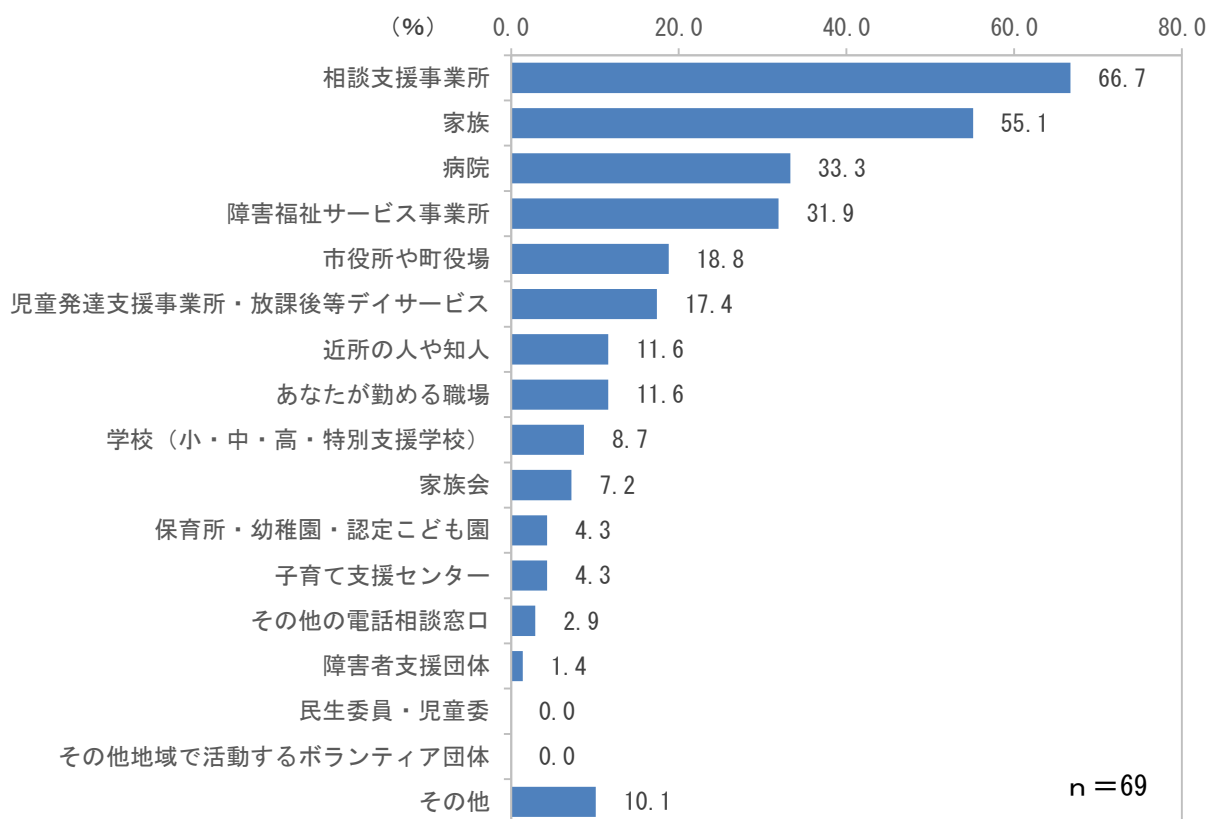
カテゴリ	件数	(全体)%
配偶者	28	40.6
父母	9	13.0
祖父母	2	2.9
成年の子	11	15.9
未成年の子	3	4.3
成年の孫	1	1.4
未成年の孫	0	0.0
兄弟姉妹	13	18.8
親戚	1	1.4
近所の人や知人	1	1.4
医療従事者	6	8.7
介護サービス事業者	14	20.3
その他	3	4.3
誰もいない	11	15.9
無回答	3	4.3
N (%ベース)	69	100

4. 相談先や相談窓口

(1) 頼りにしている相談先

頼りにしている相談先は、「相談支援事業所」が66.7%で最も多く、次いで「家族」が55.1%、「病院」が33.3%と続いている。

〔図 3-3-8 頼りにしている相談先〕



〔表 3-3-8 頼りにしている相談先〕

カテゴリ	件数	(全体)%
家族	38	55.1
家族会	5	7.2
市役所や町役場	13	18.8
相談支援事業所	46	66.7
障害福祉サービス事業所	22	31.9
児童発達支援事業所・放課後等デイサービス	12	17.4
保育所・幼稚園・認定こども園	3	4.3
子育て支援センター	3	4.3
学校 (小・中・高・特別支援学校)	6	8.7
病院	23	33.3
障害者支援団体	1	1.4
民生委員・児童委	0	0.0
近所の人や知人	8	11.6
あなたが勤める職場	8	11.6
その他地域で活動するボランティア団体	0	0.0
その他の電話相談窓口	2	2.9
その他	7	10.1
無回答	1	1.4
N (%への入)	69	100

(2) 困りごと等意見

性別	年齢	仕事	困りごと
男性	40～64 歳	正規雇用	保育所の入所に苦労した(25 件くらい連絡して、見学に行けたのが 4 ヶ所、全て断られた)。自分と子が病気になった時に預け先がない。
女性	40～64 歳	正規雇用	通学(特に下校時)では、一人で帰宅することができず、放課後デイサービスを利用していたが、聴覚過敏などで苛立ち、他害行為をすることが続き、利用できなくなった。家族で下校時の送迎をしていたが、時間が勤務時間と重なり、きつい状態。相談員に相談したが、解決できない。
女性	40～64 歳	正規雇用	相談できる窓口や人とのつながりは多くあり、体制・環境はとても恵まれていると思う。だが、自分の経験から、今困っていることは誰に相談しても解決がむずかしいと思っているし、ゆっくり相談する時間も取れない。相談するにはエネルギーもかなり必要だが、そのエネルギーもないし、何より、私たち家族のことを本当に親身になって考えてくれている人は周りにいないと自分の中にあるため、本当に困っていることを話したいと思う人がいない。
女性	18～39 歳	非正規雇用	介ゴなどで本当になやんだ時にどうしていいのかわからないときがある。きがるに相談したい。
女性	40～64 歳	非正規雇用	2 人の障害者が在宅していて、重度の子が急に入院となり、付き添いとなったため、もう一人の方をどうするか判断が必要になった。コロナ渦でショート再開されておらず、在宅での世話は難しかったため、無理な状況と知りつつ、ショート利用をおねがいをした。利用はできたものの期限つきであったため今後の不安も大きい。
女性	65～74 歳	自営業	相談支援事業所、障害福祉サービス事業所(生活介護・短期入所)、訪問看護事業所に相談しています。
女性	18～39 歳	自営業手伝い	市の福祉課に対して不信感・不親切・対応のまずさがあります。相談しても解決には至らず、こちらがガマンしたり、切りかえるしかない場面が多々ある。通学バスやそれにとまなう子どもの移動手段等、すぐにでも対応が必要な場面でも、県にあげないといけない等、ギリギリまでまって下さいというようなことがあり、学校を変えたりしました。装具でも、Dr の指示があるにもかかわらず、補助を出せないや、県にあげないといけない等、病院 Dr やリハの先生・装具業社からも、「市は、なれてない感しかありませんね」と笑われます。
男性	18～39 歳	仕事に就いていない	市に相談していたが、家族や親戚が勝手に相談に介入し、相談が打ち切りになっていた。生活実態がねじ曲げられた。私のコミュニケーション能力では利用できる制度は何もなかった。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	成人の発達相談がないので退行している状態。他人に暴力をふるった時の対処方法のアドバイスが欲しい。またそうならないようにする為のアドバイスも。

性別	年齢	仕事	困りごと
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	息子が障害を複数持って生まれた当初(26年前)、息子が利用出来る支援が無いと言われ、母親の私が退職、夫が収入を得、生活を安定させる事を選ぶしか無かった。複数の障害がある場合、それに医療行為がそれぞれに有ると、どれか1つ対応してもらえないと預けたりと利用出来ず、私が介助するしか無かった。両親が早くに障害を持ち、半身が不自由になる等してそれぞれ介助が必要になったが、父が他人のケアを一切受け入れず、その介助もする事になり、母も少しずつ悪くなっていき、父もひざを痛めたのをきっかけに、自病の脊椎の病気が悪化し、歩行が困難となりつつあり、日常生活介助が必要となっている。これらが重なった場合、相談しても答が出ず、自力で頑張るしかない。子供達にも兄弟も生活があり、手伝いは無理。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	自分は障がい分野のケアラーなので、相談支援専門員に話をするためどこに相談してよいか分からないということはない。しかし話をする内容は計画書についての変更や希望を伝えるのみで相談ではない。なぜ相談ではないのか。それは相談しても解決しないことを分かっているから。〇〇のサービスを利用したいと伝えても「(受けてくれる)事業所が今のところはありません」とか、被介護者の体を支える〇〇を作り替えたい、あるいは〇〇を使ってお世話をもっと楽に出来るようにしたい、と言ったところで「耐用年数が経っていない、〇〇に対する補助はないので自費でまかなうしかありません」など。つまり相談員(その他の相談機関も同じく)は、制度政策の中で物事を手配するのみでありマネジメント機能しかないからこうになってしまうのは仕方ないこと。相談員が悪いわけではない。今の制度政策は足りないところだらけ。相談員は提案できるサービスが貧弱なまま、その中からマネジメントするしかないから相談されてもどうすることも出来ないという状態になっているのを行政は全く分かってない。その証拠に、上記の選択肢も「頼りにしている相談先はない」という選択肢は設けられていない。つまりみんなどこかに相談はしているし、どこかを頼りにしているだろうと勝手に思っている。おめでたい。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	短期入所を希望しているけれど、高齢者優先で受け入れ先が見つからない。
女性	18～39 歳	その他	父が外部の支援拒否するので、負担が減らない。
女性	65～74 歳	その他	親なき先の事、金銭、施設、いろいろ出てくると思っています。とても不安です。
女性	75 歳以上	その他	私の場合、娘が病気を認めないので、各種手続きなど母である私がしていますが、私も 81 歳で、私が居なくなった後、本人は手続きなどしないから、将来の事が心配。

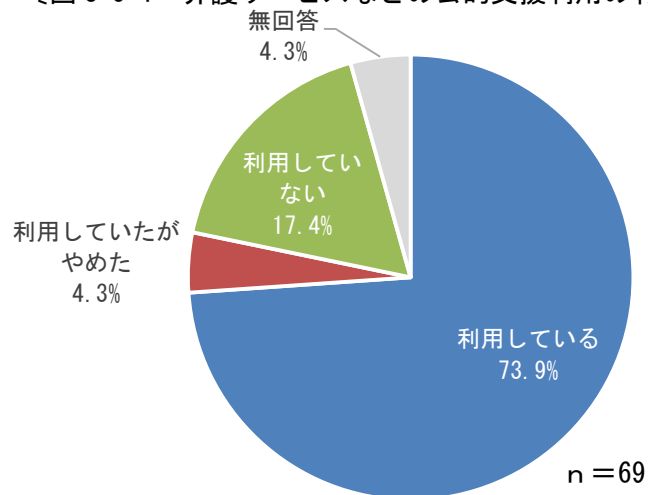
5. お世話を必要としている相手の公的サービス利用

(1) 介護サービスなどの公的支援利用の有無

介護サービスなどの公的支援利用の有無は、「利用している」が73.3%で最も多く、次いで「利用していない」が17.4%、「利用していたがやめた」が4.3%と続いている。

〔表 3-5-1 介護サービスなどの公的支援利用の有無〕 〔図 3-5-1 介護サービスなどの公的支援利用の有無〕

カテゴリ	件数	(全体)%
利用している	51	73.9
利用していたがやめた	3	4.3
利用していない	12	17.4
無回答	3	4.3
N (%ベース)	69	100



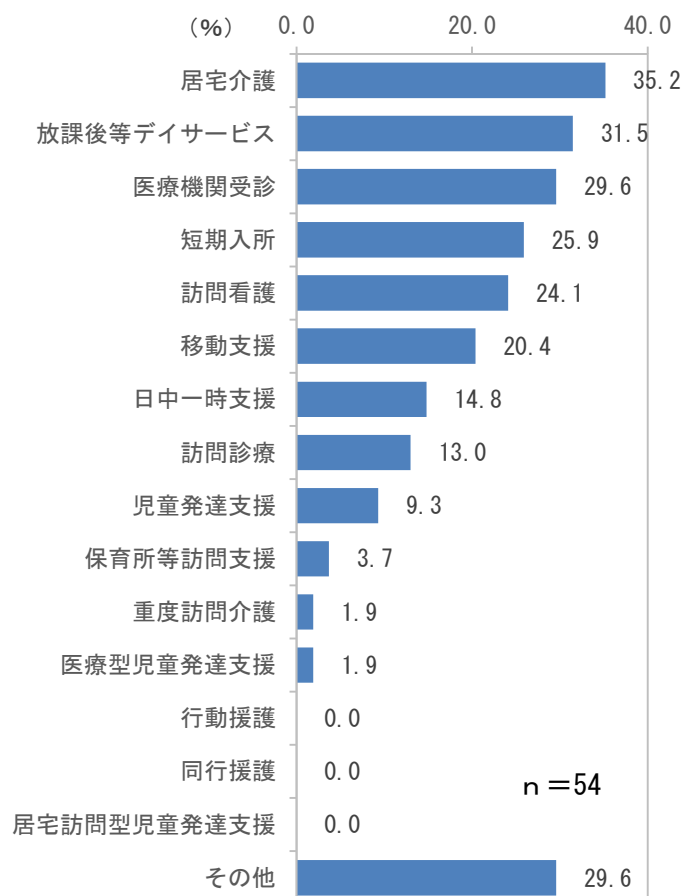
(2) 利用しているサービス

利用しているサービスは、「居宅介護」が35.2%で最も多く、次いで「放課後等デイサービス」が31.5%、「医療機関受診」が29.6%と続いている。

〔表 3-5-2 利用しているサービス〕

カテゴリ	件数	(全体)%
居宅介護（ホームヘルプ）	19	35.2
重度訪問介護	1	1.9
移動支援	11	20.4
行動援護	0	0.0
同行援護（視覚障害のある方）	0	0.0
児童発達支援	5	9.3
医療型児童発達支援	1	1.9
放課後等デイサービス	17	31.5
保育所等訪問支援	2	3.7
居宅訪問型児童発達支援	0	0.0
短期入所（ショートステイ）	14	25.9
日中一時支援（一時預かりなど）	8	14.8
医療機関受診	16	29.6
訪問診療（医師の自宅訪問）	7	13.0
訪問看護	13	24.1
その他	16	29.6
無回答	0	0.0
N (%ベース)	54	100

〔図 3-5-2 利用しているサービス〕



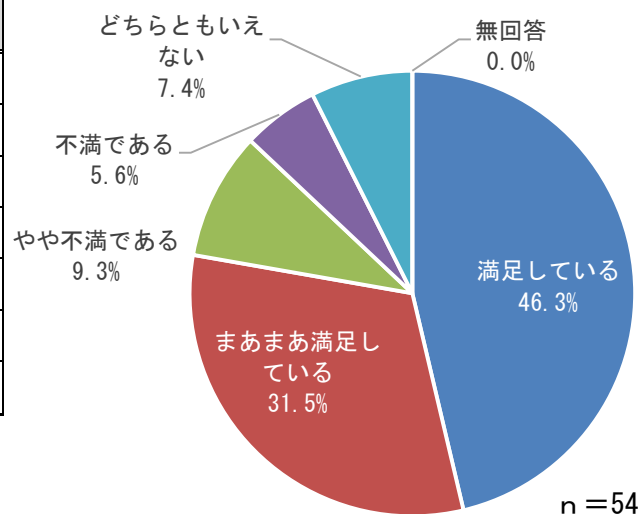
(3) サービス利用の満足度(公的サービスを利用したことがある人のみ回答)

「満足している」が46.3%で最も多く、次いで「まあまあ満足している」が31.5%、「やや不満である」が9.3%と続いており、「満足(「満足している」+「まあまあ満足している」)」は77.8%となっている。

〔表 3-5-3 サービス利用の満足度〕

カテゴリ	件数	(全体)%
満足している	25	46.3
まあまあ満足している	17	31.5
やや不満である	5	9.3
不満である	3	5.6
どちらともいえない	4	7.4
無回答	0	0.0
N (%ベース)	54	100

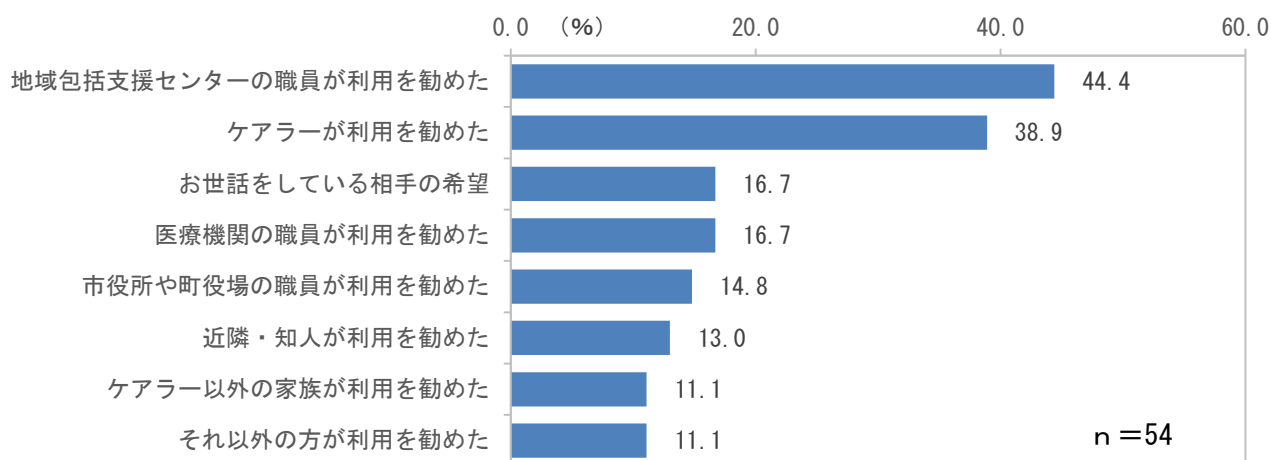
〔図 3-5-3 サービス利用の満足度〕



(4) サービス利用のきっかけ(公的サービスを利用したことがある人のみ回答)

サービス利用のきっかけは、「地域包括支援センターの職員が利用を勧めた」が44.4%で最も多く、次いで「あなたがお世話をしている相手の希望」が16.7%と続いている。

〔図 3-5-4 サービス利用のきっかけ〕

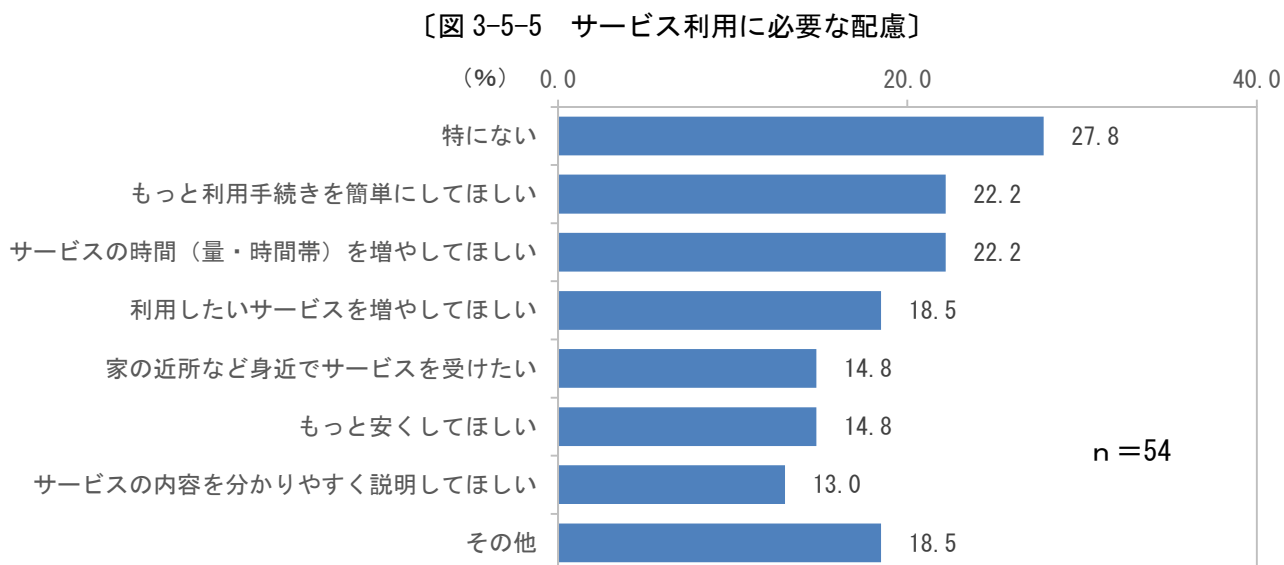


〔表 3-5-4 サービス利用のきっかけ〕

カテゴリ	件数	(全体)%
あなたがお世話をしている相手の希望	9	16.7
ケアラーが利用を勧めた	21	38.9
ケアラー以外の家族が利用を勧めた	6	11.1
地域包括支援センターの職員が利用を勧めた	24	44.4
医療機関の職員が利用を勧めた	9	16.7
市役所や町役場の職員が利用を勧めた	8	14.8
近隣・知人が利用を勧めた	7	13.0
それ以外の方が利用を勧めた	6	11.1
無回答	1	1.9
N (%ベース)	54	100

(5) サービス利用に必要な配慮(公的サービスを利用したことがある人のみ回答)

サービス利用の配慮は、「特にない」が27.8%で最も多く、次いで「もっと利用手続きを簡単にしてほしい」・「サービスの時間(量・時間帯)を増やしてほしい」が22.2%と続いている。

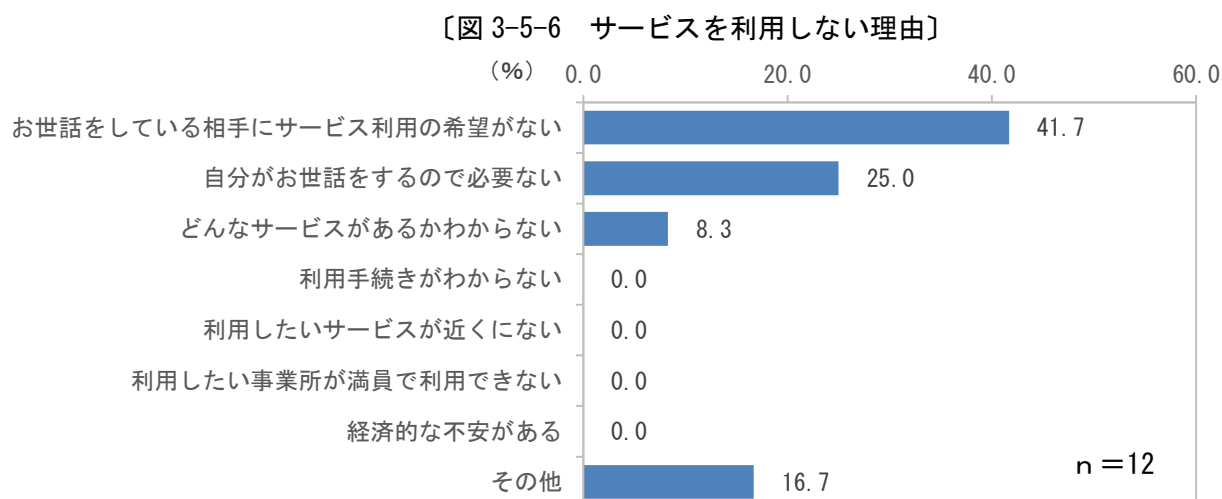


〔表 3-5-5 サービス利用に必要な配慮〕

カテゴリ	件数	(全体)%
サービスの内容を分かりやすく説明してほしい	7	13.0
もっと利用手続きを簡単にしてほしい	12	22.2
利用したいサービスを増やしてほしい	10	18.5
サービスの時間(量・時間帯)を増やしてほしい	12	22.2
家の近所など身近でサービスを受けたい	8	14.8
もっと安くしてほしい	8	14.8
その他	10	18.5
特にない	15	27.8
無回答	4	7.4
サービスの内容を分かりやすく説明してほしい	7	13.0

(6) サービスを利用しない理由(公的サービスを利用したことがない人のみ回答)

公的支援を利用しない理由は、「お世話をしている相手にサービス利用の希望がない」が41.7%で最も多く、次いで「自分がお世話をするので必要ない」が25.0%、「どんなサービスがあるかわからない」が8.3%と続いている。



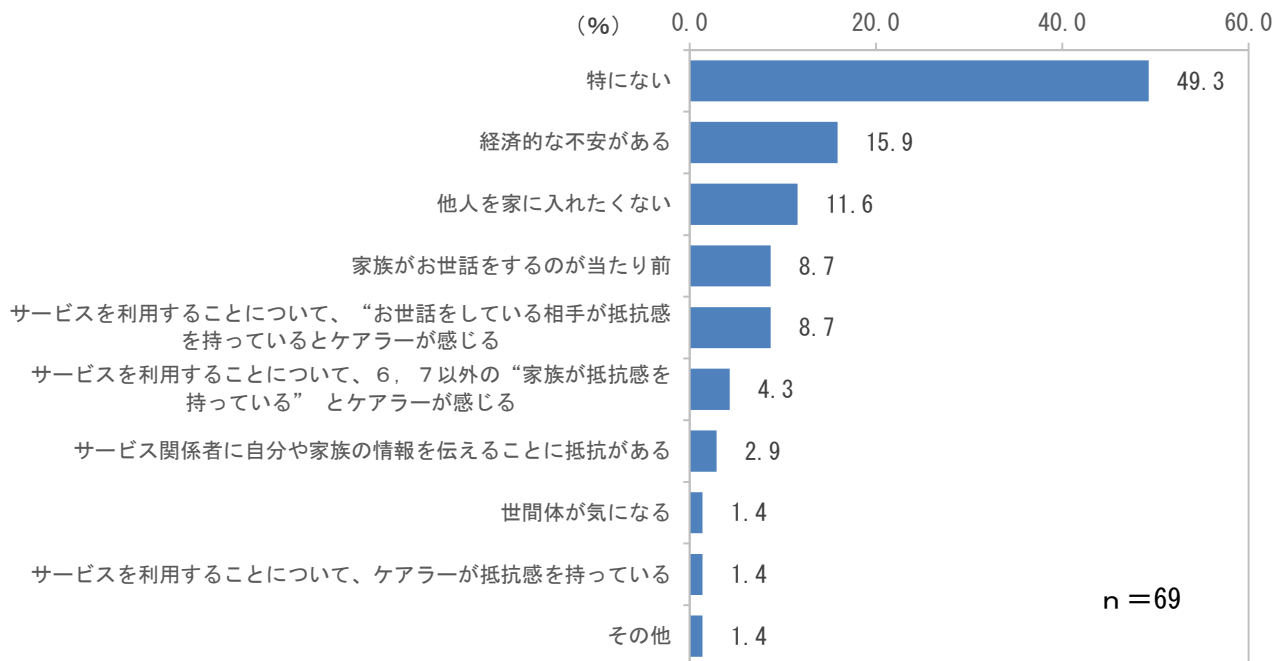
〔表 3-5-6 公的支援を利用しない理由〕

カテゴリ	件数	(全体)%
お世話をしている相手にサービス利用の希望がない	5	41.7
自分がお世話をするので必要ない	3	25.0
どんなサービスがあるかわからない	1	8.3
利用手続きがわからない	0	0.0
利用したいサービスが近くにない	0	0.0
利用したい事業所が満員で利用できない	0	0.0
経済的な不安がある	0	0.0
その他	2	16.7
無回答	1	8.3
N (%ベース)	12	100

(7) サービス利用の抵抗感

サービス利用の抵抗感は、「特にない」が 49.3%で最も多く、次いで「経済的な不安がある」が 15.9%、「他人を家に入れたくない」が 11.6%と続いている。

〔図 3-5-7 サービス利用の抵抗感〕



〔表 3-5-7 サービス利用の抵抗感〕

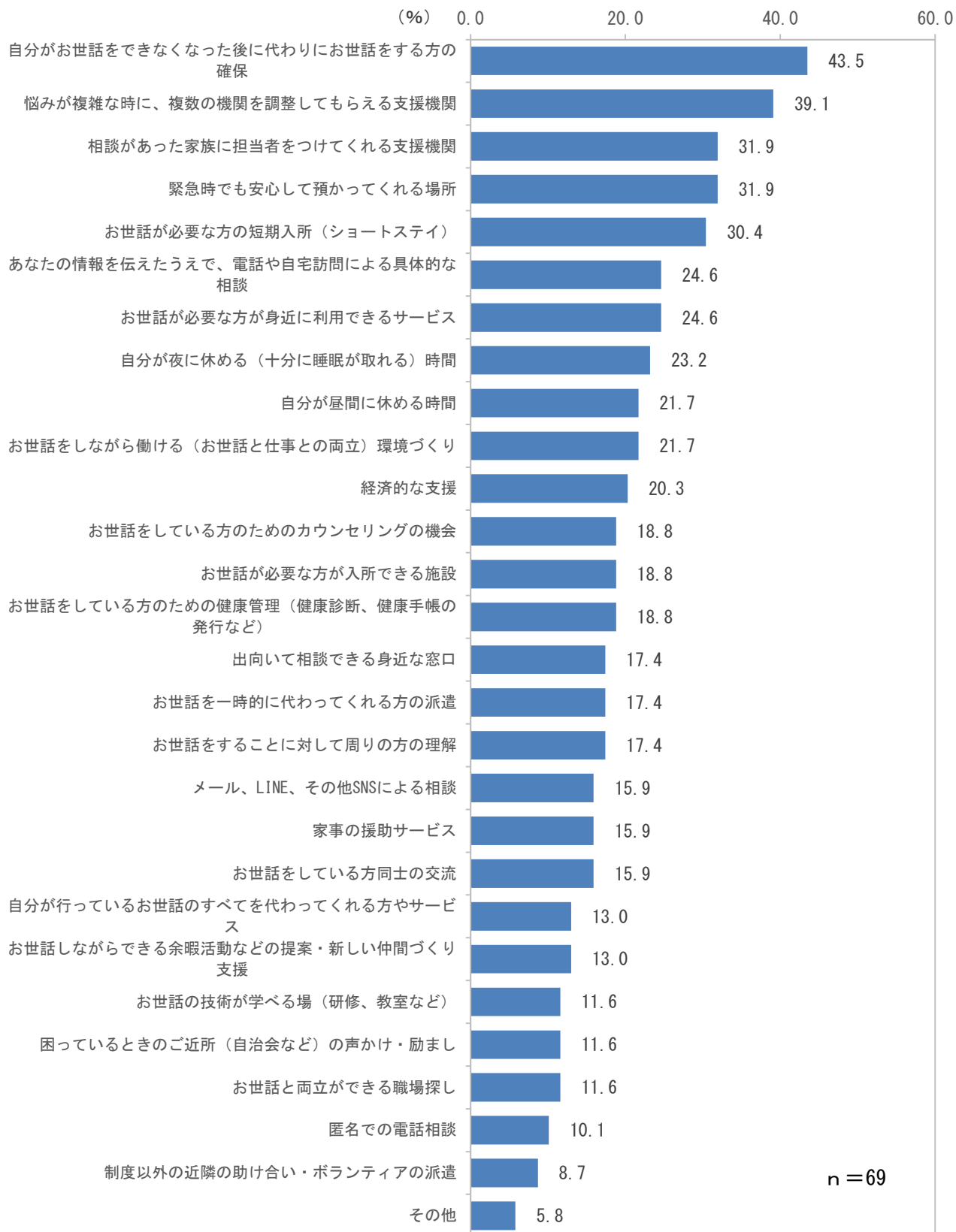
カテゴリ	件数	(全体)%
サービス関係者に自分や家族の情報を伝えることに抵抗がある	2	2.9
他人を家に入れたくない	8	11.6
家族がお世話をするのが当たり前	6	8.7
世間体が気になる	1	1.4
経済的な不安がある	11	15.9
サービスを利用することについて、お世話をしている相手が抵抗感を持っているとあなたが感じる	6	8.7
サービスを利用することについて、あなたが抵抗感を持っている	1	1.4
サービスを利用することについて、6、7以外の“家族が抵抗感を持っている”とあなたが感じる	3	4.3
その他	1	1.4
無回答	42	60.9
N (%ベース)	69	100

6. ケアラーに必要な支援

(1) 必要な支援

必要な支援は、「自分がお世話をできなくなった後に代わりにお世話をする方の確保」が43.5%で最も多く、次いで「悩みが複雑な時に、複数の機関を調整してもらえる支援機関」が39.1%、「相談があった家族に担当者をつけてくれる支援機関」・「緊急時でも安心して預かってくれる場所」が31.9%と続いている。

〔図 3-6-1 必要な支援〕



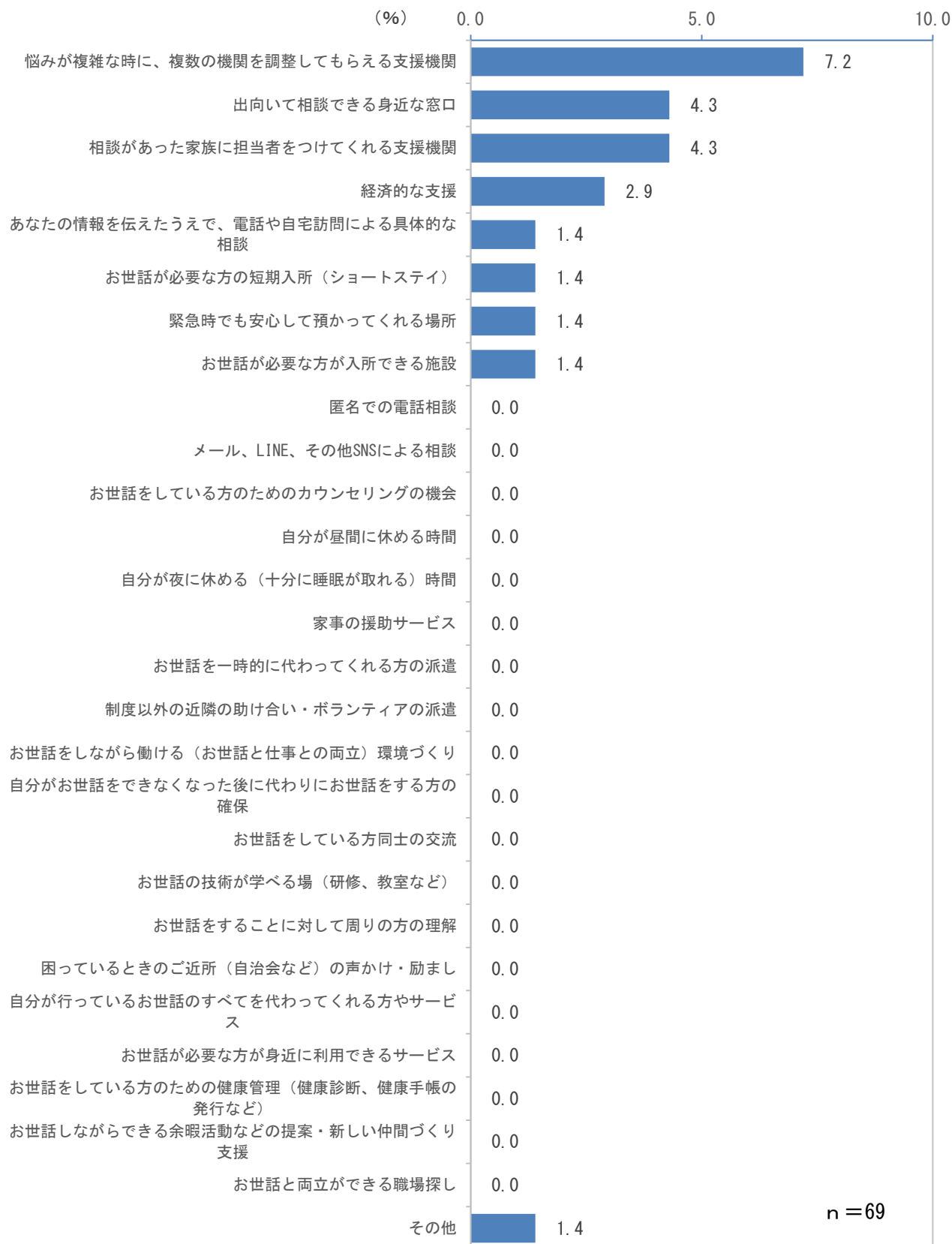
〔表 3-6-1 必要な支援〕

カテゴリ	件数	(全体)%
匿名での電話相談	7	10.1
メール、LINE、その他 SNS による相談	11	15.9
あなたの情報を伝えたうえで、電話や自宅訪問による具体的な相談	17	24.6
出向いて相談できる身近な窓口	12	17.4
相談があった家族に担当者をつけてくれる支援機関	22	31.9
悩みが複雑な時に、複数の機関を調整してもらえる支援機関	27	39.1
お世話をしている方のためのカウンセリングの機会	13	18.8
自分が昼間に休める時間	15	21.7
自分が夜に休める（十分に睡眠が取れる）時間	16	23.2
家事の援助サービス	11	15.9
お世話を一時的に代わってくれる方の派遣	12	17.4
制度以外の近隣の助け合い・ボランティアの派遣	6	8.7
お世話をしながら働ける（お世話と仕事との両立）環境づくり	15	21.7
自分がお世話をできなくなった後に代わりにお世話をする方の確保	30	43.5
お世話をしている方同士の交流	11	15.9
お世話の技術が学べる場（研修、教室など）	8	11.6
お世話をするに対して周りの方の理解	12	17.4
困っているときのご近所（自治会など）の声かけ・励まし	8	11.6
自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる方やサービス	9	13.0
お世話が必要な方の短期入所（ショートステイ）	21	30.4
緊急時でも安心して預かってくれる場所	22	31.9
お世話が必要な方が身近に利用できるサービス	17	24.6
お世話が必要な方が入所できる施設	13	18.8
経済的な支援	14	20.3
お世話をしている方のための健康管理（健康診断、健康手帳の発行など）	13	18.8
お世話しながらできる余暇活動などの提案・新しい仲間づくり支援	9	13.0
お世話と両立ができる職場探し	8	11.6
その他	4	5.8
無回答	5	7.2
N（%未満）	69	100

(2) 最も必要な支援

最も必要な支援は、「悩みが複雑な時に、複数の機関を調整してもらえる支援機関」が7.2%で最も多く、次いで「相談があった家族に担当者をつけてくれる支援機関」・「出向いて相談できる身近な窓口」が4.3%と続いている。

〔図 3-6-2 最も必要な支援〕



[表 3-6-2 最も必要な支援]

カテゴリ	件数	(全体)%
匿名での電話相談	0	0.0
メール、LINE、その他 SNS による相談	0	0.0
あなたの情報を伝えたうえで、電話や自宅訪問による具体的な相談	1	1.4
出向いて相談できる身近な窓口	3	4.3
相談があった家族に担当者をつけてくれる支援機関	3	4.3
悩みが複雑な時に、複数の機関を調整してもらえる支援機関	5	7.2
お世話をしている方のためのカウンセリングの機会	0	0.0
自分が昼間に休める時間	0	0.0
自分が夜に休める（十分に睡眠が取れる）時間	0	0.0
家事の援助サービス	0	0.0
お世話を一時的に代わってくれる方の派遣	0	0.0
制度以外の近隣の助け合い・ボランティアの派遣	0	0.0
お世話をしながら働ける（お世話と仕事との両立）環境づくり	0	0.0
自分がお世話をできなくなった後に代わりにお世話をする方の確保	0	0.0
お世話をしている方同士の交流	0	0.0
お世話の技術が学べる場（研修、教室など）	0	0.0
お世話をするに対して周りの方の理解	0	0.0
困っているときのご近所（自治会など）の声かけ・励まし	0	0.0
自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる方やサービス	0	0.0
お世話が必要な方の短期入所（ショートステイ）	1	1.4
緊急時でも安心して預かってくれる場所	1	1.4
お世話が必要な方が身近に利用できるサービス	0	0.0
お世話が必要な方が入所できる施設	1	1.4
経済的な支援	2	2.9
お世話をしている方のための健康管理（健康診断、健康手帳の発行など）	0	0.0
お世話しながらできる余暇活動などの提案・新しい仲間づくり支援	0	0.0
お世話と両立ができる職場探し	0	0.0
その他	1	1.4
無回答	51	73.9
N（%未満）	69	100

7. お世話で困ったこと、悩んでいること

※個人が特定される可能性のある、居住地や固有名詞などについては編集して記載

性別	年齢	仕事	困ったこと
女性	40～64 歳	正規雇用	いろいろなサービスの継続の手間を簡略化してほしい。 (窓口以外の対応)
女性	40～64 歳	正規雇用	今一番不安なのは自身の健康について。ひとり親で家庭のことは一人で担っているため、自分が動けなくなると、子どもの人生も生活も大きく変わる。実際自分が病気の時は、受診に連れていってくれる人は誰もいない(みんな仕事をしているので知人にも気軽に頼めない)。子どもも不安そうにしている。もし、自分に何があってなくなることがあった場合、子どもも(長女)自分の後を追って死ぬと言っている。生活の維持の全てが私にかかっているの、今は何とか生活ができていますが、いつ家族がバラバラになるかいつも不安と隣りあわせ。
男性	40～64 歳	正規雇用	これまで適切に担当者の方の支援をいただいております。助かっている。今後も継続して支援をお願いしたいと考えている。
男性	40～64 歳	正規雇用	子が入院する時は親が付き添わないといけな。シングルファザーなので難しい時もある。子が新型コロナに罹った時も付き添ったが(自分は陰性)、大部屋で付き添い2日目に発熱して発症したが、誰もお世話をしてくれないため、地獄だった。
女性	18～39 歳	非正規雇用	1年前に祖母がたおれたのをきっかけで介ゴしています(一緒にすんでいるため)。なぜ、マゴがしないといけなんでしょう…と思うけど。何かあれば責められ(祖母の子供)、どこに相談もっていいのかわからず大変。精神的に疲れる。
女性	40～64 歳	非正規雇用	普段は通常の生活を営めていますが、障害者二人を抱え、仕事もしています。夫の協力や身内の協力もほぼ無く…の生活なのでサービスを上手に利用して生活していますが、今後急に世話ができなくなったり(体調を崩すなど)することも可能性としてありますが、毎日に追われ先の準備ができません。
女性	65～74 歳	自営業	介護が必要な家族の将来の生活の場。私に関われなくなった後のことが心配です。
女性	18～39 歳	自営業手伝い	「(回答者の)居住自治体」や近くの地域には、なかなか短期入所できる所がない(特に医ケアの子たち)。装具等を作りたくても、市の対応が遅い。(他の地域では可能なことも、「(回答者の)居住自治体」ではダメ)。全国で統一してほしい。※オムツ(日常生活用具の補助)でも、「(回答者の)居住自治体」はオムツのみ。他の市では、オムツ+おしり拭きも可能所がある。※「(回答者の)居住自治体」では、子どもにとって良い状況にならなかったりするから、他の地域へ引越す人もいる(福祉が充実している所へ)。
男性	18～39 歳	仕事に就いていない	同居家族からの嫌がらせや、親戚の相談介入に困っている。そのせいで母の症状は悪化し、私の負担は跳ね上がった。働ける環境はもう戻ってこない。家族・親戚がいるせいで制度が利用できない。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	重度心身障害者・児向けのショートステイや放課後等デイサービスや成人向け通所を増やしてほしいです。重度心身障害者・児をみれる看護師の育成をしてほしいです。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	相談できる専門スタッフがない。

性別	年齢	仕事	困ったこと
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	少し自分の時間出来たとしても、友人と疎遠になり何をすべきか、したいか解らない。介護嫌でないし楽しいけど一人ぼっちです。家族複数人、介助が必要な人が居る場合、それぞれサービスを利用すれば時間が取れるのでは？と思われたり、サービス利用しないのは対応出来るキャバが無いからなのにわがままと取られたり、サービス受ける人が、重度障害を持っていても学びたい、学びを職につなげたいという気持ちを尊重し(息子、通信制の大学の学生です。バリアフリー化まだまだ進んでいなく、病的障害があり出席日数のしぼりある全日制には入れず)。出来る能力を生かせる環境をつくって欲しい。車イスで安全に外出出来る道路、交通の整備、トイレ・買い物に行ったり、食事に行った時入口の段差で入れない。間口がせまくて入れない等々たくさんあります。すべてのバリアフリー化が介助者のストレスを少し軽くする助けとなります。介助する人だけでなく、それを助ける人の心のケアも必要と思います。息子の介助する為、仕事を退職せざるをえず年金等の収入、生活問題も心配。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	・まずは介護人材の不足を挙げたい。・急な出来事にも対応出来るような福祉サービスが全くない。・次に事業所やヘルパー、看護師の質の問題。・苦情解決の制度について。・先述に重なる部分もあるが、福祉サービス提供量の不足。
女性	75 歳以上	仕事に就いていない	自分が病気をして入院とかなった時、見てくれる人がいない。台風など緊急に預けたい時。
女性	65～74 歳	その他	親なき先の兄、姉がどこまでお世話ができるのか、とても心配です。
女性	75 歳以上	その他	病気(統合失調症)の娘が27年間、入退院をくり返しながらか母親の私と暮らしているが、病気を認めない事が一番困る。「私はこんな病気です。しかし、このように頑張っています。」という考え方になって欲しいと願い続けています。認めないのが一番の悩み。

8. 自由意見

※個人が特定される可能性のある、居住地や固有名詞などについては編集して記載

性別	年齢	仕事	自由意見
男性	40～64 歳	正規雇用	窓口を1つにして欲しい。障害の担当はあっち、子供の担当はあっち、医療的ケア児の担当はあっち、ひとり親の担当はあっち、結局支援は受けられなかったり、もっと包括した担当や制度があっても良いと思う。
女性	40～64 歳	正規雇用	職場に理解者が多くいて、子どもたちの障がいつながりの親の会にも入会して、情報もたくさん入ってくる。理解も大切なことではあるが、ケアしている人達のその家族の生活の保障(安定した)、経済的なこと、メンタル面、健康について、県や市町ではなく国の大きな制度改革が必要だと思う。ケアの負担が大きく、社会とのつながりが断たれている人も多いと思う。声が出せない人の声なき声を拾えるような人を増やすような取り組みをしてほしい。
女性	18～39 歳	非正規雇用	きがるに相談できる場所ほしい。介ゴしてるほうもリフレッシュの場がほしい。

性別	年齢	仕事	自由意見
女性	40～64 歳	非正規雇用	親として子供2人を世話しておりますが、今後2人の息子の病気・障害がどのように変化していくのか、自分の体力面・精神面の不安も大きくなりつつある中、子供達が良い環境の中で生活できる支援、そういう環境をもっと分かりやすく視覚化していただきたい。
女性	65～74 歳	自営業	障害年金や手当など助成金の増額・交付など。経済的な不安が強い。
女性	18～39 歳	自営業手伝い	生まれてから、ずっと子どもの成長(〇ヵ月健診等)を市も把握しているのに、こちらから言わないとサービスがあることを教えてくれなかったり、次は入学だと分かっているはずなのに、その子に対しての支援が足りていないと感じる。必要なものを医者が指示出しているのに、市や県が却下したり、却下通知書が家に届く身にもなって欲しい。そして、却下するなら、その先の支援や変わりの道を指してほしい。補助申請をするのも気が引ける。まだダメだったら…と考えて勝手に悲しくなる。
男性	18～39 歳	仕事に就いていない	助けを求めて手を出したら、その手を切り落とされた。今まで持ってたモノまで持てなくなった。相談者本人の同意関係なしに行われた強制的な支援に対し、相談者本人は責任を持ってない。行政には何も期待していない。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	成人の相談窓口を(回答者の)居住地域に置いて欲しい。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	本人の知的、心の状態に寄り添う支援を望みます。身体の状態に家の中での車イス、外での活動の為の車イス、2つのタイプの車イスが必要ですが、なかなか支援頂くのには問題が有るようで、ぜいたくと言われます。支給は難しい。外出するための公共の乗り物が使えず、特種な車イスのサイズでどの車に乗せる事が出来ず、タクシーも同じく。タクシー使用だとこの後、年金だけで生活する彼の利用は難しいと思われまます。また、親の死後、彼が生活するのに、どの様な支援が受けれるのか、生活費は?と教えてくれ、共に考えてくれるサービスが必要です。もし就職出来ても、外出出来る環境が無ければ職にはつけない。公共の建物には、バリアフリー環境も整っており、もっと多くの障害者のため、就労の門戸を開き、また期間限定でなく、生涯働け、自力で生活の為の収入が得られる制度を作って欲しい。百人百様の障害、病を持つ人が居て、人生があります。お一人お一人に寄り添った支援って難しく、成すのは大変だと思いますが、彼らもまた人です。寄り添いご支援いただけますようよろしく願いいたします。重度障害の息子が生活している事、市役所の福祉課、保健課、支援自業所のスタッフの方々、近所の限られた人、友人、家族は知っていても、自治会長、居住している場所の医師、防災のスタッフ等々は個人情報保護がと理由で知られておらず、避難するにも、介助の為のスペース、電源等々必要な物いっぱい。もしもの時の薬品の支援は?問い合わせても返事なく、といったように地域に住む支援が必要な方の把握もしていただけていないようですし、相談・登るくといったリシステムもないようです。まさかの時のため考えて下さい。
女性	40～64 歳	仕事に就いていない	・介護者は常に疲れている。身体、精神の両面で。・次に挙げたいのは精神面のケア。・お世話する上での様々な情報提供。・介護者を対象としたスキル取得の機会。・障害福祉サービスの更なる充実。

性別	年齢	仕事	自由意見
女性	75歳以上	仕事に就いていない	病院受診の際のタクシー代が24000円では足りない。
女性	65～74歳	その他	市内で施設がとても足りてないと思うので、なるべく多く作ってほしいです。
女性	75歳以上	その他	私の場合、病気を認めない娘と同居で、手続きなど全て私がしておりますが、今のところ、県、市、町への要望など浮かびません。「私は、こんな病気です。それでも頑張っています。」と言える娘になって欲しいです（52才の娘です）。問8の答えになりませんが…。

